

点字使用者のための 漢字学習プログラム及び教材の開発

(課題番号 16530634)

平成16年度～18年度

科学研究費補助金(基盤研究(C))

研究成果報告書

平成19年3月

研究代表者 澤田 真弓

(独立行政法人国立特殊教育総合研究所)

はじめに

点字を常用している児童生徒に対する漢字・漢語の指導の必要性は、大きく次の2点であるといえる。まず第1に、日本語が漢字の字義と強く結びついている言葉が多く、その正しい理解と表現のためには漢字の知識が必要不可欠であるという点、第2にコンピュータ等情報機器の普及により、普通の文字と点字や音声との相互変換がかなりスムーズにできるようになり、従来にも増して、同音異義語の理解を含めた漢字の知識が重要となってきたという点である。特にコンピュータ等情報機器の普及は、視覚に障害のある人たちにとって、さまざまな分野で自立の可能性を大きく広げるものとなり、これらを駆使する力が要求されてきている。具体的には、点字や音声によって提示された言葉を漢字仮名交じり文に変換する際に、どの部分が漢字であり、どの部分が仮名なのかを区別する力、また複数の漢字の中から、その文章にあった漢字を同定する力等が必要とされる。これらの力を身に付けるには、漢字の音（読み方）と意味との対応の習得が要求される。

漢字の数は非常に多く、日常的に漢字に触れる機会の少ない点字使用児童生徒に、どこまでの漢字力を要求するかは議論の分かれるところであるが、どの程度の数の漢字を指導しなければならないかという点も含めて、効果的な漢字指導の在り方を探ることは重要であると考えられる。

そこで本研究では、点字を常用している児童生徒が、効率よく漢字の力を身に付けるための指導法を探り、そこから「点字使用者のための漢字学習プログラム」とその教材の開発を試みた。まだまだ試行の段階ではあるが、各所で使用して頂き、検証を重ね、今後さらに修正を加えていきたいと考える。本研究の成果が、点字使用児童生徒の漢字習得の一助となれば幸いである。

平成19年3月

独立行政法人国立特殊教育総合研究所

研究代表者 澤田真弓

目 次

研究組織及び経費

研究成果の発表

第1章 研究の概要

第1節 研究の背景 ----- 1

第2節 本研究の目的及び構成 ----- 2

第2章 点字使用者のための漢字学習プログラム及び教材について

第1節 「点字使用者のための漢字学習プログラム」及び
教材開発にあたっての考え方 ----- 3

第2節 「点字使用者のための漢字学習プログラム」 ----- 8

第3章 盲学校小学部での漢字指導状況について

第1節 盲学校小学部国語点字教科書での漢字の扱い ----- 75

第2節 点字使用児童への漢字指導に関する調査 ----- 77

第4章 プログラム及び教材を活用した実践事例 ----- 99

第5章 総合考察及び今後の課題 ----- 127

引用・参考文献 ----- 129

資料

1. 「点字使用者のための漢字学習プログラム」漢字一覧表（使用頻度順） ----- 131

2. 小学部国語原典教科書と点字教科書編集資料（漢字を扱った単元） ----- 178

3. 点字使用児童への漢字指導に関する調査用紙 ----- 247

4. 第44回日本特殊教育学会発表レジュメ ----- 266
「点字使用者のための漢字学習プログラム及び教材の開発
一点字使用児童を対象とした漢字指導状況調査から」

5. 参考教材「漢字カルタ」 ----- 267

研究組織

研究代表者

澤田真弓 独立行政法人国立特殊教育総合研究所教育支援研究部総括研究員

研究協力者

吉田道広 熊本県教育委員会指導主事

森崎洋子 熊本県立盲学校教諭

研究経費

平成16年度	1,800	千円
平成17年度	1,000	千円
平成18年度	900	千円
合 計	3,700	千円

研究成果の発表

- (1) 澤田真弓 吉田道広 森崎洋子：点字使用者のための漢字学習プログラム及び教材の開発
一点字使用児童を対象とした漢字指導状況調査から一，第44回日本特殊教育学会発表論文
集，P642，2006.

第1章 研究の概要

第1節 研究の背景

日本語は、漢字の字義と結びついた言葉が多く、その正しい理解と表現のために、漢字の知識が不可欠である。この点は、点字使用者^{*1}においても例外ではない。特にコンピュータ等の普及により、画面上の文字を音声で確認したり、点字で書いたものを音声で確認しながら漢字仮名交じり文に変換したりするなど、普通文字と点字や音声との相互変換がかなり自由にできるようになってきた。こうした機能を有効に活用するためには、同音異義語の理解を含めて漢字の知識が重要である。

漢字は、表音性と表意性を兼ね備えている。そして字形は図形的性格が強く、瞬時にして識別したり、概念表示したりできるなど、漢字一字に込められた情報量が多い。それに比べ、仮名文字体系（表音文字）の点字は、触覚を用いた読み書きの手段としては最も効率的であるが、語の意味的側面には十分に対応しきれない。そこで、従来より様々な方法で漢字指導が試みられてきた。盲人用表面作図器^{*2} やオプタコン^{*3} を用いた漢字指導、点字による漢字表記システム（八点の漢点字^{*4} や六点漢字^{*5}）の考案等による漢字指導の試みがそれである。しかし、日常的に漢字に触れる機会の少ない点字使用児童生徒の発達段階に合わせた効率的な指導法は確立されておらず、教材も少ない。神谷（2000）は全国の盲学校の小学部・中学部・高等部を対象とした点字使用児童生徒への漢字・漢語の指導状況の調査を行い、各盲学校ともに漢字・漢語の指導の必要性は意識しているものの、具体的な指導法、特に効率よく学習できる系統だったプログラムや教材がなく、苦慮している実態を明らかにしている。

点字使用者への漢字指導で重要なのは、音（読み方）と義であり、漢字の正確な書きは漢字学習の目的外とされている。しかし、漢字は字形から読み方や意味を推測することができる場合が多いので、形の指導を全く無視するのは得策ではないと考える。

そこで本研究では、基本的な漢字の字形指導を取り入れながら漢字の知識を習得する「点字使用者のための漢字学習プログラム及び教材の開発」を目指した。本研究に至るまでに澤田は、その指導法の理論を支える基礎研究として、次のことを明らかにしている。「全盲児童の漢字構成要素学習の有効性についての検討」（2003）や、「点字使用者に対する漢字指導に関する研究—漢字構成要素の言語補助による理解のしやすさの検証と指導への可能性—」（2003）においては、漢字の構成

*1：本研究において、点字使用者とは点字を常用文字として使用している者を指す。

*2：特殊な用紙をゴム状の下敷きのにせ、ボールペンなどで筆圧を強めに書くとその線が浮き上がり触覚的に読み取ることができるもの。

*3：optacon (optical to tactile converter) 文字を光電変換して、その出力によって触覚ディスプレイに文字を提示するもの。

*4：川上泰一氏によって考案された八点で構成された漢字を表す点字。漢点字符号として従来の仮名点字の1の点の上に0の点を、もう一方の4の点の上に7の点をそれぞれ付加し、部首を生かして作られている。

*5：長谷川貞夫氏によって考案された六点で構成された漢字を表す点字。漢字の音訓を中心に表されている。

要素ごとのまとまりで学習することが有効であり、その折りには、言語補助を行った方が、各要素を想起しやすく、凸文字で表された漢字の触察の能率も向上すること。また、「点字使用者に対する漢字指導に関する研究—字源及び単語家族の考え方を取り入れた指導の有効性について—」（2003）では、字源を活用した基本漢字の指導や、部首による漢字の構成要素間の配置関係の指導、さらにそこから単語家族^{*6}の考え方を導入して漢字学習を進めていく方法が、多くの構成漢字である形声文字や会意文字などを効率的に習得させる指導法として有効であるということである。

これらの研究を基盤として、実際の漢字学習プログラム及び教材の開発を試みた。プログラム及び教材の開発の考え方については次章で述べるが、その基盤となった研究の詳細については、それぞれの文献を参照していただきたい。

第2節 本研究の目的及び構成

本研究では、点字を常用している児童生徒が、効率よく漢字の力を身に付けるための指導法の研究を行い、そこから指導プログラム及び教材の開発を目指していく。

この目的を遂行するにあたり、具体的な研究ステップとして、次の3点をあげる。

1. 指導プログラムと教材開発のため、盲学校で行われている漢字指導法と教材の実態を把握し、課題を整理する。
2. 指導プログラム及び教材について検討し、試作する。
3. 試作した指導プログラムと教材を活用した指導事例を検討し、その有効性の検証を行いながら、指導プログラムや教材の修正を行う。

本報告書では、まず、「点字使用者のための漢字学習プログラム」及び教材開発にあたっての考え方を述べ、そこから実際のプログラムと教材について紹介する。次に盲学校小学部での漢字指導状況について調査結果を基に問題点を整理する。そして、実際の国語の授業の中で、プログラムや教材をどのように使用したか、その活用事例を紹介し、総合考察をしていく。

資料編として、「点字使用者のための漢字学習プログラム」の漢字一覧表、研究を進めるにあたり小学部国語原典教科書と点字教科書編集資料や点字教科書の確認を行った際の作業資料、漢字指導状況調査に使用したアンケート用紙、その結果を第44回日本特殊教育学会に発表した際のレジユメ、また関連教材として作成した「漢字カルタ」を掲載する。

*6：中国語本来の漢字源に基づき、漢音（音）を中心に漢字を整理したもの。第2章にて詳細を述べる。

第2章

「点字使用者のための漢字学習プログラム」及び教材について

第1節「点字使用者のための漢字学習プログラム」及び教材開発にあたっての考え方

1. 漢字について

中国及び中国周辺諸国に伝えられた「漢語」を書き表すため、紀元前13世紀に出現して今日まで用いられている文字が漢字である。まずここでは、「点字使用者のための漢字学習プログラム」開発にあたり、漢字についての考え方を整理する。

(1) 漢字造字法

許慎の「説文解字」の序文で「倉頡の初めて書を作るや、けだし類に依りて形に象る。故にこれを文という。その後、形と声（発音）とあい益ましたれば、これを字という。文とは物象の本なり。字とは孳乳してしだいに多きことを言うなり」とある。つまり文とは形を紋様のように描いた原初的なものであり、字とは孳（ふえる）と同系のことばで原初文字を組み合わせ、次第に増えた二次的な文字だということである。そして、文字の構造の解明に用いた原則が象形・指事・会意・形声・転注・仮借であり、これを「六書」という。このうち、象形・指事・会意・形声は、文字の構造に関する原則であり、転注・仮借は用法についての原則である。許慎のいう「文」（原初的な文字）が象形文字であり、「字」（文を組み合わせた二次的な文字）が、会意・形声文字である。指事文字については「文」の部分と「字」の部分がある。したがって、漢字は象形文字や指事文字のような基本的漢字を学んだのち、それらを組み合わせることによって大多数の漢字を学ぶことができるのである。

(2) 単語家族

象形文字、指事文字など基本的な漢字を基（親の字）にして、同じ発音と共通の意味を持つ漢字をグルーピングした「単語家族」という考え方がある。これは、中国語本来の漢字源に基づき、漢語（音）を中心に漢字を整理したものである。漢民族は、事物の外形や感触を軸として、同じようなものは一括して同じ言葉か、似たような言葉で言い表すという習慣を持っていたため、音の似たものは、原則として共通のイメージを浮かび上がらせる。要するに、漢字の語音が同じか、近似していれば意味もまた共通であるという同一の仲間（単語家族）に属する公算が極めて大きいということである。

例えば、「主」は、ろうそくの火が台の上でじっと燃えている様子を表した字であり、そこから、一ひと所にじっととどまって動かない「あるじ」を表すようになった。また、家の中心となる「あるじ」のように、物事の中心となる事柄も表す。「主」のついた字は、「一所にじっと立ち止まる」という意味に関係があり、読み方は「シュ・チュウ・（ジュウ）」である。「住（ジュウ・すむ）」は人偏が付き、人がじっと立って一カ所にとどまることから「すむ」という意味になり、「注（チュウ・そそぐ）」は、サンズイが付き、ものを一カ所に注ぎ込んだり集めたりすることを表す。「柱（チュウ・はしら）」は、木偏が付き、動かずにじっと立っている木、はしらを表し、「駐（チュウ

ウ)は馬偏(乗り物)が付き、馬車をとめること、滞在することを表す。これらの漢字は「主」を親の字とした仲間、単語家族である(図1)。

このような考え方を用いながら、構成要素となり得る基本漢字を選定していけば、意味や音を伴った、広がりのある漢字学習が進められる可能性が高い。

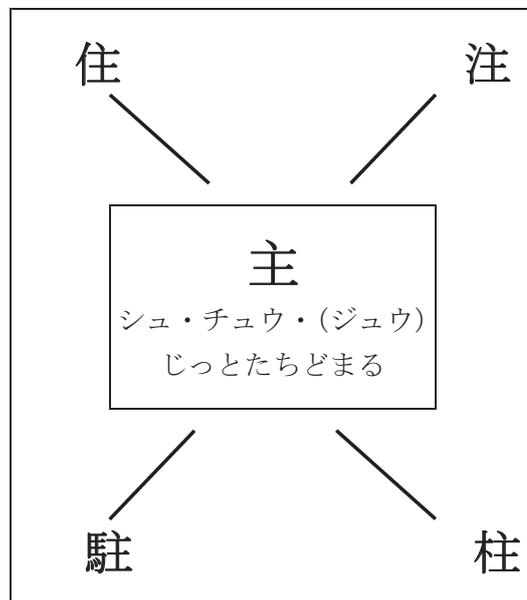


図1 「主」の単語家族

2. 漢字構成要素(基本漢字等)学習の有効性

澤田(2003)は「点字使用者のための漢字学習プログラム」に関わるこれまでの研究で、点字を常用する児童生徒において、基本漢字及び部首による漢字の構成の理解が確実にできるようになれば、未習得の構成漢字であっても、言葉による説明によって書字することが可能である点を明らかにしている。これは晴眼者が視覚的に漢字をとらえるのと同じように、触覚による学習においても漢字を要素ごとのまとまりでとらえたり、その組み合わせを書字することができるということである。海保・野村(1983)が一般の漢字習得について、「漢字の構造を規定するチャンク、いわゆる「部首」に関する知識が、未知の漢字の「読み」や「意味」の推察にも有効であり、新出漢字を効率的に習得するための重要な要因である」と指摘しているが、点字を常用する児童生徒においても、このような漢字の構成要素を考えた学習法が効果的な漢字学習を追求する上で重要である。

3. 字源及び単語家族の考え方に基づく漢字指導の有効性

また、澤田(2003)は、字源を活用して漢字を意味づけながら指導するという手法は、漢字習得に優位に働く可能性があるという点、さらに実際の指導場面において、字源の説明から、その漢字に関連したさまざまな言葉が交わされ、語彙の広がりが見られる点を指摘している。

そして、音の推測、意味の推測は、音訓のみの指導では成立しにくく、漢字の成り立ちから意味や読み方を指導したり、単語家族の考え方の指導を導入したりすることによって可能になってくる点を明らかにしている。このような指導によって、小学部低学年であっても、未学習の漢字につい

て、音や意味の推測ができるようになってきている。これは字源の説明という文脈の中で漢字が印象づけられ、漢字を想起しやすくなり、それに加えて、単語家族の考え方を理解することにより、一定の法則性をもって、漢字をみることができるようではないかと推測される。日常的に漢字に触れることの少ない点字使用児童生徒にとっては、このような音や意味を推測する力の育成こそが重要である。

このように、字源を活用した基本漢字の指導や、部首による漢字の構成要素間の配置関係の指導、さらにそこから単語家族の考え方を導入して、漢字学習を進めていく方法は、多くの形声文字や会意文字などを効率的に習得させる指導法として有効であるといえる。

4. 「点字使用者のための漢字学習プログラム」開発に向けて

1. の漢字についての考え方や、2. 及び3. で述べた知見を基に、「点字使用者のための漢字学習プログラム」及び教材の開発を行う。具体的な基本漢字の選定や提示順、配慮点及び工夫点については以下に述べる。

(1) 基本漢字の選定と構成漢字の提示順

基本漢字を選定するにあたっては、漢字の構成要素となり得る象形文字や指事文字を中心に選定していく。また、基本的な字形と結びつけながら漢字の形・音（読み方）・義の本質を理解・習得できるように、構成漢字を単語家族の考え方でグルーピングし、順次提示していく。その際、考慮しなければならないこととして、言葉としての漢字の難易度の問題がある。一般的に小学校の国語科では漢字を指導する場合、学年別漢字配当表にしたがって漢字を提示している。学年別漢字配当表の漢字は、小学校各学年の児童の日常生活における漢字の使われ方や接触のしかた、あるいは、漢字の難易度などを基本理念として作成されたものである。そこで、漢字の本質や基本的構造に基づいて漢字の提示順序を考える場合においても、その漢字が表している言葉への馴染みの程度や、漢字の難易度などにも十分に考慮する必要がある。その上で、象形文字・指事文字、部首の概念などの基本的な学習を終えたあと、単語家族の考え方で一気に、漢字を学習できるような提示順序とする。

(2) 取り扱う漢字の範囲

学習プログラムで取り扱う漢字の範囲は、その学習プログラムがどのくらいの漢字力の習得を目指すのかにより変わってくる。現在、学校教育段階で要求されている基礎的・基本的な漢字力とはどのようなものであろうか。小林（1982）は、「大人になって、一般的には現代の国語の文章、つまり法令や公用文書、新聞や雑誌などの文章を理解することができ、また、発展的には自分の専門分野においての文章を理解したり、理論的に考えをめぐらしたりすることができるような知識や技能の素地となる力である」と述べている。本プログラムにおいてもそのような漢字力を目指したい。前述の小林の論の中にもあるが、新聞は活字によるマス・メディアの中で中心的な存在であり、あらゆる階層にわたって幅広い読者を得ている点で、国民の文字生活ともっとも深い関わりがあるといえる。では、その新聞を読むことができる漢字力とは、具体的にどのくらいの漢字を習得しておけばよいのであろうか。国立国語研究所（1976）の新聞の使用漢字頻度順位の調査、また同研究所でのその後の新たな調査「新聞電子メディアの漢字」（1998）によると、使用順位 500 位までの漢字で新聞に出現する漢字全体の 80%をカバーすること、使用順位が 1,000 位までの高頻度漢字については、使用順位や使用率に大きな変動が見られず、安定して使用されていることを明らかにして

いる。現在、義務教育段階で学習する常用漢字は、1,945 字（そのうち、小学校で学習する学年別配当漢字は 1,006 字）であることを考えると、それらと新聞の使用漢字頻度順位 1,000 位を考慮した漢字数（1,965 字）を取り扱うことが本プログラムでの漢字力習得には妥当であるとする（結果的には新聞の使用漢字頻度順位 1,200 位、新聞に出現する漢字全体の約 97%まではカバーするものとなった）。

当然のことながら、日常的に漢字に触れることのない点字使用児童生徒に漠然とこの数の漢字を習得させるのではなく、1. から 3. で述べた事柄を基にプログラムの構成を考えていく。まずは最小限の基本的な漢字と漢字の法則性を理解させ、そこから、大多数の漢字を類推することのできる力を習得させるという基本線に沿ったプログラムである。最小限の基本的な漢字としては、象形文字や指事文字であり、取り扱う漢字内で考えるとその数は 280 文字程度となる。これらの漢字の習得をまず促し、その上で、個々の児童生徒の学習速度や到達目標に合わせて活用できるように、いくつかのステップに分けたプログラムの提示とする。

(3) 熟語の選定と言葉の概念の指導

点字を常用する児童生徒を対象とした漢字指導においては、言葉による説明を重視しなければならない。プログラムの中では、基本漢字や構成漢字の意味やその使い方について説明をしていくことになるが、この場合、提示する熟語と言葉の選定が重要なポイントとなる。構成要素による指導順序の整合性を考えて、漢字を提示していくが、同時に低学年の児童の日常生活や学習内容、情報内容にふさわしく、こうした実態に馴染む漢字から提示していくことが要求される。また同様に提示する熟語や言葉の選定も考えていかねばならない。特に点字を常用する児童生徒に対しては、さまざまな語彙獲得の過程で、視経験を補うような意図的な指導も必要である。

一方、各年齢段階等における語彙の獲得という点にも目を向けなければならない。この点に関しては、通常の児童生徒を対象とした、国立国語研究所（1984, 2001）の基本語彙調査や、井上（2001）の語彙発達調査等が参考となる。

漢字の指導における熟語と言葉の選定においては、以上の点を考慮しながら、点字を常用している児童生徒が、概念に裏付けられた確かな語彙力を習得することができるように、配慮していく必要がある。

(4) 興味・関心を持続させるための工夫

点字を常用する児童生徒に対して効率的な漢字指導を行うためには、如何にして興味と関心を持続させながら、印象深く学習に取り組ませることができるかが重要なポイントとなる。

基本漢字は字源を活用しながら指導し、構成漢字はその基本漢字を基として、単語家族の考え方を導入して指導する。また、基本漢字である象形文字・指事文字などは具体的な図解による解説ができるので、児童生徒は、印象深く、漢字に対して興味・関心を持ちつつ学ぶことができる。単語家族の考え方も、基本漢字である親字を基にした同類の漢字でグルーピングしたものであるため、形・音・義の共通した部分をもつ漢字を意味づけて学習ができ、分りやすい。これら字源や単語家族のおもしろさを生かした説明の工夫、興味・関心を十分に持続させるような指導上の工夫が重要である。

(5) 教材作成にあたっての工夫点

教材作成にあたっての工夫点は以下の通りである。

- ① 漢字を関連づけて学習させるために、同類の漢字でグルーピングし、各ページに階層化した分

類番号をつける。

各段階ごとに階層化した分類番号を点字用紙の左上に振る。全ての通し番号（ページ数）は右上におく。

<階層化した分類番号>

- ・百番台は各段階を示す。

例 100 番台→第1段階 200 番台→第2段階 等

- ・十番台は各段階での下位分類を示す。

例 第2、3、5、7、8、9段階の十番台

10 漢数字、20 位置方向、30 自然、40 植物、50 動物、60 人体、70 道具、
80 生活、90 その他

その他、部首等、各段階ごとに定める。

- ・一番台は十番台を必要に応じてさらに分類したもの。
- ・枝番号は分類した中で複数ページにわたるもの。

- ② 第2段階から第4段階までは、単語家族の親字になる基本的な漢字や、身近な言葉をあらかず漢字であり、その漢字の意味とつなぎ合わせて、馴染みのある言葉として学習させたい。そのために読み仮名は訓を先に提示する。第5段階から第10段階においては、特に単語家族の考え方を取り入れるので、音を先に提示する。

<点字での音訓の区別>

- ・訓→ ⠠ ⠠ で囲み、送り仮名は囲みの外に続ける。
- ・音→ ⠠ ⠠ で囲む。

- ③ 第2段階、第3段階の基本的漢字については、漢字の成り立ちを用いて学習を進めていく。そのために、具体物のイメージから中間体を通して漢字が成り立っていることをあらかず図を用いる。

- ④ 教材の点線図、点線文字については、点の大きさ、図や文字の大きさ、線間隔、線の傾き等、数パターンの比較や事例にて修正を行う。

- ⑤ このプログラムで学習する漢字数については前述のとおり 1,965 字であるが、学年別漢字配当表以外の常用漢字や人名漢字等について、それらと区別できるようにする。

<学年別漢字配当表以外の漢字の表し方>

- ・常用漢字→ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠ を音訓の前に置く。
- ・人名漢字、第1水準→ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠ を音訓の前に置く。

第2章

「点字使用者のための漢字学習プログラム」及び教材について

第1節「点字使用者のための漢字学習プログラム」及び教材開発にあたっての考え方

1. 漢字について

中国及び中国周辺諸国に伝えられた「漢語」を書き表すため、紀元前13世紀に出現して今日まで用いられている文字が漢字である。まずここでは、「点字使用者のための漢字学習プログラム」開発にあたり、漢字についての考え方を整理する。

(1) 漢字造字法

許慎の「説文解字」の序文で「倉頡の初めて書を作るや、けだし類に依りて形に象る。故にこれを文という。その後、形と声（発音）とあい益ましたれば、これを字という。文とは物象の本なり。字とは孳乳してしだいに多きことを言うなり」とある。つまり文とは形を紋様のように描いた原初的なものであり、字とは孳（ふえる）と同系のことばで原初文字を組み合わせ、次第に増えた二次的な文字だということである。そして、文字の構造の解明に用いた原則が象形・指事・会意・形声・転注・仮借であり、これを「六書」という。このうち、象形・指事・会意・形声は、文字の構造に関する原則であり、転注・仮借は用法についての原則である。許慎のいう「文」（原初的な文字）が象形文字であり、「字」（文を組み合わせた二次的な文字）が、会意・形声文字である。指事文字については「文」の部分と「字」の部分がある。したがって、漢字は象形文字や指事文字のような基本的漢字を学んだのち、それらを組み合わせることによって大多数の漢字を学ぶことができるのである。

(2) 単語家族

象形文字、指事文字など基本的な漢字を基（親の字）にして、同じ発音と共通の意味を持つ漢字をグルーピングした「単語家族」という考え方がある。これは、中国語本来の漢字源に基づき、漢語（音）を中心に漢字を整理したものである。漢民族は、事物の外形や感触を軸として、同じようなものは一括して同じ言葉か、似たような言葉で言い表すという習慣を持っていたため、音の似たものは、原則として共通のイメージを浮かび上がらせる。要するに、漢字の語音が同じか、近似していれば意味もまた共通であるという同一の仲間（単語家族）に属する公算が極めて大きいということである。

例えば、「主」は、ろうそくの火が台の上でじっと燃えている様子を表した字であり、そこから、一ひと所にじっととどまって動かない「あるじ」を表すようになった。また、家の中心となる「あるじ」のように、物事の中心となる事柄も表す。「主」のついた字は、「一所にじっと立ち止まる」という意味に関係があり、読み方は「シュ・チュウ・（ジュウ）」である。「住（ジュウ・すむ）」は人偏が付き、人がじっと立って一カ所にとどまることから「すむ」という意味になり、「注（チュウ・そそぐ）」は、サンズイが付き、ものを一カ所に注ぎ込んだり集めたりすることを表す。「柱（チュウ・はしら）」は、木偏が付き、動かずにじっと立っている木、はしらを表し、「駐（チュウ・はしら）」は、馬偏が付き、馬が止まることを表す。

ウ)は馬偏(乗り物)が付き、馬車をとめること、滞在することを表す。これらの漢字は「主」を親の字とした仲間、単語家族である(図1)。

このような考え方をを用いながら、構成要素となり得る基本漢字を選定していけば、意味や音を伴った、広がりのある漢字学習が進められる可能性が高い。

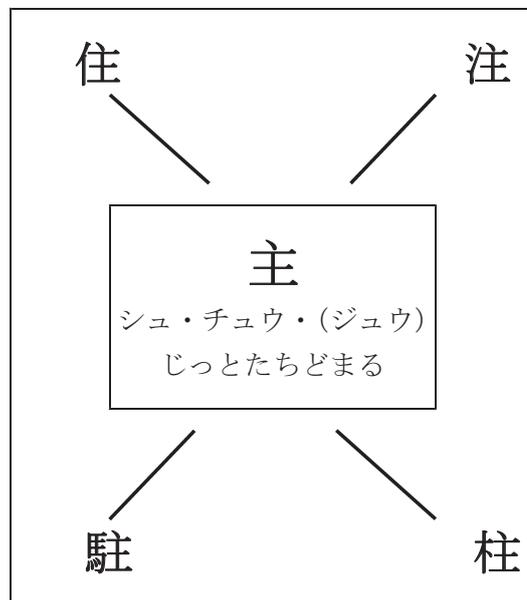


図1 「主」の単語家族

2. 漢字構成要素(基本漢字等)学習の有効性

澤田(2003)は「点字使用者のための漢字学習プログラム」に関わるこれまでの研究で、点字を常用する児童生徒において、基本漢字及び部首による漢字の構成の理解が確実にできるようになれば、未習得の構成漢字であっても、言葉による説明によって書字することが可能である点を明らかにしている。これは晴眼者が視覚的に漢字をとらえるのと同じように、触覚による学習においても漢字を要素ごとのまとまりでとらえたり、その組み合わせを書字することができるということである。海保・野村(1983)が一般の漢字習得について、「漢字の構造を規定するチャンク、いわゆる「部首」に関する知識が、未知の漢字の「読み」や「意味」の推察にも有効であり、新出漢字を効率的に習得するための重要な要因である」と指摘しているが、点字を常用する児童生徒においても、このような漢字の構成要素を考えた学習法が効果的な漢字学習を追求する上で重要である。

3. 字源及び単語家族の考え方に基づく漢字指導の有効性

また、澤田(2003)は、字源を活用して漢字を意味づけながら指導するという手法は、漢字習得に優位に働く可能性があるという点、さらに実際の指導場面において、字源の説明から、その漢字に関連したさまざまな言葉が交わされ、語彙の広がりが見られる点を指摘している。

そして、音の推測、意味の推測は、音訓のみの指導では成立しにくく、漢字の成り立ちから意味や読み方を指導したり、単語家族の考え方の指導を導入したりすることによって可能になってくる点を明らかにしている。このような指導によって、小学部低学年であっても、未学習の漢字につい

て、音や意味の推測ができるようになってきている。これは字源の説明という文脈の中で漢字が印象づけられ、漢字を想起しやすくなり、それに加えて、単語家族の考え方を理解することにより、一定の法則性をもって、漢字をみることができるようではないかと推測される。日常的に漢字に触れることの少ない点字使用児童生徒にとっては、このような音や意味を推測する力の育成こそが重要である。

このように、字源を活用した基本漢字の指導や、部首による漢字の構成要素間の配置関係の指導、さらにそこから単語家族の考え方を導入して、漢字学習を進めていく方法は、多くの形声文字や会意文字などを効率的に習得させる指導法として有効であるといえる。

4. 「点字使用者のための漢字学習プログラム」開発に向けて

1. の漢字についての考え方や、2. 及び3. で述べた知見を基に、「点字使用者のための漢字学習プログラム」及び教材の開発を行う。具体的な基本漢字の選定や提示順、配慮点及び工夫点については以下に述べる。

(1) 基本漢字の選定と構成漢字の提示順

基本漢字を選定するにあたっては、漢字の構成要素となり得る象形文字や指事文字を中心に選定していく。また、基本的な字形と結びつけながら漢字の形・音（読み方）・義の本質を理解・習得できるように、構成漢字を単語家族の考え方でグルーピングし、順次提示していく。その際、考慮しなければならないこととして、言葉としての漢字の難易度の問題がある。一般的に小学校の国語科では漢字を指導する場合、学年別漢字配当表にしたがって漢字を提示している。学年別漢字配当表の漢字は、小学校各学年の児童の日常生活における漢字の使われ方や接触のしかた、あるいは、漢字の難易度などを基本理念として作成されたものである。そこで、漢字の本質や基本的構造に基づいて漢字の提示順序を考える場合においても、その漢字が表している言葉への馴染みの程度や、漢字の難易度などにも十分に考慮する必要がある。その上で、象形文字・指事文字、部首の概念などの基本的な学習を終えたあと、単語家族の考え方で一気に、漢字を学習できるような提示順序とする。

(2) 取り扱う漢字の範囲

学習プログラムで取り扱う漢字の範囲は、その学習プログラムがどのくらいの漢字力の習得を目指すのかにより変わってくる。現在、学校教育段階で要求されている基礎的・基本的な漢字力とはどのようなものであろうか。小林（1982）は、「大人になって、一般的には現代の国語の文章、つまり法令や公用文書、新聞や雑誌などの文章を理解することができ、また、発展的には自分の専門分野においての文章を理解したり、理論的に考えをめぐらしたりすることができるような知識や技能の素地となる力である」と述べている。本プログラムにおいてもそのような漢字力を目指したい。前述の小林の論の中にもあるが、新聞は活字によるマス・メディアの中で中心的な存在であり、あらゆる階層にわたって幅広い読者を得ている点で、国民の文字生活ともっとも深い関わりがあるといえる。では、その新聞を読むことができる漢字力とは、具体的にどのくらいの漢字を習得しておけばよいのであろうか。国立国語研究所（1976）の新聞の使用漢字頻度順位の調査、また同研究所でのその後の新たな調査「新聞電子メディアの漢字」（1998）によると、使用順位 500 位までの漢字で新聞に出現する漢字全体の 80%をカバーすること、使用順位が 1,000 位までの高頻度漢字については、使用順位や使用率に大きな変動が見られず、安定して使用されていることを明らかにして

いる。現在、義務教育段階で学習する常用漢字は、1,945 字（そのうち、小学校で学習する学年別配当漢字は 1,006 字）であることを考えると、それらと新聞の使用漢字頻度順位 1,000 位を考慮した漢字数（1,965 字）を取り扱うことが本プログラムでの漢字力習得には妥当であるとする（結果的には新聞の使用漢字頻度順位 1,200 位、新聞に出現する漢字全体の約 97%まではカバーするものとなった）。

当然のことながら、日常的に漢字に触れることのない点字使用児童生徒に漠然とこの数の漢字を習得させるのではなく、1. から 3. で述べた事柄を基にプログラムの構成を考えていく。まずは最小限の基本的な漢字と漢字の法則性を理解させ、そこから、大多数の漢字を類推することのできる力を習得させるという基本線に沿ったプログラムである。最小限の基本的な漢字としては、象形文字や指事文字であり、取り扱う漢字内で考えるとその数は 280 文字程度となる。これらの漢字の習得をまず促し、その上で、個々の児童生徒の学習速度や到達目標に合わせて活用できるように、いくつかのステップに分けたプログラムの提示とする。

(3) 熟語の選定と言葉の概念の指導

点字を常用する児童生徒を対象とした漢字指導においては、言葉による説明を重視しなければならない。プログラムの中では、基本漢字や構成漢字の意味やその使い方について説明をしていくことになるが、この場合、提示する熟語と言葉の選定が重要なポイントとなる。構成要素による指導順序の整合性を考えて、漢字を提示していくが、同時に低学年の児童の日常生活や学習内容、情報内容にふさわしく、こうした実態に馴染む漢字から提示していくことが要求される。また同様に提示する熟語や言葉の選定も考えていかねばならない。特に点字を常用する児童生徒に対しては、さまざまな語彙獲得の過程で、視経験を補うような意図的な指導も必要である。

一方、各年齢段階等における語彙の獲得という点にも目を向けなければならない。この点に関しては、通常の児童生徒を対象とした、国立国語研究所（1984, 2001）の基本語彙調査や、井上（2001）の語彙発達調査等が参考となる。

漢字の指導における熟語と言葉の選定においては、以上の点を考慮しながら、点字を常用している児童生徒が、概念に裏付けられた確かな語彙力を習得することができるように、配慮していく必要がある。

(4) 興味・関心を持続させるための工夫

点字を常用する児童生徒に対して効率的な漢字指導を行うためには、如何にして興味と関心を持続させながら、印象深く学習に取り組ませることができるかが重要なポイントとなる。

基本漢字は字源を活用しながら指導し、構成漢字はその基本漢字を基として、単語家族の考え方を導入して指導する。また、基本漢字である象形文字・指事文字などは具体的な図解による解説ができるので、児童生徒は、印象深く、漢字に対して興味・関心を持ちつつ学ぶことができる。単語家族の考え方も、基本漢字である親字を基にした同類の漢字でグルーピングしたものであるため、形・音・義の共通した部分をもつ漢字を意味づけて学習ができ、分りやすい。これら字源や単語家族のおもしろさを生かした説明の工夫、興味・関心を十分に持続させるような指導上の工夫が重要である。

(5) 教材作成にあたっての工夫点

教材作成にあたっての工夫点は以下の通りである。

- ① 漢字を関連づけて学習させるために、同類の漢字でグルーピングし、各ページに階層化した分

類番号をつける。

各段階ごとに階層化した分類番号を点字用紙の左上に振る。全ての通し番号（ページ数）は右上におく。

<階層化した分類番号>

- ・百番台は各段階を示す。

例 100 番台→第1段階 200 番台→第2段階 等

- ・十番台は各段階での下位分類を示す。

例 第2、3、5、7、8、9段階の十番台

10 漢数字、20 位置方向、30 自然、40 植物、50 動物、60 人体、70 道具、
80 生活、90 その他

その他、部首等、各段階ごとに定める。

- ・一番台は十番台を必要に応じてさらに分類したもの。
- ・枝番号は分類した中で複数ページにわたるもの。

- ② 第2段階から第4段階までは、単語家族の親字になる基本的な漢字や、身近な言葉をあらかず漢字であり、その漢字の意味とつなぎ合わせて、馴染みのある言葉として学習させたい。そのために読み仮名は訓を先に提示する。第5段階から第10段階においては、特に単語家族の考え方を取り入れるので、音を先に提示する。

<点字での音訓の区別>

- ・訓→ ⠠ ⠠ で囲み、送り仮名は囲みの外に続ける。
- ・音→ ⠠ ⠠ で囲む。

- ③ 第2段階、第3段階の基本的漢字については、漢字の成り立ちを用いて学習を進めていく。そのために、具体物のイメージから中間体を通して漢字が成り立っていることをあらかず図を用いる。

- ④ 教材の点線図、点線文字については、点の大きさ、図や文字の大きさ、線間隔、線の傾き等、数パターンの比較や事例にて修正を行う。

- ⑤ このプログラムで学習する漢字数については前述のとおり 1,965 字であるが、学年別漢字配当表以外の常用漢字や人名漢字等について、それらと区別できるようにする。

<学年別漢字配当表以外の漢字の表し方>

- ・常用漢字→ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠ を音訓の前に置く。
- ・人名漢字、第1水準→ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠ を音訓の前に置く。

第2節 「点字使用者のための漢字学習プログラム」

学習の目的

漢字は数万字あると言われ、常用漢字だけでも 1,945 字あり、一つ一つ学習していくことは点字使用者にとってそう容易ではない。

一方、漢字は象形文字や指事文字のような基本的漢字を 280 字程度学んだのち、それらや部首を構成要素として組み立てることによって、形声文字や会意文字などのような大多数の漢字を学ぶことができる。

そこで、構成要素となる基本的漢字や部首とそれらの結合関係を学んだのち、「単語家族」などで同類の漢字を関連づけ、発展的に学ばせることが有効である。

このような学習方法で常用漢字 1,945 字に国立国語研究所「現代新聞の漢字」(1976)、「新聞電子メディアの漢字」(1998)における頻度数 1,200 番以内の常用漢字外の文字(人名漢字・第1水準)20字を加えて総数 1,965 字を学べば、その後遭遇する漢字の類推学習も容易となるであろう。

点字使用者のための漢字学習プログラムの構成原理

1. 漢字の基本となる象形文字は、具体物の曲線を直線にかえて表している。そこで、直線・そり・折れ線・はね・てん等の要素、及び、平行・交差・接続・分離等の相互関係に慣れさせる。
また、片仮名と漢字との字形の類似関係を理解させることによって、漢字学習への導入をはかる。
2. 基本的漢字として漢数字・指事文字の一部を学ばせたのち、象形文字・会意文字の一部を自然・植物・動物・人体・道具・生活・その他と、意味上の分類ごとに学ばせる。その場合、具体物のイメージから中間体を通して漢字が成り立っていることと、その漢字の意味や訓や音を関連づけ、用例を通して理解させる。
3. 身近な言葉を表す漢字を学ぶことによって、漢字への興味を膨らませたのち、既習の基本的漢字などを構成要素とする漢字を学ぶことによって、新しい漢字が合成されることを理解させる。
さらに、偏・旁・冠・脚・垂・構・繞の七つの部首とその位置を学ぶことによって、漢字を構成する要素間の配置関係を理解させる。
4. 字形・字音・意味を共有する基本部分に他の構成要素を付け加えた漢字の「単語家族」の分類ごとに同類の漢字を学ぶことを通して、形声文字などの漢字の派生関係を理解させる。その場合、漢数字・位置方向・自然・植物・動物・人体・道具・生活・その他の意味上の分類ごとに提示して理解を容易にさせる。また、この段階では、訓よりも音を中心に意味や形と結びつけるとともに漢字二字の熟語などとの対応関係も理解させる。

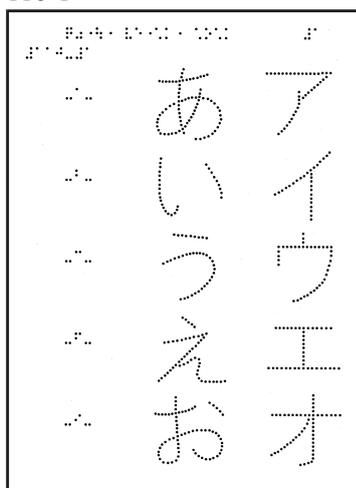
第1段階 漢字学習への導入

<指導のねらい>

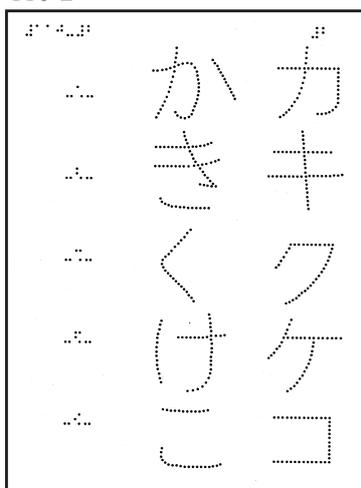
- (1) 漢字仮名交じり文の中には平仮名・片仮名・漢字・算用数字・アルファベットの5種類の文字で書かれている。ここでは、平仮名・片仮名の字形についてふれさせる。
- (2) 漢字を構成する一画は、直線・そり・折れ線・はね・てんの要素で構成されていることを知らせる。また、二画以上が平行・交差・分離・接続などの相互関係にあることを知らせる。
- (3) 漢字を構成する部分として片仮名一字、または、片仮名を組み合わせた漢字を取り上げ、漢字学習への導入をはかる。

110 五十音（点字・平仮名・片仮名）

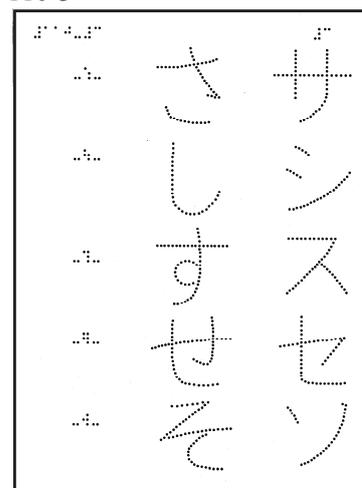
110-1



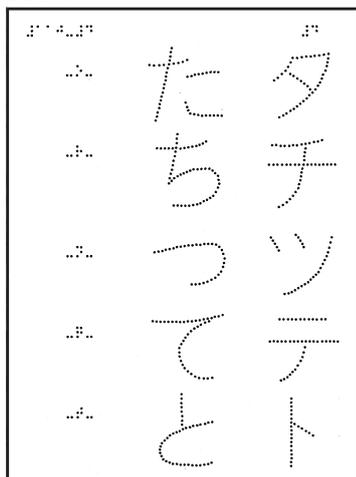
110-2



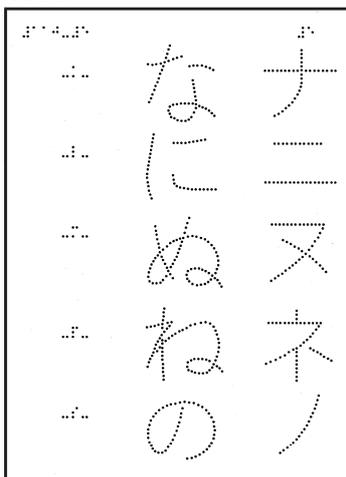
110-3



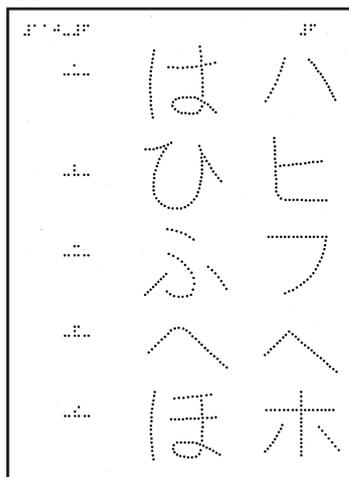
110-4



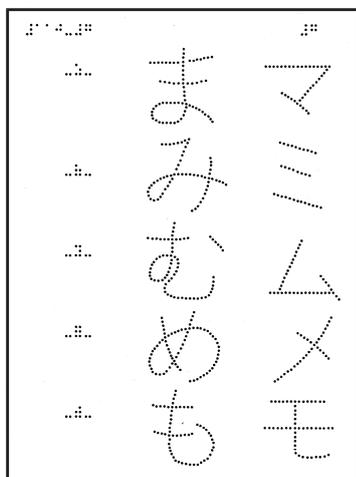
110-5



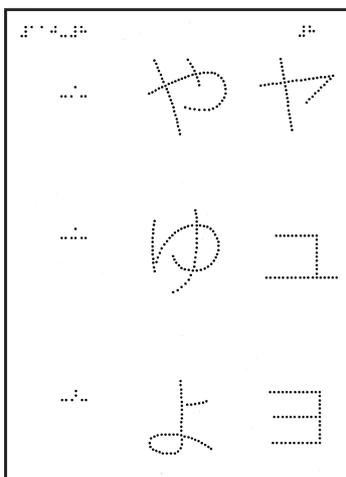
110-6



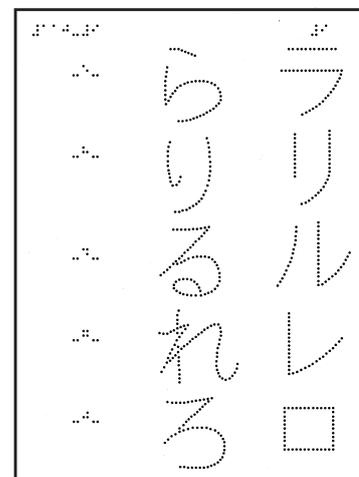
110-7



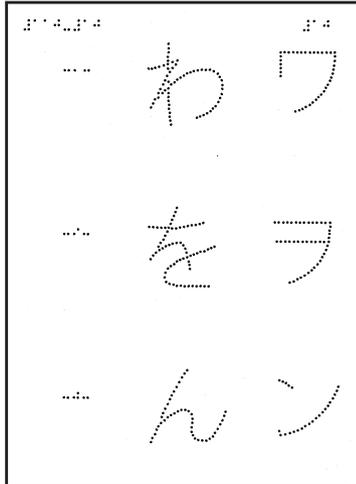
110-8



110-9

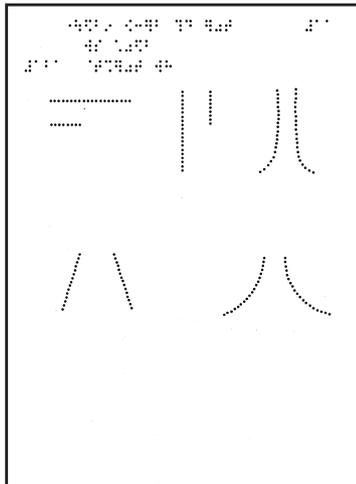


110-10



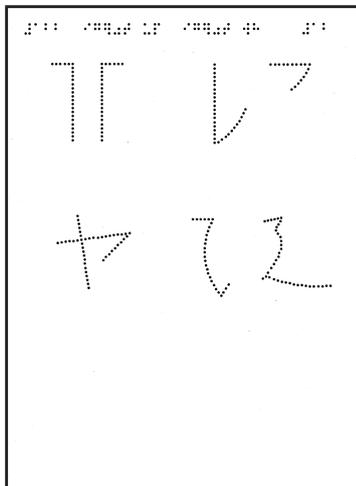
120 字形を構成する線とその関係

121 直線とそり（長い線・短い線で、縦・横・左下がり・右下がり・縦そり・斜めそり）

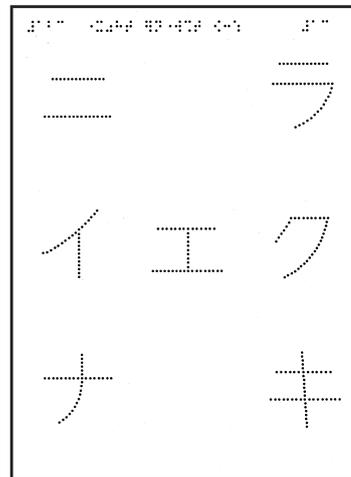


122 折れ線とはね（鈍角・直角・鋭角）

折れ線とそり

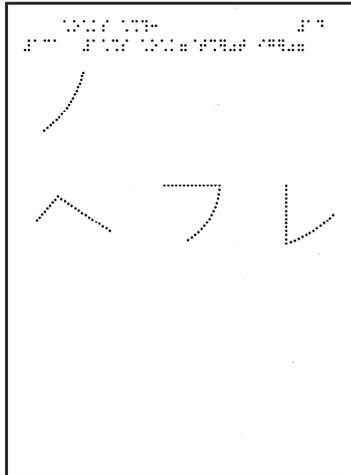


123 分離と接続と交差

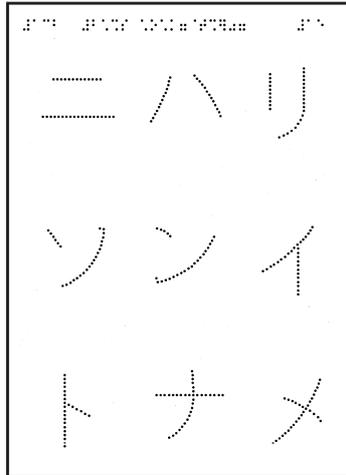


130 片仮名の画数

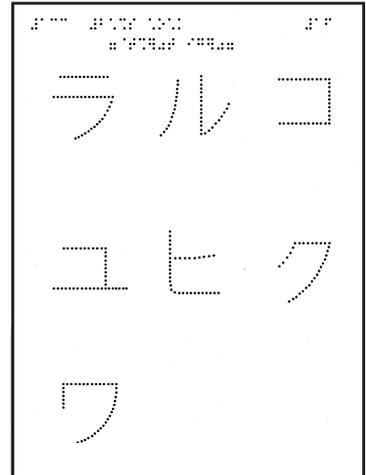
131 一画の片仮名
(直線と折れ線)



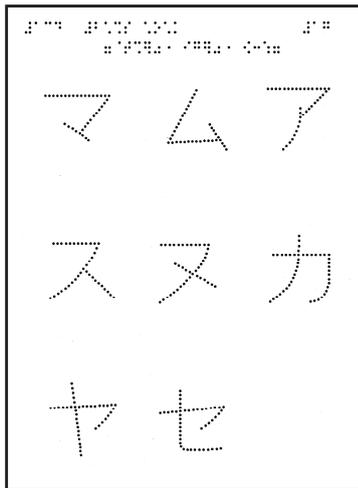
132 二画の片仮名
(直線)



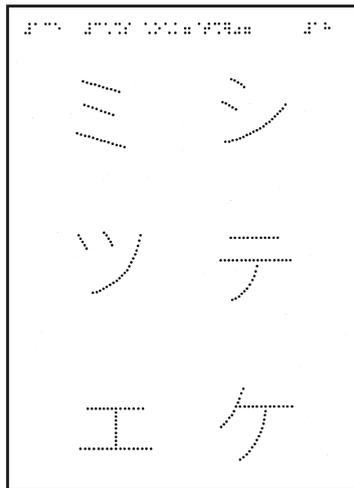
133 二画の片仮名
(直線と折れ線)



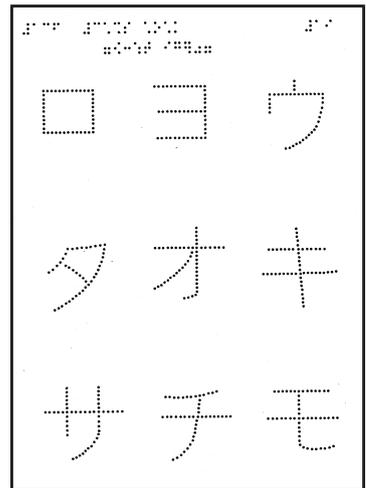
134 二画の片仮名
(直線・折れ線・交差)



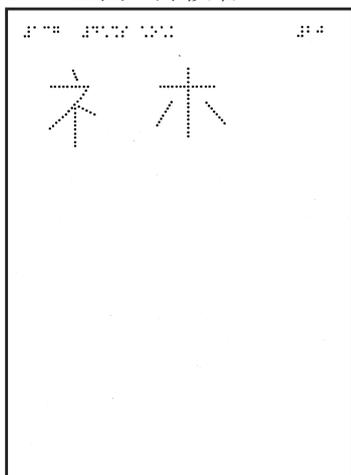
135 三画の片仮名
(直線)



136 三画の片仮名
(交差と折れ線)

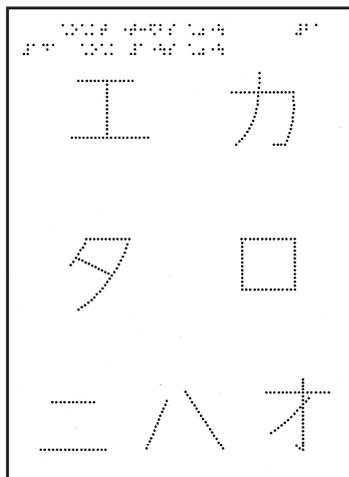


137 四画の片仮名

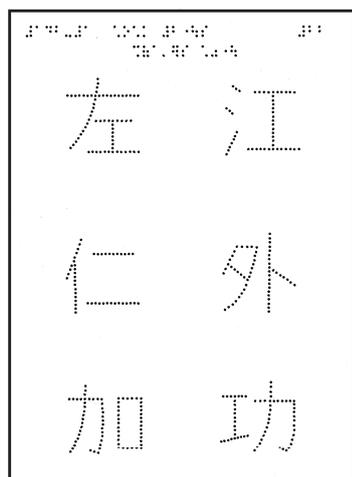


140 片仮名と同形の漢字

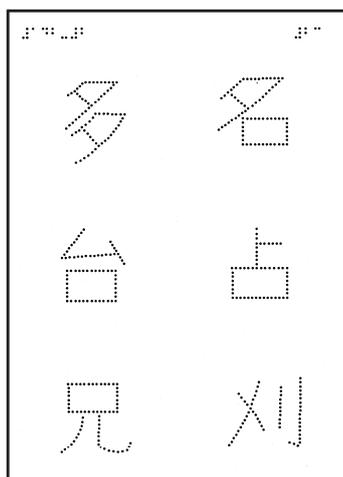
141 片仮名一字の漢字



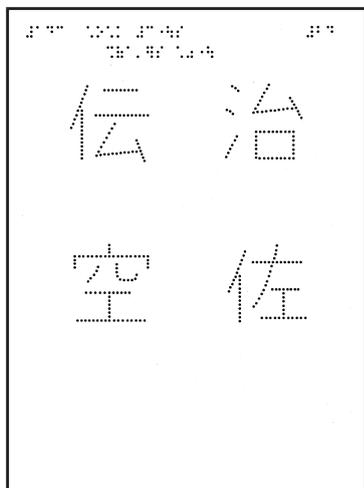
142-1 片仮名二字の組み合わせの漢字



142-2



143 片仮名三字の組み合わせの漢字



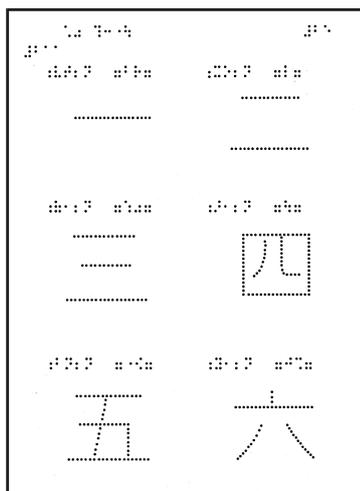
第2段階 基本的漢字1 (漢数字・象形・指事・会意文字の一部)

<指導のねらい>

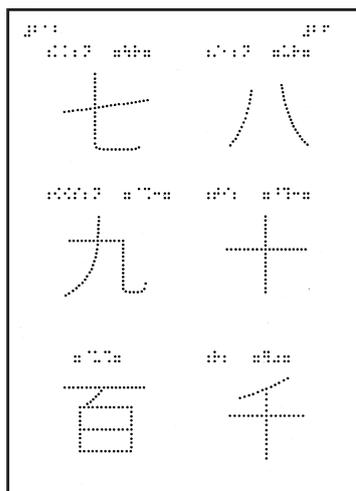
- (1) 使用頻度が高く、字形と意味が単純な漢数字と指事文字を取り上げ、基本的漢字を理解させる。
- (2) 漢字の字源となっている象形文字のうちから、使用頻度が高く、字形と意味の単純なものを取り上げ、物の象形としての漢字の形や意味を理解させる。また象形文字に単純な要素を加えた基本的な会意文字も取り上げる。

210 漢数字

211

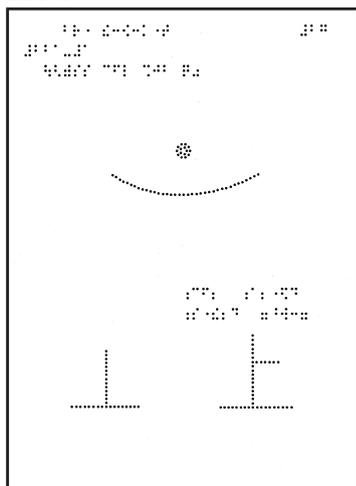


212

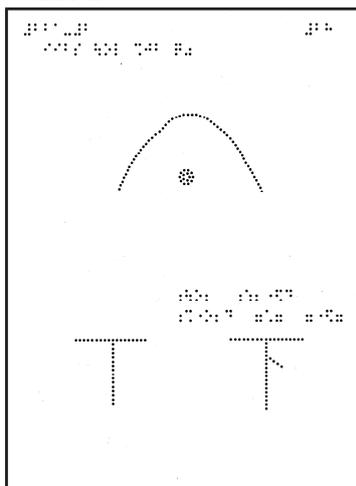


220 位置・方向など

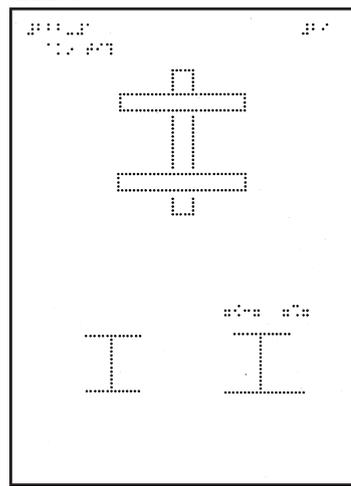
221-1



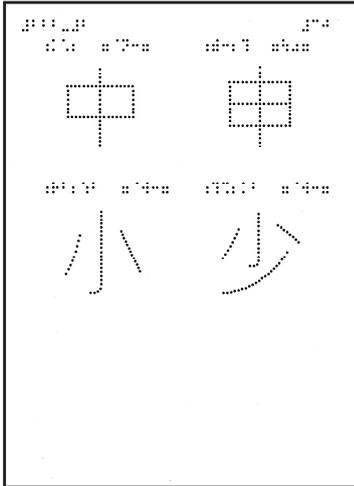
221-2



222-1

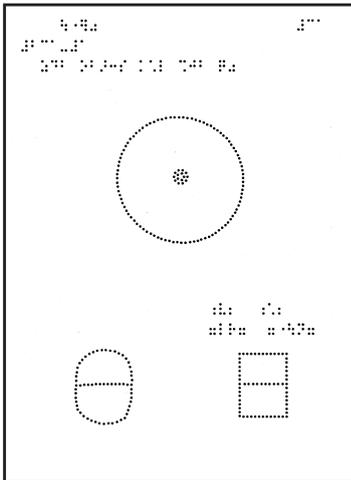


222-2

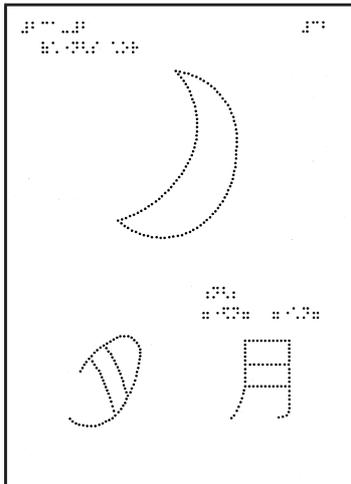


230 自然

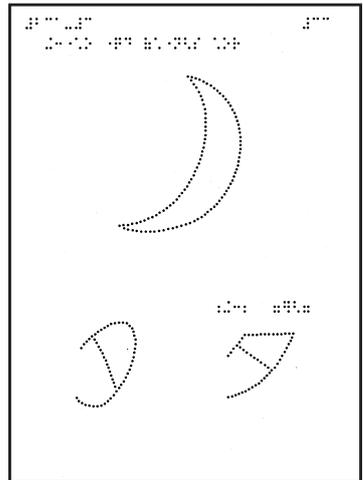
231-1



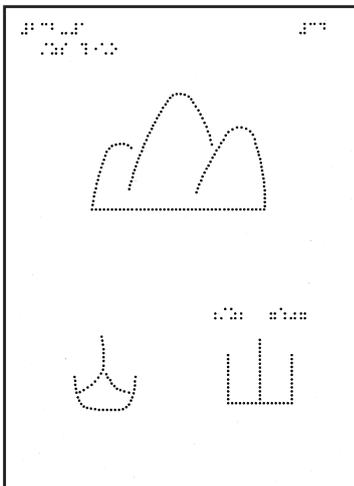
231-2



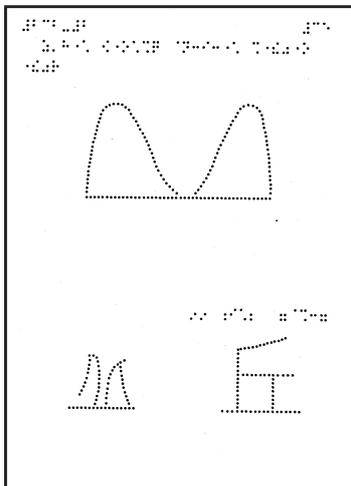
231-3



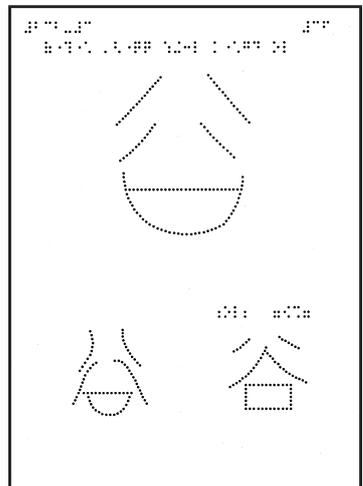
232-1



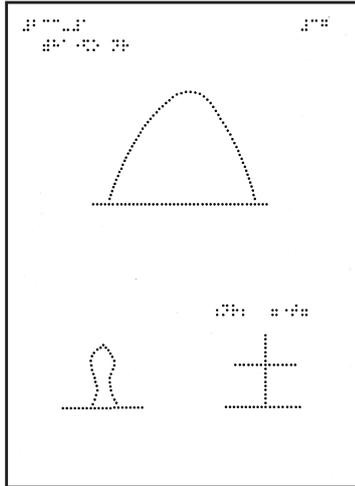
232-2



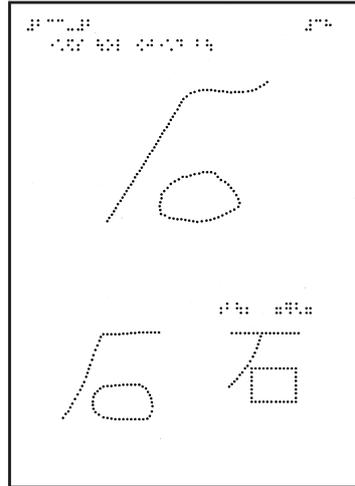
232-3



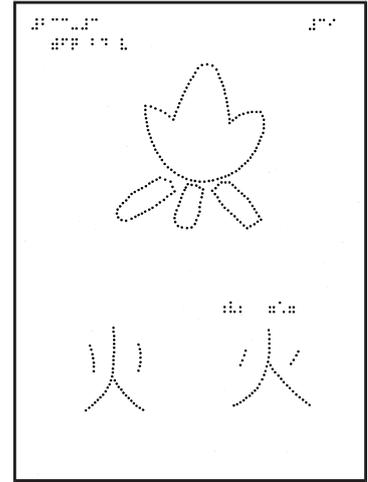
233-1



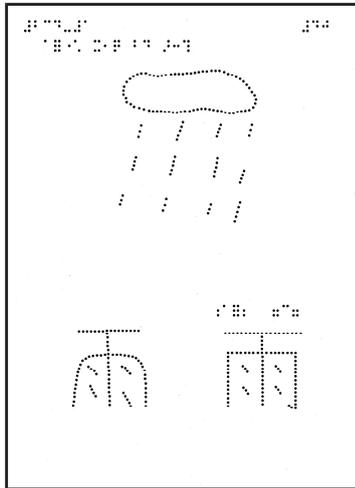
233-2



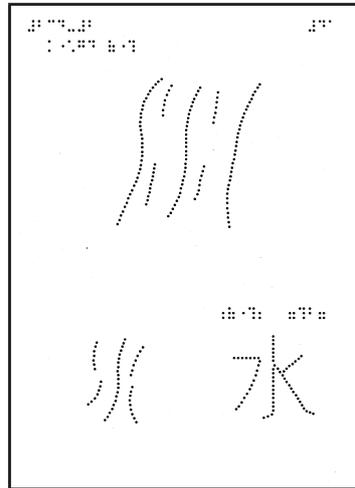
233-3



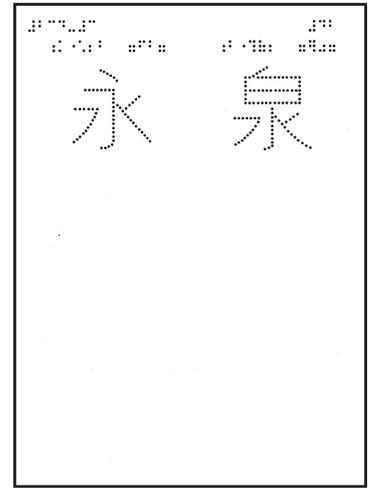
234-1



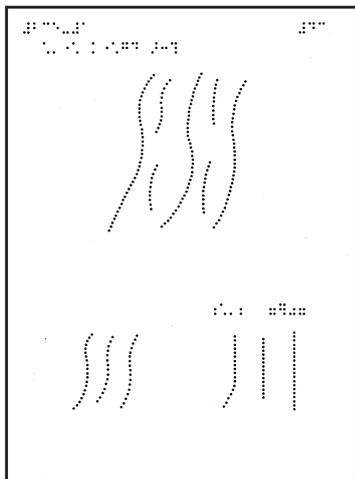
234-2



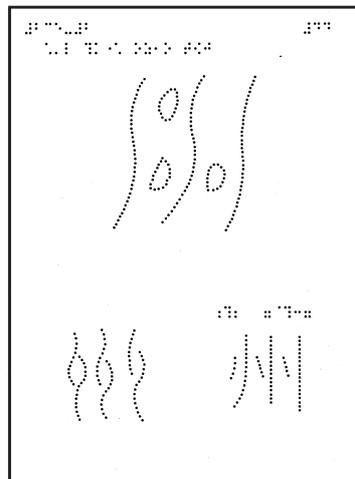
234-3



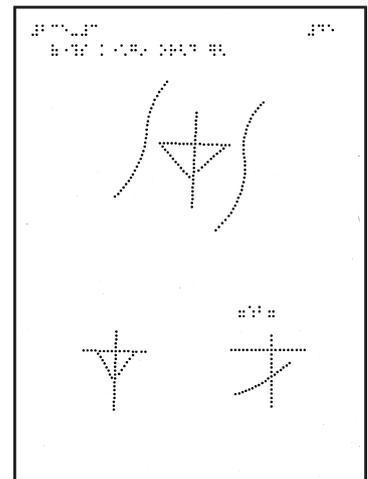
235-1



235-2

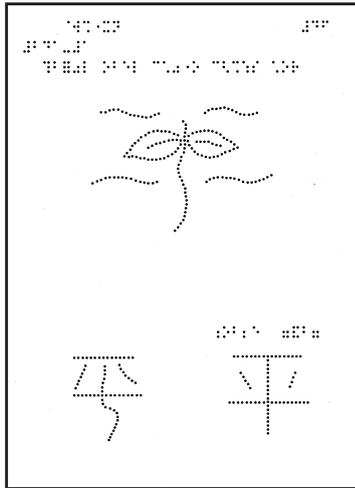


235-3

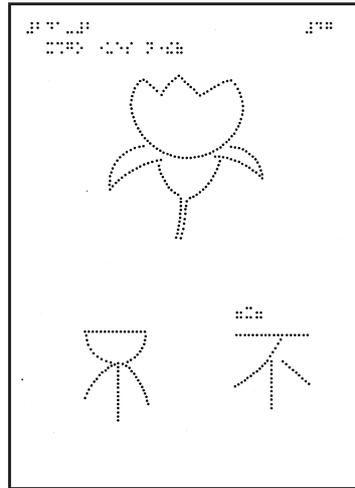


240 植物

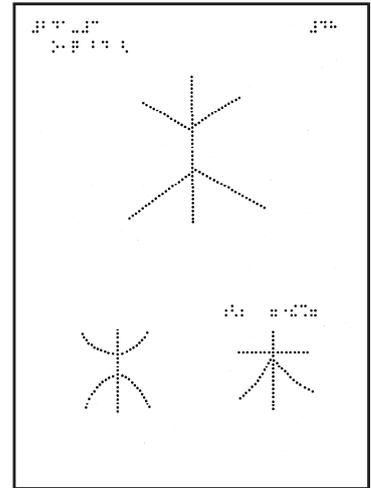
241-1



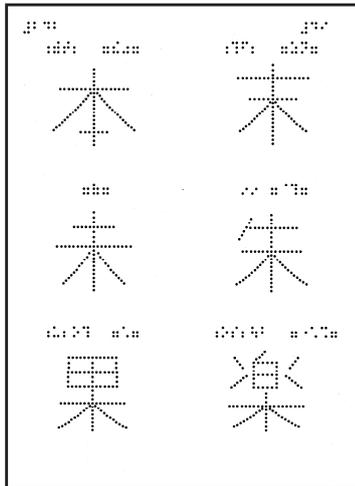
241-2



241-3

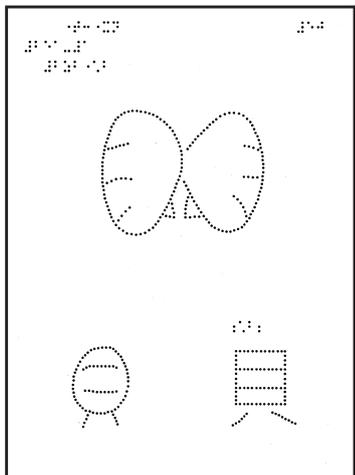


242

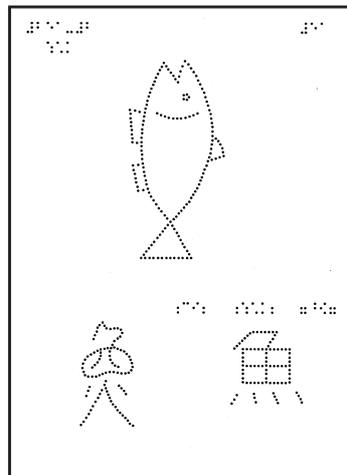


250 動物

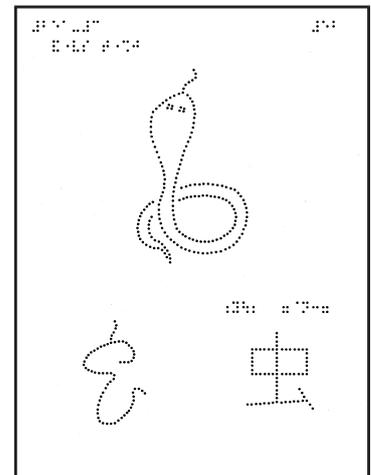
251-1



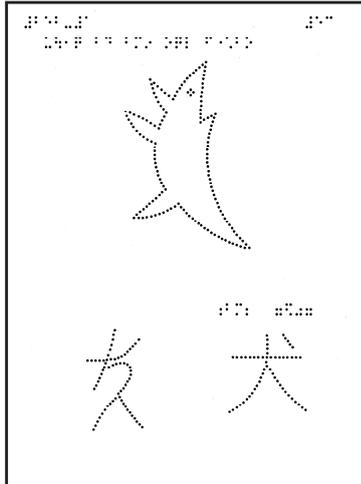
251-2



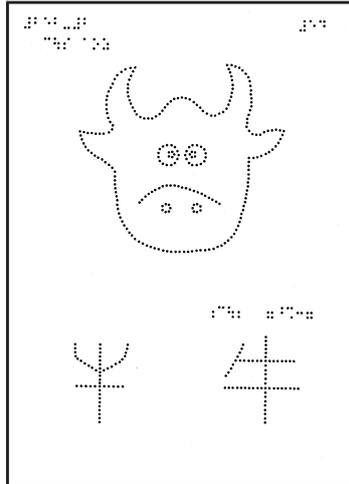
251-3



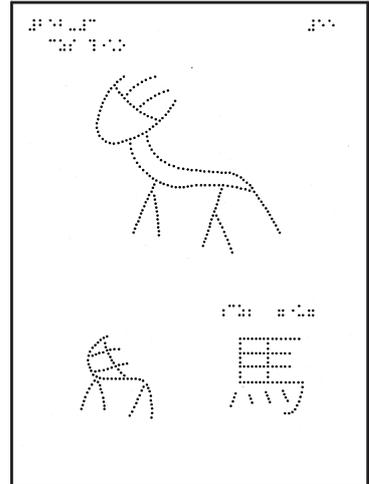
252-1



252-2

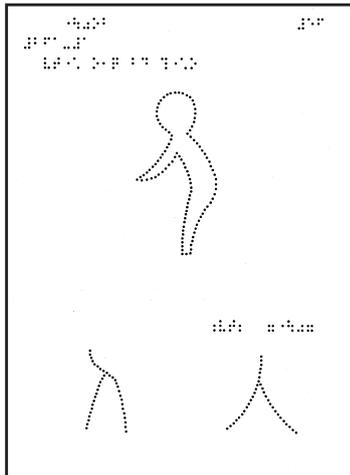


252-3

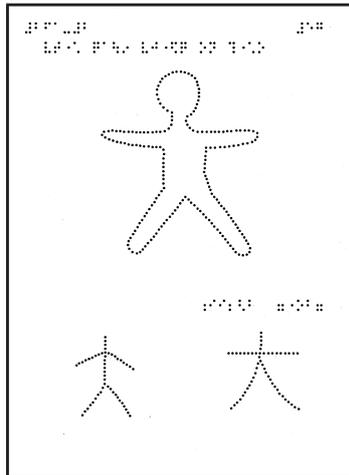


260 人体

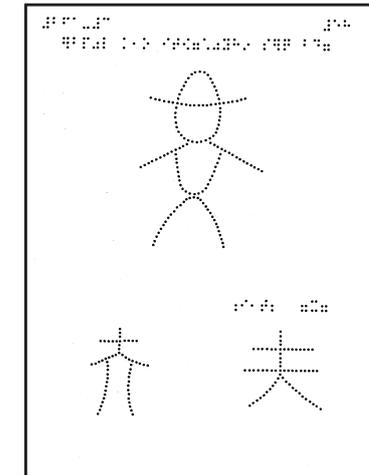
261-1



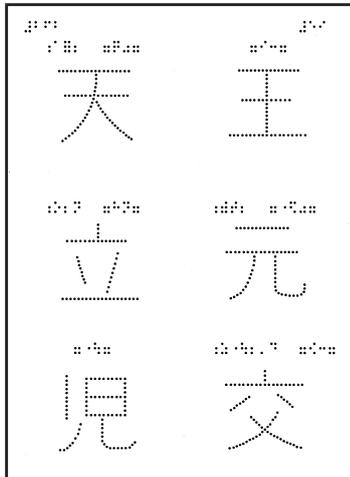
261-2



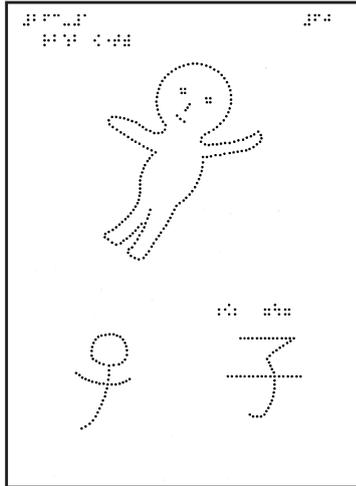
261-3



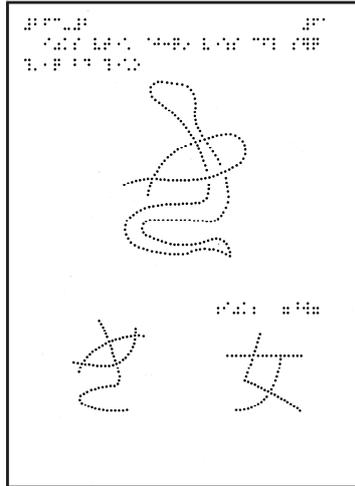
262



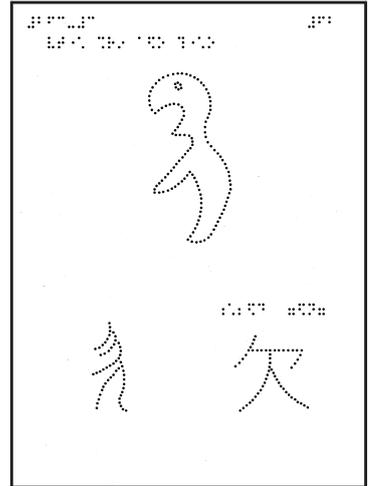
263-1



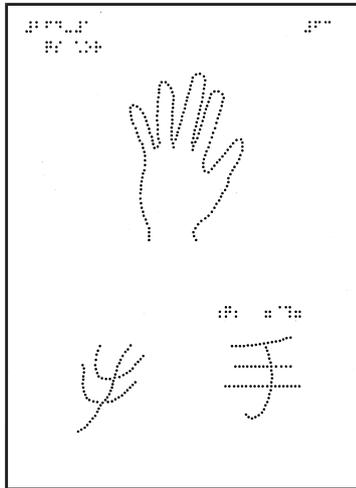
263-2



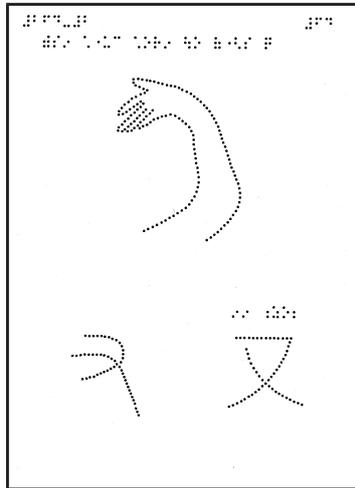
263-3



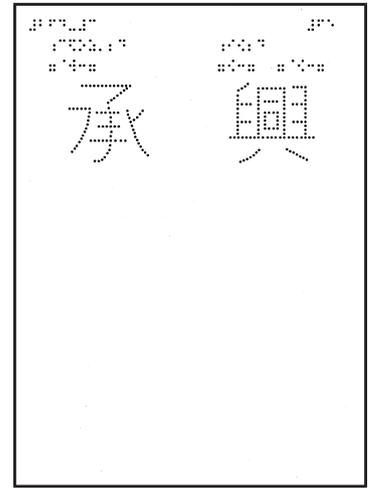
264-1



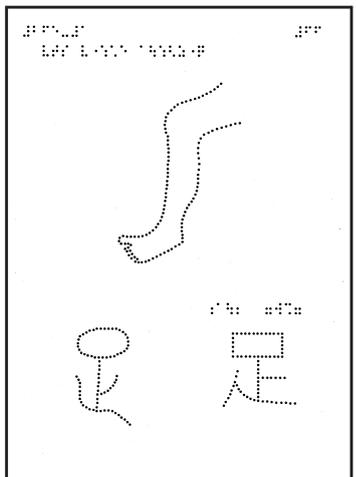
264-2



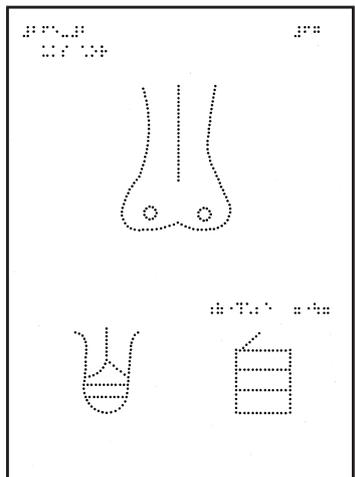
264-3



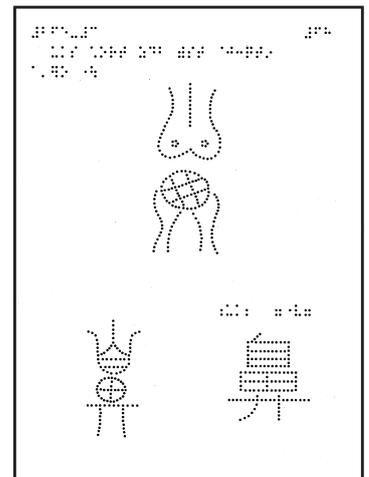
265-1



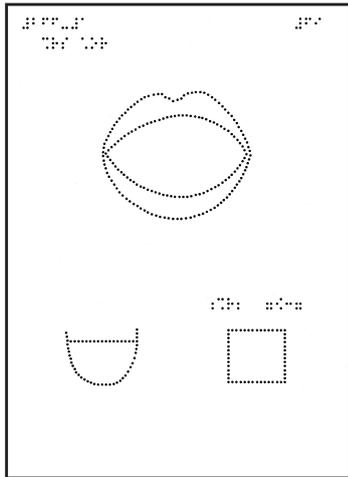
265-2



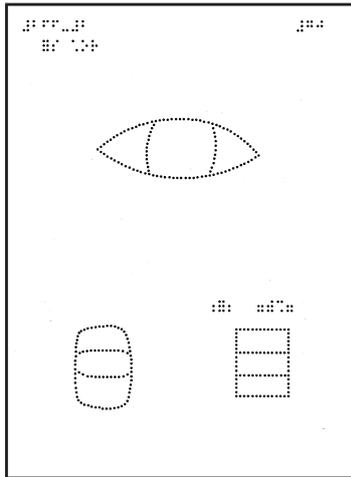
265-3



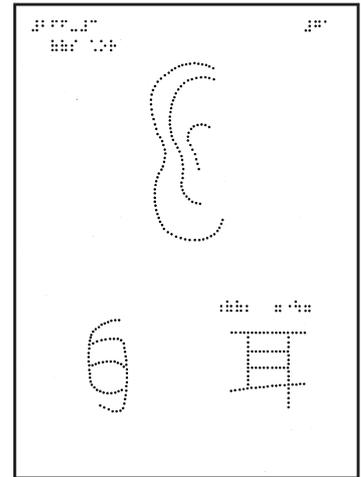
266-1



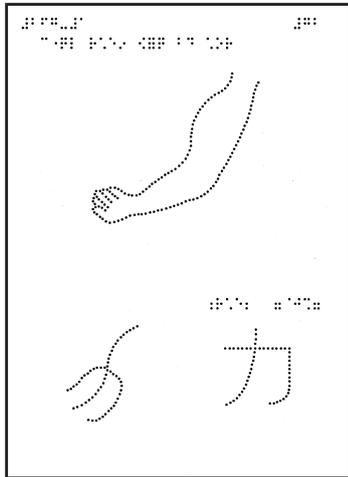
266-2



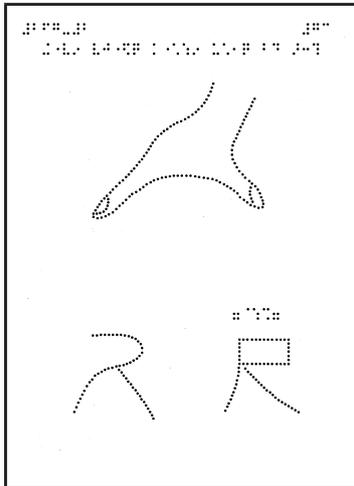
266-3



267-1

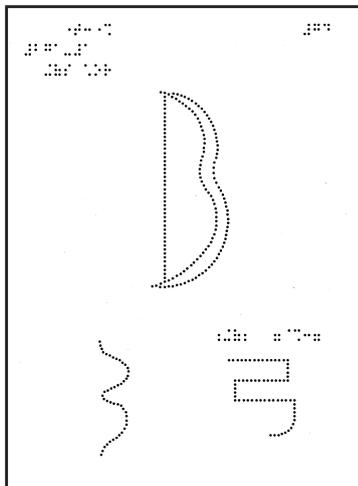


267-2

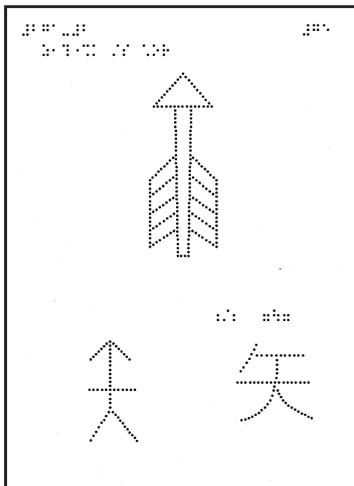


270 道具

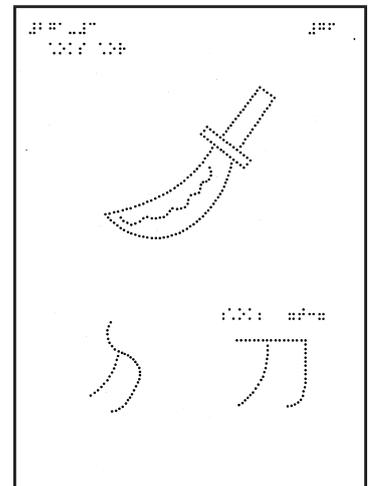
271-1



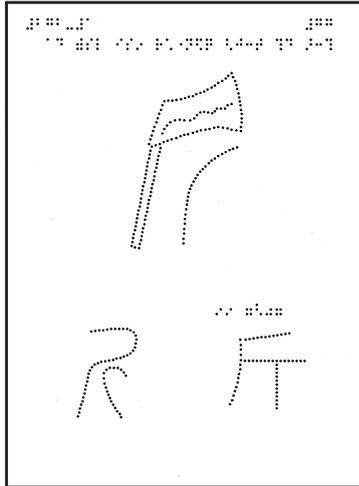
271-2



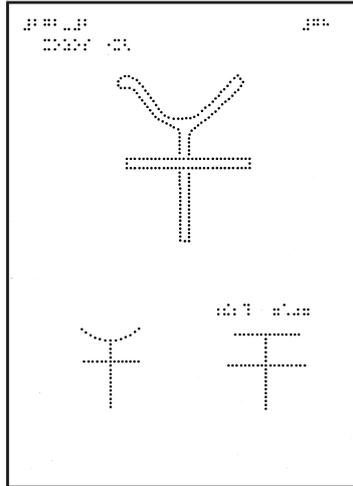
271-3



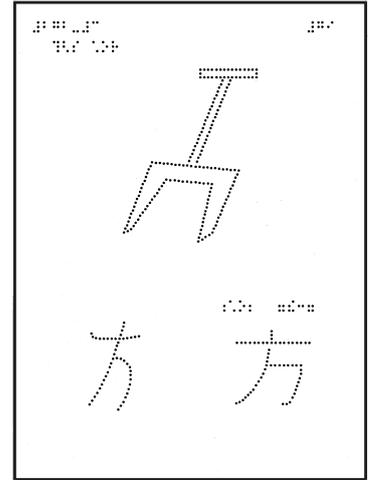
272-1



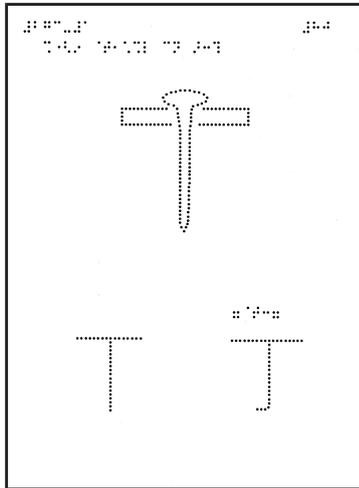
272-2



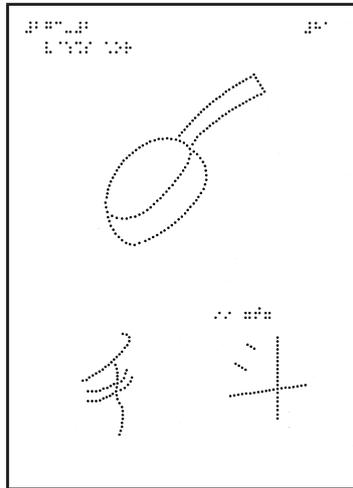
272-3



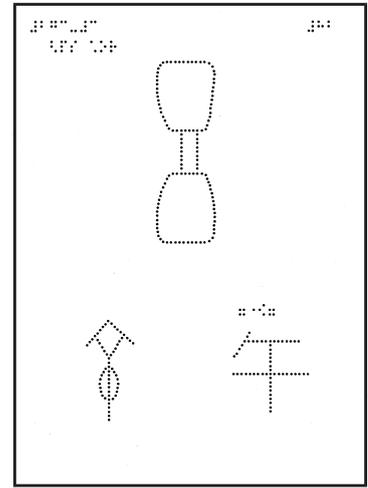
273-1



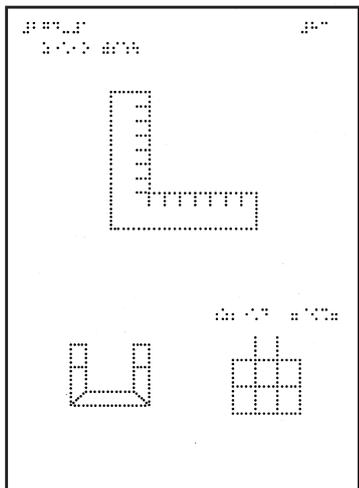
273-2



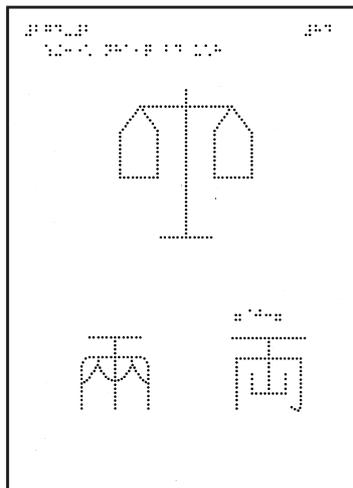
273-3



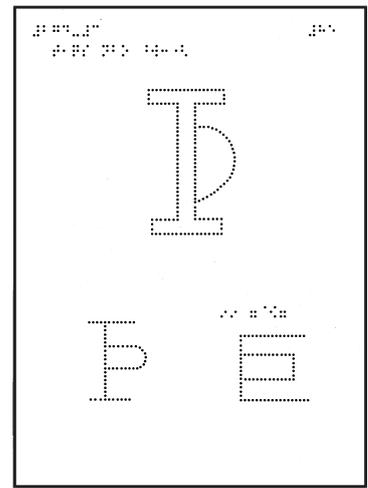
274-1



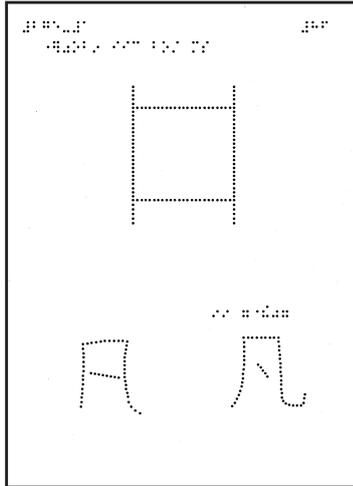
274-2



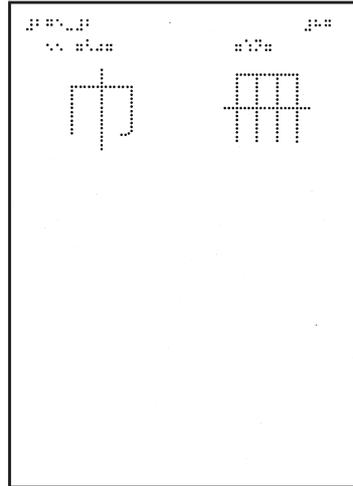
274-3



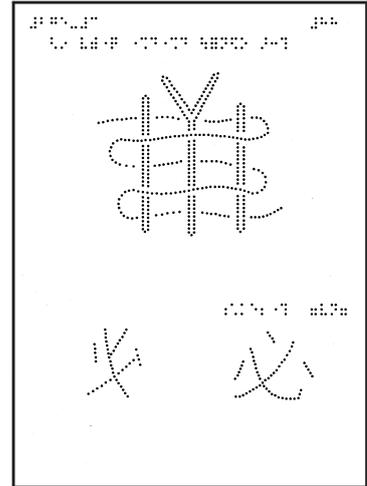
275-1



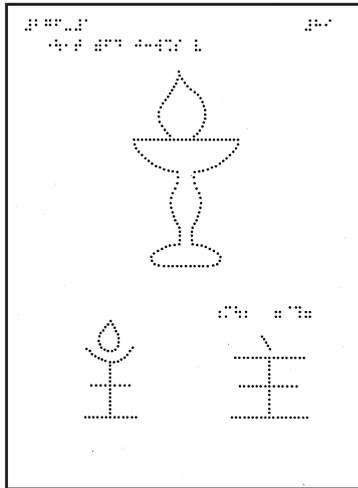
275-2



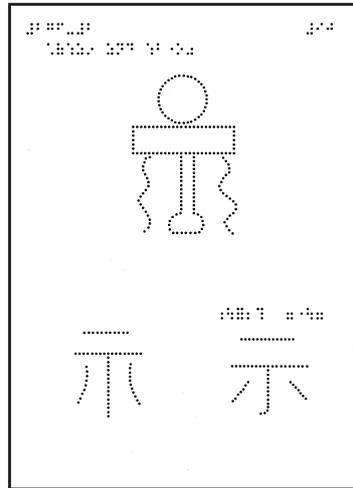
275-3



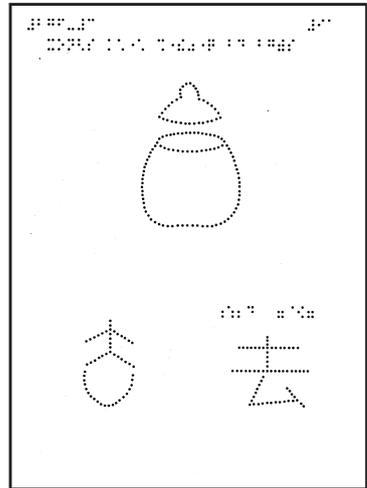
276-1



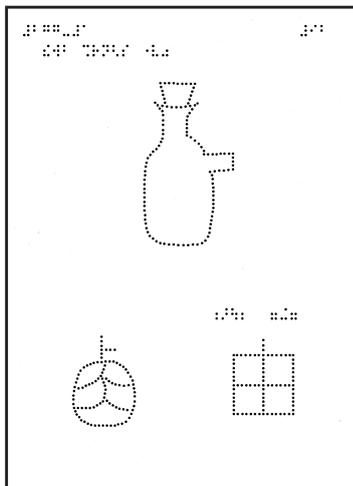
276-2



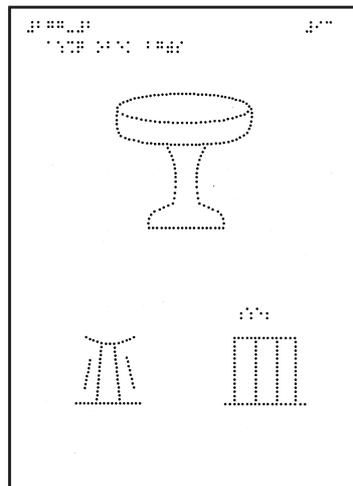
276-3



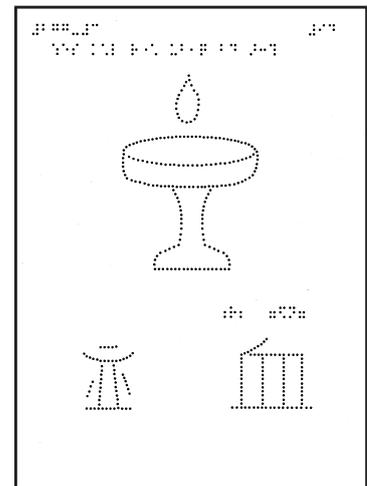
277-1



277-2

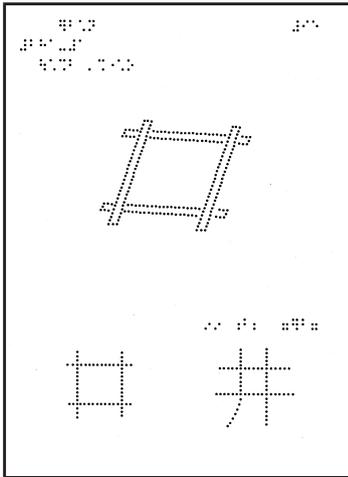


277-3

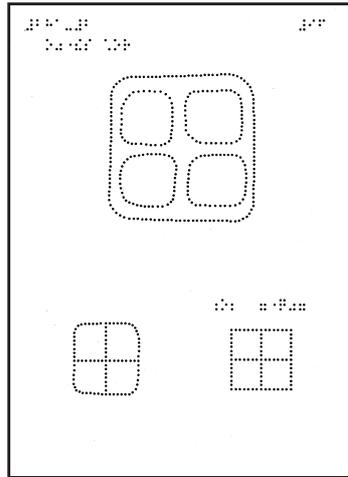


280 生活

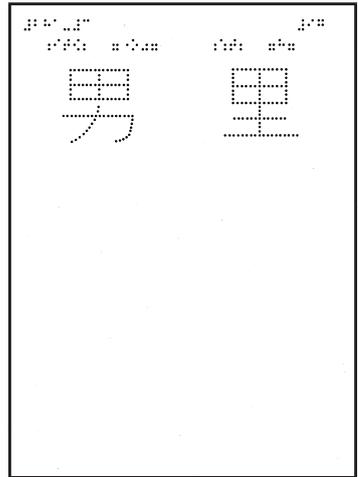
281-1



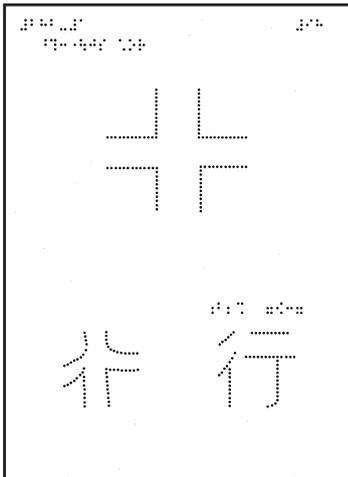
281-2



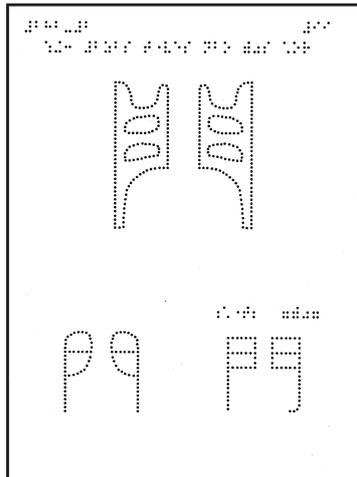
281-3



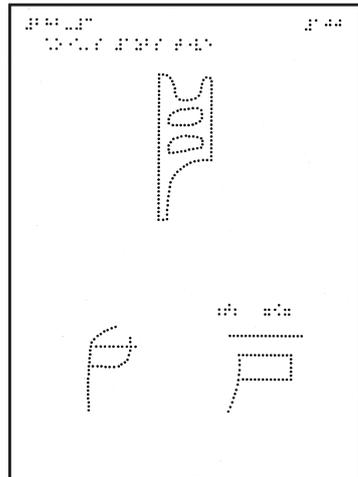
282-1



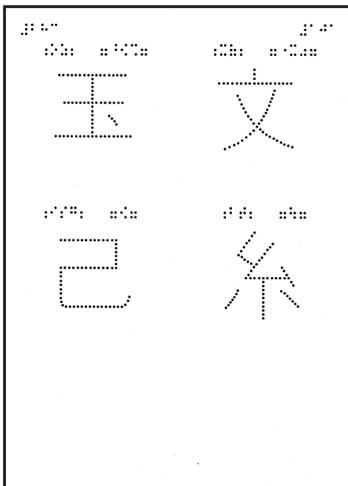
282-2



282-3

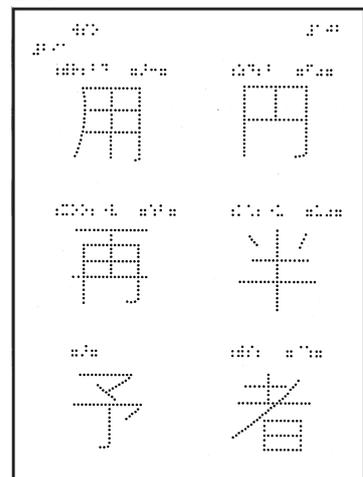


283



290 その他

291



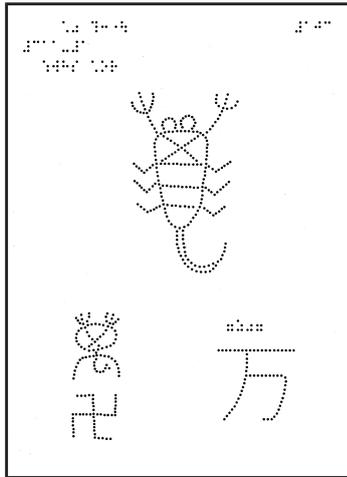
第3段階 基本的漢字2（漢数字・象形・指事・会意文字の一部）

<指導のねらい>

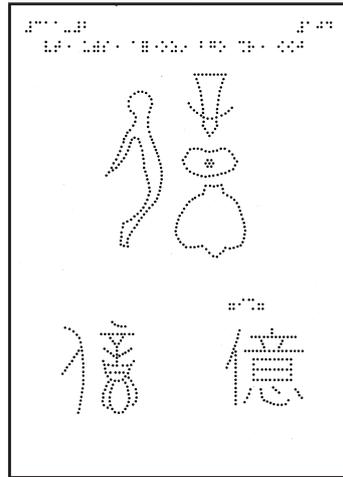
- (1) 使用頻度が高く、字形と意味がやや複雑な漢数字と指事文字を取り上げ、基本的漢字を理解させる。
- (2) 漢字の字源となっている象形文字のうちから、使用頻度が高く、字形と意味がやや複雑なものを取り上げ、物の象形としての漢字の形や意味を理解させる。また、象形文字に単純な要素を加えた会意文字も取り上げる。

310 漢数字

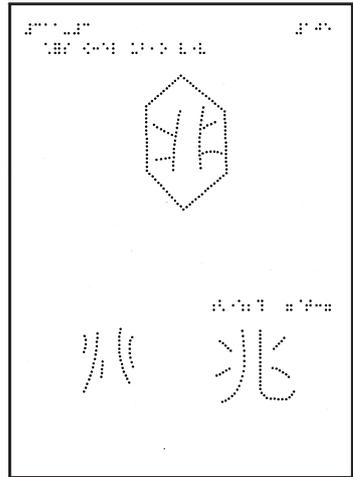
311-1



311-2

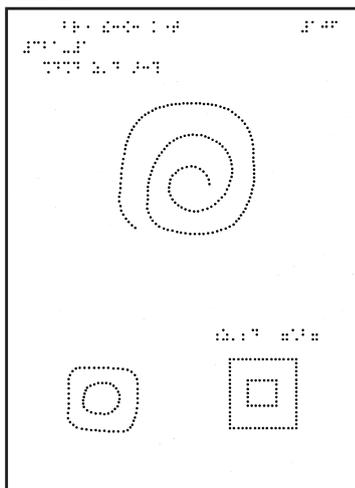


311-3

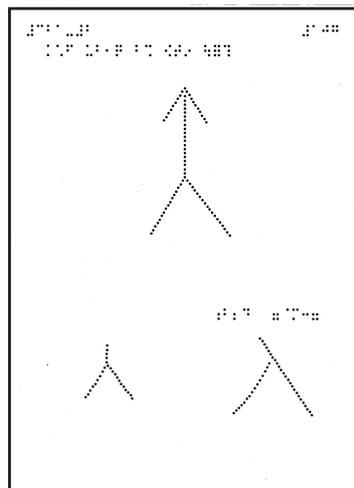


320 位置・方向など

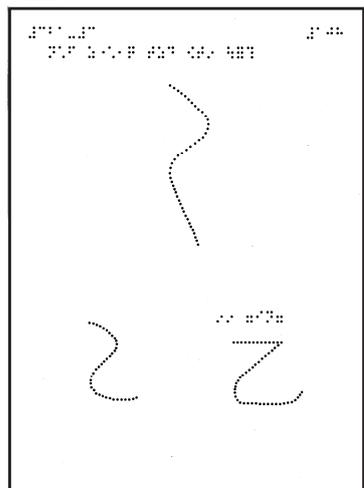
321-1



321-2



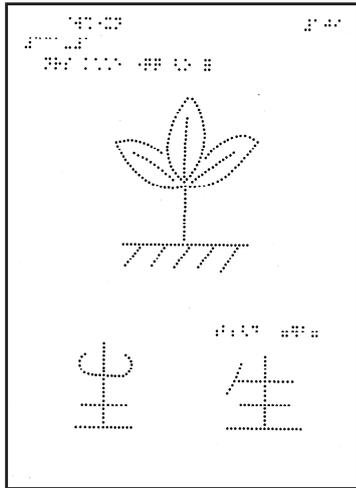
321-3



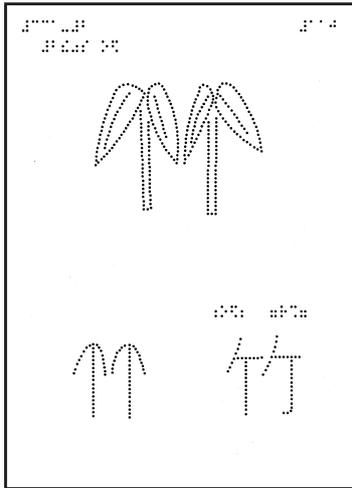
330 自然

340 植物

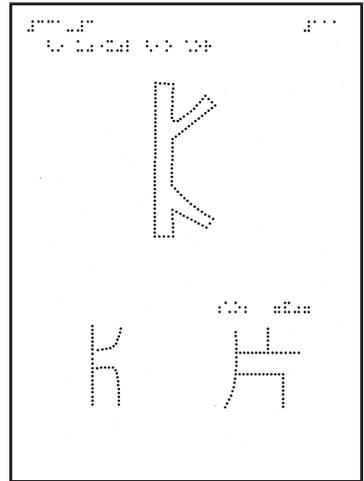
341-1



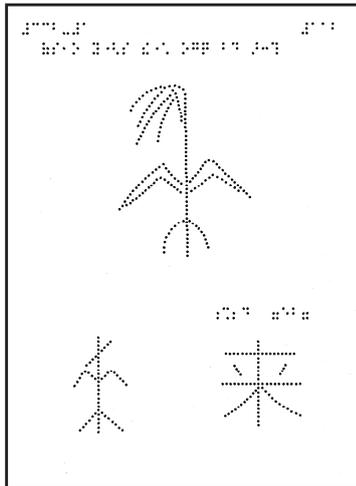
341-2



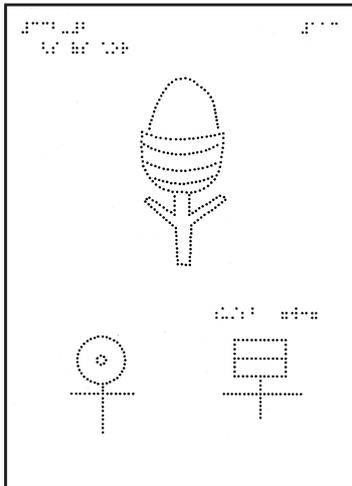
341-3



342-1

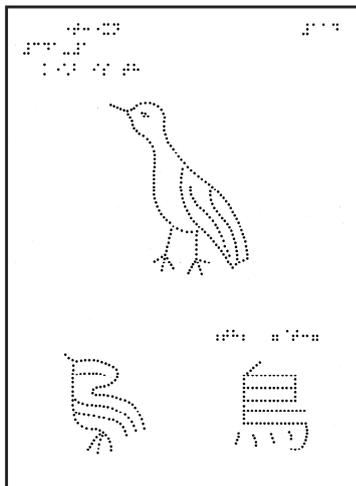


342-2

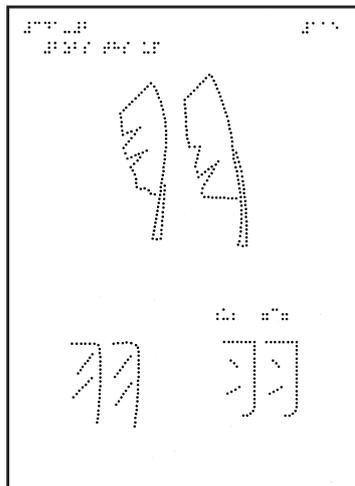


350 動物

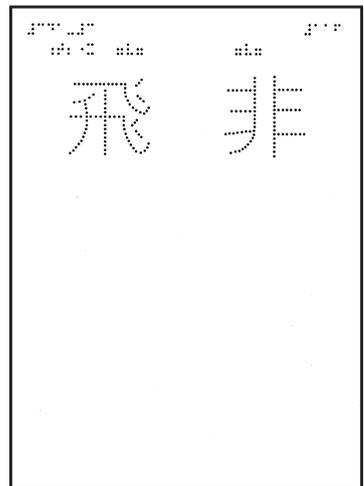
351-1



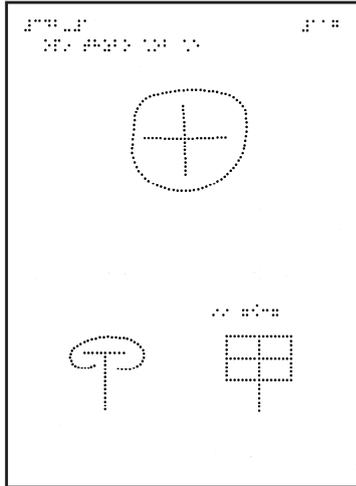
351-2



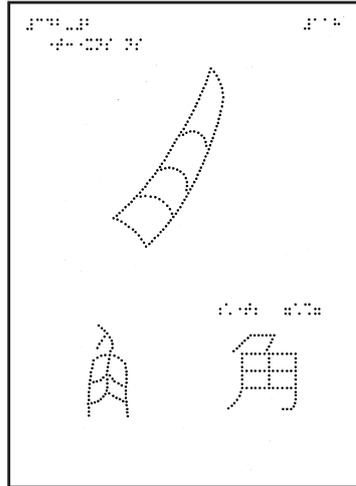
351-3



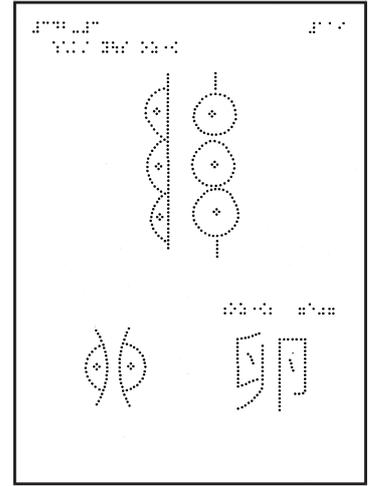
352-1



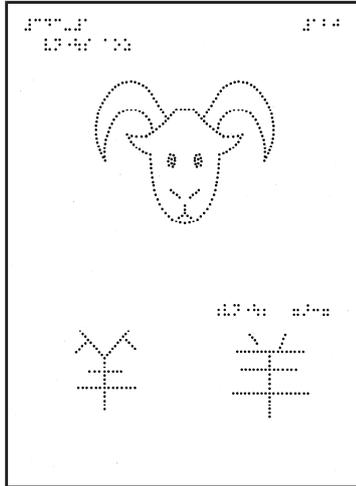
352-2



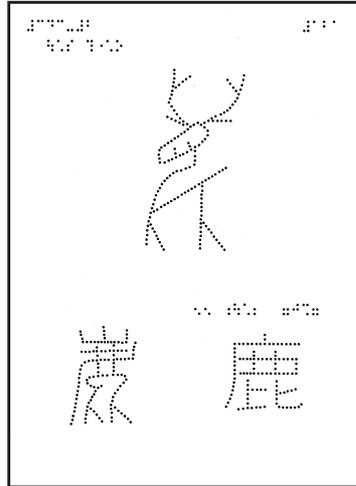
352-3



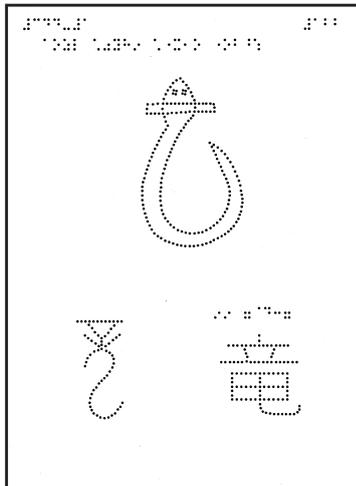
353-1



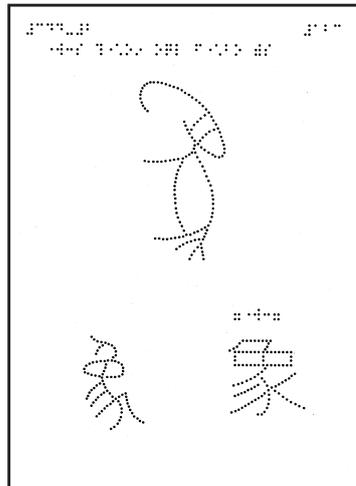
353-2



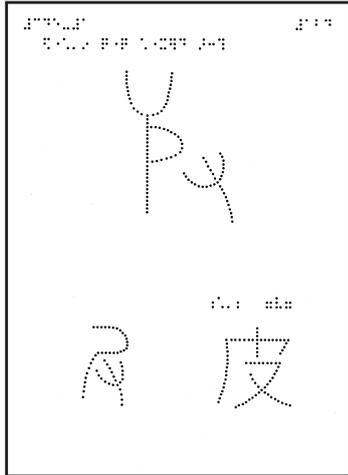
354-1



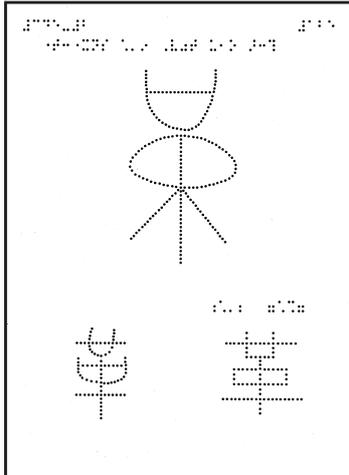
354-2



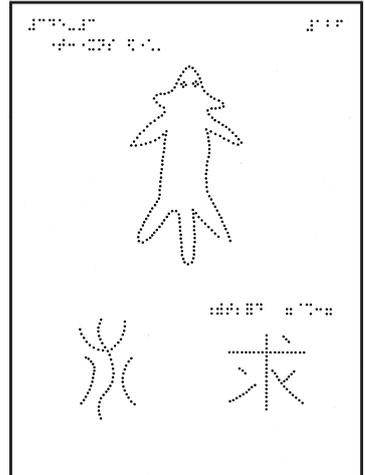
355-1



355-2

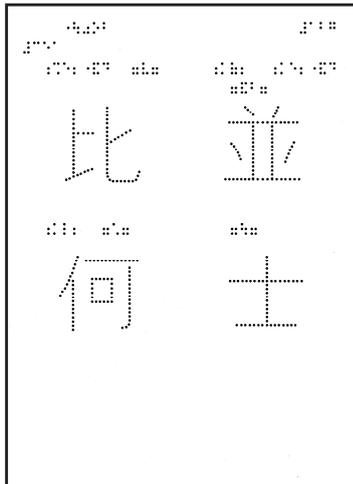


355-3

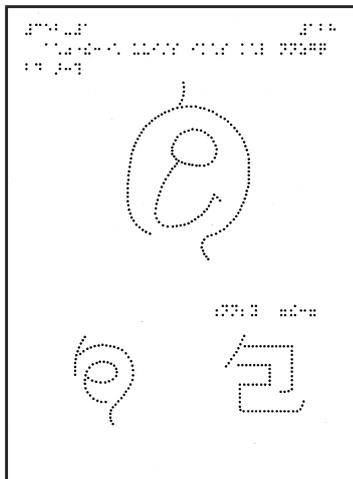


360 人体

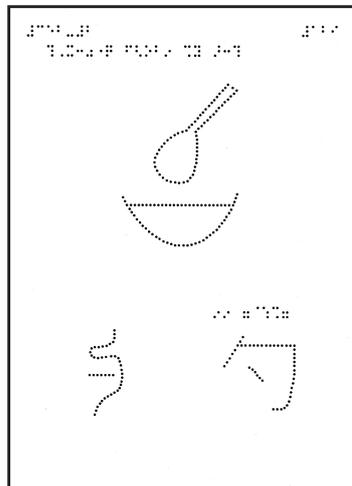
361



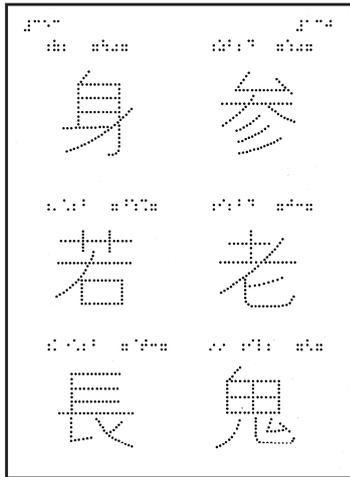
362-1



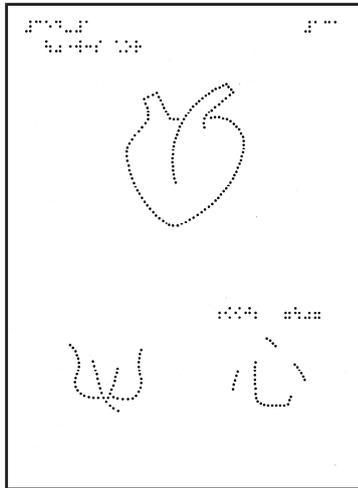
362-2



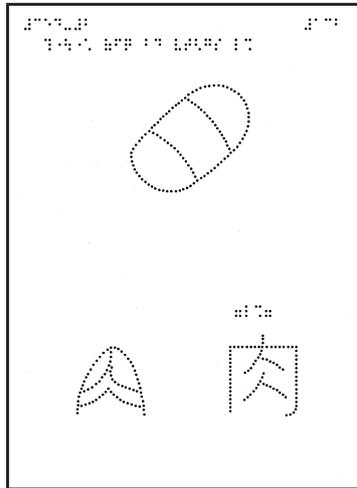
363



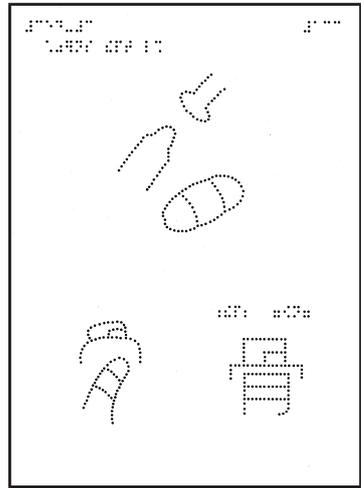
364-1



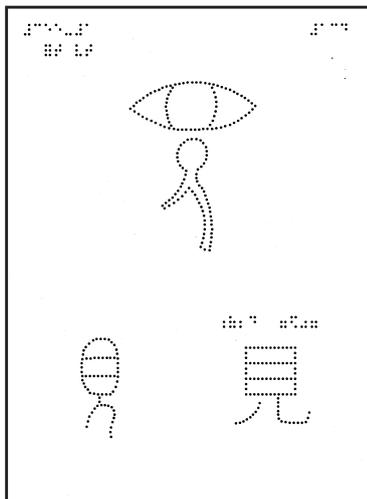
364-2



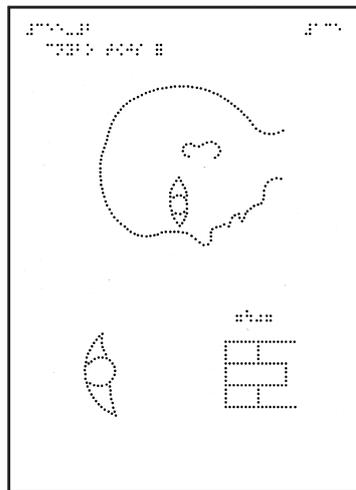
364-3



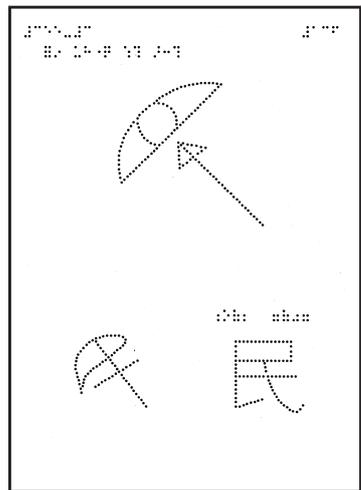
365-1



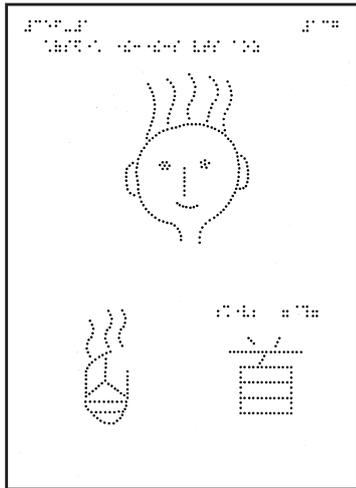
365-2



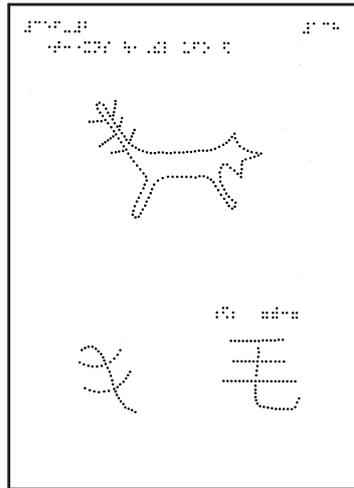
365-3



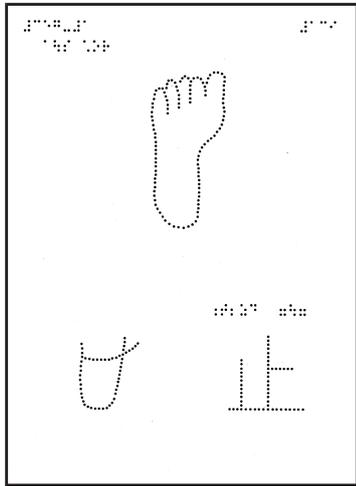
366-1



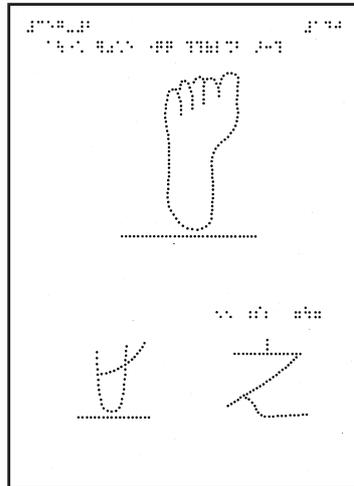
366-2



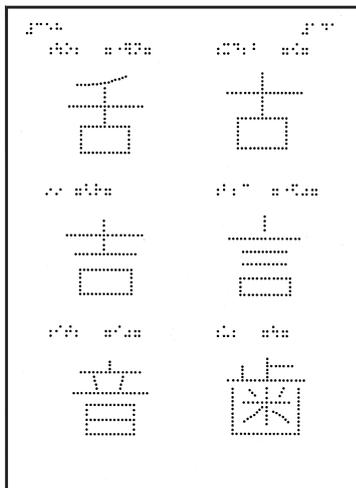
367-1



367-2

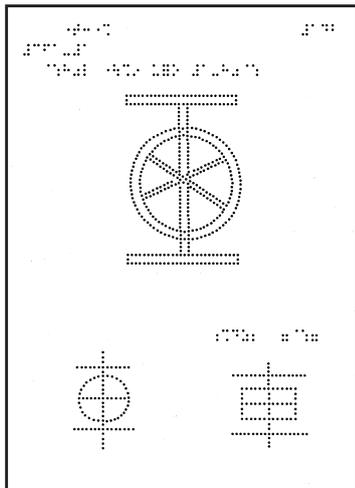


368

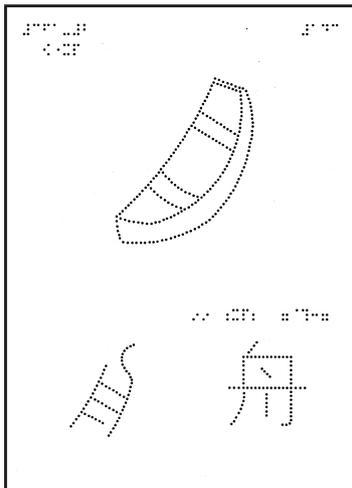


370 道具

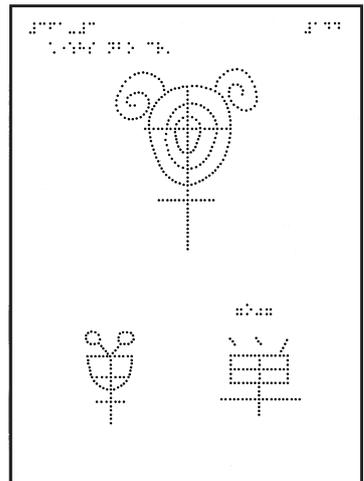
371-1



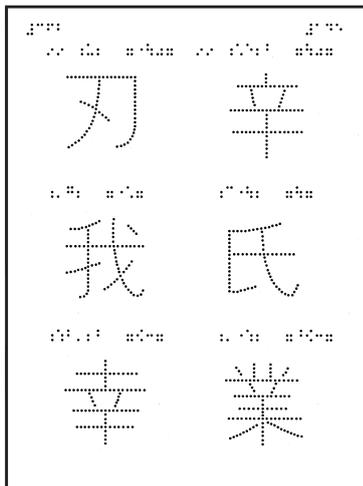
371-2



371-3

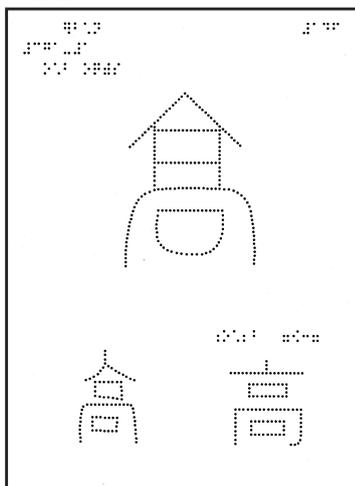


372

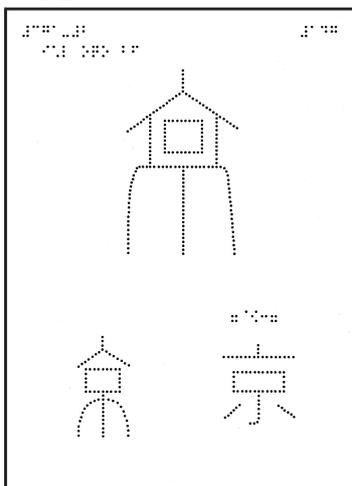


380 生活

381-1

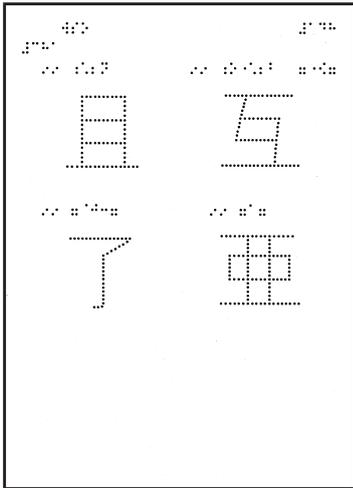


381-2

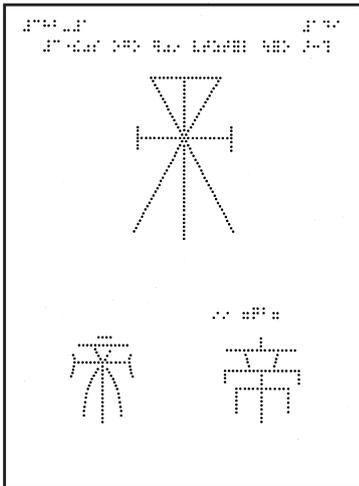


390 その他

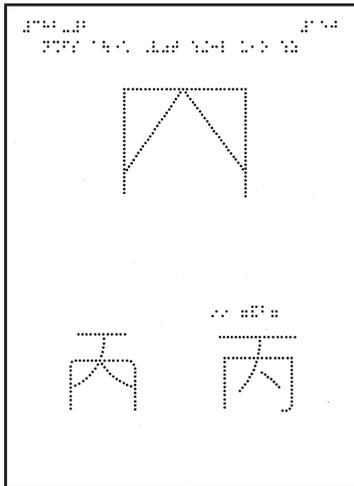
391



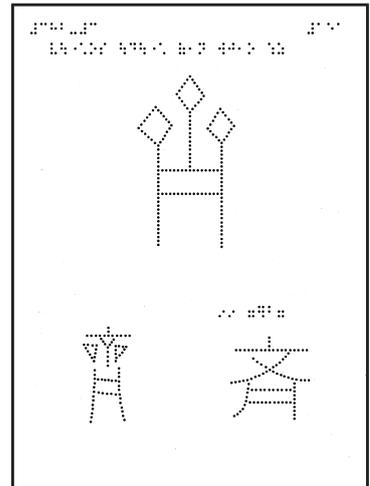
392-1



392-2



392-3



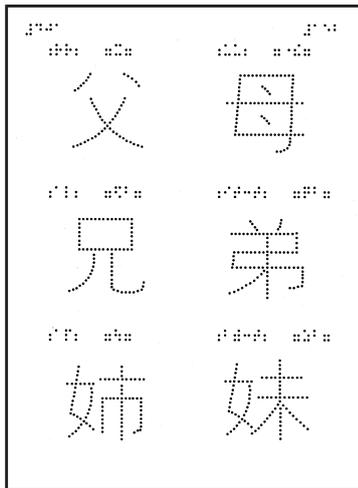
第4段階 身近な言葉を表す漢字

<指導のねらい>

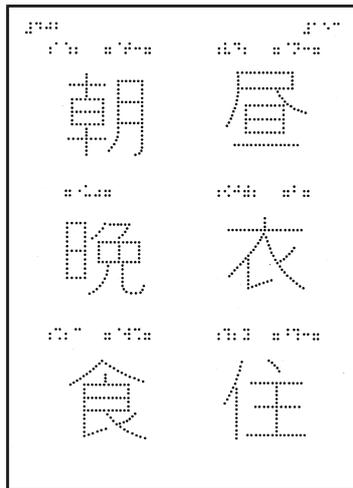
(1) 日常生活でよく使われる馴染みの漢字をまとめて理解させる。

400 身近な言葉

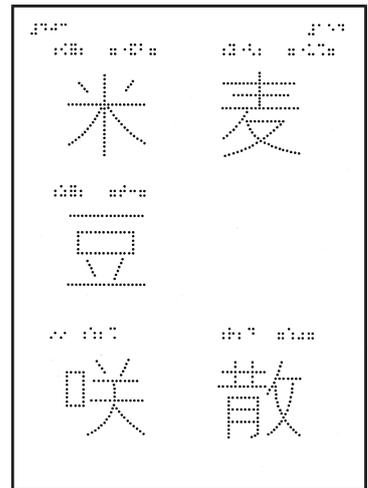
401



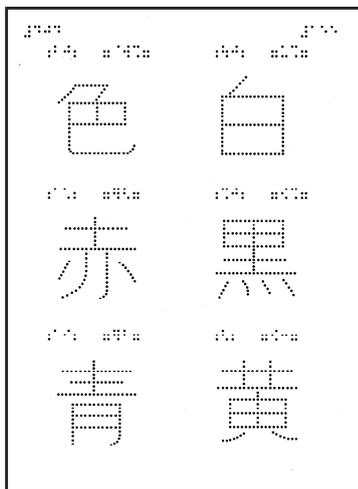
402



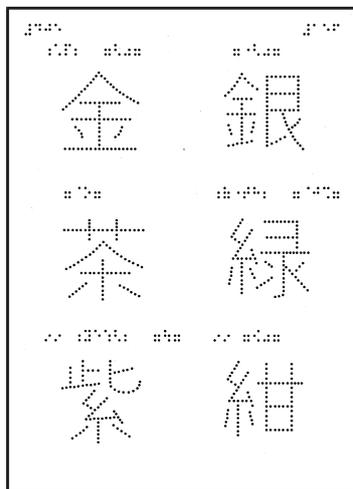
403



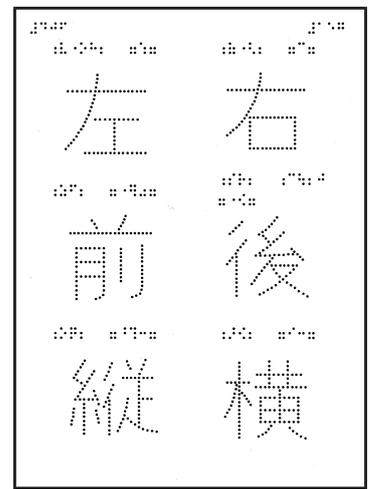
404



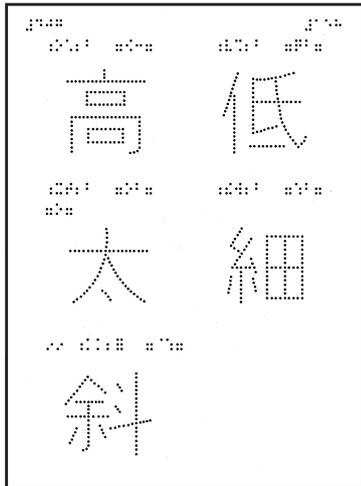
405



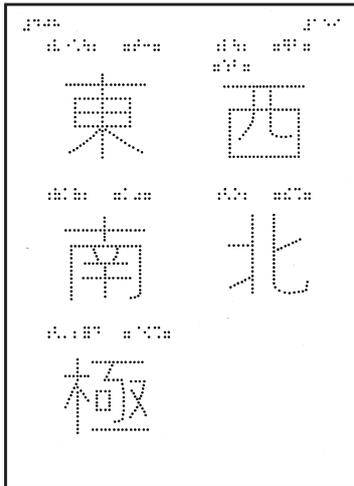
406



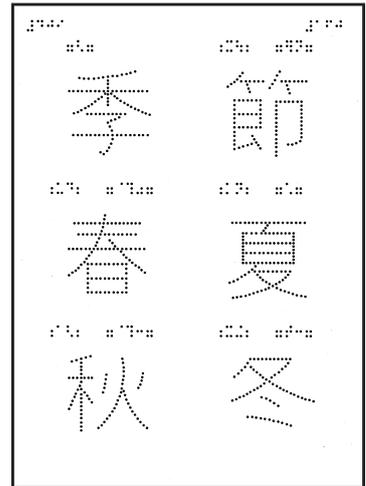
407



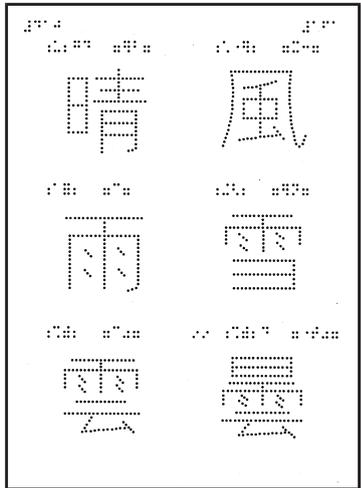
408



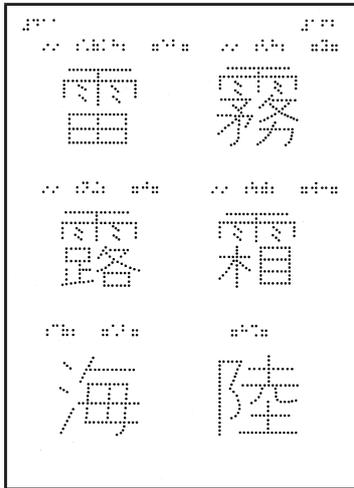
409



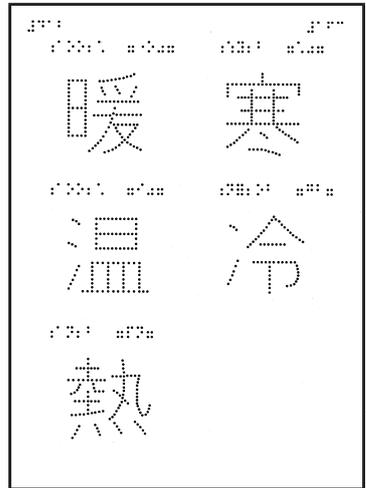
410



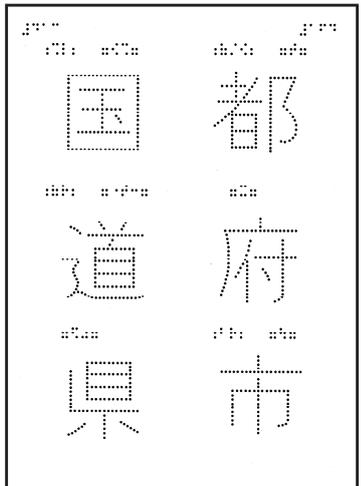
411



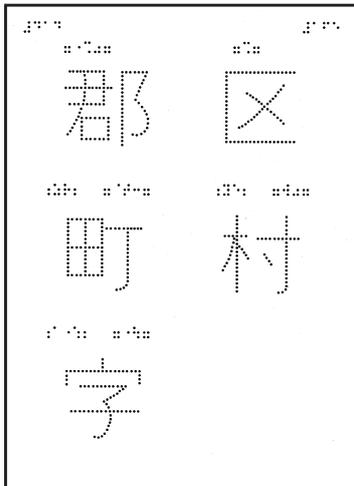
412



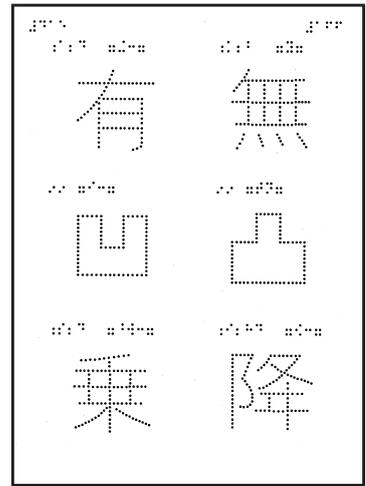
413



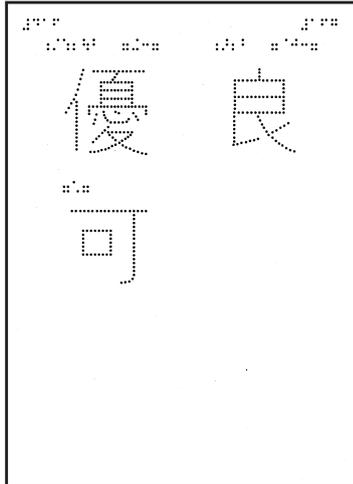
414



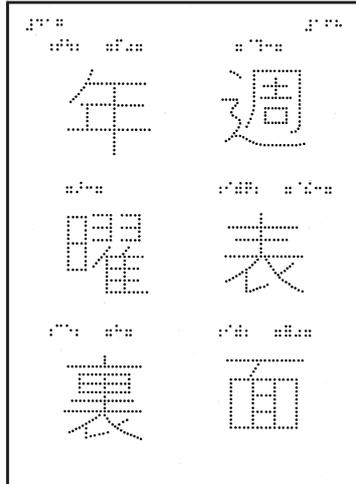
415



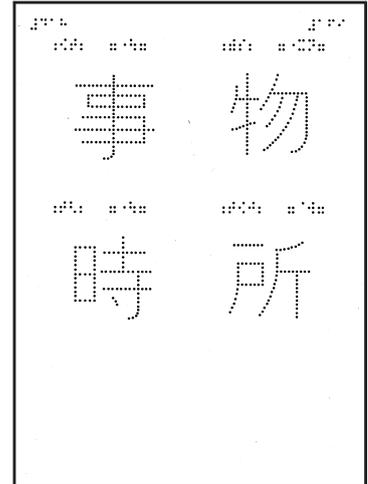
416



417



418



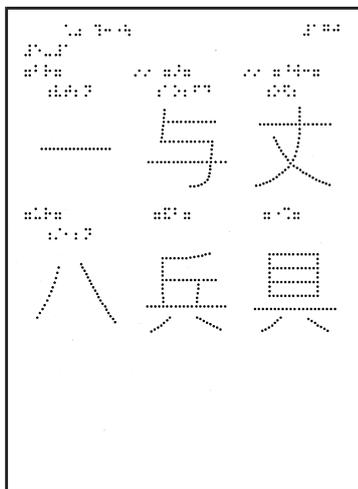
第5段階 基本的漢字を構成要素とする漢字

<指導のねらい>

- (1) 第1段階から第4段階までで学習した漢字を構成要素として含む漢字を取り上げて、漢字を組み合わせて新しい漢字が構成されていくことを理解させる。基本的には既習の基本的漢字や、主として学年別配当表の漢字を取り上げた。

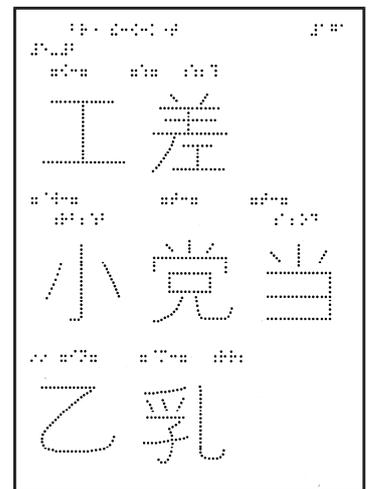
510 漢数字

511



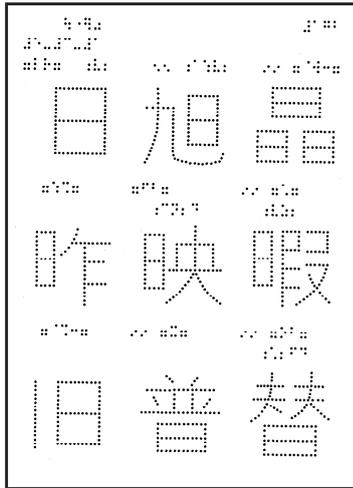
520 位置・方向など

521

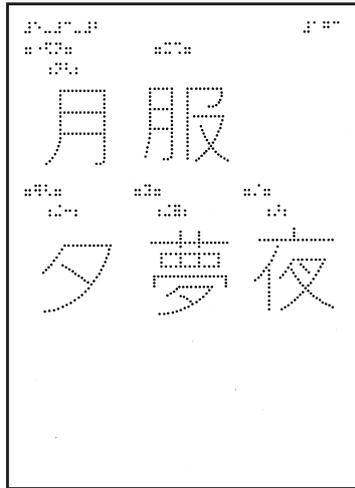


530 自然

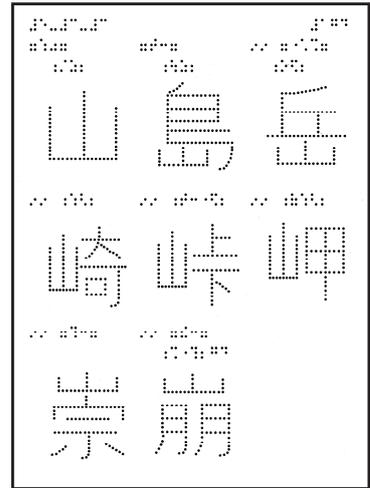
531



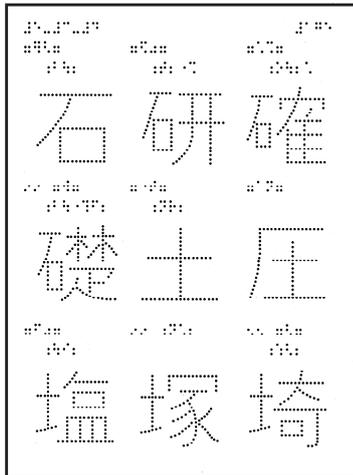
532



533

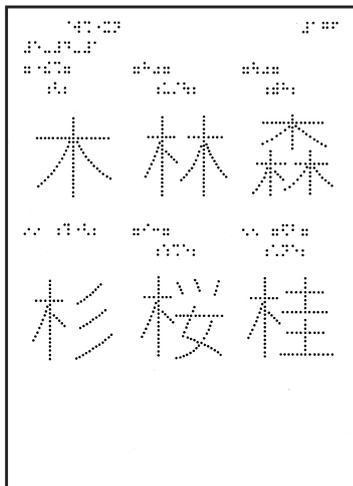


534

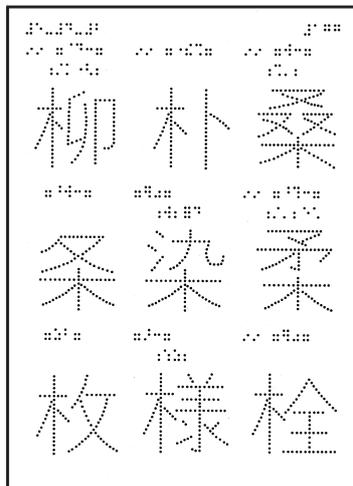


540 植物

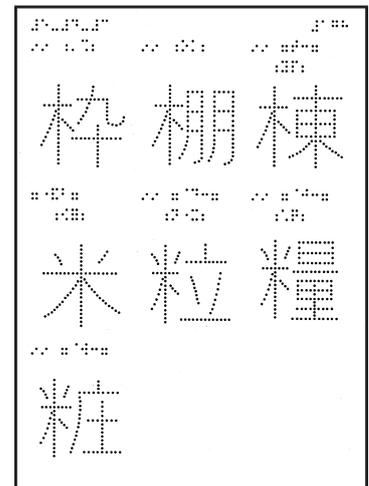
541



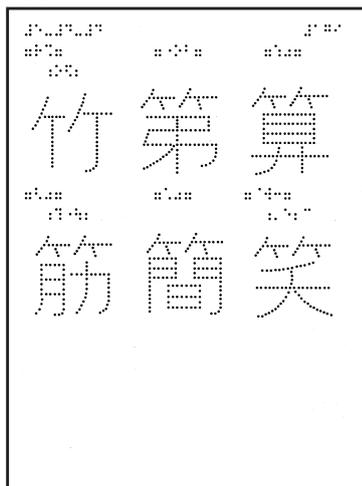
542



543

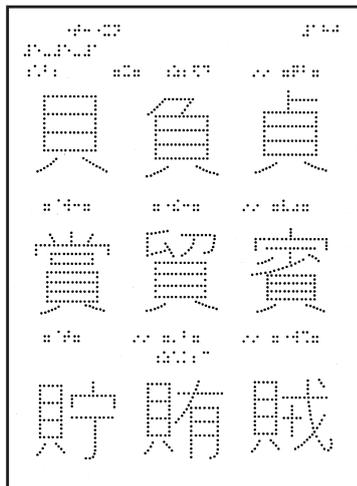


544

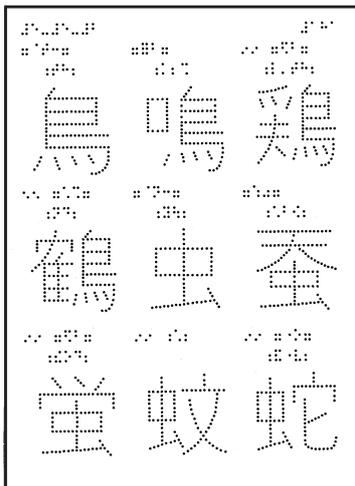


550 動物

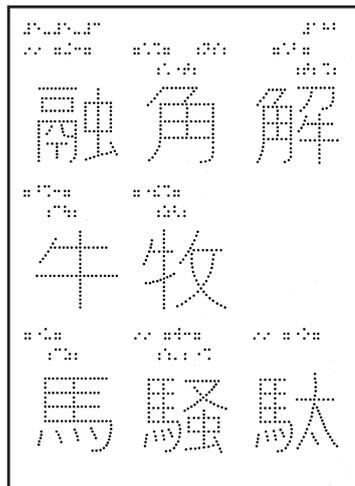
551



552

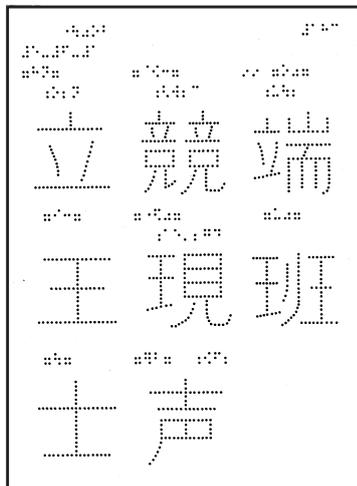


553

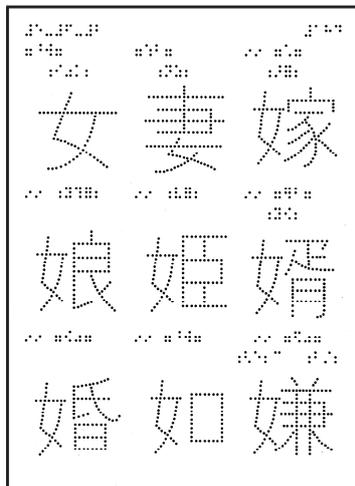


560 人体

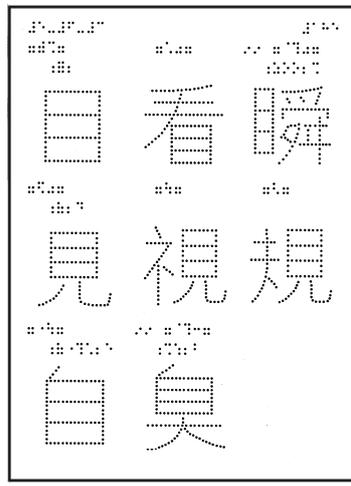
561



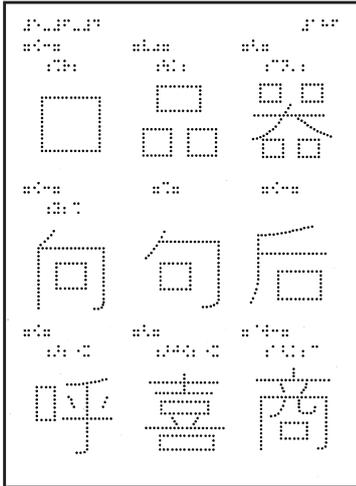
562



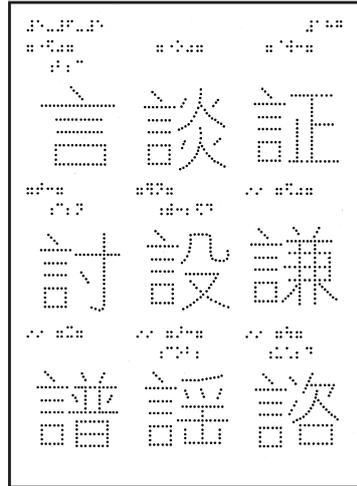
563



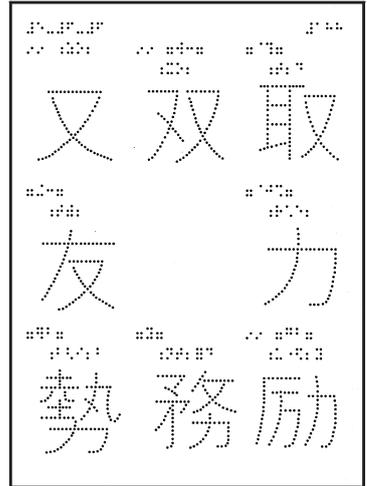
564



565

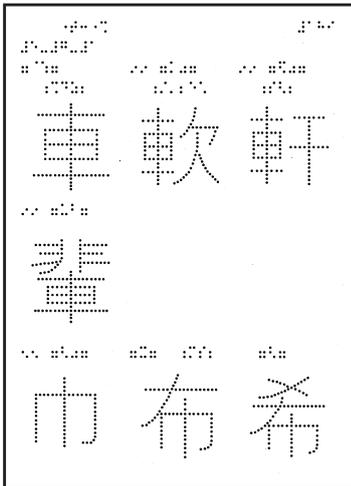


566

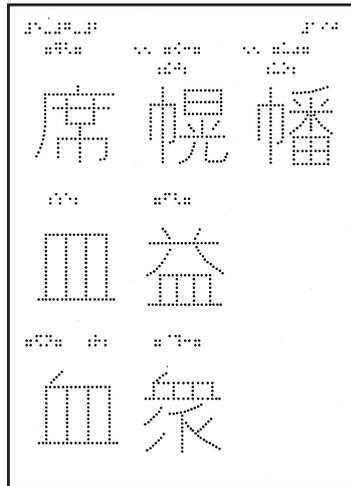


570 道具

571

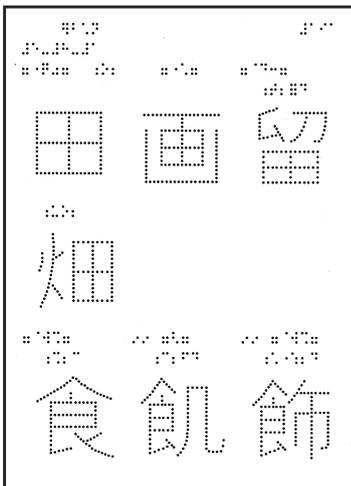


572

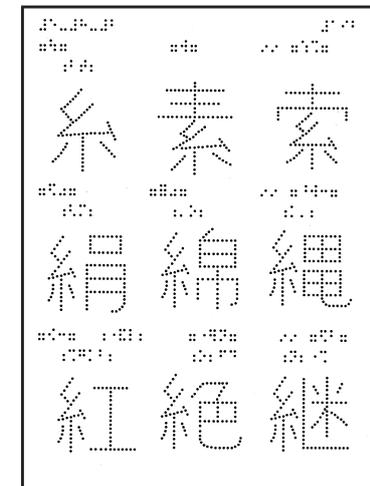


580 生活

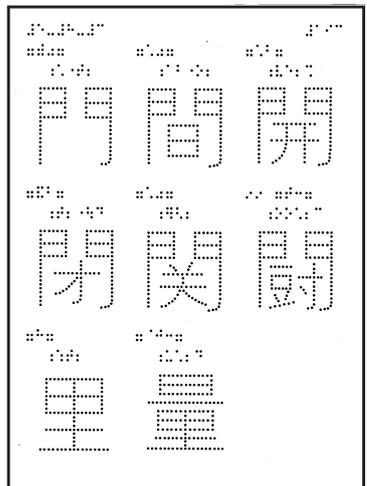
581



582



583



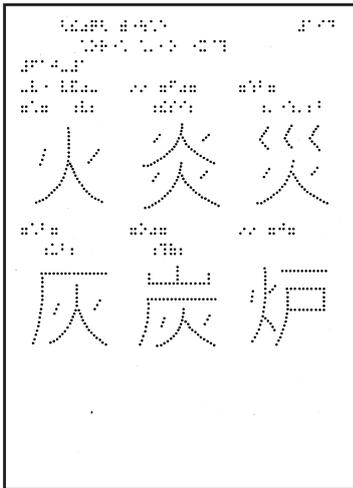
第6段階 部首による漢字の構成

<指導のねらい>

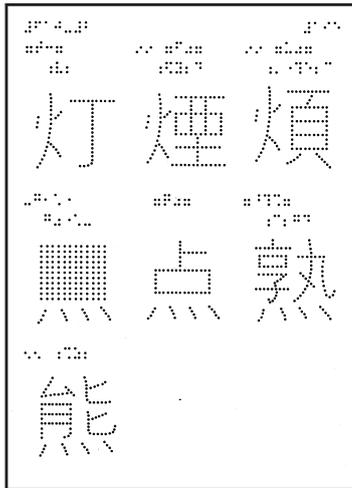
- (1) 基本的漢字そのままか、または変形して部首になることを学ぶことによって、部首というものがあることを理解させる。
- (2) 七つの部首ごとに基本的な部首とその位置を理解する。用例としては既習及び、主として学年別配当表の漢字を取り上げる。

610 基本的文字から形がかわった部首

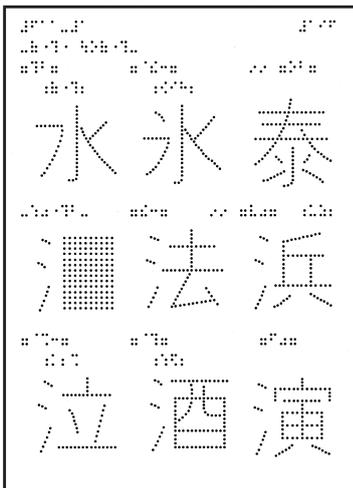
610-1 ひ・ひへん・れっか・れんが



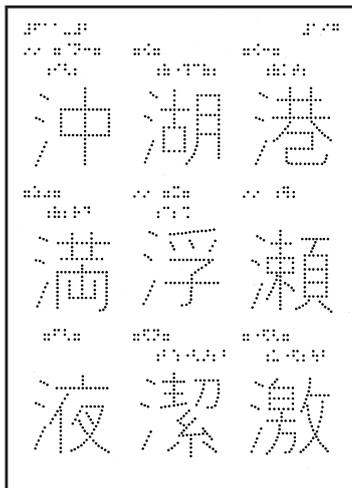
610-2



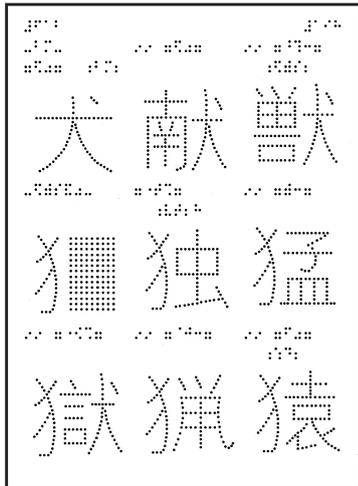
611-1 みず・したみず・さんずい



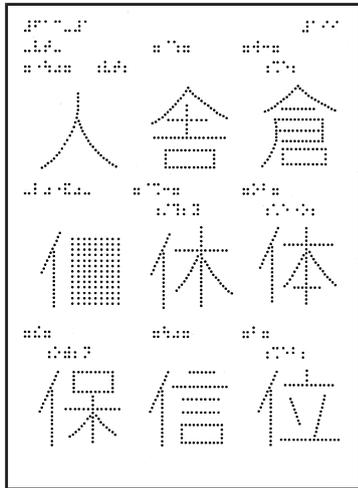
611-2



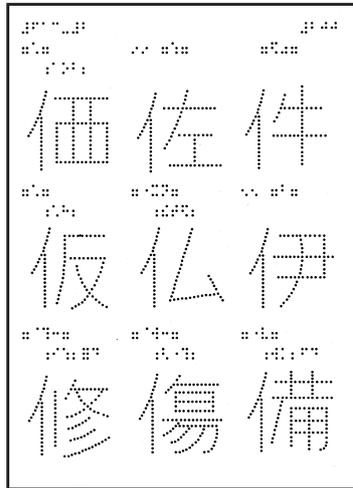
612 いぬ・けものへん



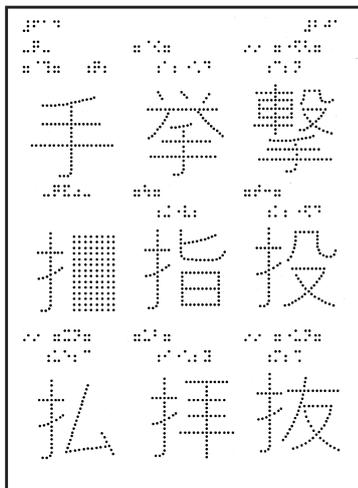
613-1 ひと・にんべん



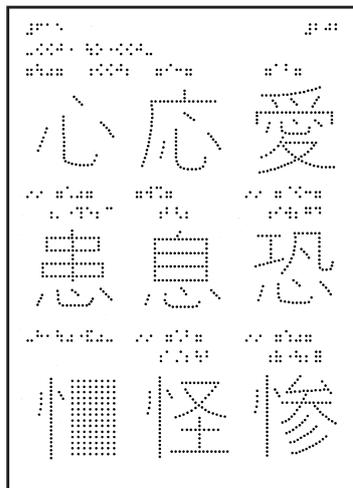
613-2



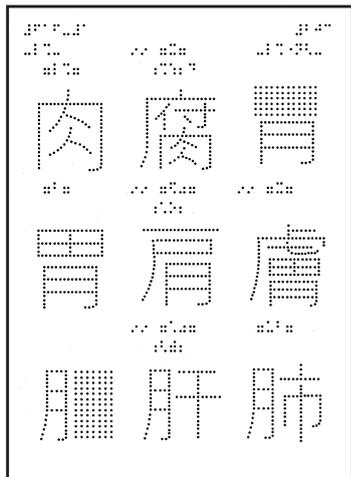
614 て・てへん



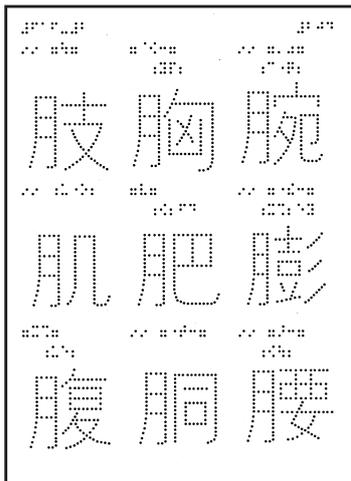
615 こころ・したごころ・りっしんべん



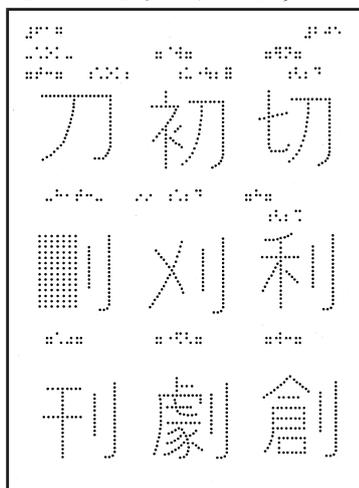
616-1 にく・にくづき



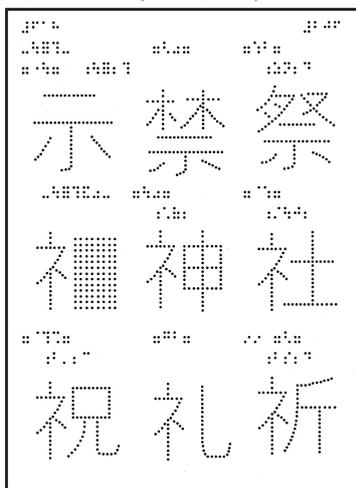
616-2



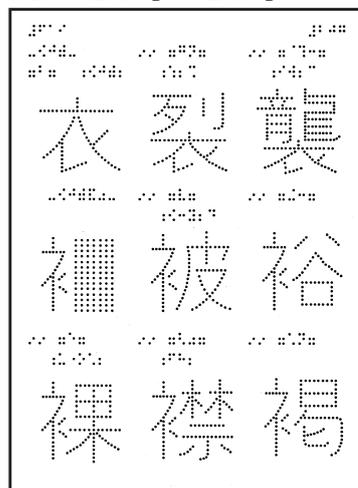
617 かたな・りっとう



618 しめす・しめすへん

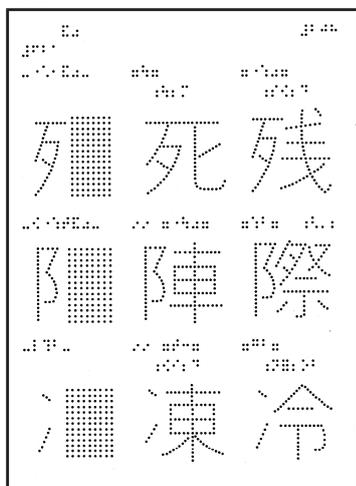


619 ころも・ころもへん

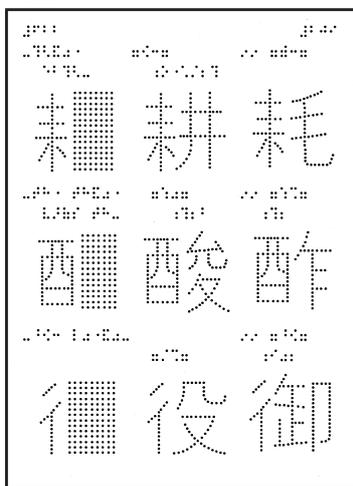


620 偏

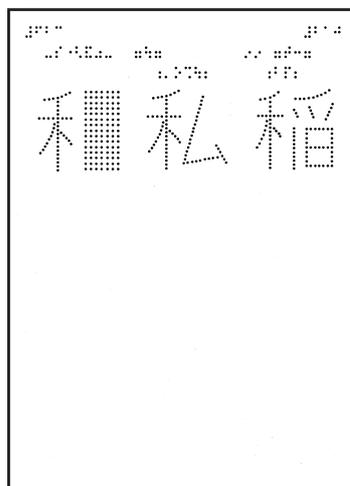
621



622

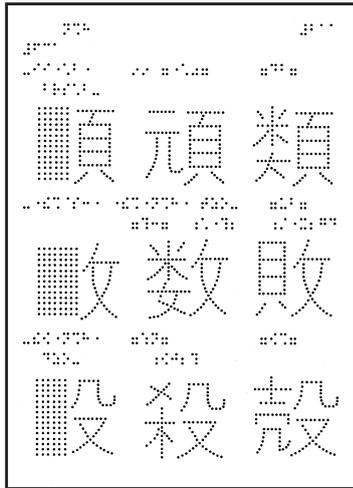


623

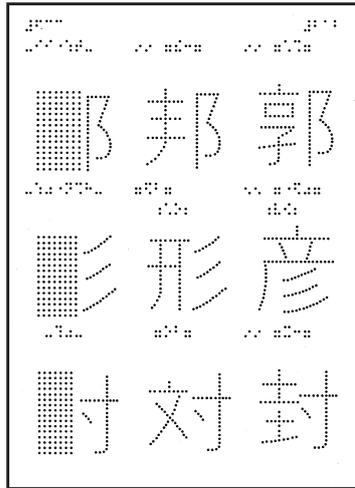


630 旁

631

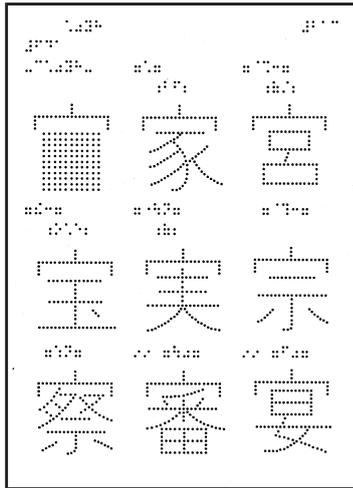


632

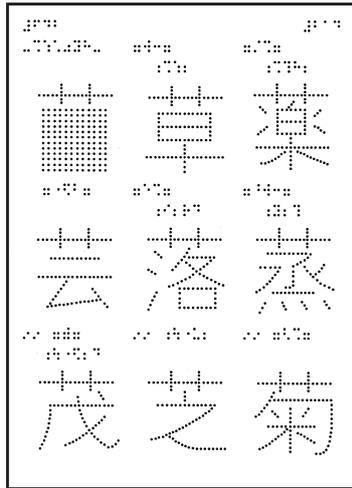


640 冠

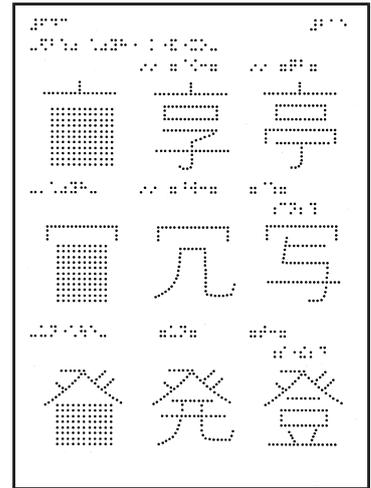
641



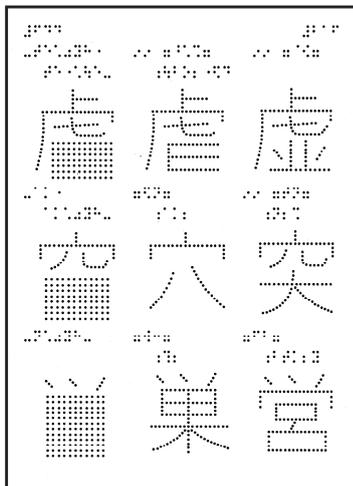
642



643

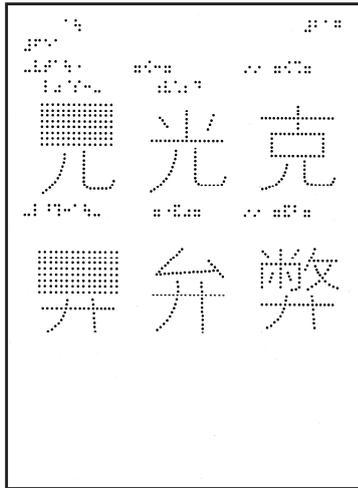


644



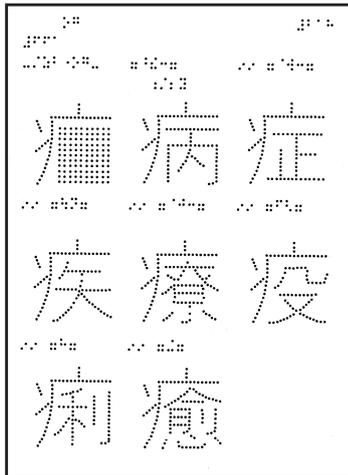
650 脚

651

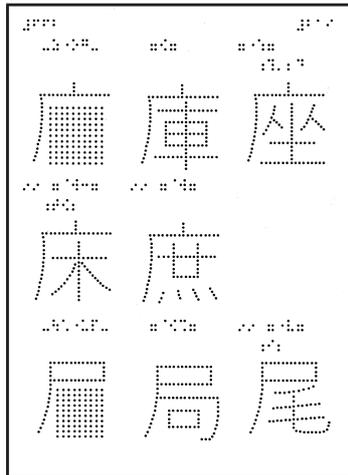


660 垂

661

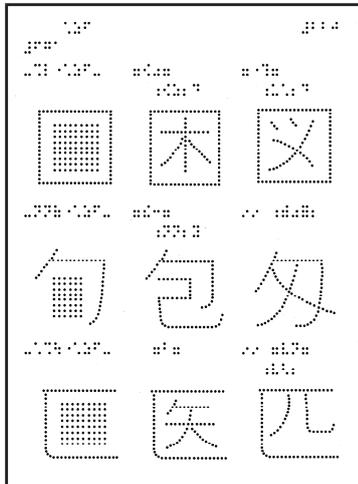


662

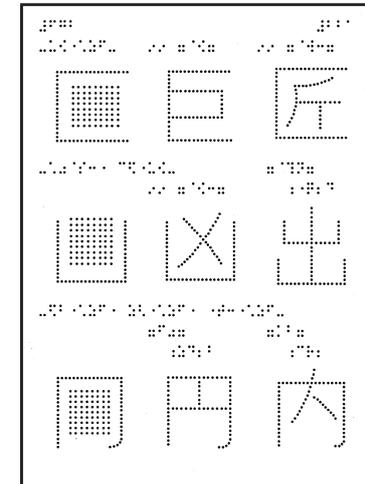


670 構

671

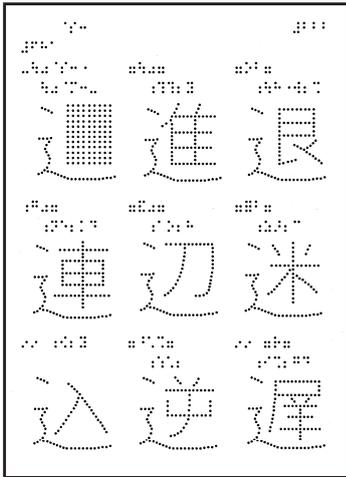


672

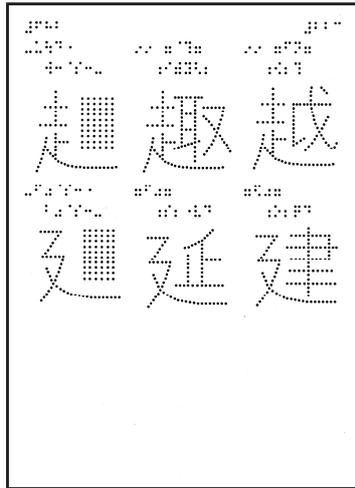


680 繞

681

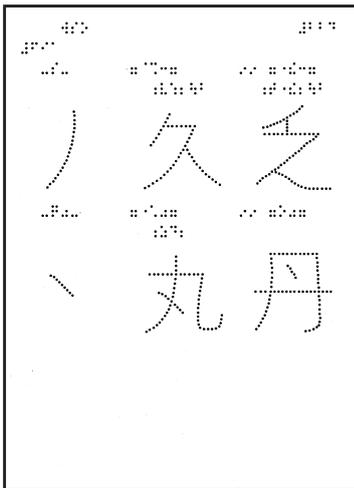


682



690 その他

691



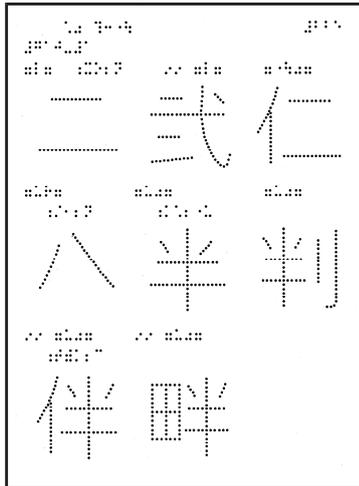
第7段階 単語家族で分類した漢字1

<指導のねらい>

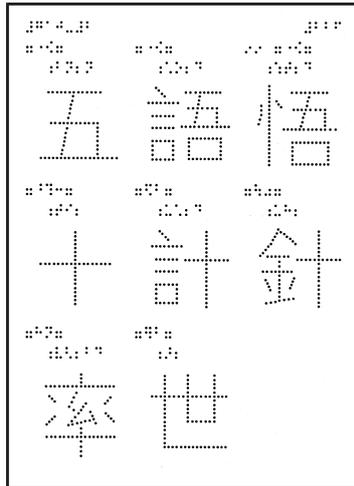
(1) 字形・字音・字義を共有する基本部分に、他の構成要素を付け加えた漢字の「単語家族」を関連づけて学ばせる。

710 漢数字

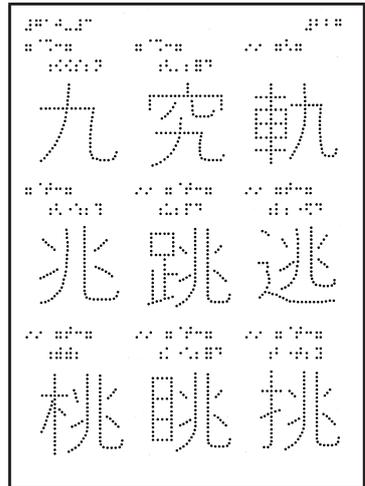
710-1



710-2

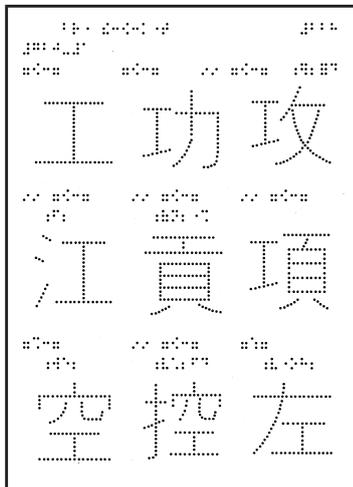


710-3

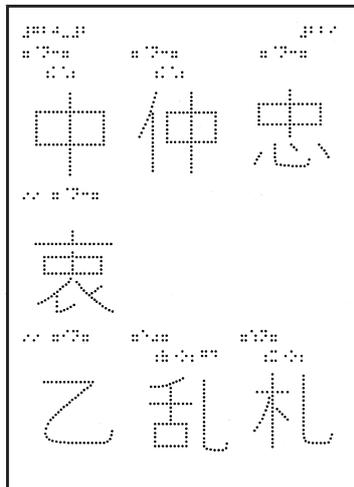


720 位置・方向など

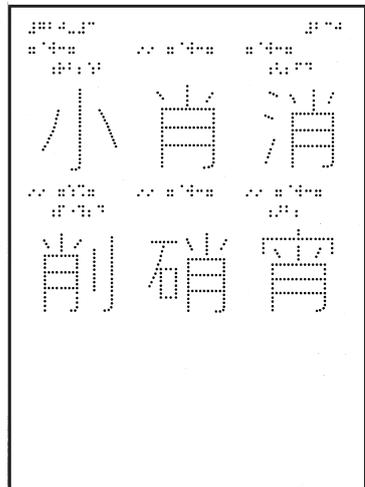
720-1



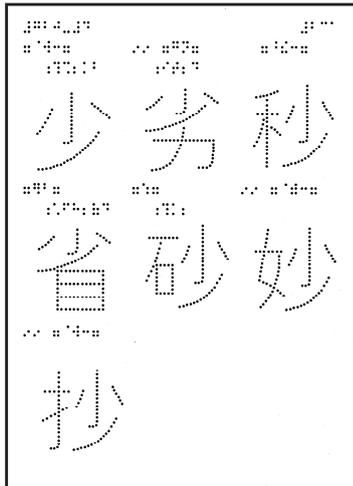
720-2



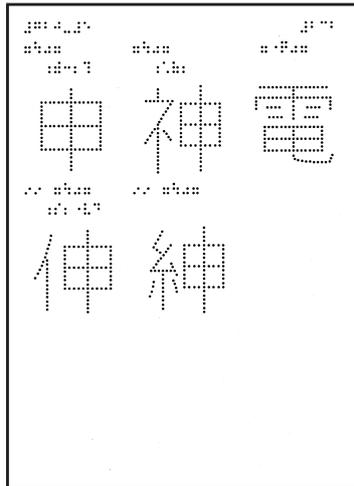
720-3



720-4

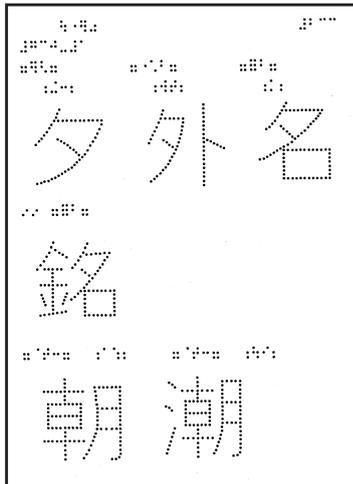


720-5

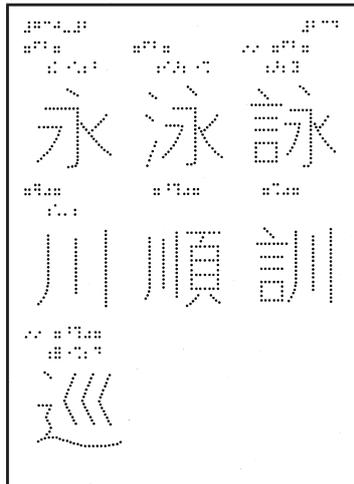


730 自然

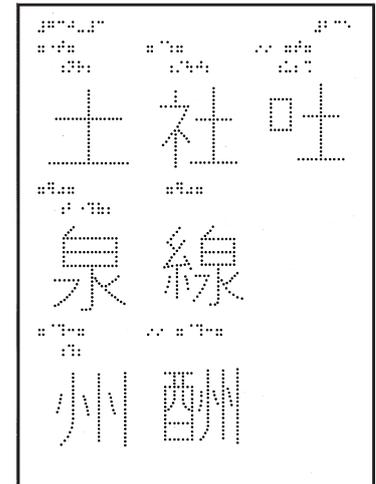
730-1



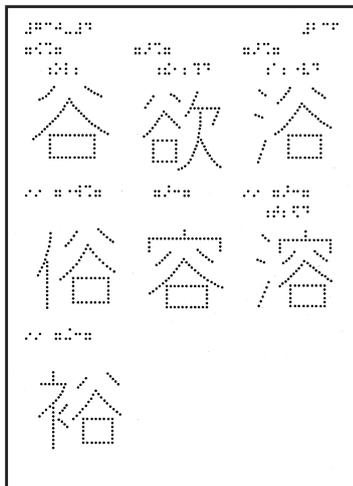
730-2



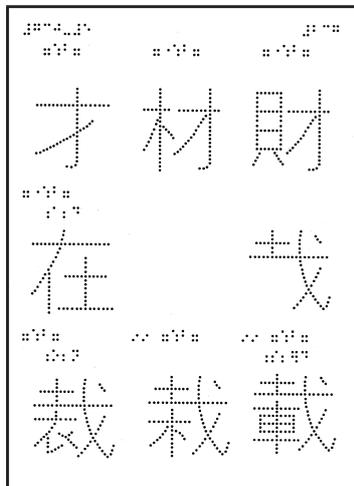
730-3



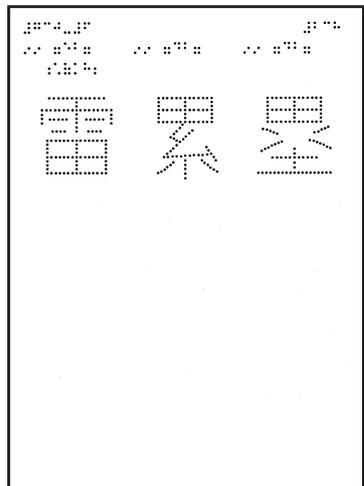
730-4



730-5

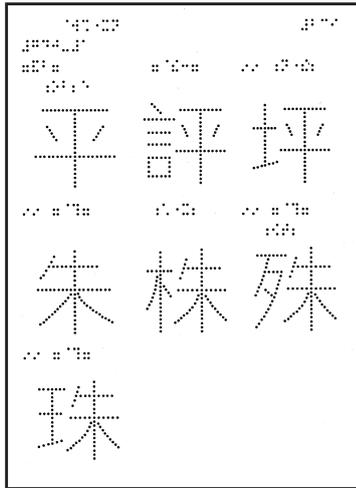


730-6

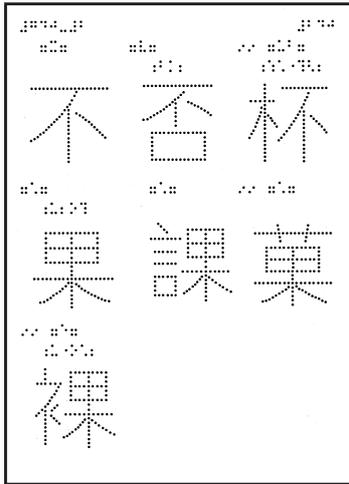


740 植物

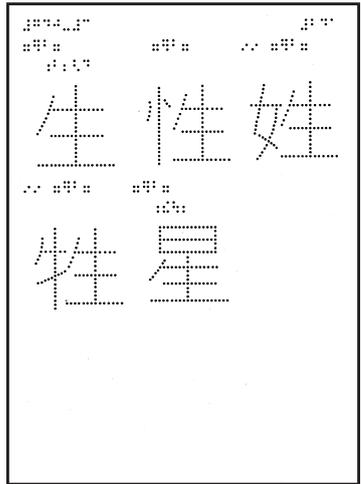
740-1



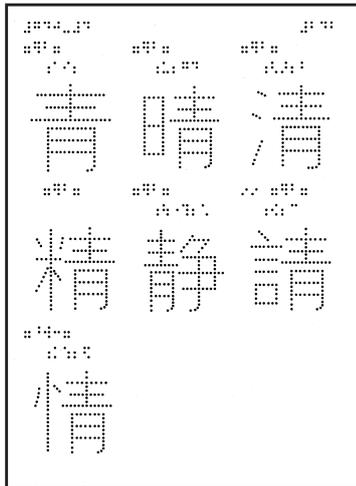
740-2



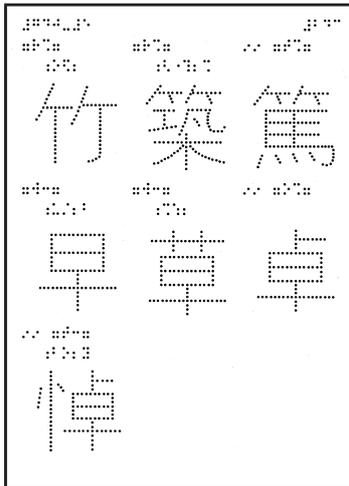
740-3



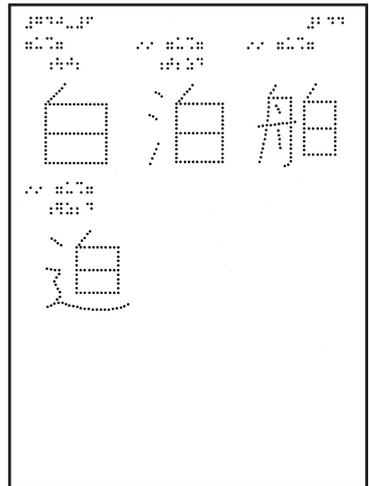
740-4



740-5

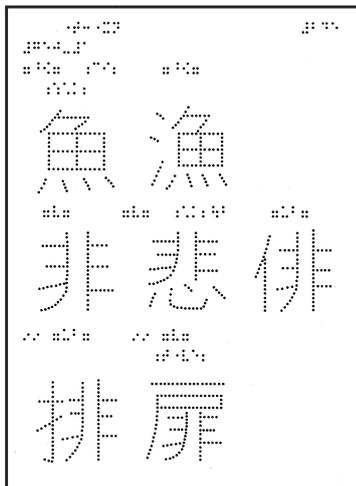


740-6

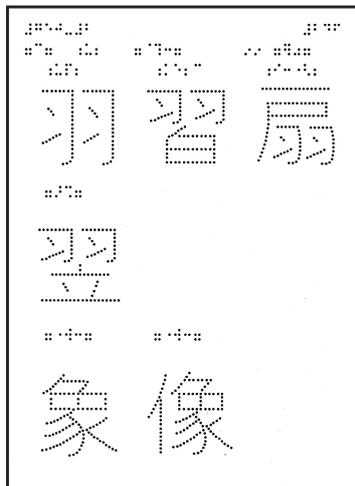


750 動物

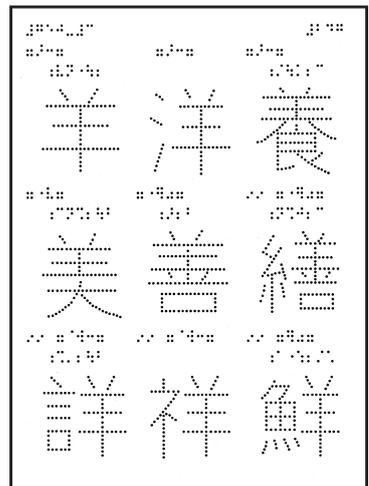
750-1



750-2



750-3



750-4

達	群	
甲	押	
求	球	救

750-5

皮	波	婆
破	被	疲
彼		

750-6

表	俵	
---	---	--

760 人体

760-1

王	皇	往
狂		元
完	院	冠

760-2

交	校	効
郊	較	絞
北	背	

760-3

子	字	好
孝	教	酵
存		

760-4

尺	馱	詎
釈	扱	沢
士	仕	

760-5

欠	飲	吹
炊	款	次
姿	資	盜

760-6

比	批	陛
皆	階	昆
混		

760-7

若	諾	
長	帳	張
脹		

760-8

鬼	魂	魔
塊	醜	魅
末	味	妹

760-9

母	每	梅
敏	繁	海
悔	侮	毒

760-10

包	抱	砲
胞	飽	泡
民	眠	

760-11

臣	監	鑑
覽	艦	臨
緊	賢	堅

760-12

勺	的	約
酌	釣	
首	道	導

760-13

止	齒	祉
企	洪	延
誕		

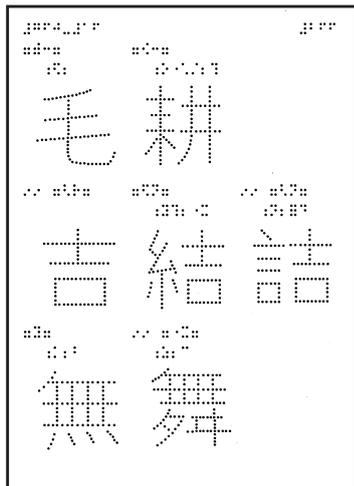
760-14

步	涉	武
舌	活	話
憩	括	

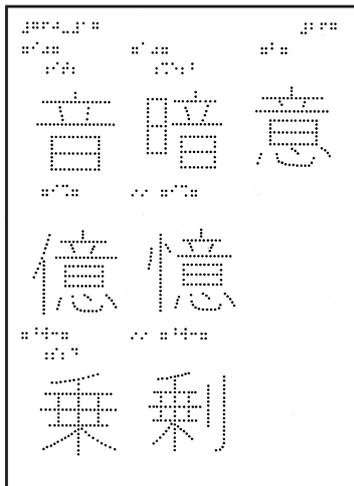
760-15

古	固	個
箇	故	苦
枯	居	

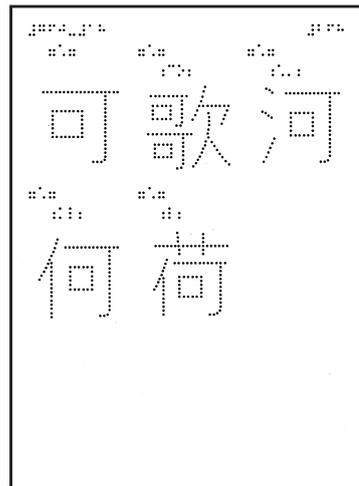
760-16



760-17

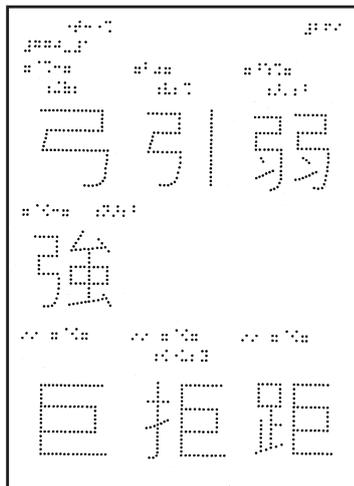


760-18

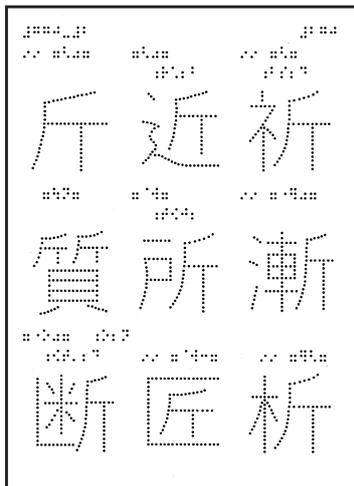


770 道具

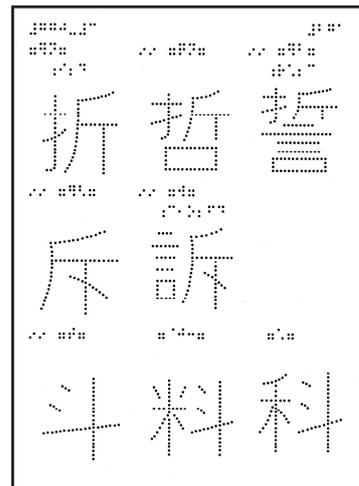
770-1



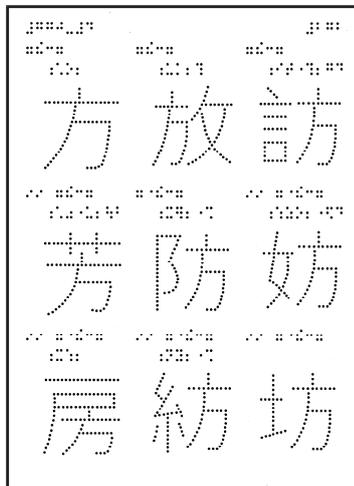
770-2



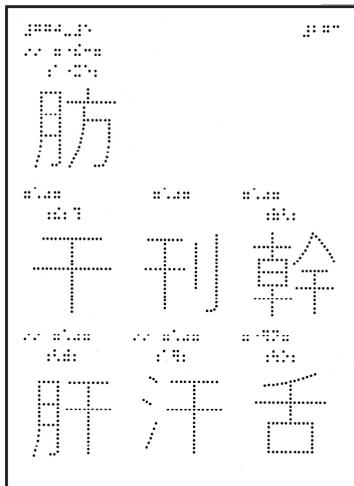
770-3



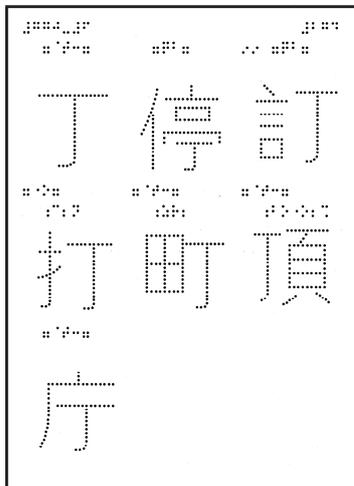
770-4



770-5



770-6



770-7

黃	橫	廣
擴	鉞	
凡	帆	

770-8

衣	依	哀
衰		
午	許	

770-9

冊	典	
倫	論	輪
倫		

770-10

主	住	注
柱	駐	

770-11

豆	頭	痘
登	短	樹
豐	澄	

770-12

去	却	腳
由	油	抽
宙	笛	軸

770-13

單	戰	彈
禪		
刃	忍	認

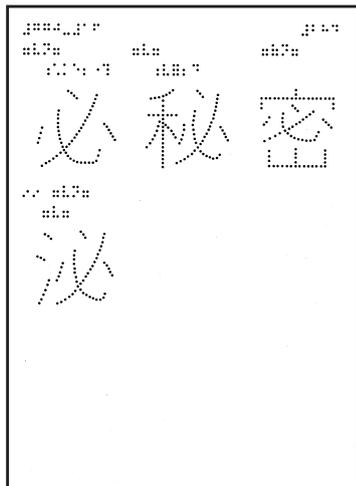
770-14

辛	新	薪
親	接	辭
氏	紙	

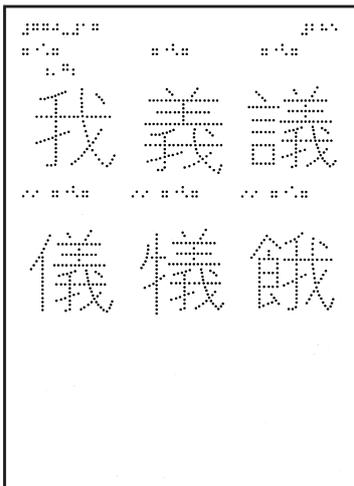
770-15

幸	報	執
東	凍	
練	鍊	

770-16

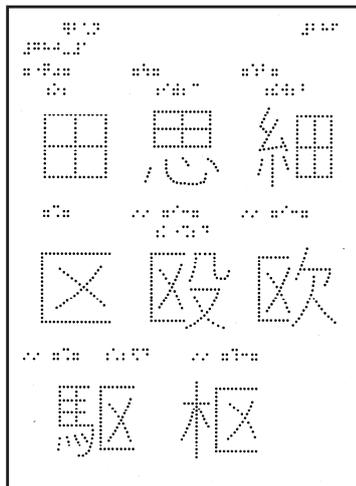


770-17

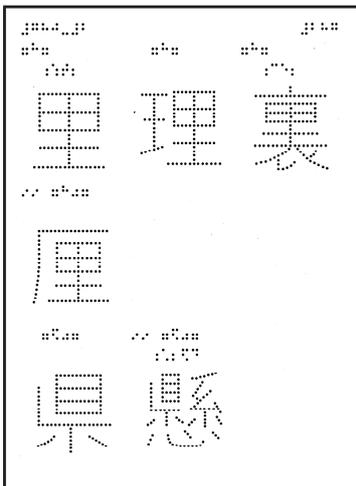


780 生活

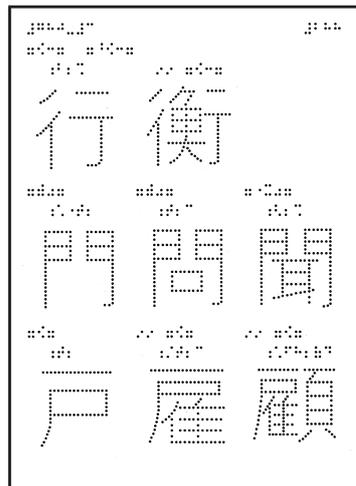
780-1



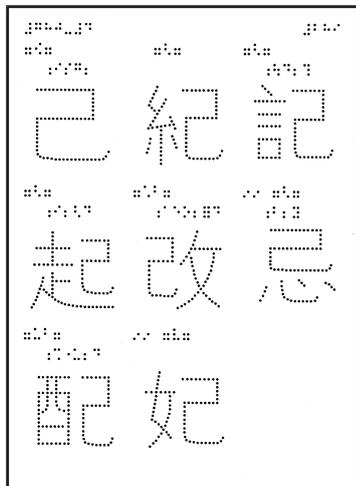
780-2



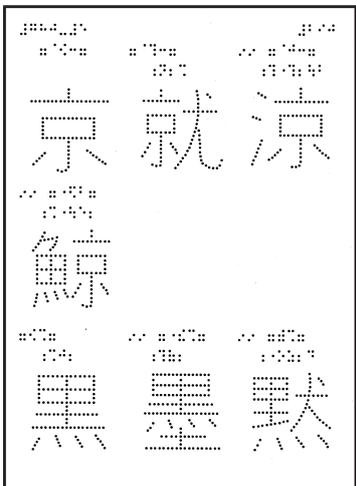
780-3



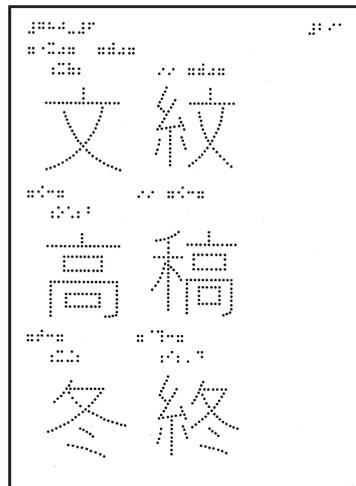
780-4



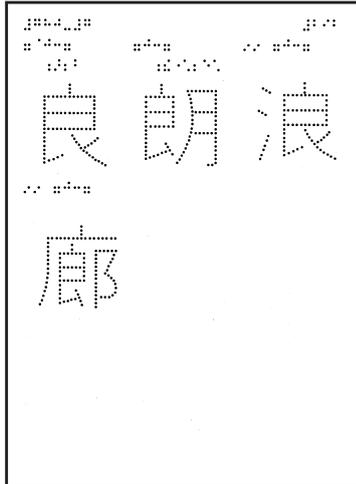
780-5



780-6

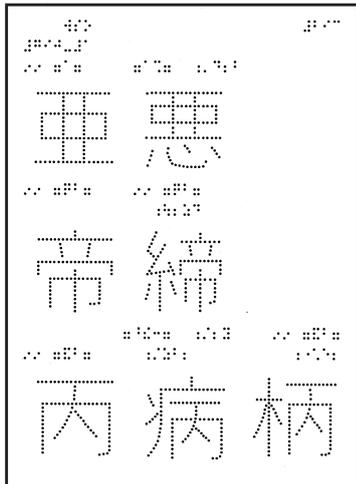


780-7

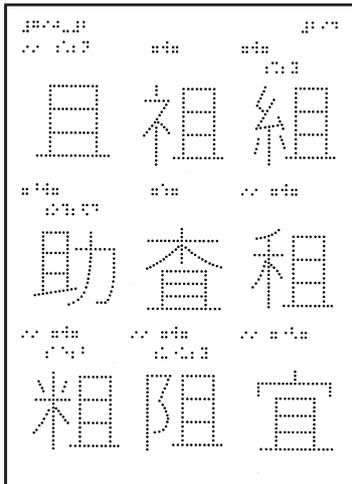


790 その他

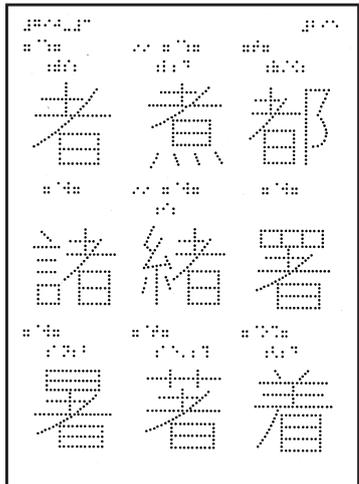
790-1



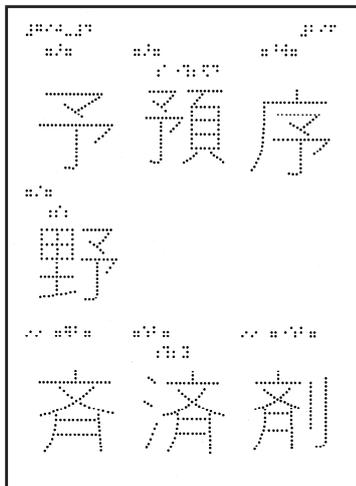
790-2



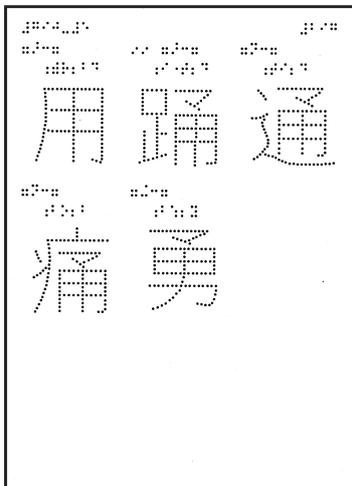
790-3



790-4



790-5



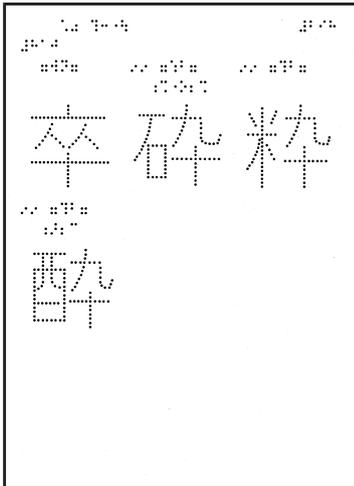
第8段階 単語家族で分類した漢字2

<指導のねらい>

(1) 単語家族1で取り上げた以外の常用漢字表内の漢字が単語家族の基本部分となるものを取り上げる。

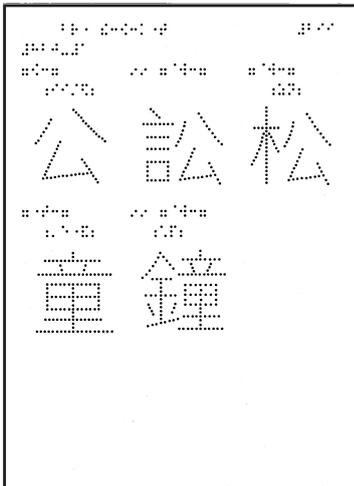
810 漢数字

810

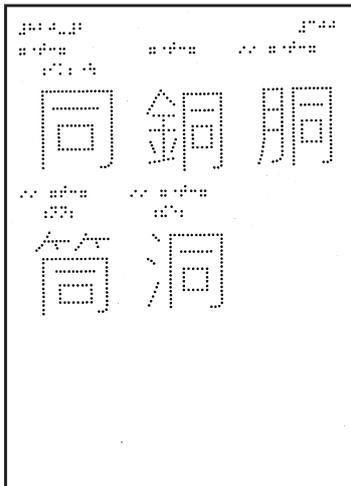


820 位置・方向など

820-1

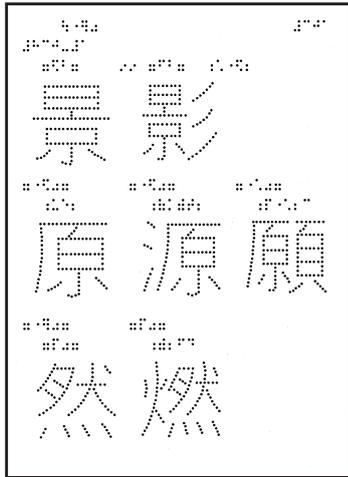


820-2

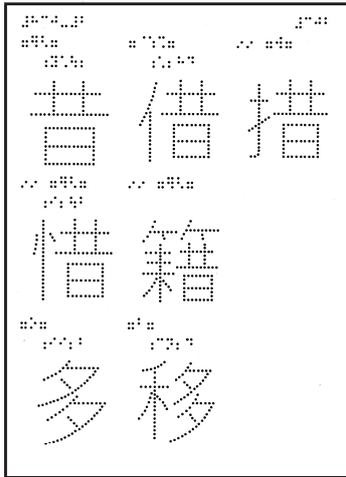


830 自然

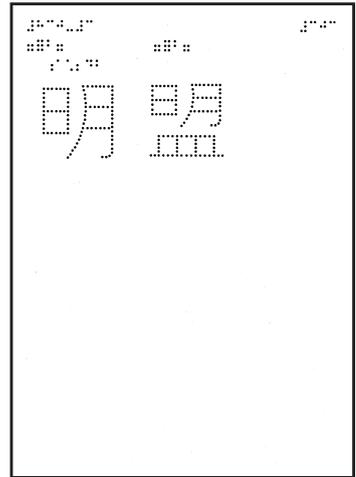
830-1



830-2

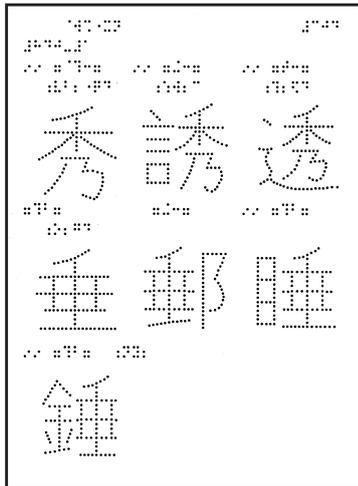


830-3

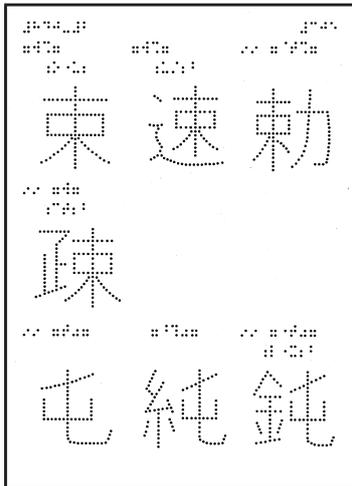


840 植物

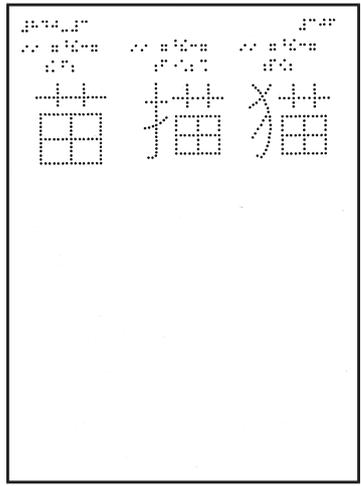
840-1



840-2

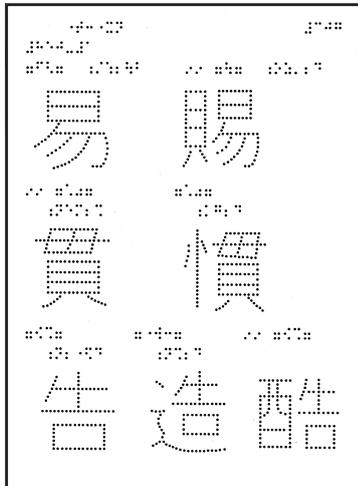


840-3

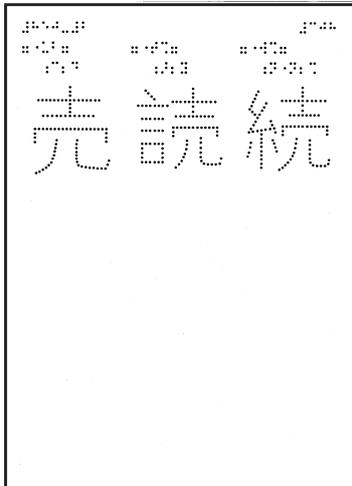


850 動物

850-1

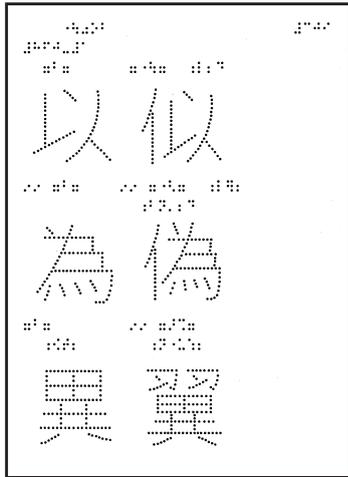


850-2

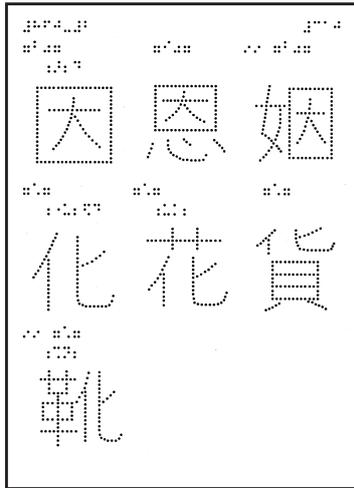


860 人体

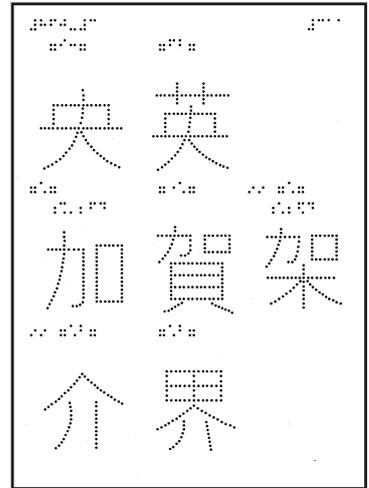
860-1



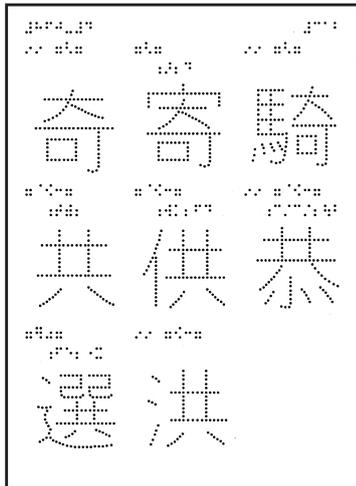
860-2



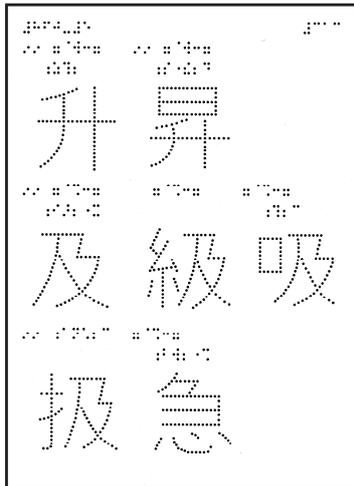
860-3



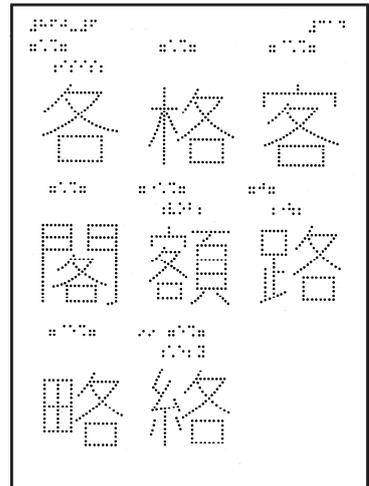
860-4



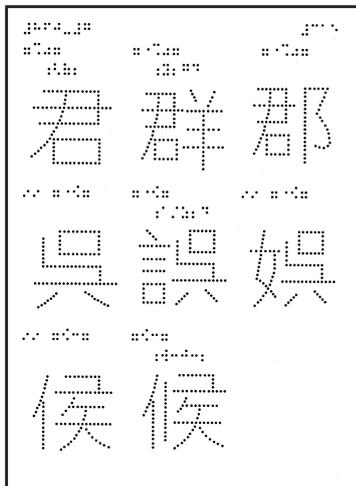
860-5



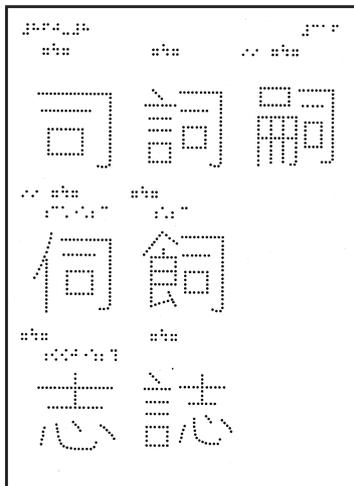
860-6



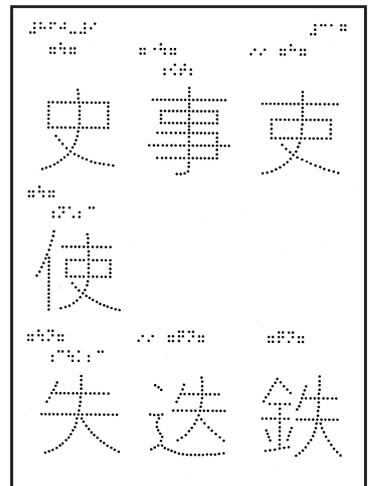
860-7



860-8



860-9



860-10

支	技	岐
枝		
充	統	銃

860-11

寺	時	待
等	侍	詩
持	特	

860-12

從	縱	
重	種	動
働	衝	

860-13

叔	淑	寂
出	屈	掘
堀	拙	

860-14

暴	爆	
真	慎	鎮
免	勉	晚

860-15

召	招	昭
照	超	詔
紹	沼	

860-16

甚	堪	勘
是	提	題
堤		

860-17

寸	得	射
謝	守	狩
尋	尊	遵

860-18

正	政	整
征		
走	徒	

860-19

先	洗	銑
贛		
代	貸	袋

860-20

相	想	箱
霜		
知	痴	

860-21

直	植	殖
值	置	德
聽		

860-22

朕	勝	騰
騰		
奴	努	怒

860-23

度	渡
能	態
癸	廢

860-24

反	坂	阪
板	飯	版
販	返	

860-25

般	搬	盤
卑	碑	
冒	帽	

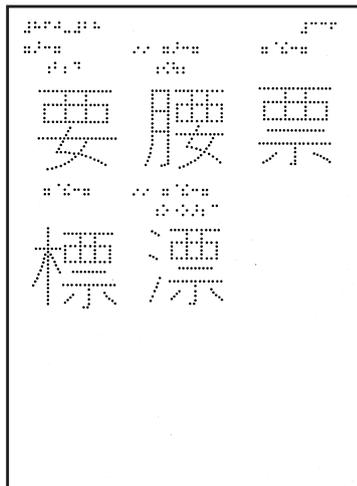
860-26

付	符	附
府	腐	
某	媒	謀

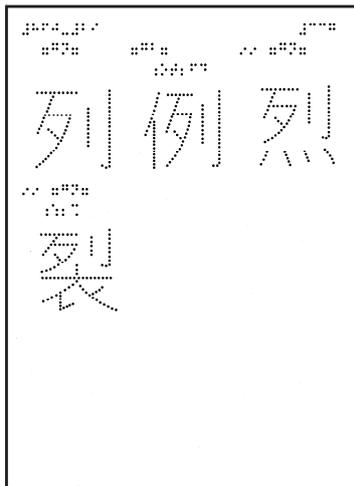
860-27

亡	忘	望
忙	盲	荒
慌	妄	

860-28

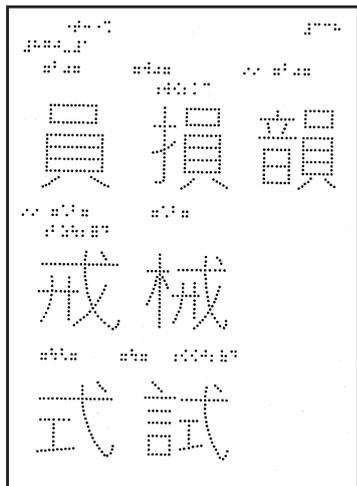


860-29

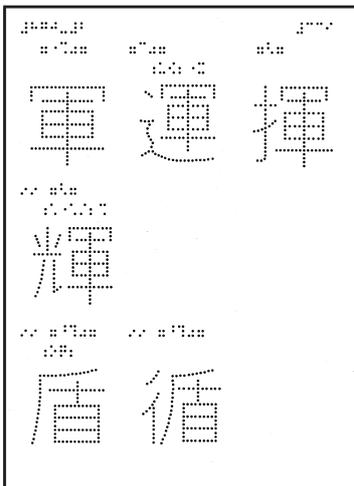


870 道具

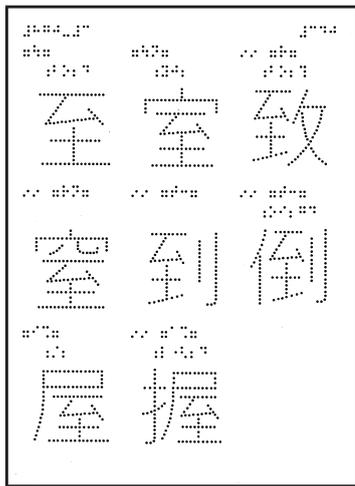
870-1



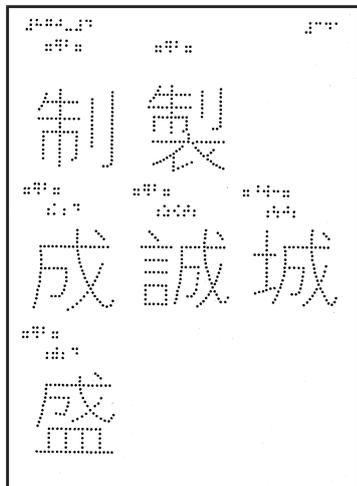
870-2



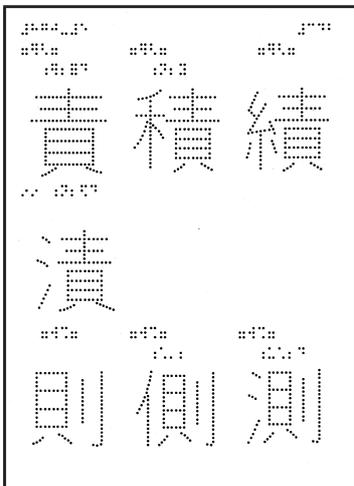
870-3



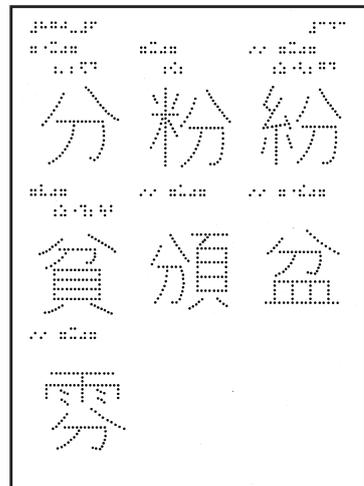
870-4



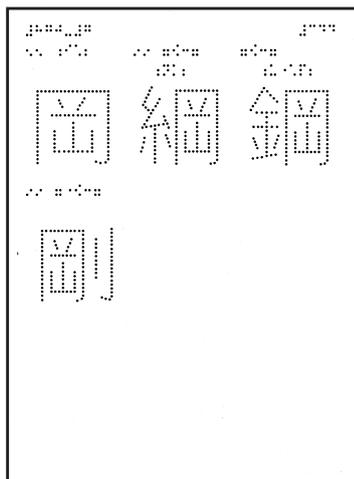
870-5



870-6

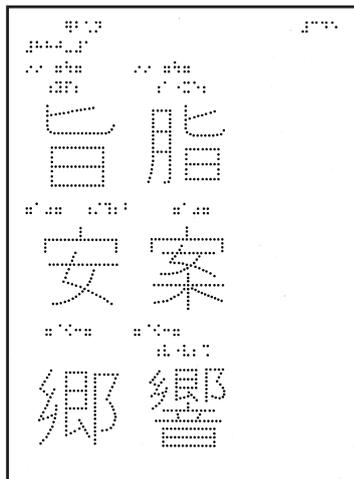


870-7

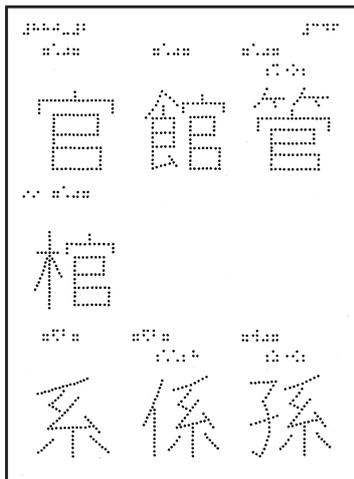


880 生活

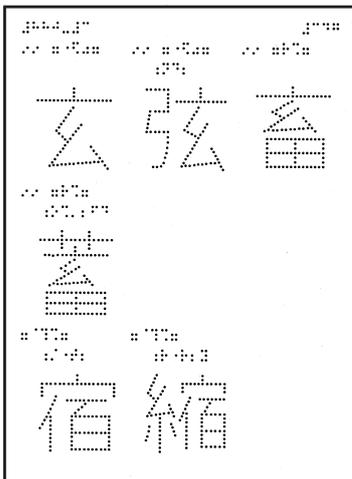
880-1



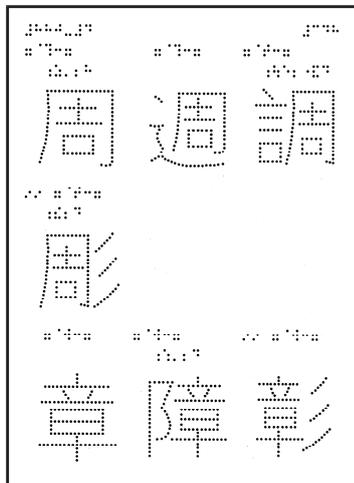
880-2



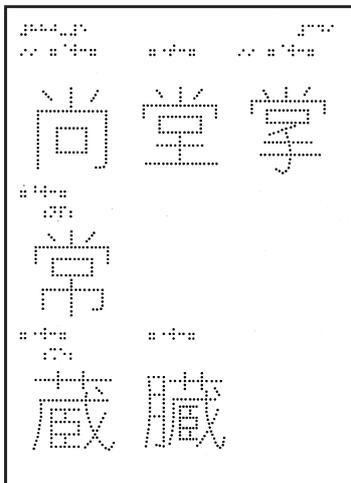
880-3



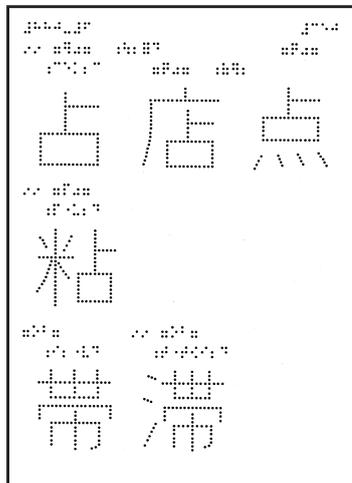
880-4



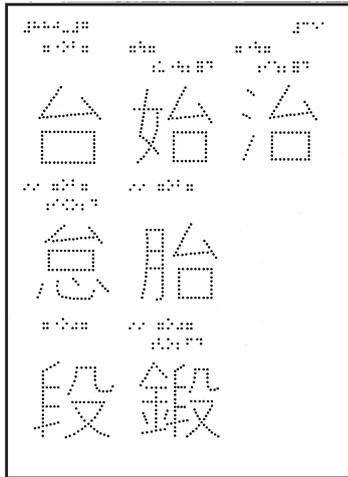
880-5



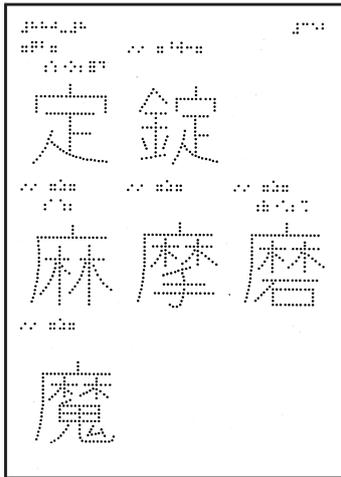
880-6



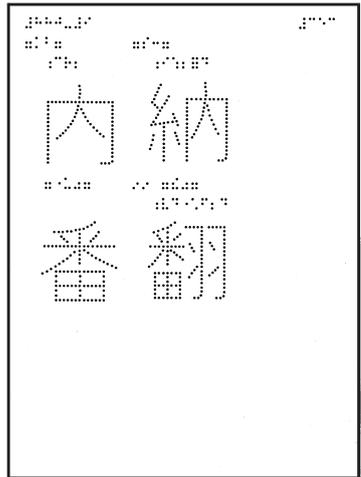
880-7



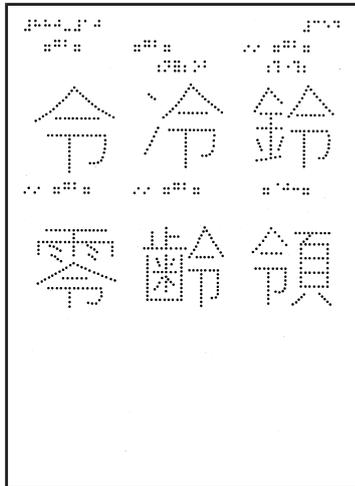
880-8



880-9

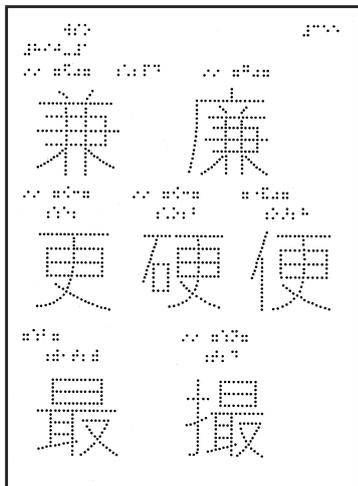


880-10

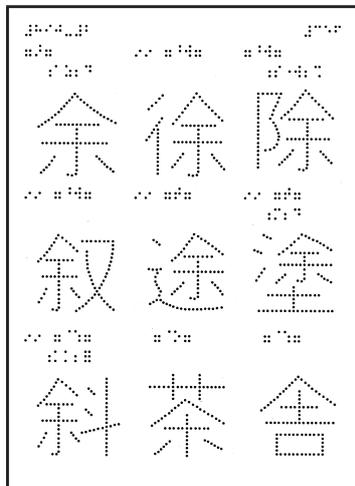


890 その他

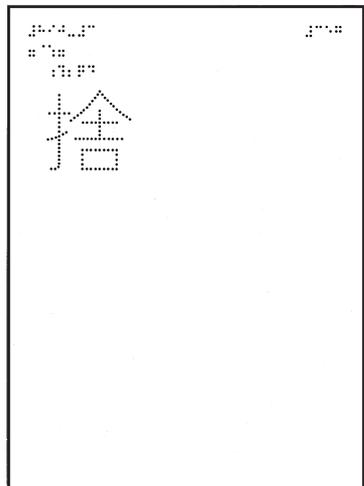
890-1



890-2



890-3



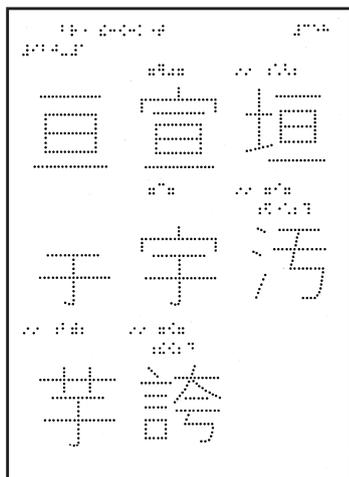
第9段階 単語家族で分類した漢字3

<指導のねらい>

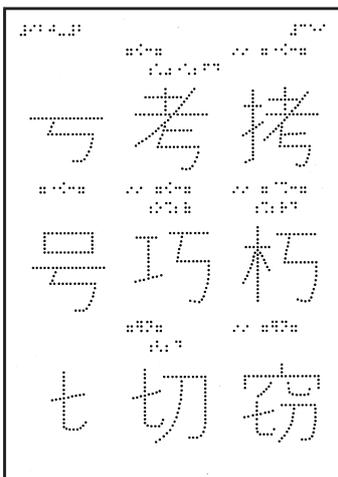
(1) 常用漢字表外の漢字、または、構成要素が単語家族の基本部分となるものを取り上げる。

920 位置・方向など

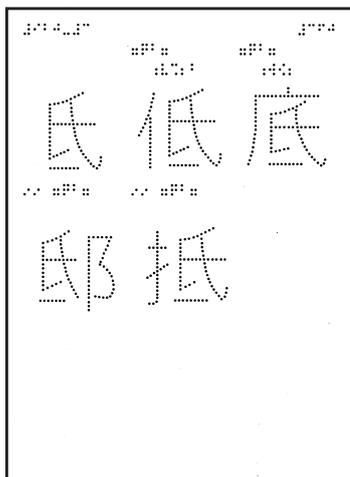
920-1



920-2

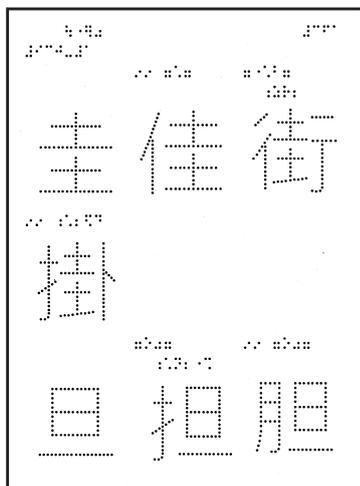


920-3

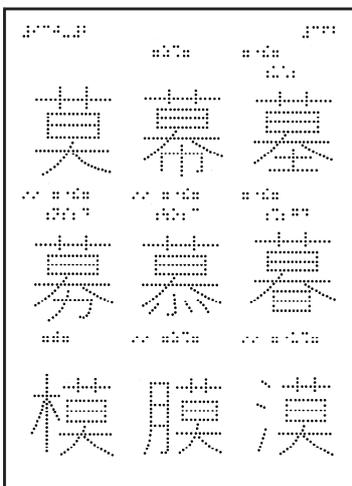


930 自然

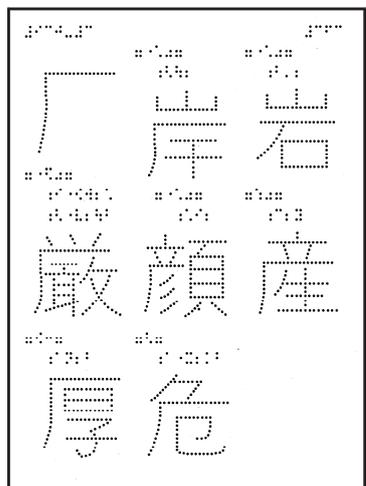
930-1



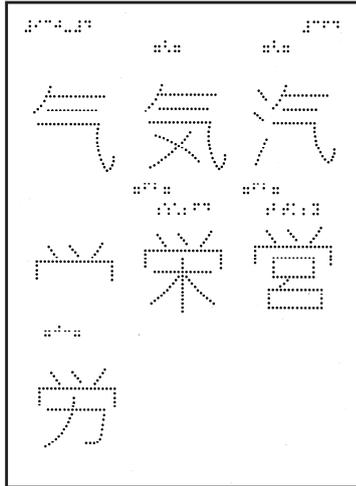
930-2



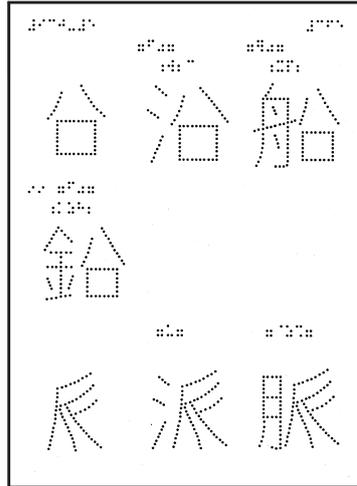
930-3



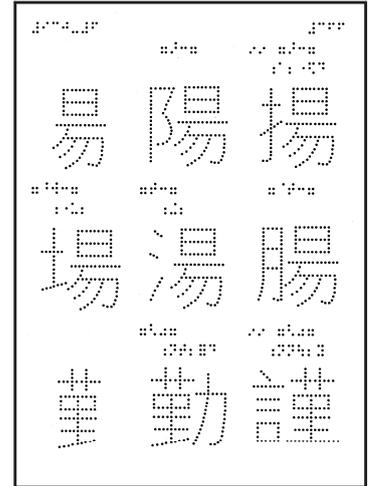
930-4



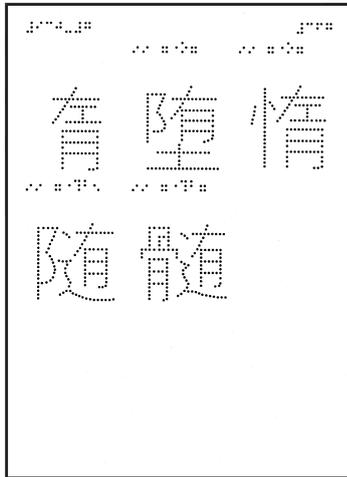
930-5



930-6

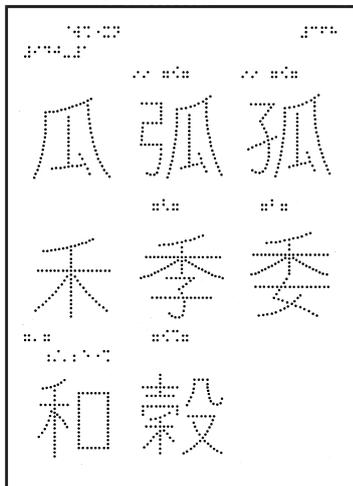


930-7

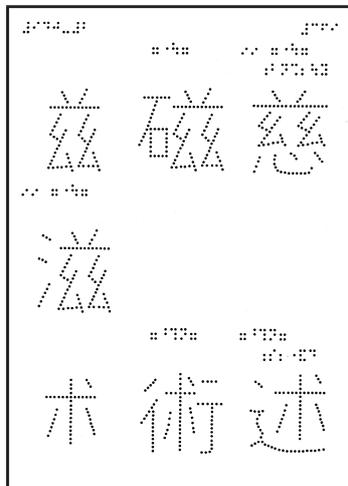


940 植物

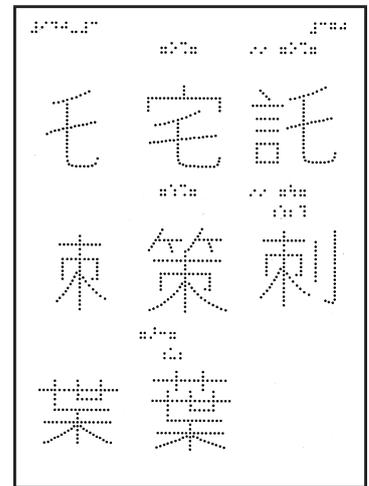
940-1



940-2

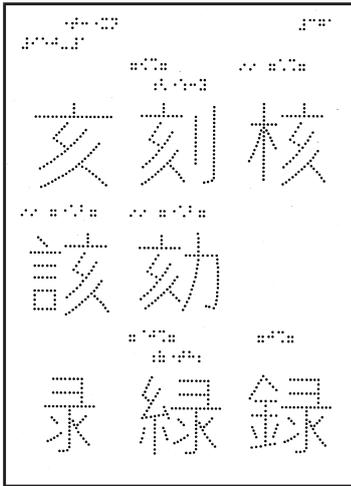


940-3

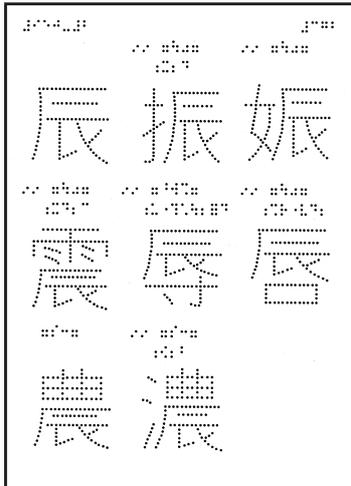


950 動物

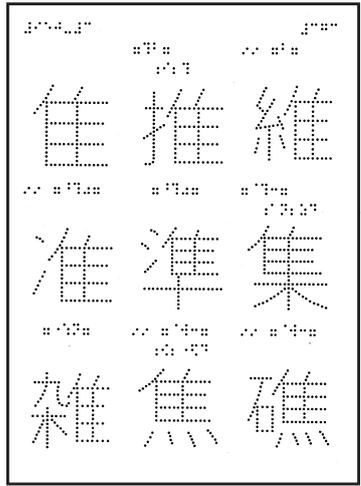
950-1



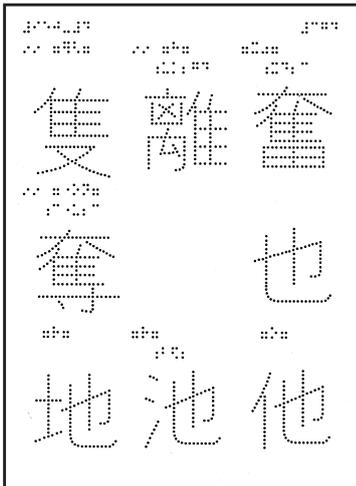
950-2



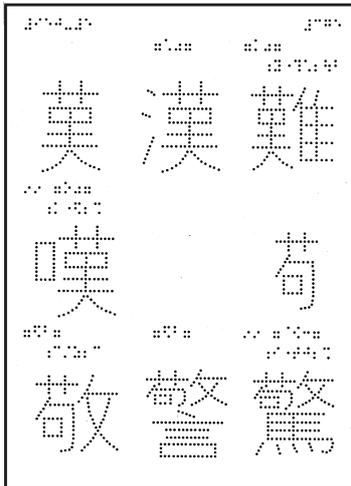
950-3



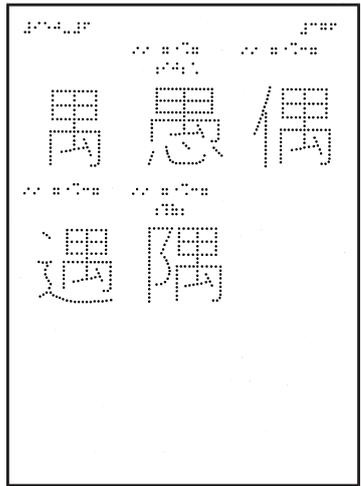
950-4



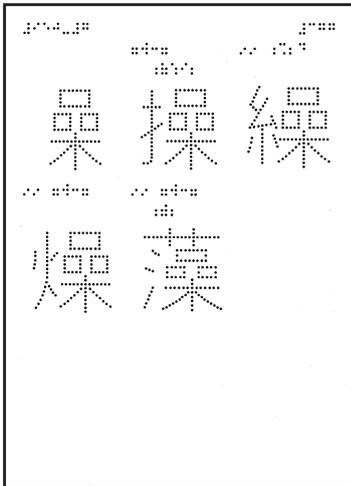
950-5



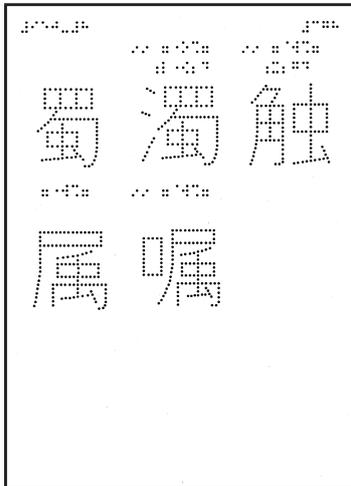
950-6



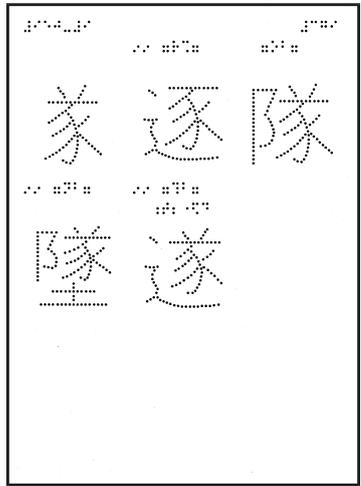
950-7



950-8

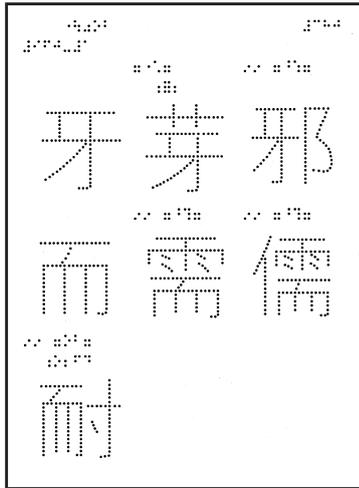


950-9

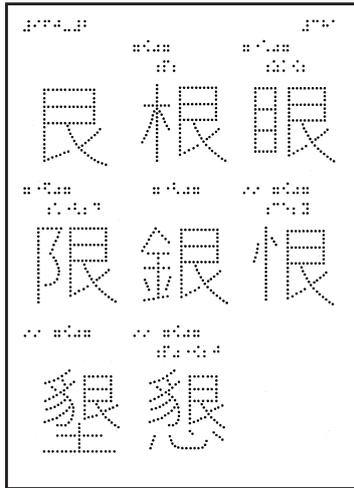


960 人体

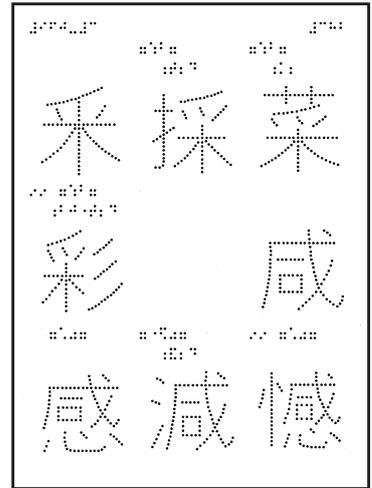
960-1



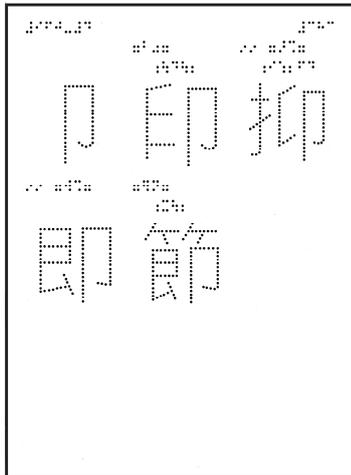
960-2



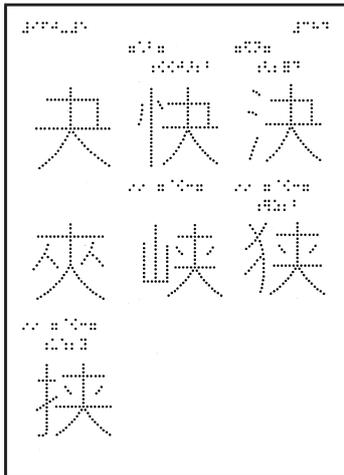
960-3



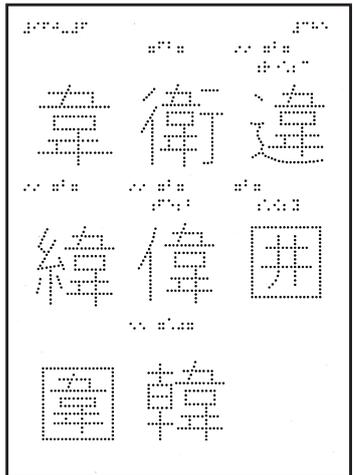
960-4



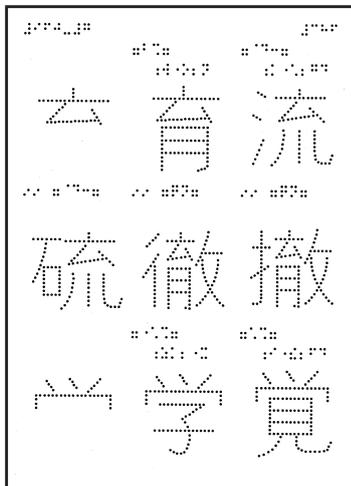
960-5



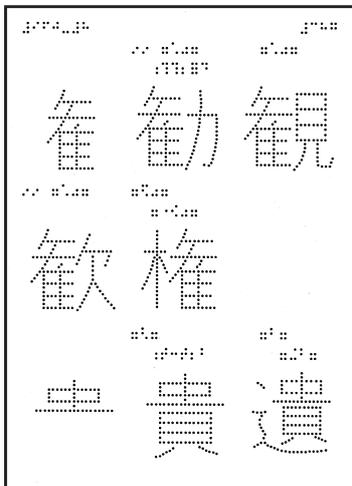
960-6



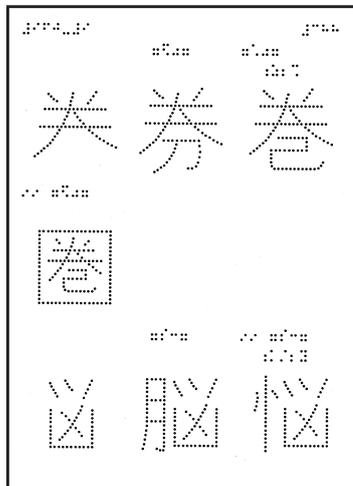
960-7



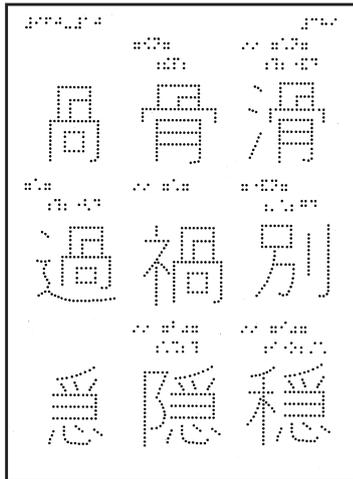
960-8



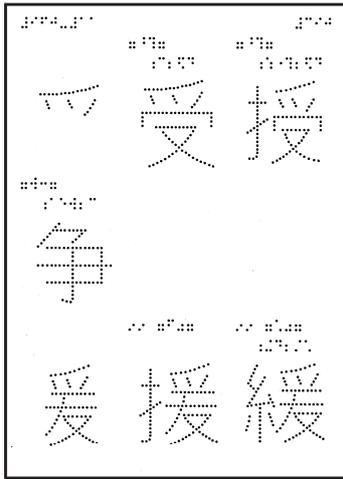
960-9



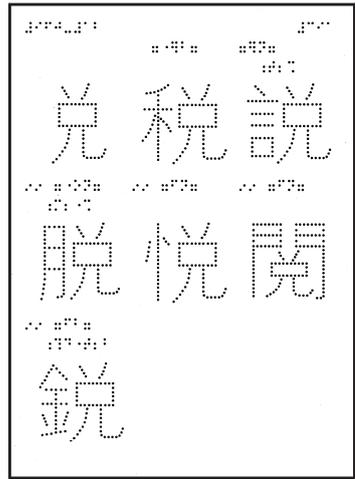
960-10



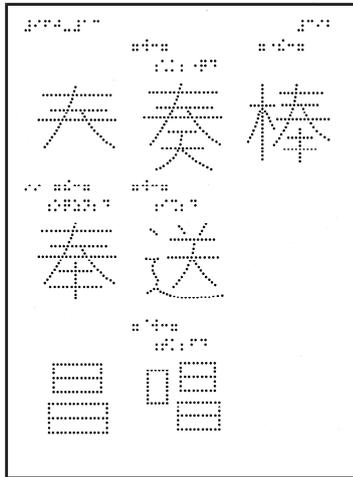
960-11



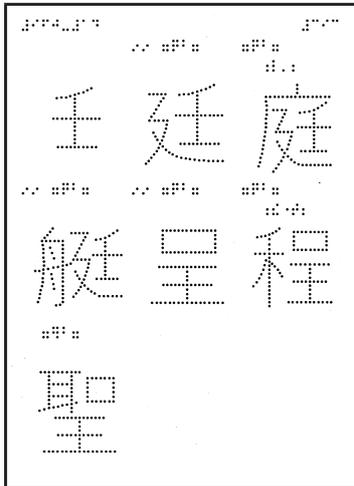
960-12



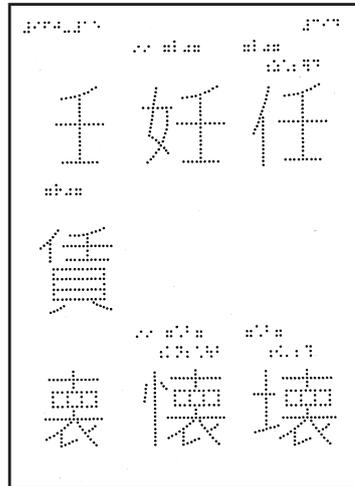
960-13



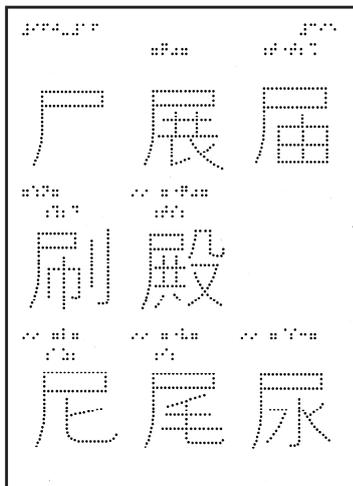
960-14



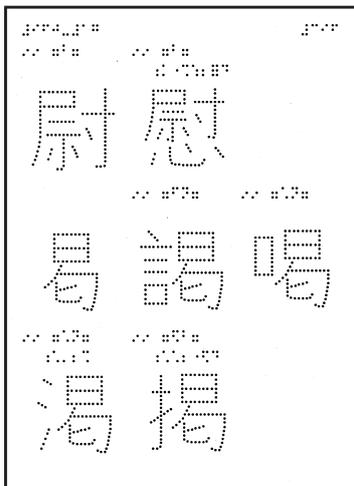
960-15



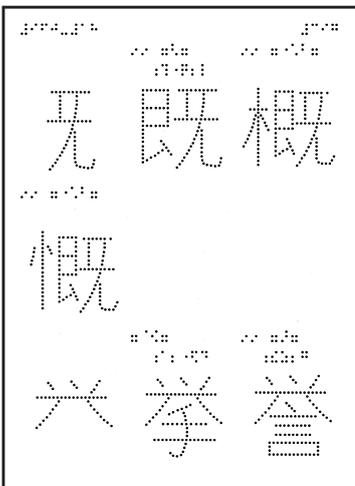
960-16



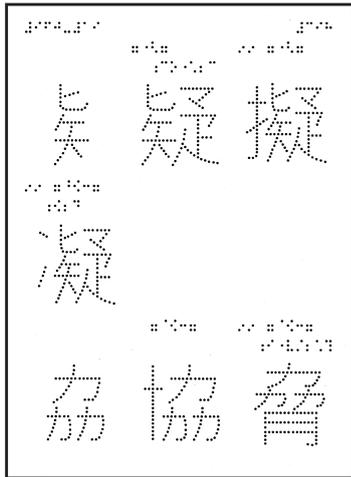
960-17



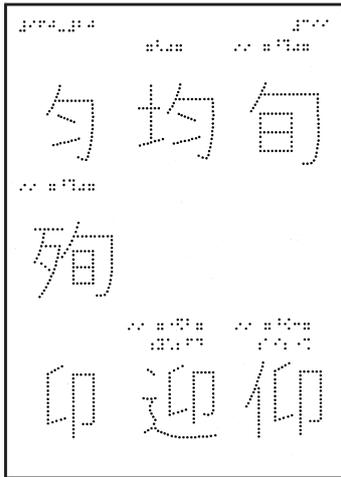
960-18



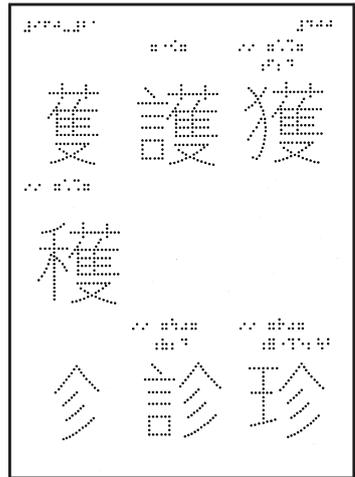
960-19



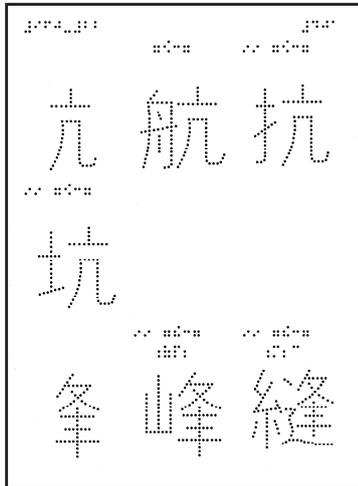
960-20



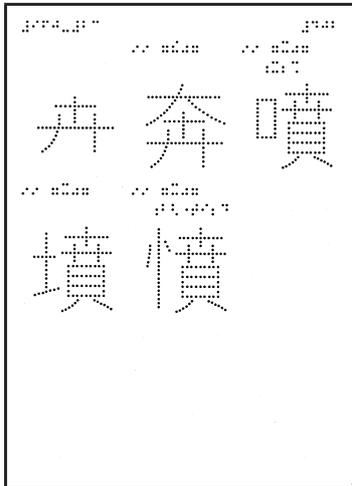
960-21



960-22

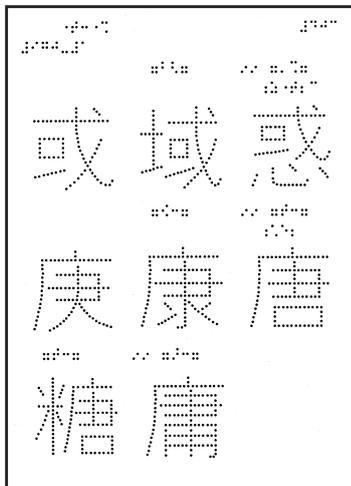


960-23

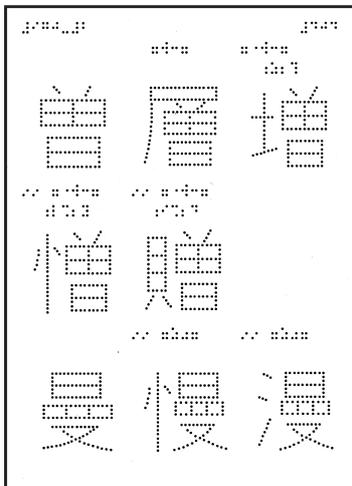


970 道具

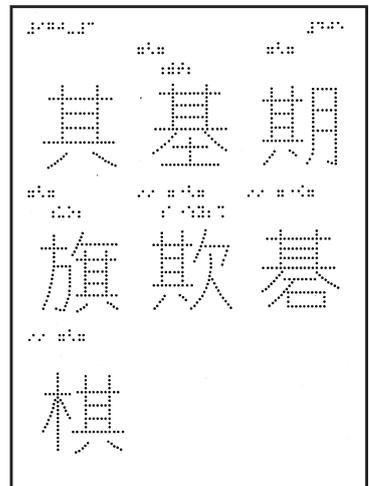
970-1



970-2



970-3



970-4

乍	作	詐
搾		几
机	処	扱

970-5

害	害	割
憲	轄	

970-6

才	状	壯
莊	裝	將
獎		

970-7

浅	淺	錢
踐	棧	殘

970-8

於	族	旅
遊	施	旋

970-9

買	罪	
罰		婦
婦	婦	掃

970-10

復	復	複
腹	覆	履

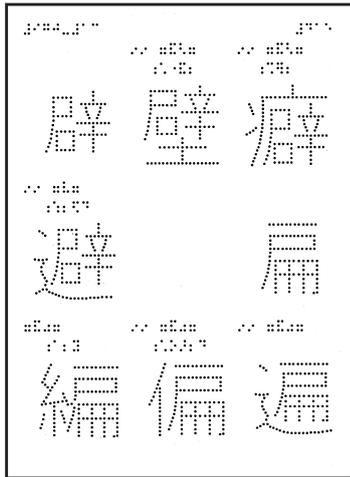
970-11

福	福	副
幅	富	

970-12

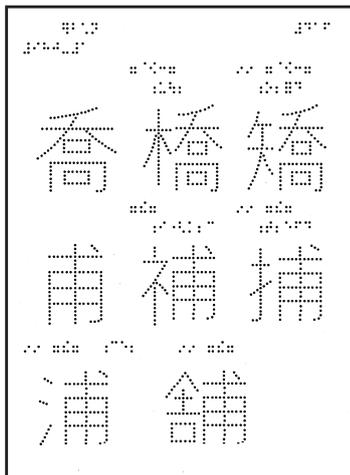
俞	輸	愉
諭		侵
侵	浸	寢

970-13

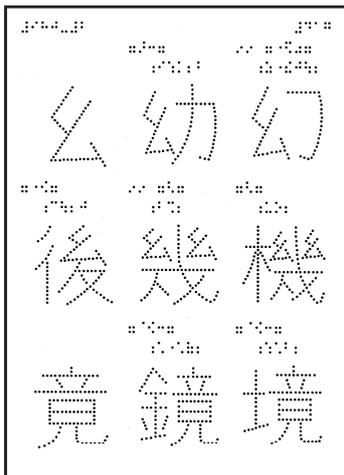


980 生活

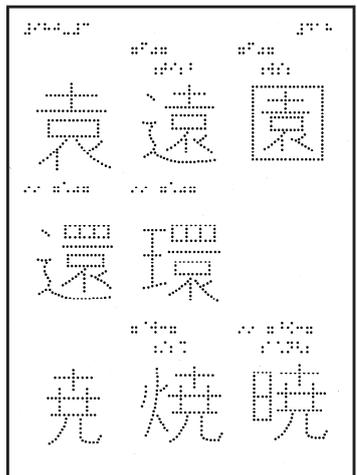
980-1



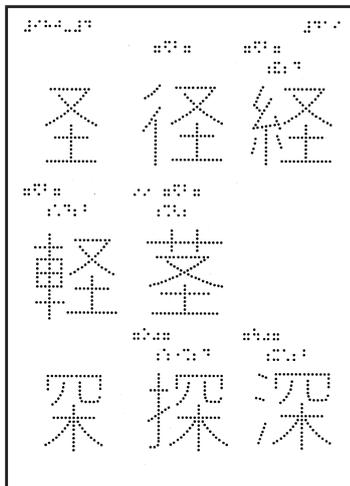
980-2



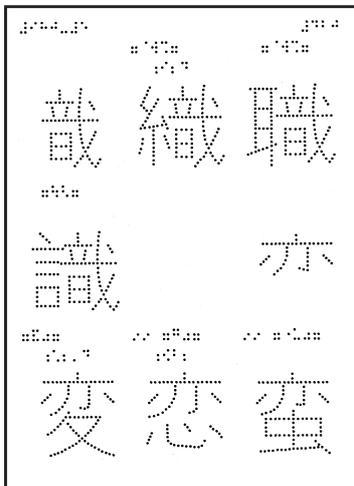
980-3



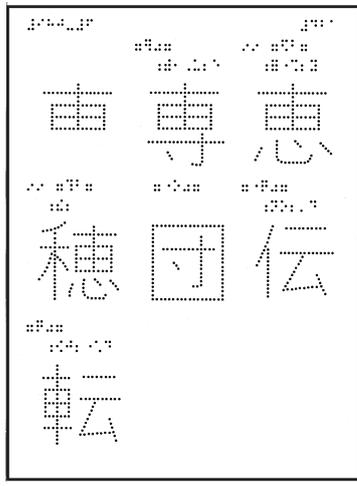
980-4



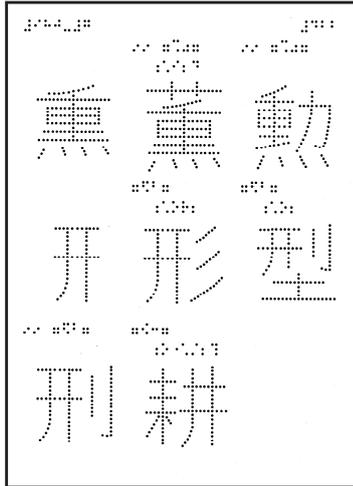
980-5



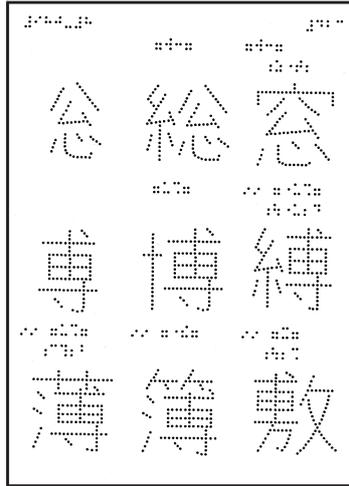
980-6



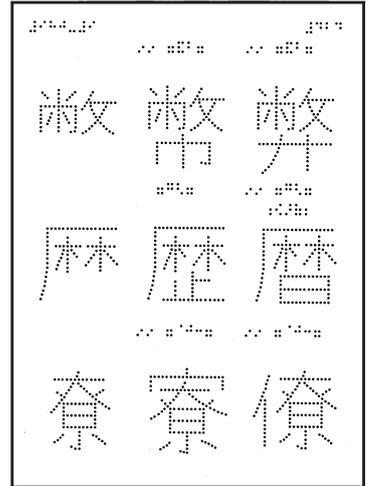
980-7



980-8

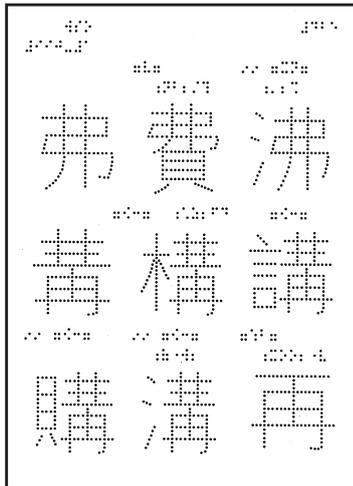


980-9

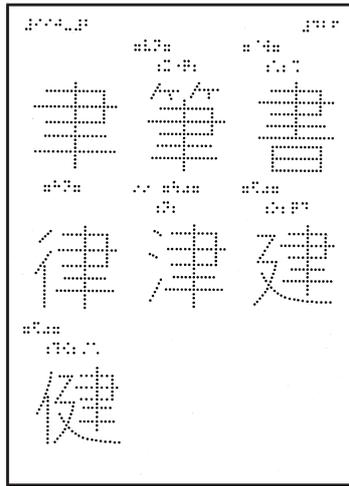


990 その他

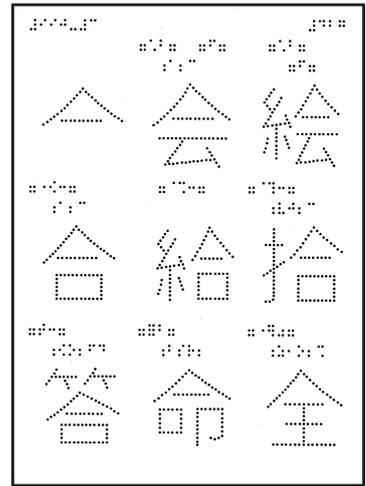
990-1



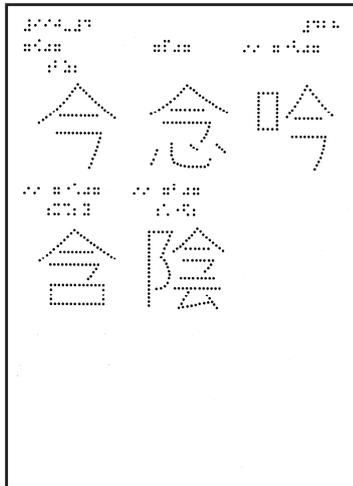
990-2



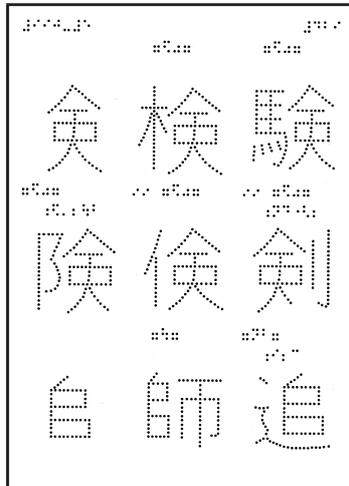
990-3



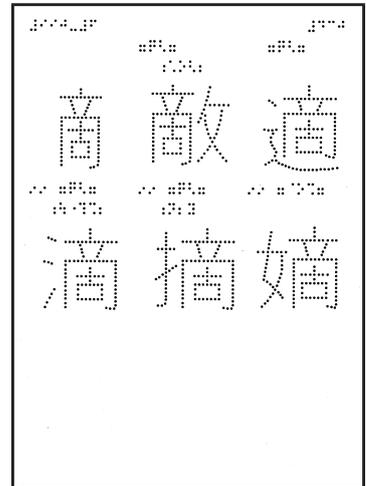
990-4



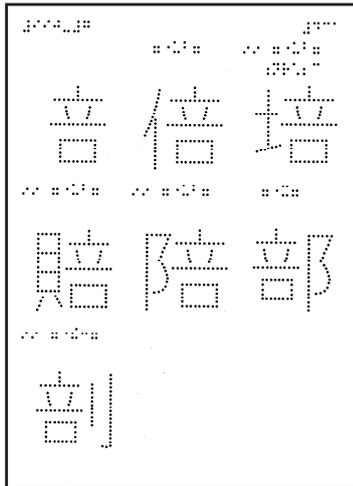
990-5



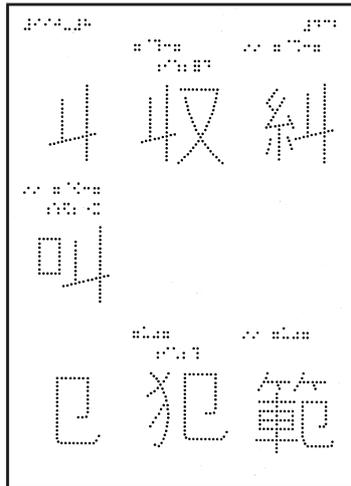
990-6



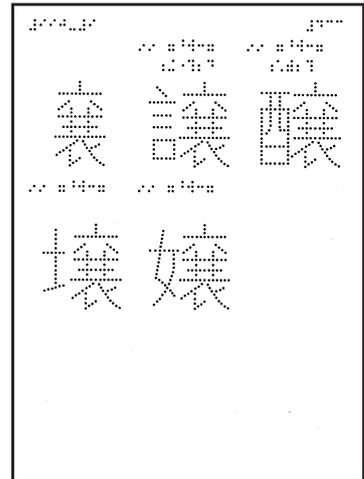
990-7



990-8



990-9

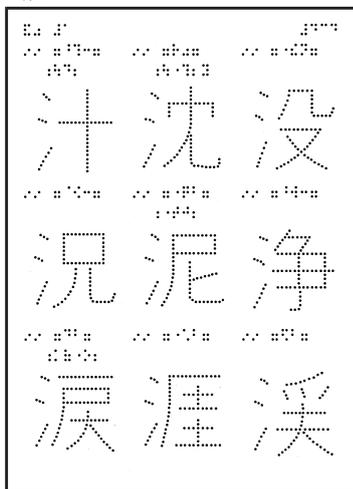


第10段階 その他の漢字

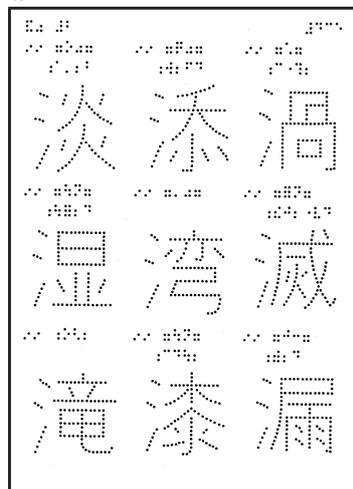
<指導のねらい>

(1) 常用漢字表及び使用頻度順位 1,200 番以内の漢字のうち、前段階までに取り上げなかったものを 偏・旁・冠・脚・垂・構・繞の部首別に取り上げて学ばせる。

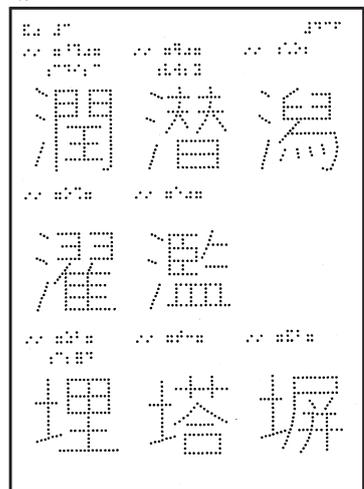
偏 1



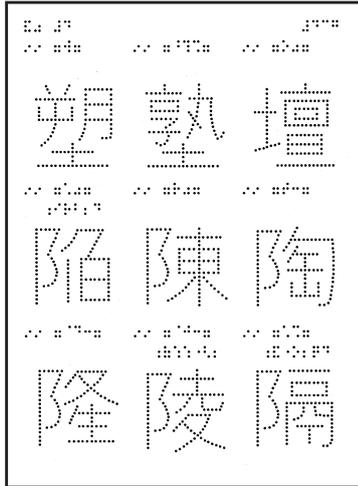
偏 2



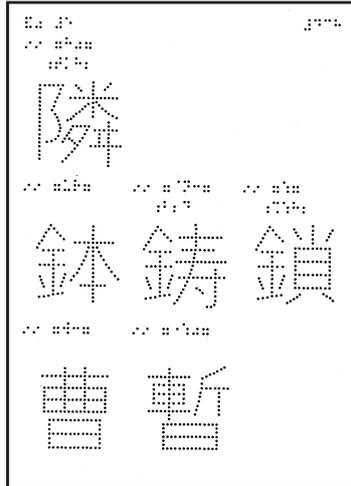
偏 3



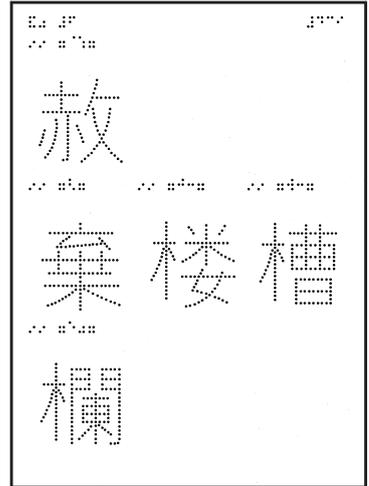
偏 4



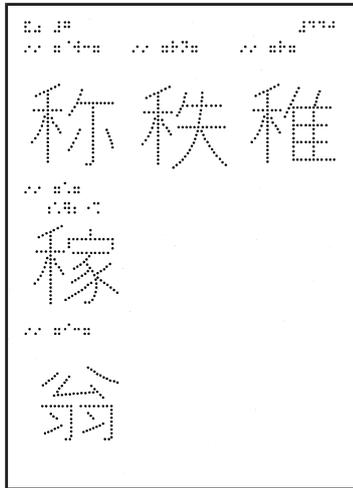
偏 5



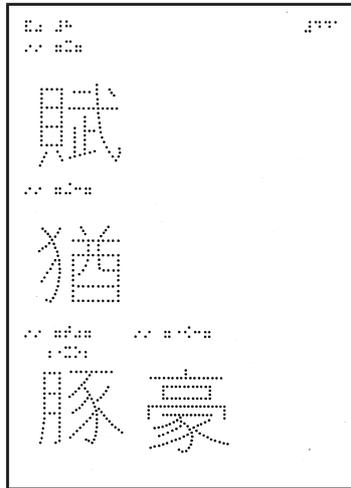
偏 6



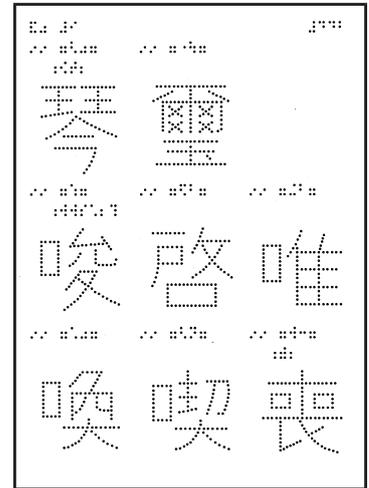
偏 7



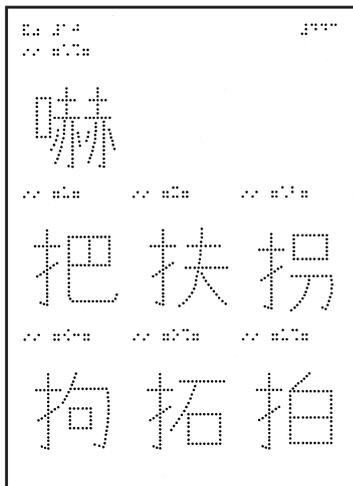
偏 8



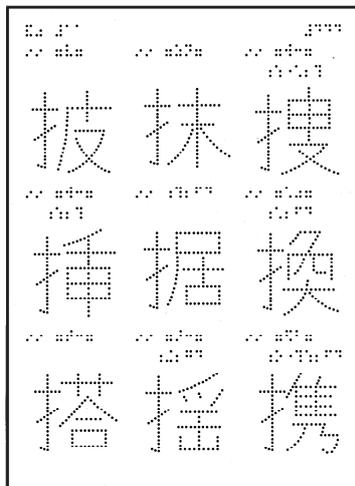
偏 9



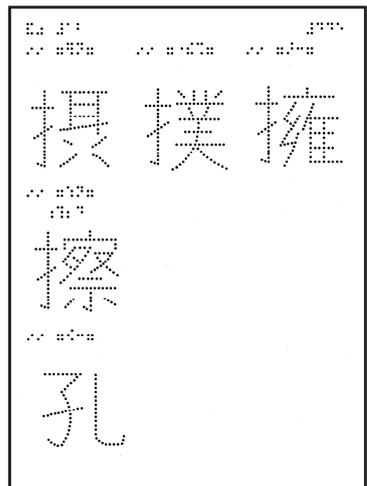
偏 10



偏 11



偏 12



偏 13

歲		
妥	威	
怖	恒	恥

偏 14

悠	愁	慶
憂	慮	懲
仙	伐	伏

偏 15

伯	但	併
俊	促	俸
傲	偵	傘

偏 16

傍	傾	傑
催	僧	僕
償		

偏 17

跡	躡	踏
肯		
督		

偏 18

缶		
弔	弘	
酪		

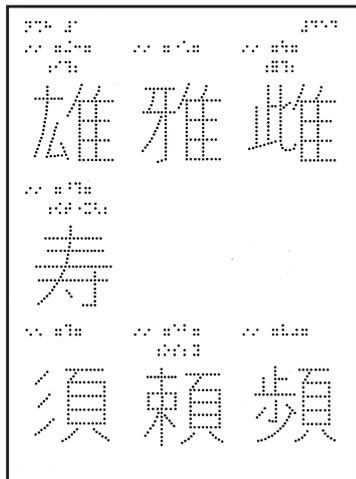
偏 19

矛	褒	
帥	網	
緣	織	繭

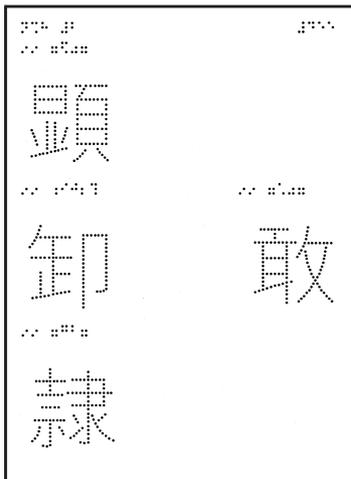
偏 20

畝	疊	
微	徵	

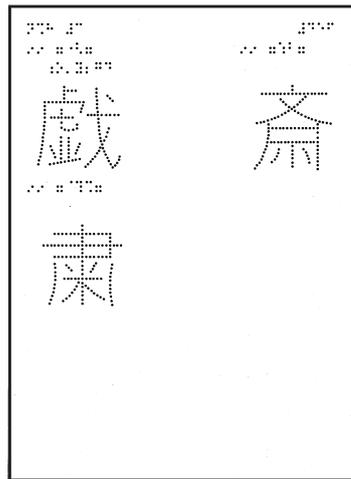
旁 1



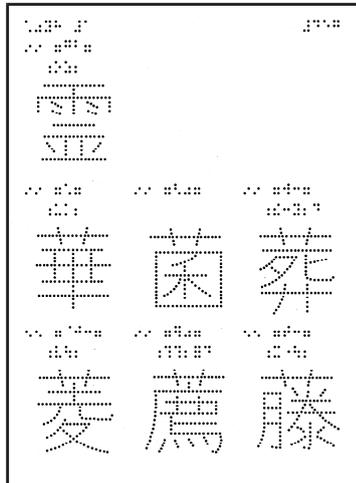
旁 2



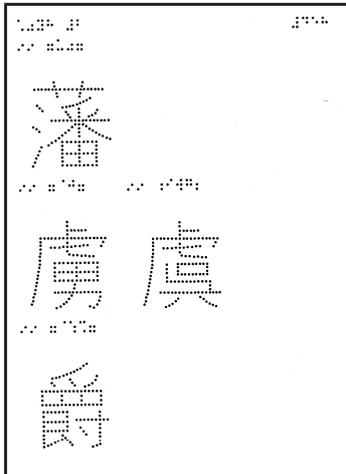
旁 3



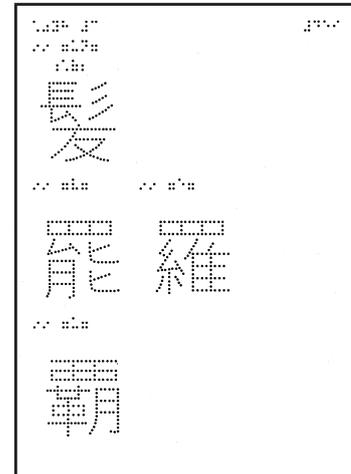
冠 1



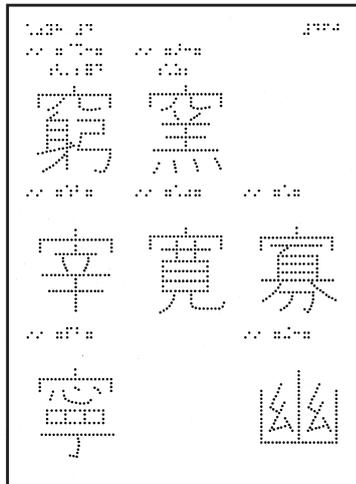
冠 2



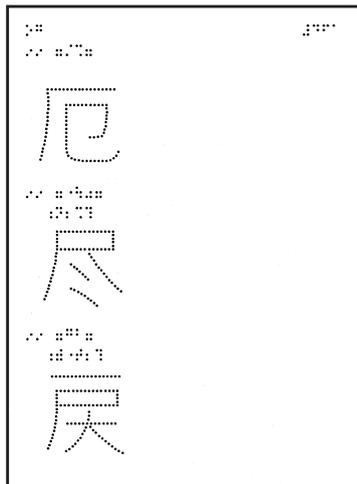
冠 3



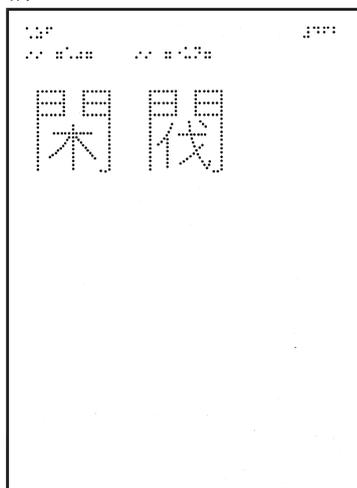
冠 4



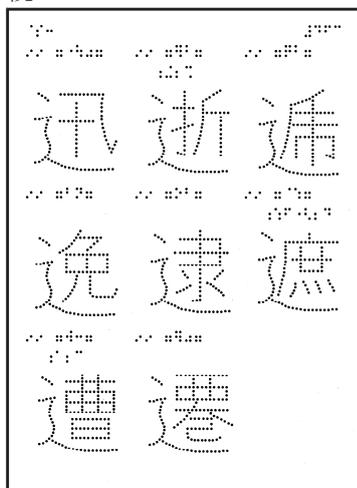
垂



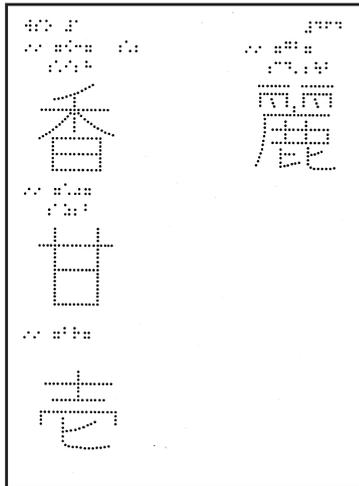
構



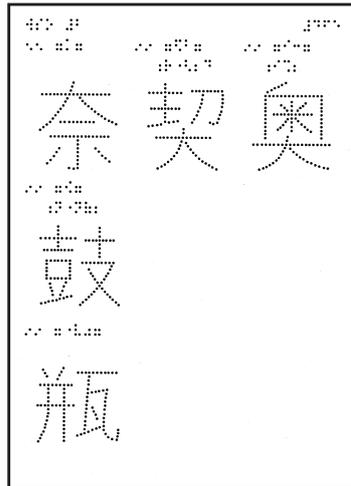
繞



その他 1



その他 2



第3章 盲学校小学部での漢字指導状況について

第1節 盲学校小学部国語点字教科書での漢字の扱い

1. 盲学校小学部点字教科書編集の基本方針

盲学校小学部点字教科書編集資料（2005）によると、盲学校小学部点字教科書は次の4点を編集の基本方針として示している。

- (1) 原典の内容そのものの大幅な変更は行わないこと。
- (2) やむを得ず原典の内容を修正したり、差し替えたりする場合には、児童の特性を考慮するとともに、必要最小限にとどめること。
- (3) 特に図、表、写真等の取扱いは、慎重に行い、できる限り原典に沿った点訳ができるように工夫すること。
- (4) 点字教科書のページは、奇数右ページの右上欄外に示した。また、原典のページは、奇数右ページの左上欄外に「メ」の字に挟んで示した。

また、「点字教科書取扱上の留意事項」において、やむを得ず一部を削除してあるところの指導は、それぞれの学習のねらいを踏まえて、適切な教材・教具の活用をはかり、点字教科書の内容を補うような配慮の必要性が記載されている。

2. 国語点字教科書編集の漢字に関する取扱についての具体的方針

平成17年度から盲学校で新たに使用されている国語の教科書は、光村図書出版株式会社のものである。この教科書選定の観点は、まず、点訳が比較的しやすいこと及び弱視児にも比較的に見やすいことなどによる。

国語点字教科書では、普通の文字の仮名文字や漢字に関する教材について、次のような方針により編集されている。以下、盲学校小学部点字教科書編集資料（2005）、各教科編集の概要、国語より引用する。

- (1) 国語の正しい理解を促すために、普通の文字の仮名文字や漢字に関する教材については、その基本的な知識となるものを選定して掲載する。
 - ① 「漢字のひろば」は、該当する漢字部分に第1カギ（ $\ddot{\cdot}$ $\ddot{\cdot}$ ）を付けて示し、さらに課題に取り組む際に必要な、イラスト部分についての解説を言葉や句で追加した。しかし、課題の内容上、イラストで示された事柄について詳細な説明を加えられないため、説明は必要最小限のものにとどめてある。従って、指導に当たっては、課題の意図をふまえ十分な工夫と配慮が必要である。
 - ② 「覚えておきたい漢字」は、小学校学年別漢字配当の中から次の基準に沿って82字を選定し、2年生までの教材で扱われなかったものを1年2巻から2年2巻までの巻末に掲載した。
 - ・ 日常生活の中で字形をもとに語られる漢字
 - ・ 部首のもとになる漢字
 - ・ 画数が多いために児童の負担になることのない漢字
- (2) 漢字の音訓については2年生までは、「読み方が新しい漢字」の表題で、各教材末に例1のよ

うに掲載する。また、3年生からは、新出漢字は「新しく学習する漢字」の表題で、各単元教材末にある新出漢字を、文中の語句を抜き出して例2のように音訓と共に示す。また新出音訓は「読み方が新しい漢字」（例1に同じ）、熟字訓は例3のように「特別な読み方をする言葉」の表題で音訓とともに示す。この時、訓を示す場合、送り仮名は第2つなぎ符（ㇿㇿ）を用いる。なお、原典の巻末にある「この本で習う漢字」、該当学年までに習った漢字は削除する。

例1 「だい」すき（おおㇿㇿきい）（1年）

例2 「ひら」く（カイ□ひらㇿㇿける□あㇿㇿける）□□「カイ」テン□□みちが□「ひら」
ける□□ふたが「あ」く□□どあを□「あ」ける。（3年）

例3 「けさ」（こん□いま、ちょー□あさ）（3年）

3. 点字教科書を使用する上での留意点

1. 及び2. で記載した通り、点字教科書は、原典教科書の内容をやむを得ず一部削除したり、イラスト等で示された事柄について詳細な説明が加えられなかった部分がある。その部分については、指導者がそれぞれの学習のねらいを踏まえ、適切な教材・教具の活用をはかり、点字教科書の内容を補うような配慮をしていかなければならない。当然のことながら、指導者は、原本教科書の内容が点字教科書ではどのように扱われているのか十分理解した上で、補助教材や補足説明をしていくこととなる。本研究を進めるにあたり、国語点字教科書の漢字を扱った単元で、どのような補助教材や補足説明が必要なのかを概観するために、各学年で漢字を扱った単元を抜き出し、原典教科書と盲学校点字教科書編集資料に記載されている修正内容、さらに実際の点字教科書とを見比べてみた。ここでは、各単元についてどのような補助教材や補足説明が必要なのか、それぞれに指摘はしないが、点字教科書を使用した授業では、十分な教材研究の必要性、適切な補助教材や補足説明の必要性を再認識するものとなった。この作業を行ったときの資料は後段の資料編に参考までに掲載する。

第2節 点字使用児童への漢字指導に関する調査

I. 調査目的

点字使用児童に漢字・漢語の知識をどのように指導しているのか。本調査の目的は、盲学校小学部の点字使用児童に対する国語教科書中の漢字を扱った単元の指導状況を明らかにし、課題を整理することにある。

II. 調査方法

1. 調査期間

17年度の指導状況調査であるので、全指導が終了あるいは見通しが持てるであろう時期を考慮し、次の期間を設定し、対象となる盲学校長宛に調査票を郵送した。

調査票送付：平成18年2月27日

調査票回収：平成18年3月20日

2. 調査対象

平成17年度小学部普通学級を設置している盲学校60校に調査票を郵送し、そのうち、学年相応の学習を行っている点字使用児童が在籍している学級を調査対象とした。回答者は各学年の国語指導担当者に依頼した。対象学級数及び回収率を表1に示す。

表1 調査対象学級数及び回収率

	調査票送付	回収
小学部普通学級設置校数	60校	57校
学級数	178学級	173学級 (回収率97%)
		(内訳)
		学年相応 133学級 (調査対象とする)
		1年：26 2年：22 3年：20
		4年：21 5年：23 6年：21
		下学年適応及び弱視児のみ 40学級

盲学校小学部に普通学級を設置している60校の全学級数は178学級であり、そのうち、57校173学級分の回答があった(回収率97%)。回答のあった173学級のうち、点字使用児童が在籍し、学年相応の学習を行っている学級は133学級であり、これを調査対象とする。

3. 調査内容

盲学校小学部で使用している国語教科書(光村出版)の1年から6年までで漢字に関する事項を扱った単元を抜き出し、次の(1)から(7)の項目について調査を実施した。(実際の調査票は資料として巻末に掲載)

(1)指導の有無

(2)指導状況

- ・漢字には特に触れず、本文の内容にそって指導
- ・点字教科書に点図として記載されている漢字を中心に指導

- ・新出漢字を中心に指導
 - ・新出漢字以外の漢字についても指導
 - ・その他（具体的に記載）
- (3)漢字についての指導内容（複数選択可）
- ・漢字の読み、意味の指導
 - ・漢字の字形
 - ・漢字の画数
 - ・漢字の筆順
 - ・漢字の構成と読みや意味の関係
 - ・漢字の字源
 - ・パソコンで漢字を変換しながら読みと意味の指導
 - ・その他（具体的な指導内容を記載）
- (4)補助教材の使用状況（複数選択可）
- ・特に使用していない
 - ・使用している
 - 自作の場合→立体コピー^{*1} レーズライター 点図 その他（具体的に記載）
 - 既製教材（具体的に記載）
- *1：盲人用表面作図器→特殊な用紙をゴム状の下敷きのにせ、ボールペンなどで筆圧を強めに書くとその線が浮き上がり、触覚的読み取ることができるもの。
- (5)点字使用児童に漢字を指導する際、配慮している点
- (6)国語の授業以外での漢字指導の有無（行っている場合の時間帯、時間数、内容）
- (7)その他、漢字指導に関する課題

各学年で取り上げた単元の選定基準は次の通りである。

- ・盲学校小学部国語点字教科書で点線文字（ローマ字を除く）が記載されている単元
- ・漢字の広場
- ・漢字の音訓や構成を取り上げており、盲学校点字教科書編集において何らかの追加・修正がなされた単元。
- ・点字教科書巻末追加事項「おぼえておきたいかん字」

Ⅲ. 結果と考察

調査対象 133 学級の学級構成状況を表 2 に示す。

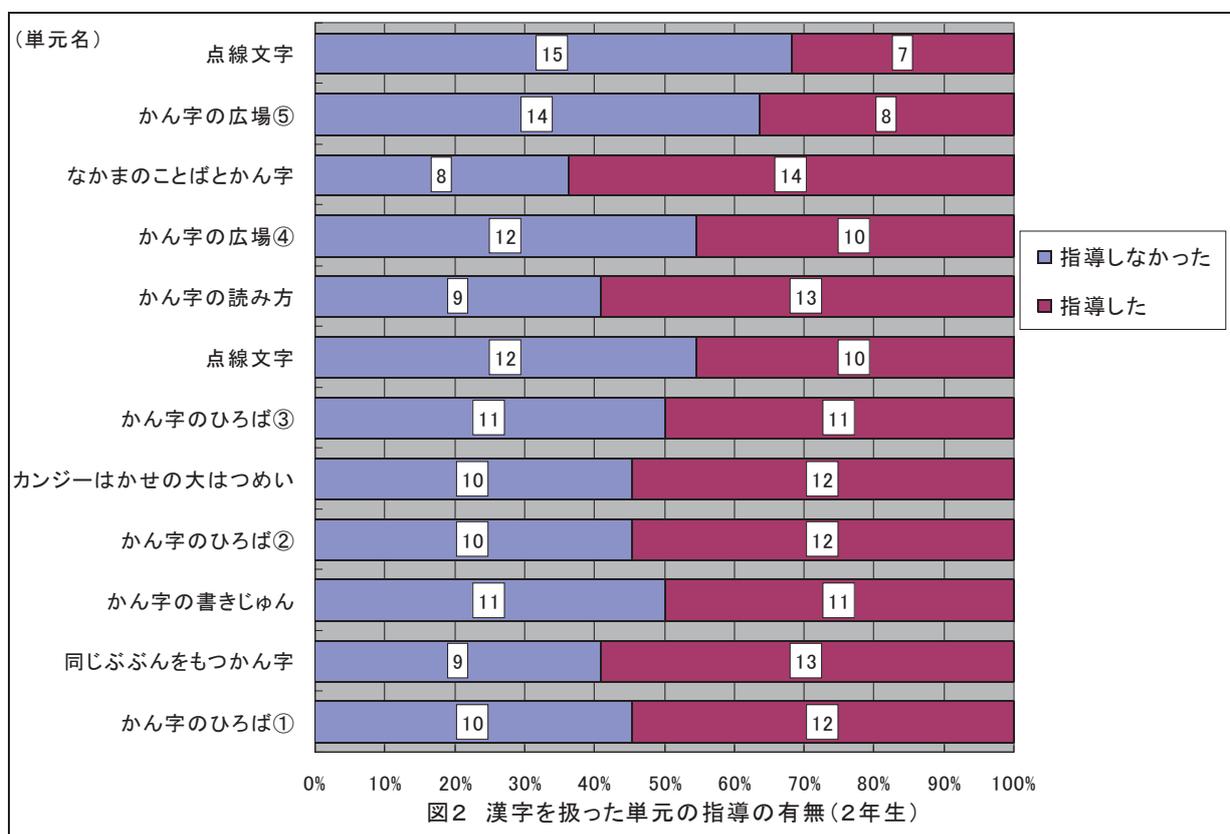
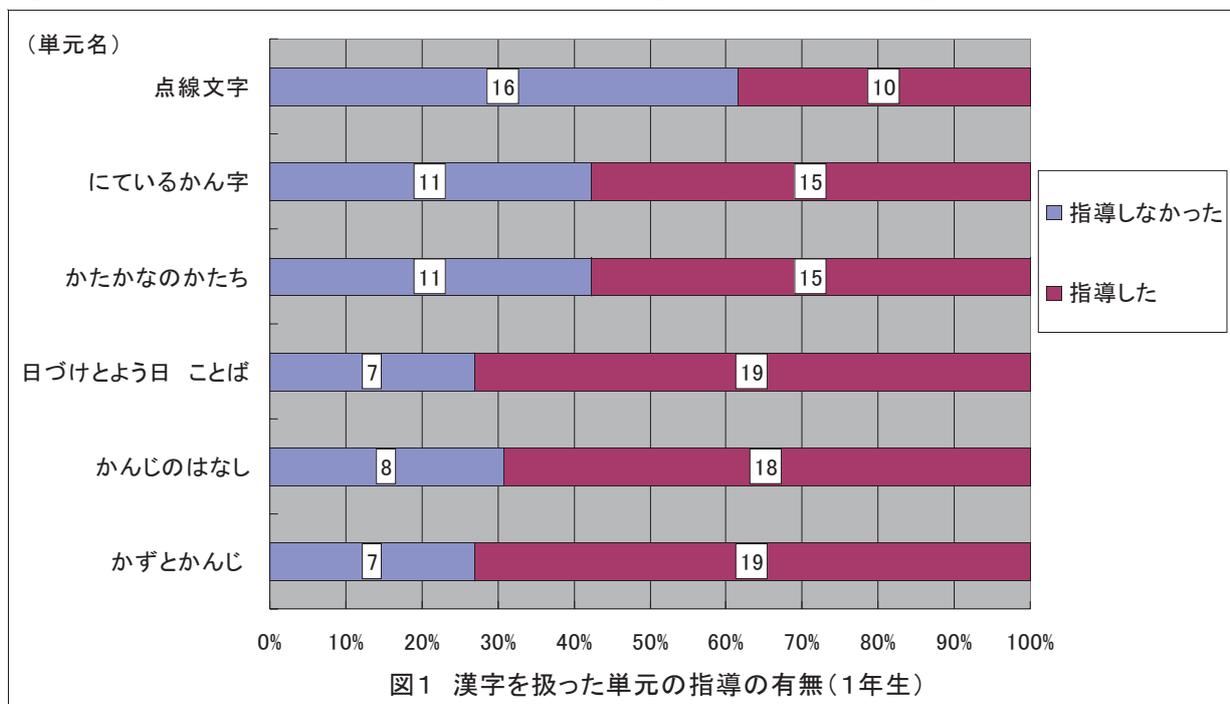
表 2 点字使用児童が在籍している学級構成状況

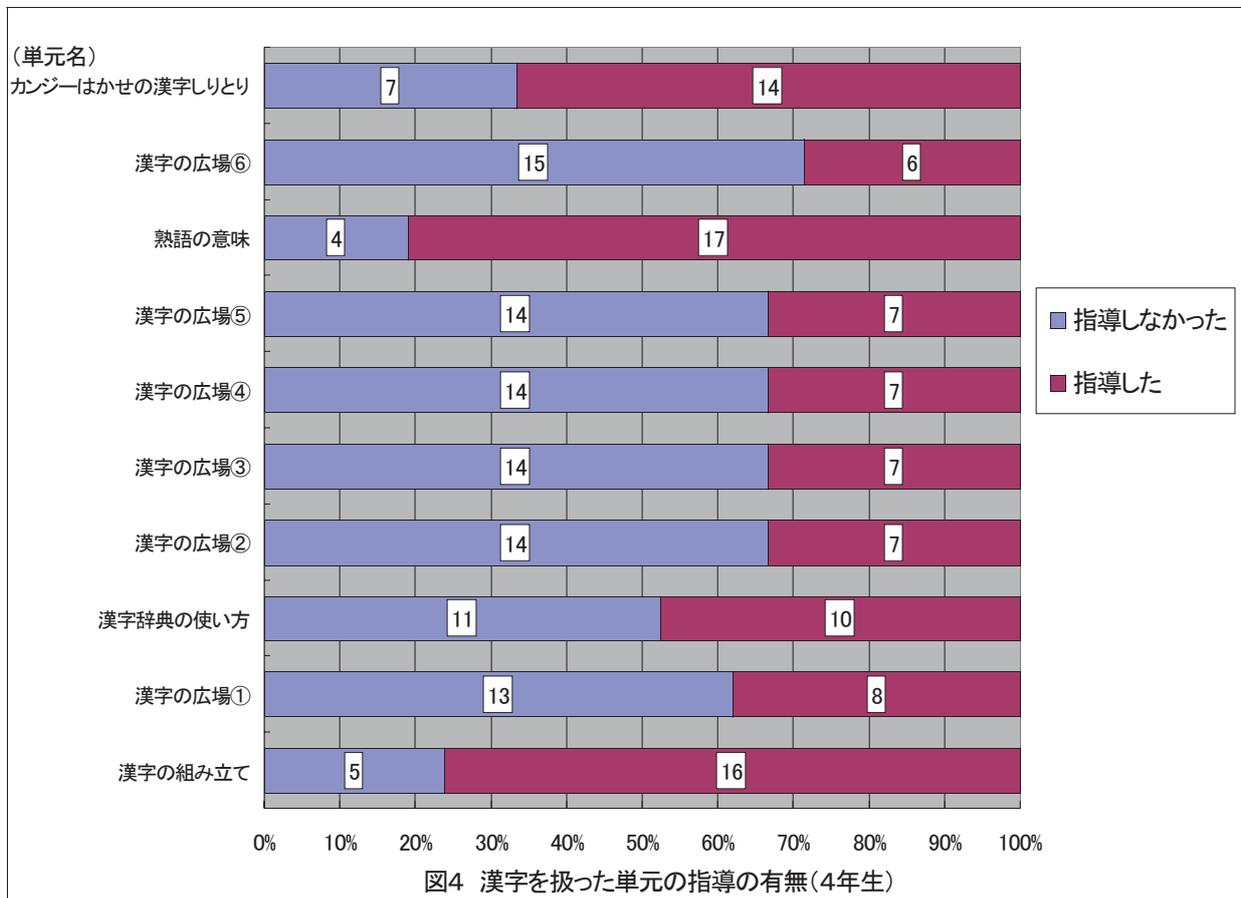
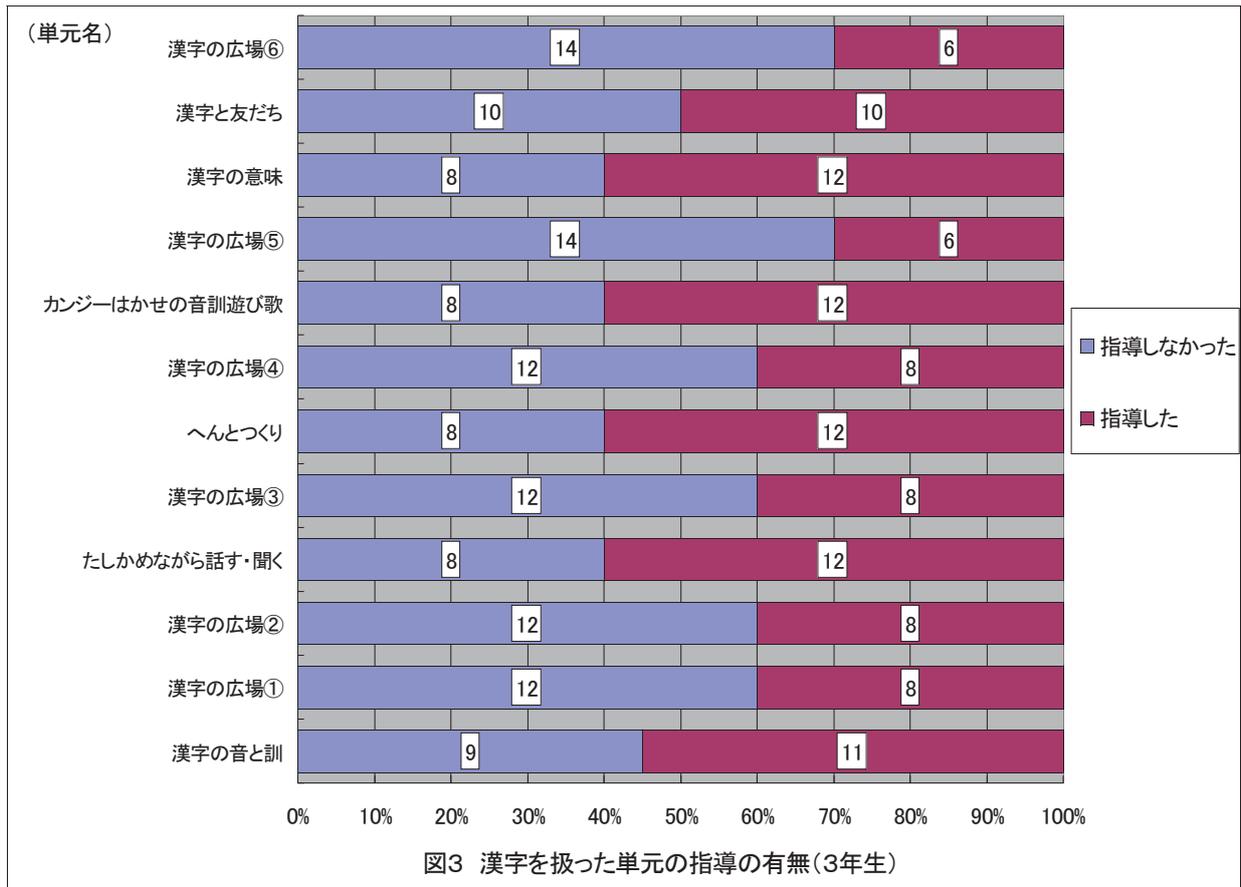
学級構成		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
点字使用児童と墨字使用児童の混合学級		4	5	6	4	9	8	36
点字使用児童のみの学級								
	1名	16	13	6	12	10	11	68
	2名	4	4	6	3	3	2	22
	3名	2	0	1	1	1	0	5
	4名以上	0	0	1	1	0	0	2
計		26	22	20	21	23	21	133

133 学級中、点字使用児童のみで構成されている学級が 97 学級（73 %）、そのうち、点字使用児童 1 名のみで構成されている学級が 68 学級（全学級数の 51 %、点字使用のみ学級中 70 %）であった。点字使用児童と墨字使用児童の混合学級は 36 学級（27 %）であった。

(1) 各単元の指導の有無について

各単元の指導の有無を学年ごとに表したのが図 1 から図 6 である。1・2 年の単元名で「点線文字」とあるのは各巻末にある「覚えておきたい漢字」を指す（以下同じ）。





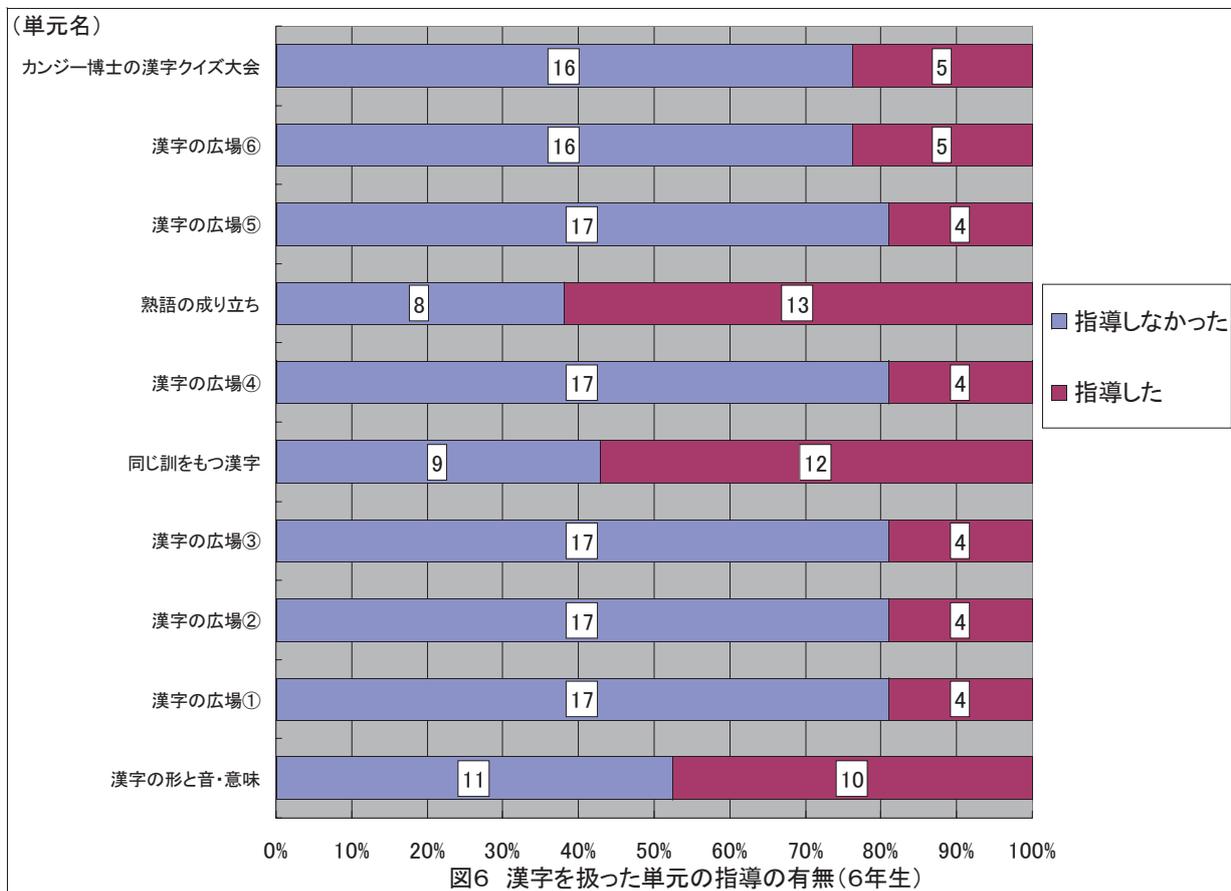
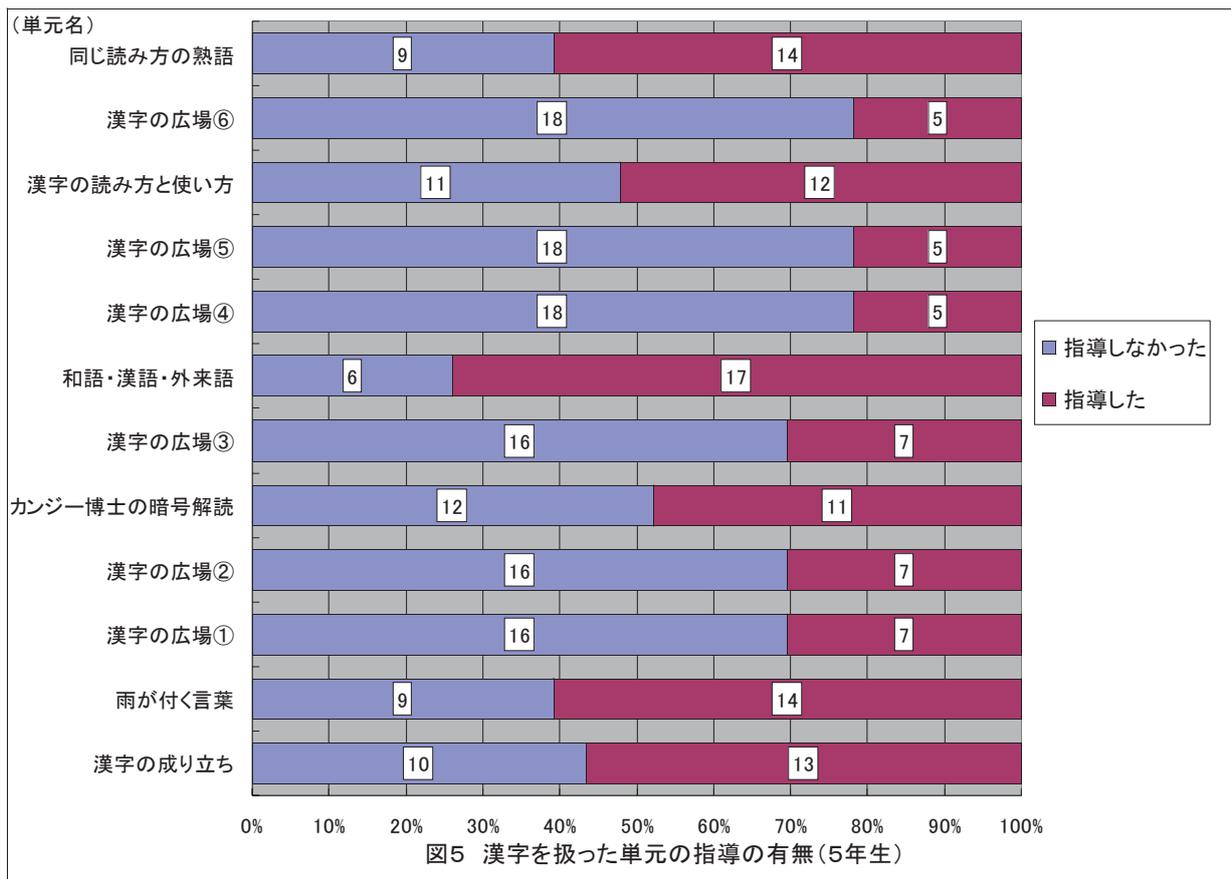
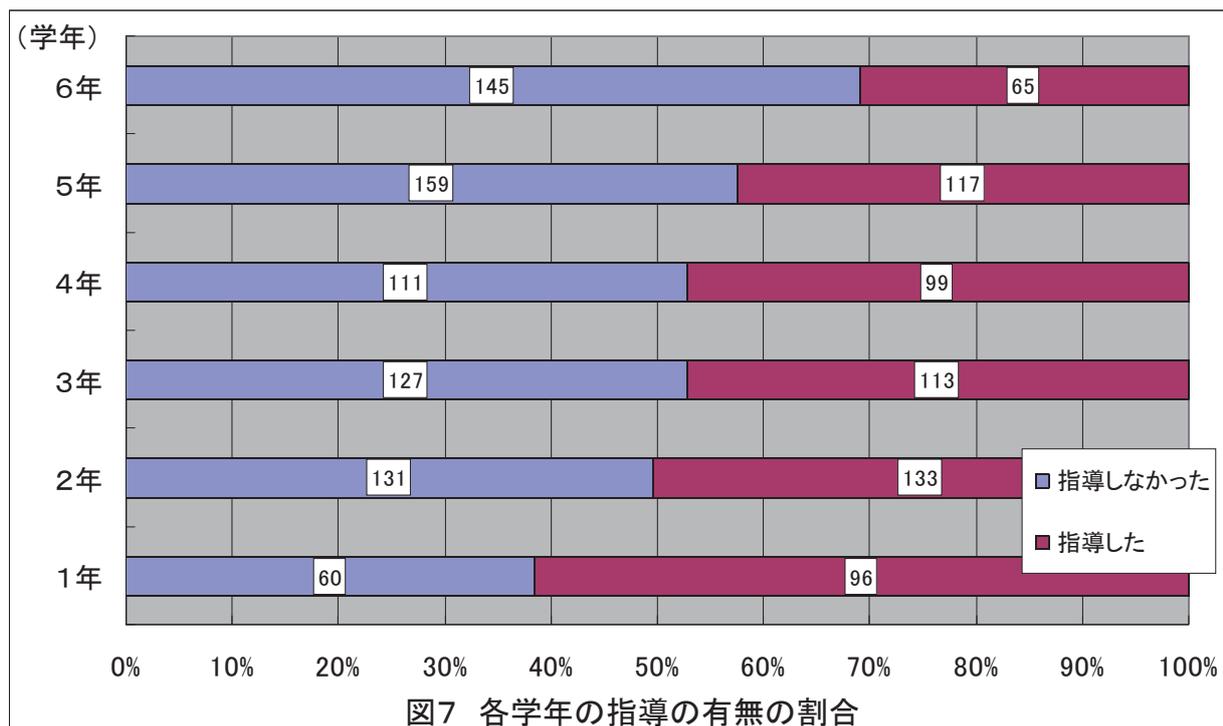


図7は、各学年での指導の有無の割合を比較したものである。



これらを通して見ると、学年が上がるに従って、指導をしなかった割合が徐々に高くなっている。1年と6年を比較してみると、1年では指導しなかった割合が38%、指導した割合が62%、6年では1年とは逆に、指導しなかった割合が69%、指導した割合が31%であった。

また、2年以降に「漢字の広場」という単元が設定されているが、各学年、この単元を指導していない割合が特に高い。この単元はイラストの中に前の学年で学習した漢字が示されており、絵を見て想像を広げ、これらの漢字を使って文章を書くことを目標としている。この「漢字の広場」について、盲学校小学部点字教科書編集資料(2005)においては、次のように記載されている。「『漢字のひろば』は、該当する漢字部分に第1カギ(☐ ☐)を付けて示し、さらに課題に取り組む際に必要な、イラスト部分についての解説を言葉や句で追加した。しかし、課題の内容上、イラストで示された事柄について詳細な説明を加えられないため、説明は必要最小限のものにとどめてある。従って、指導に当たっては、課題の意図をふまえ十分な工夫と配慮が必要である。」

実際の例として、図8に原本教科書2年生の「漢字の広場」とその部分の盲学校小学部点字教科書編集資料を示す。これを見ると点字教科書では、最小限の語句のみの列挙で、イラストの説明がない。語句の列挙の後には、この語句を使った文章例として、原本教科書と同様に、次のような一文が示されている。

例
「月」曜日、「一年生」を学校の「正」門まで、連れて行ってあげました。

上級生が一年生の手を引き、正門を指さしているイラストの説明がないと「月」「正門」「一年生」の語句から、このような文章を作ることは難しいであろう。次の「火」「文字をつくる」も同様で、「葉っぱ」を手にしている子どもの説明が必要である。このように、この課題に取り組む場合、イラストの情報は必須である。編集資料の配慮事項で述べられている通り、指導者がイラスト

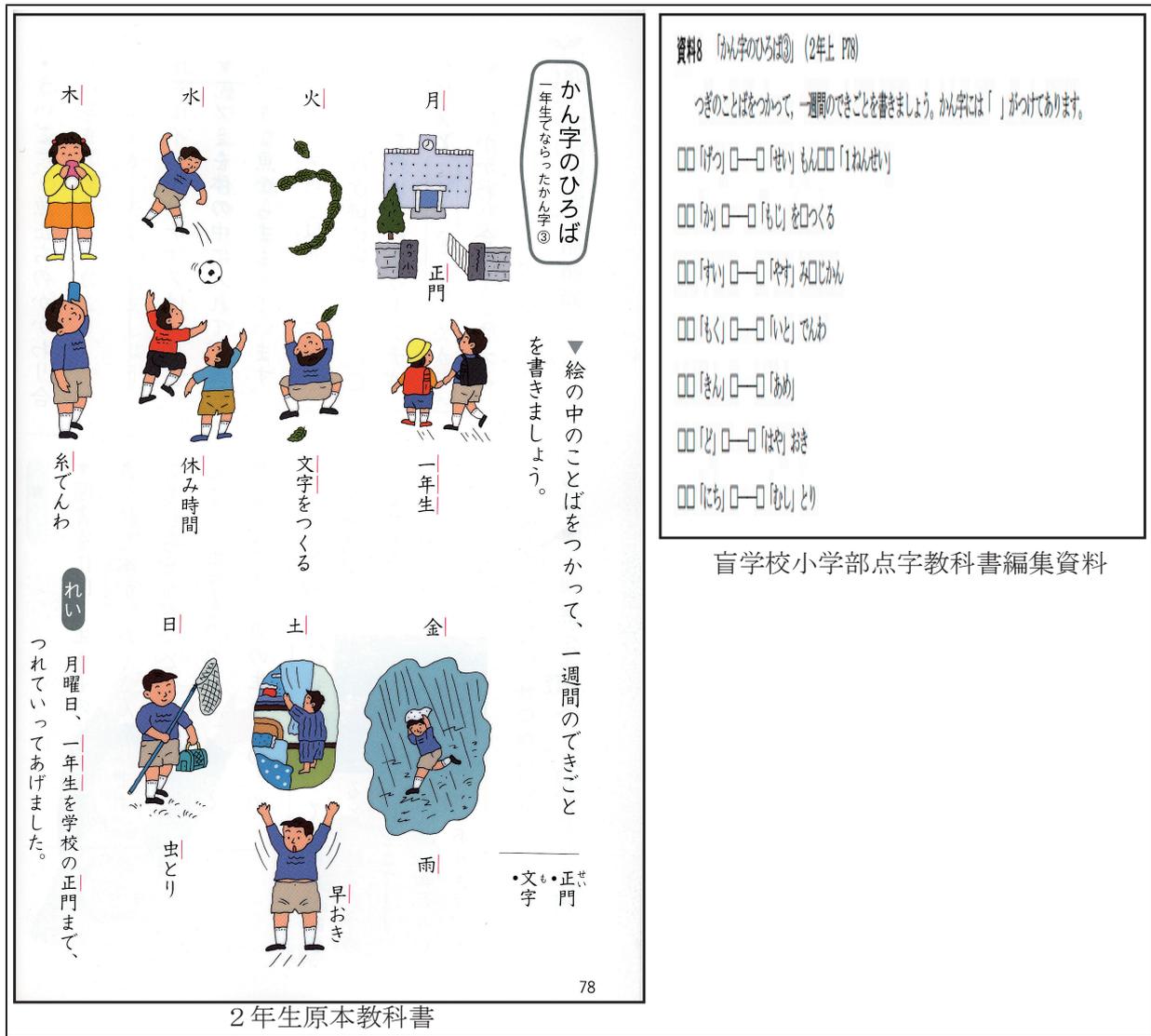


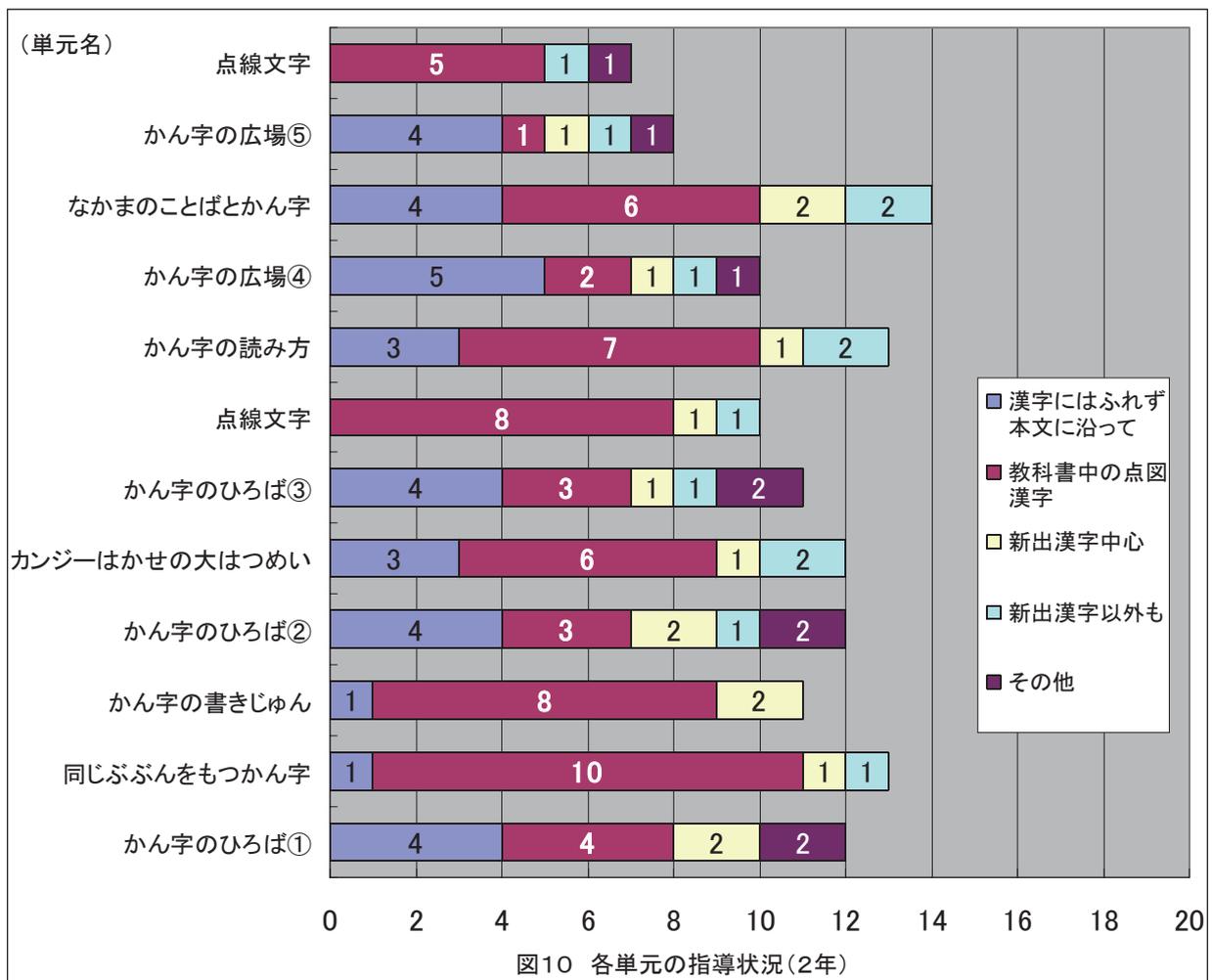
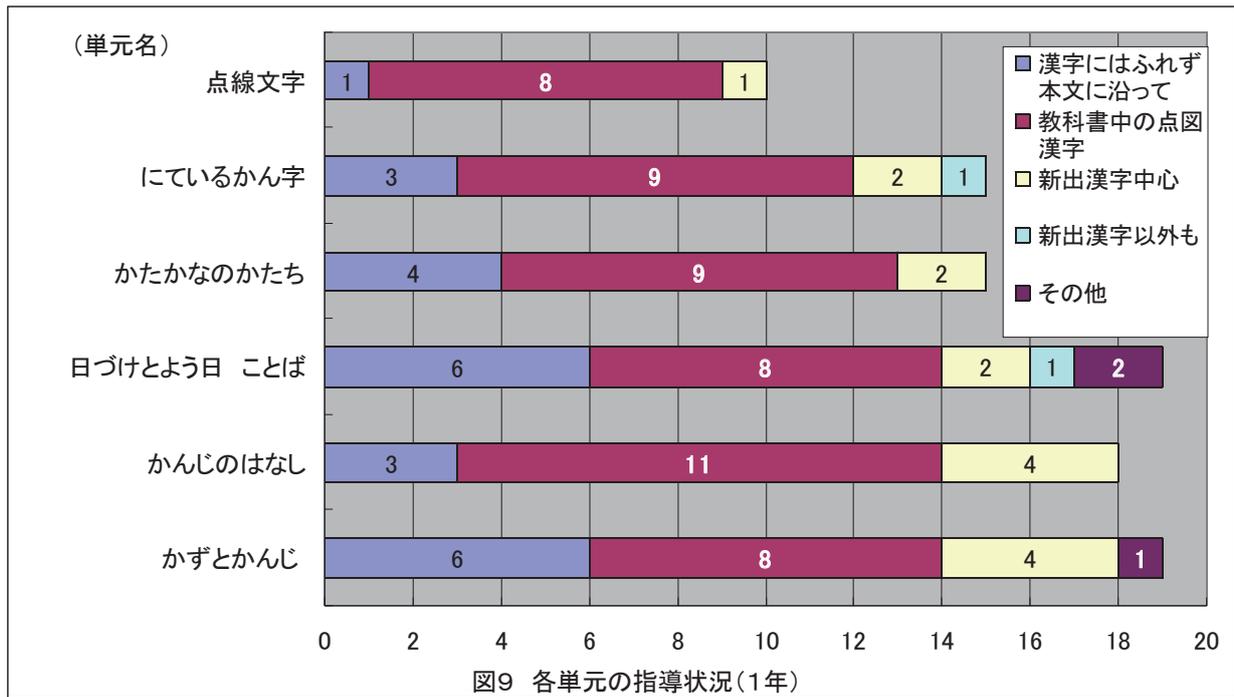
図8 「漢字の広場」 原本教科書と点字教科書編集資料の実際

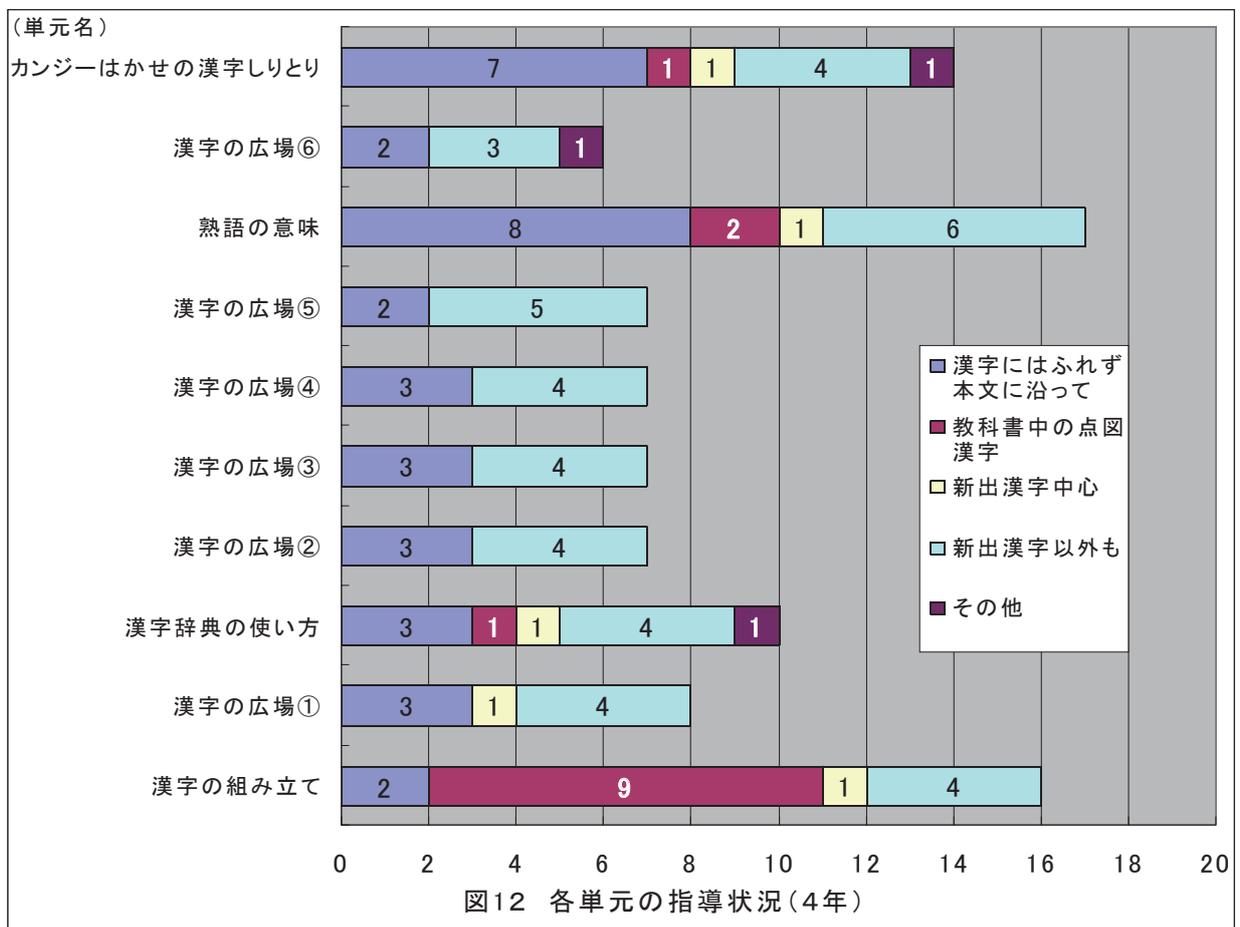
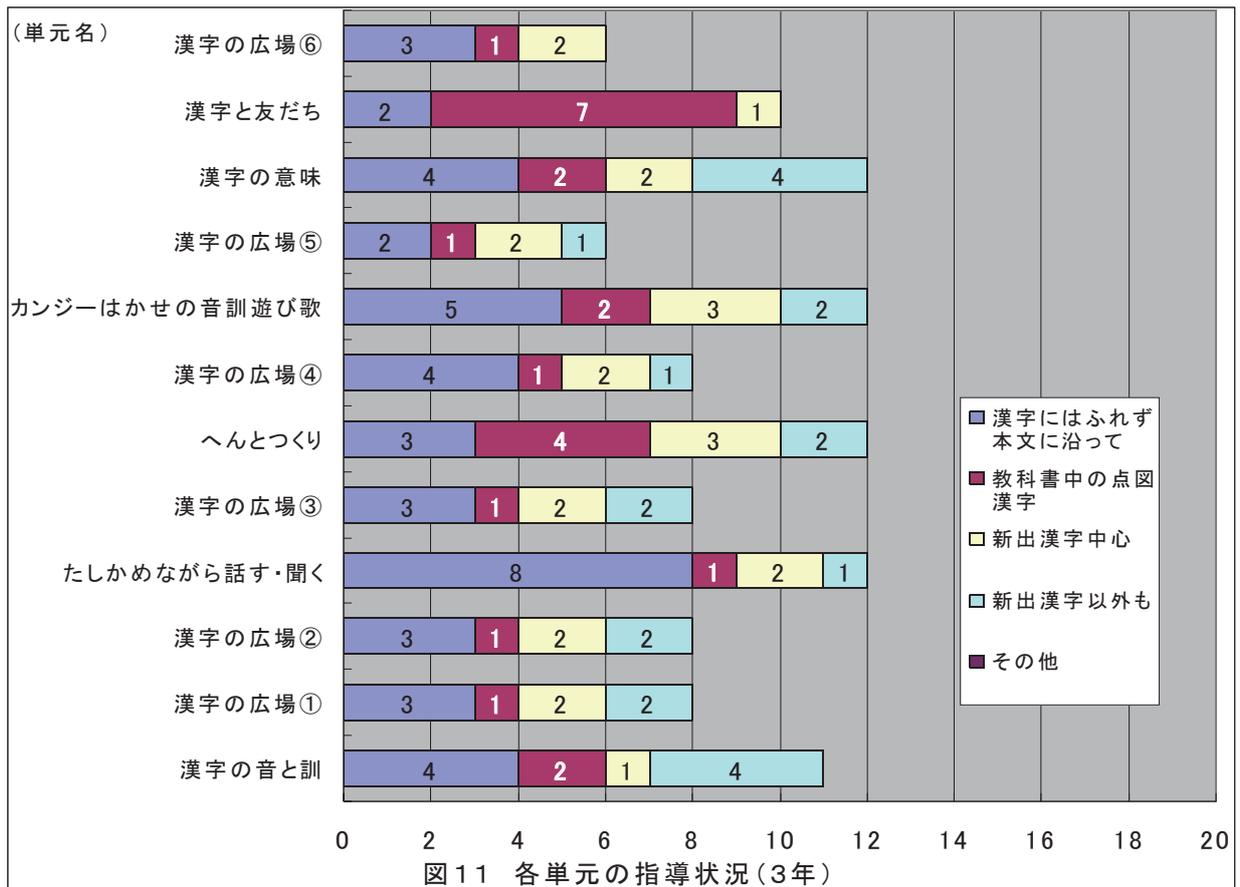
の説明を加える等、何らかの工夫と配慮が必要である。
 では、この「漢字の広場」を指導していると回答した学級ではどのように指導しているのだろうか。この単元を含めて、各単元の指導状況を次に見ていく。

(2) 各単元の指導状況

各単元の指導状況を図9から図14に示す。点字教科書では、その単元によって点線文字が示されているところとないところ、また一部の漢字のみの例示であるところがある。さらに各単元には、指導内容・目標があるので、それによって、当然、指導状況は異なってくる。したがって、この結果を全て一括りにし、その状況の傾向を述べることはできず、個々の単元ごとにその内容・目標に照らし合わせながら丁寧に分析していく必要がある。

点字教科書編集資料によると、点字教科書中の点線文字は、国語の正しい理解を促すために、その基本的な知識となるものを選定して掲載している。では、どのような文字種なのか、各単元ごとの点線文字をまとめたものを表3に示す。





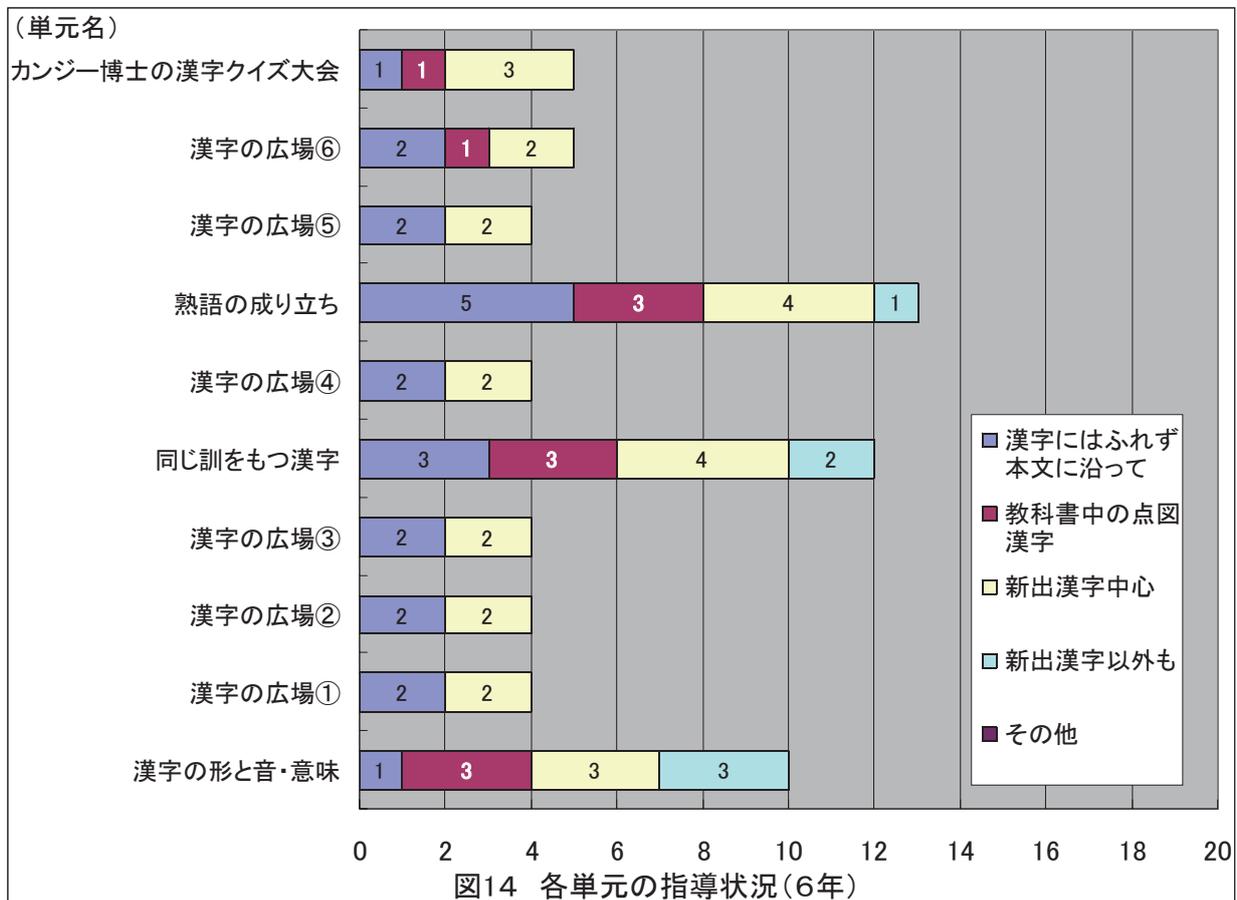
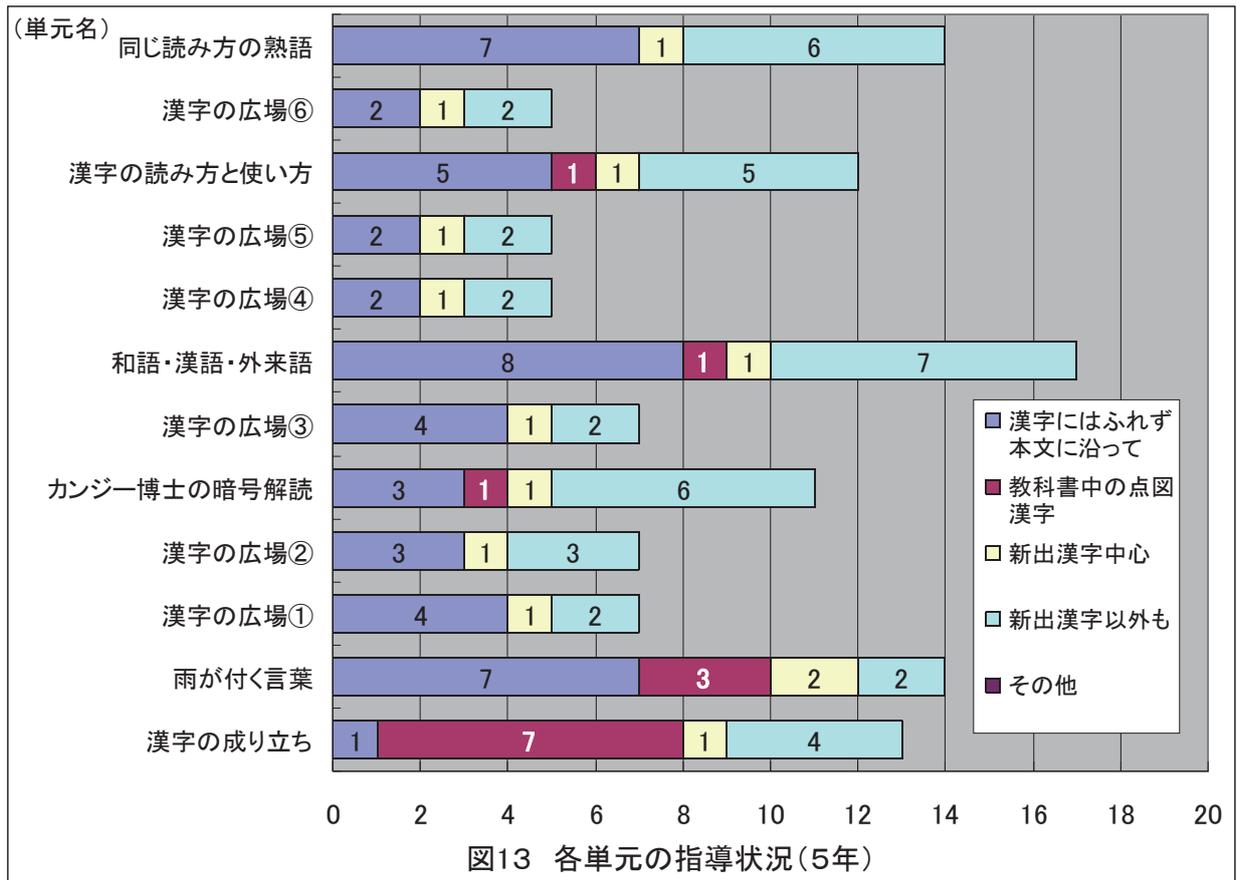


表3 各単元ごとの点線文字

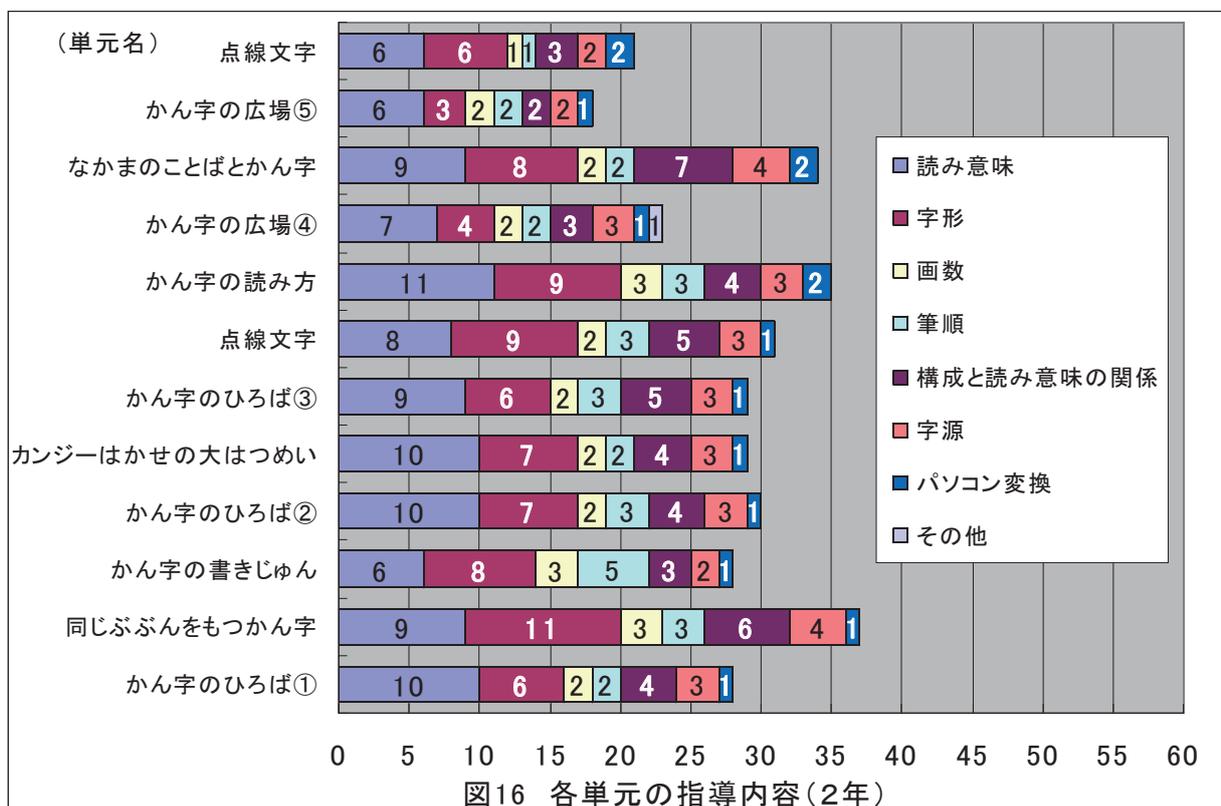
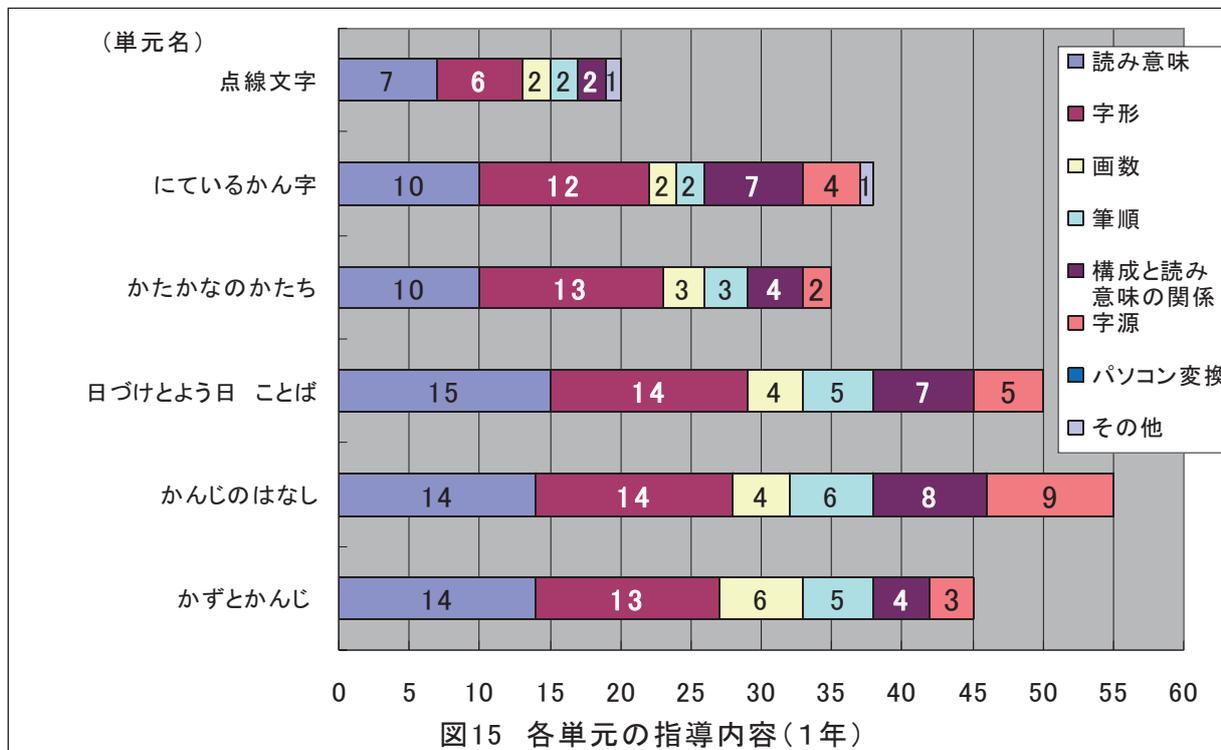
1年生																							
かずとかんじ	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十													
かんじのはなし	山	水	雨	上	下	月	田	日	川	竹 木													
日づけとよう日	日	月	火	水	木	金	土																
かたかなのかたち	か	き	こ	せ	へ	も	や	り	カ	キ コ セ ヘ モ ヤ リ ソ シ ツ ヌ ス ヲ ラ フ ワ ク セ ヒ マ ア													
にているかん字	貝	見	学	字	人	入	木	本	右	石 右 左 土 上													
おぼえておきたいかん字	大	犬	人																				
2年生																							
同じぶぶんをもつかん字	木	林	森	村	本	休																	
かん字の書きじゅん	三	川	十																				
カンジーはかせの大はつめい	門	日	間																				
おぼえておきたいかん字	目	耳	手	足	口	円	文	正	王	玉 男 女 米 先 生 糸 車 虫 草 花													
かん字の読み方	上	下																					
なかまのことばとかん字	百	千	万	父	母	子																	
おぼえておきたいかん字	雨	空	天	弓	刀	牛	魚	肉	言	工 士 立 止 力 出 早 夕 心 青 白 年 中 小 町 丁													
3年生																							
漢字と友だち	山	日	川	月	休	名	自	男	岩	間 荷 宿													
4年生																							
漢字の組み立て	く	さ	かん	むり	う	かん	むり	た	け	かん	むり	あ	め	かん	むり								
	こ	こ	ろ	れ	っ	か	しん	に	よ	う	ま	だ	れ	く	に	が	ま	え	も	ん	が	ま	え
5年生																							
漢字の成り立ち	馬	門	上	本	米	分	粉																
6年生																							
漢字の形と音・意味	求	球	救	貨	花	化	精	静	晴	清	則	測	側	彳	徒								
	往	復	徒	待	後	脳	臓	肺	胃	腸	ハ	ナ	リ										

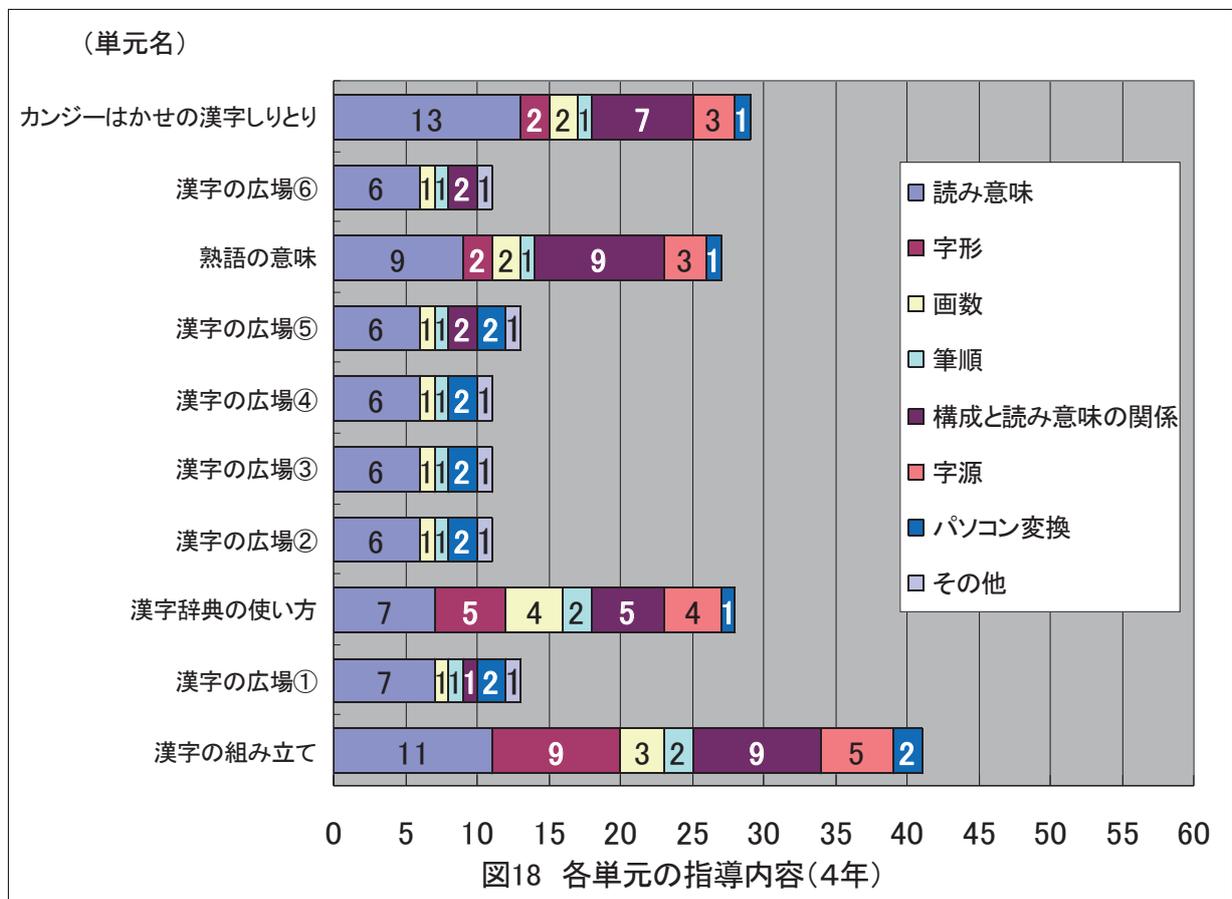
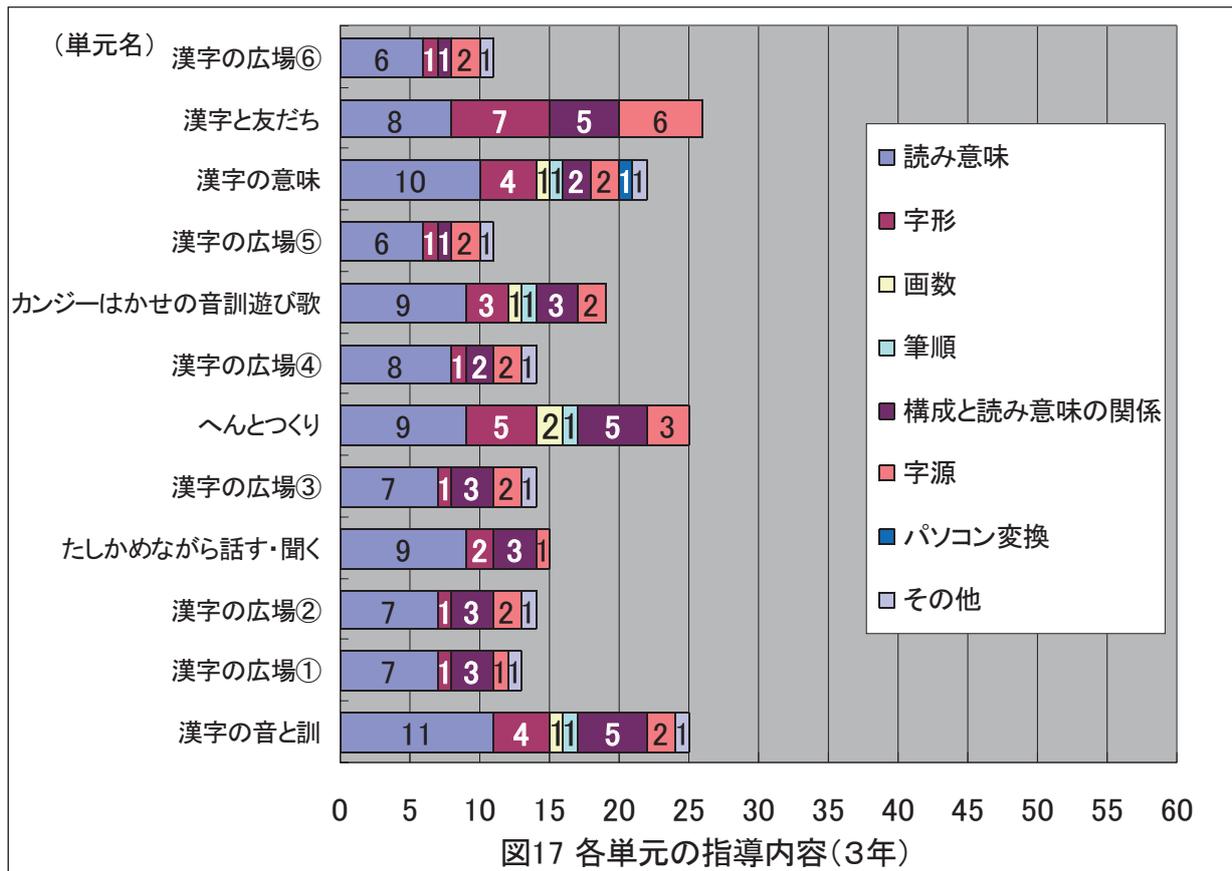
これらを見ると、1年の単元と2年の「かん字のひろば」を除いた単元の全てに何らかの点線文字が示されている。また、1年2巻から2年2巻までの巻末に掲載された「覚えておきたい漢字」の点線文字は、点字教科書編集資料によると、小学校学年別漢字配当の中から、①日常生活の中で字形をもとに語られる漢字、②部首のもとになる漢字、③画数が多いために児童の負担になることのない漢字が選定されている。これら点線文字のある単元の指導では、「点字教科書に点図として記載されている漢字を中心に指導している」ところが半数以上である。しかし、点線文字はあるが、「漢字には特に触れず、本文の内容にそって指導している」ところも少なからずある状況も明らかになった。3年以降になると、点線文字が掲載されている単元は少なくなる。しかしその単元についてはその点線文字を中心に指導しているところが多い。その他の単元については「漢字には特に触れず、本文の内容にそって指導している」ところ、「新出漢字を中心に指導している」ところ、また「新出漢字以外の漢字についても指導している」ところと分かれる。しかし、漢字の意味や音

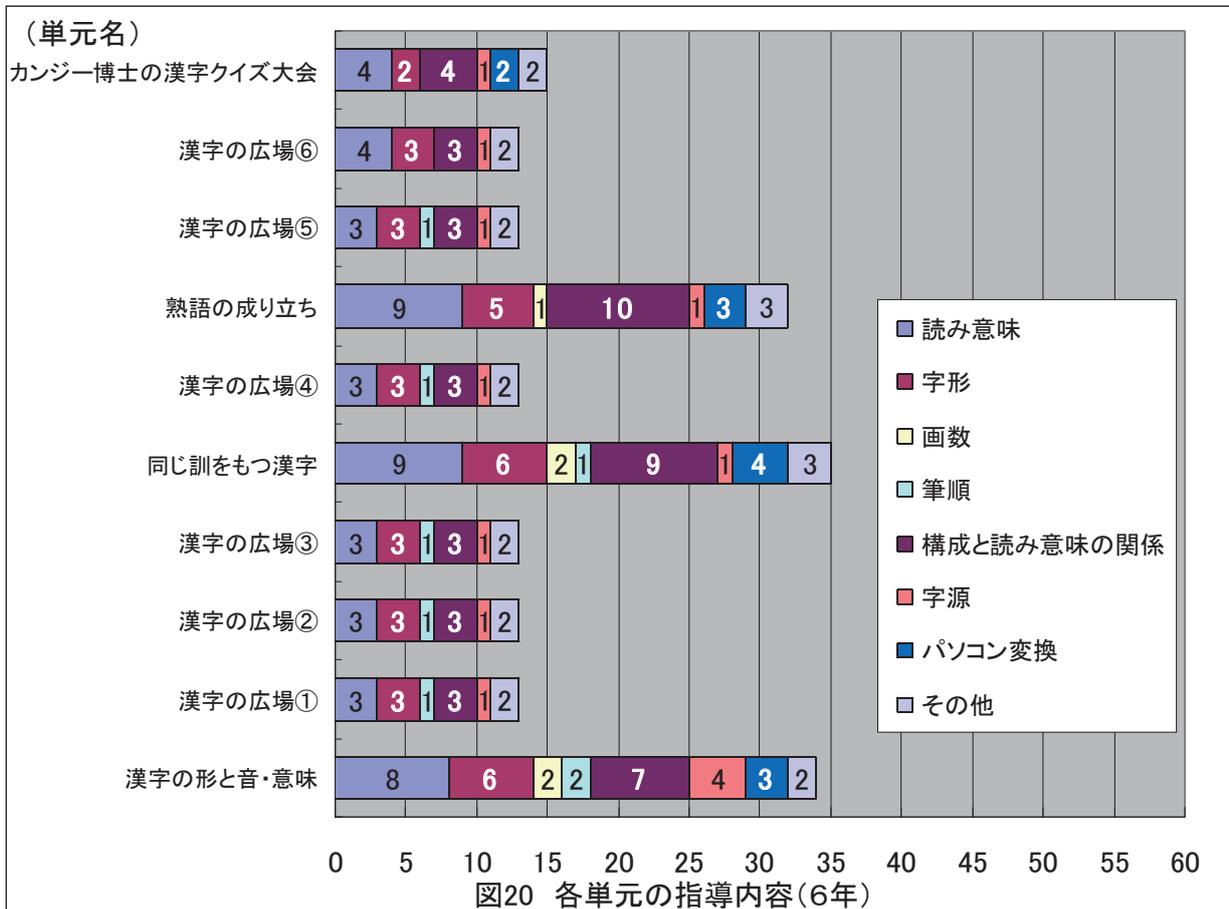
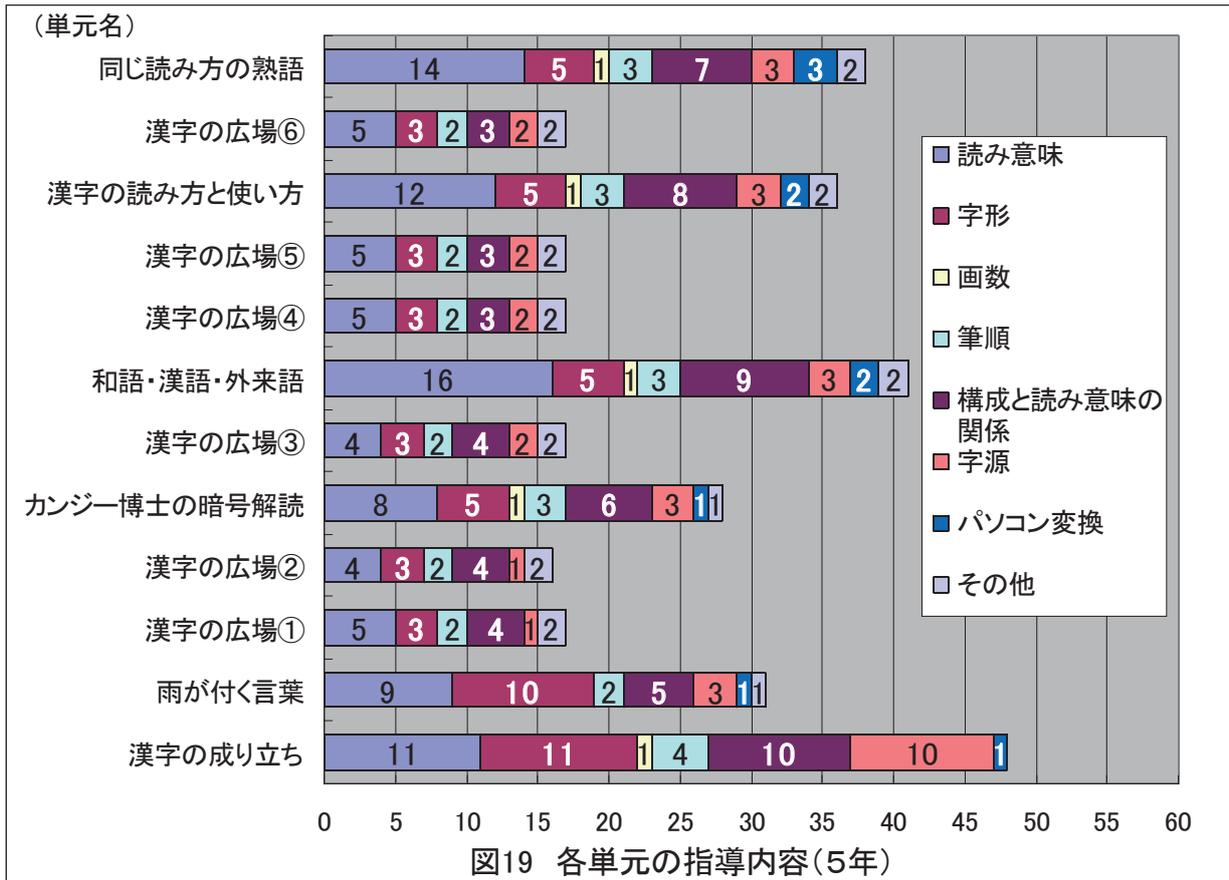
訓、熟語を扱った単元においては、新出漢字以外の漢字にも触れながら指導しているところが若干多い傾向がある。また、「その他」の指導状況としては、その単元の中でも使用頻度の高いであろう漢字を指導者が選んで指導しているというところがあった。

(3) 各単元の指導内容

次に各単元の指導内容を図15から図20に示す。この項目は複数回答可とした。







点字教科書中に点線文字が表示されている単元の多い1年・2年については、(2)指導状況でも述べたように、その点線文字を用いて読み・意味・字形ともに指導しているところが多い。またその漢字の構成と読みや意味の関係を関連づけたり、字源も含めて指導している。画数、筆順についても、1年・2年での指導が他学年に比べると指導しているところが多い。パソコンを用いた指導(漢字に変換しながら読みと意味を指導)は、2年生から一部みられる。6年の「同じ訓をもつ漢字」など音訓を扱った単元においては、パソコンを用いて指導をしているところがあるが、全体的に国語の授業の中で用いることは少ないようである。どの単元も読み・意味の指導を中心としながら、例えば、5年の「漢字の成り立ち」は、さらに漢字の構成とその関係や字源の指導、4年の「熟語の意味」や5年の「和語・漢語・外来語」、6年の「熟語の成り立ち」などは漢字の構成と読み意味の関係について、4年の「漢字辞典の使い方」は字形や画数の指導というように、各単元の目標に合わせた指導を行っている。その他の指導については、その漢字を使った短文作り、辞書の活用、語例や熟語を示す等があがっている。

(4) 補助教材の利用状況

次に各単元での補助教材の使用状況を図21から図26に、また補助教材を使用している場合、その種類について表4から表9に示す。

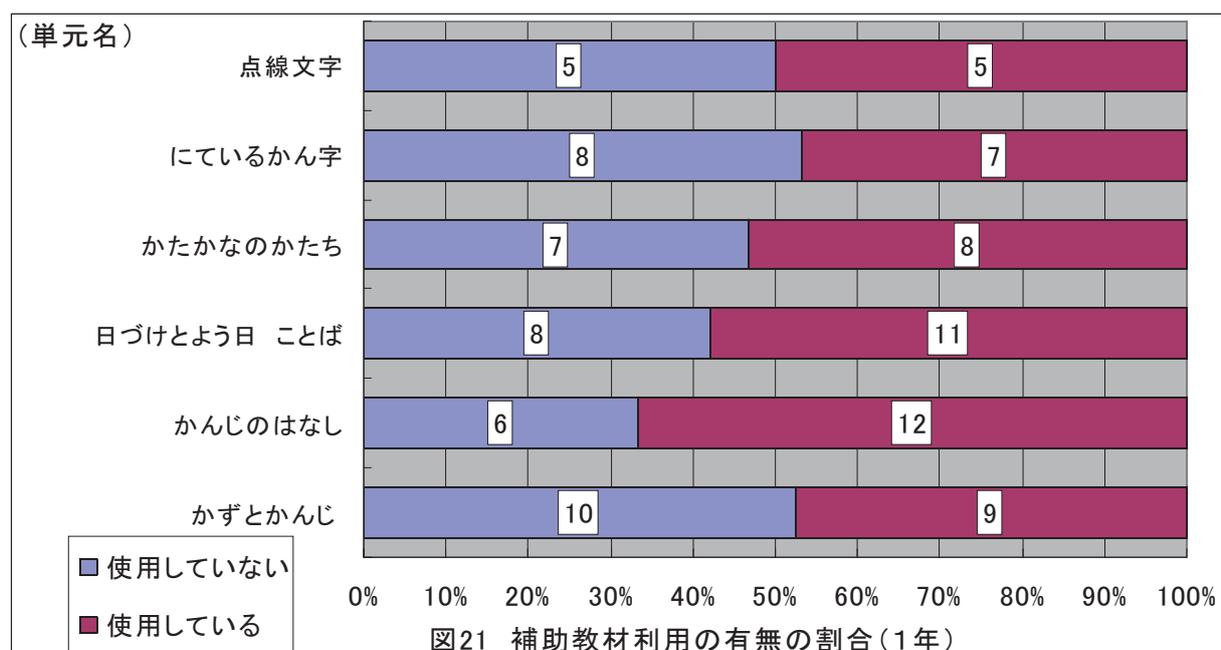


表4 補助教材の種類(1年)

単元名	自作教材				計	既製教材
	立体ホー レスライター	点図	その他			
かずとかんじ	5	3	0	1	9	2
かんじのはなし	4	5	0	1	10	5
日づけとよう日 ことば	4	4	0	1	9	4
かたかなのかたち	4	3	0	1	8	4
にているかん字	4	2	0	1	7	5
点線文字	3	2	0	0	5	3
計	24	19	0	5	48	23

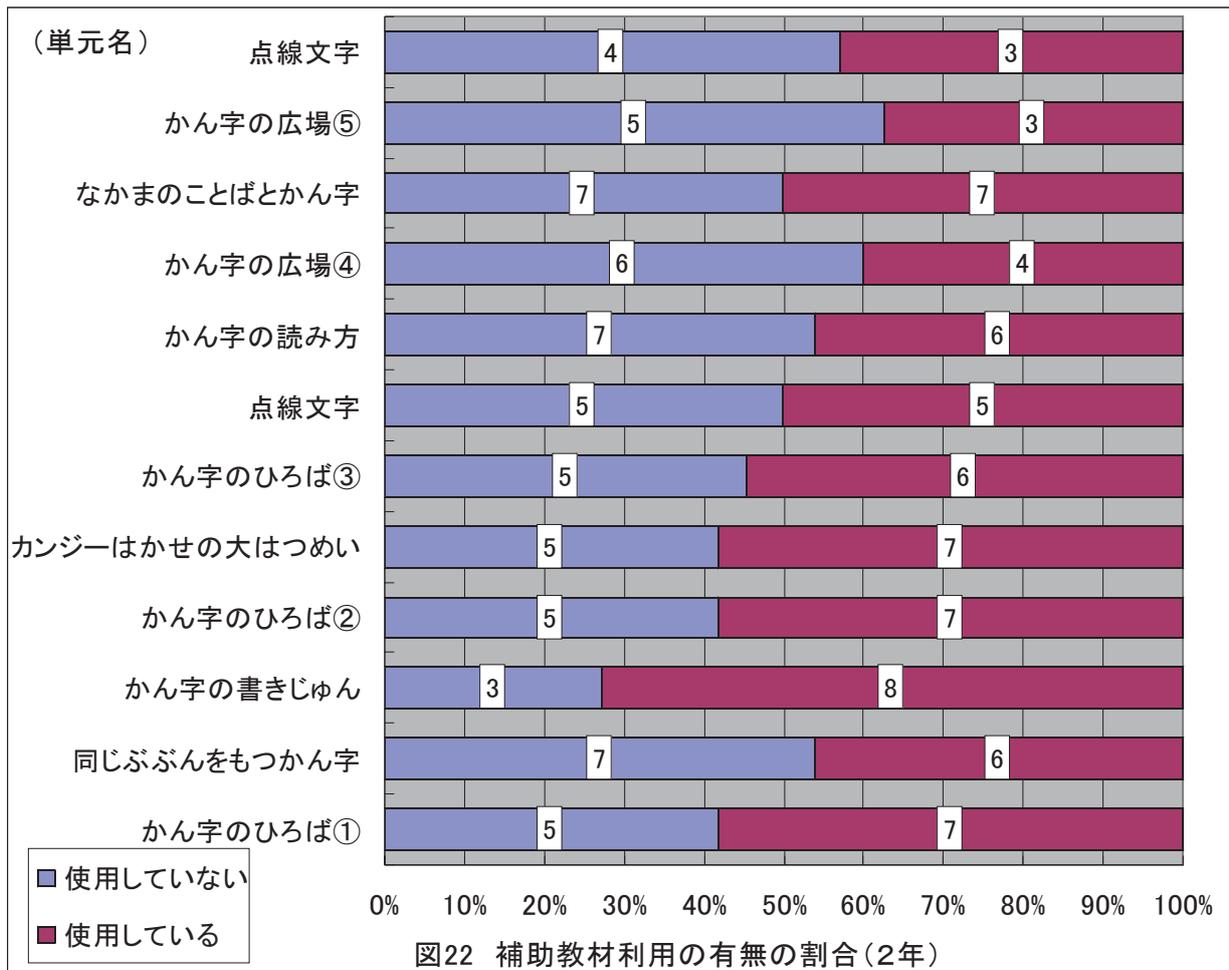


図22 補助教材利用の有無の割合(2年)

表5 補助教材の種類(2年)

単元名	自作教材				計	既製教材
	立体コピー	レーザーライター	点図	その他		
かん字のひろば①	4	2	1	0	7	1
同じぶぶんをもつかん字	3	3	1	0	7	2
かん字の書きじゅん	2	4	1	0	7	1
かん字のひろば②	2	5	1	0	8	1
カンジーはかせの大はつめい	2	3	2	0	7	1
かん字のひろば③	2	4	1	0	7	1
点線文字	1	4	1	0	6	1
かん字の読み方	2	4	1	0	7	1
かん字の広場④	3	2	1	0	6	2
なかまのことばとかん字	3	5	1	0	9	2
かん字の広場⑤	1	2	1	0	4	1
点線文字	0	2	0	0	2	1
計	25	40	12	0	77	15

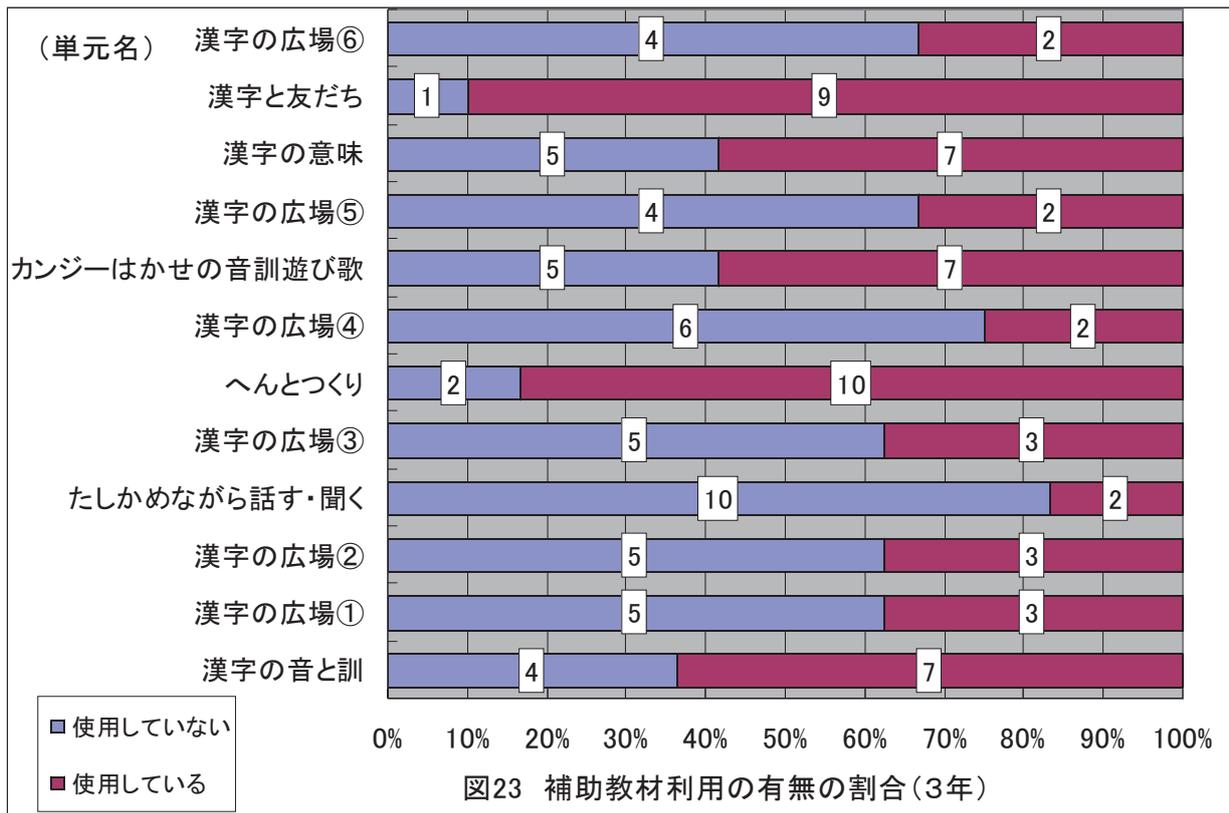


表6 補助教材の種類(3年)

単元名	自作教材					既製教材
	立体コピー	レーザーライター	点図	その他	計	
漢字の音と訓	2	2	1	1	6	3
漢字の広場①	1	1	0	0	2	2
漢字の広場②	1	0	1	0	2	2
たしかめながら話す・聞く	1	0	1	0	2	1
漢字の広場③	1	0	1	0	2	2
へんとつくり	4	1	3	1	9	4
漢字の広場④	0	0	0	0	0	2
カンジーはかせの音訓遊び歌	1	2	0	1	4	4
漢字の広場⑤	0	0	0	0	0	2
漢字の意味	2	2	1	1	6	5
漢字と友だち	2	1	2	0	5	6
漢字の広場⑥	0	0	0	0	0	2
計	15	9	10	4	38	35

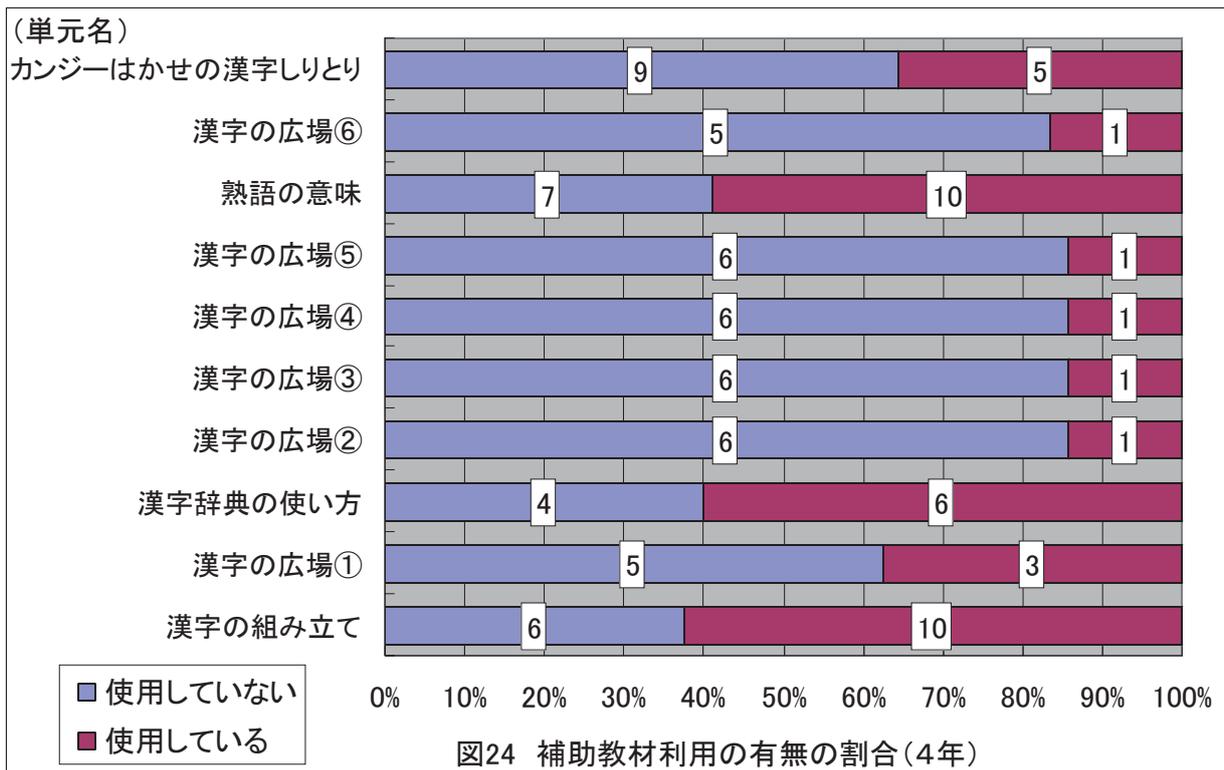


表7 補助教材の種類(4年)

单元名	自作教材				計	既製教材
	立体コピー	レズライター	点図	その他		
漢字の組み立て	4	4	1	4	13	3
漢字の広場①	0	0	0	1	1	2
漢字辞典の使い方	3	2	0	2	7	3
漢字の広場②	0	0	0	1	1	1
漢字の広場③	0	0	0	1	1	1
漢字の広場④	0	0	0	1	1	1
漢字の広場⑤	0	0	0	1	1	1
熟語の意味	3	1	0	2	6	2
漢字の広場⑥	0	0	0	1	1	1
カンジーはかせの漢字しりとり	3	1	0	2	6	2
計	13	8	1	16	38	17

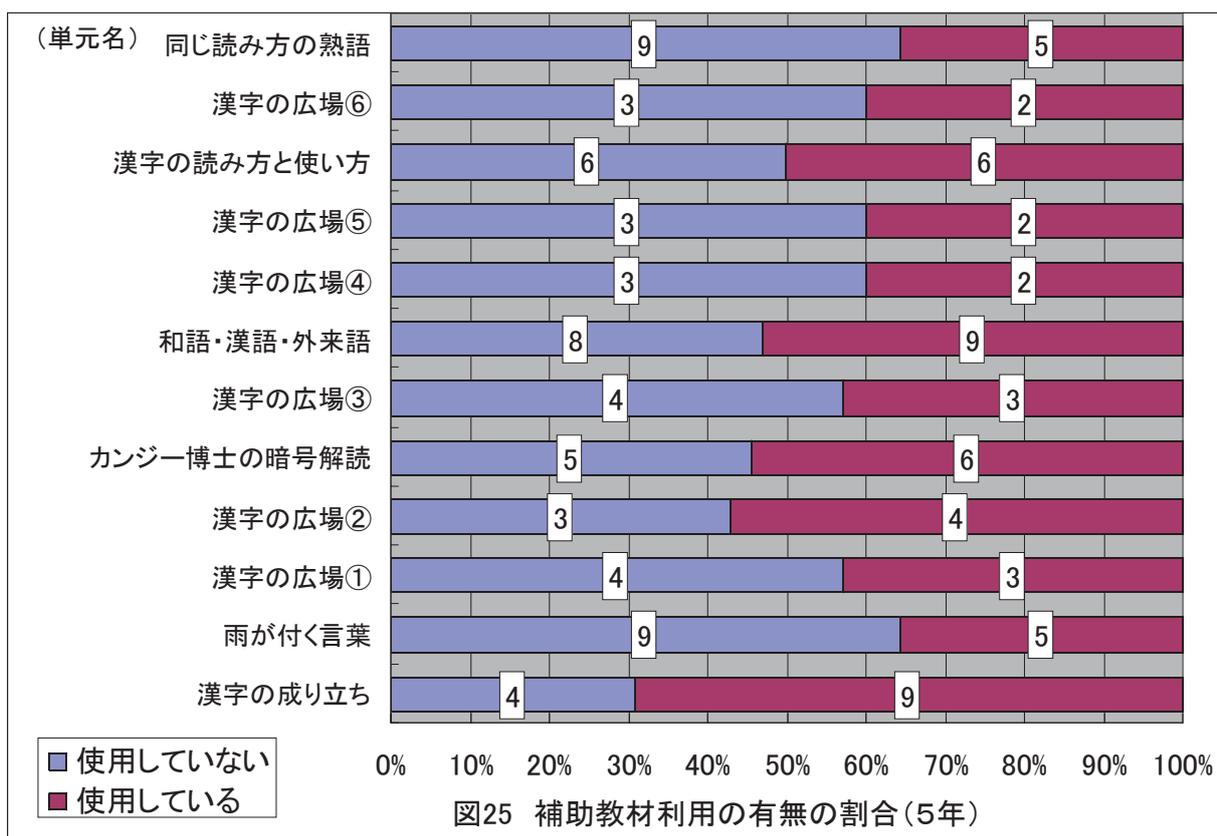


表8 補助教材の種類(5年)

単元名	自作教材				計	既製教材
	立体コピー	レスライター	点図	その他		
漢字の成り立ち	4	4	1	3	12	2
雨が付く言葉	2	2	1	0	5	1
漢字の広場①	1	1	1	0	3	1
漢字の広場②	1	1	1	0	3	1
カンジー博士の暗号解読	2	1	1	2	6	2
漢字の広場③	2	1	1	0	4	2
和語・漢語・外来語	3	2	1	2	8	3
漢字の広場④	2	1	1	0	4	2
漢字の広場⑤	2	1	1	0	4	2
漢字の読み方と使い方	4	1	1	2	8	3
漢字の広場⑥	2	1	1	1	5	2
同じ読み方の熟語	3	1	1	2	7	3
計	28	17	12	12	69	24

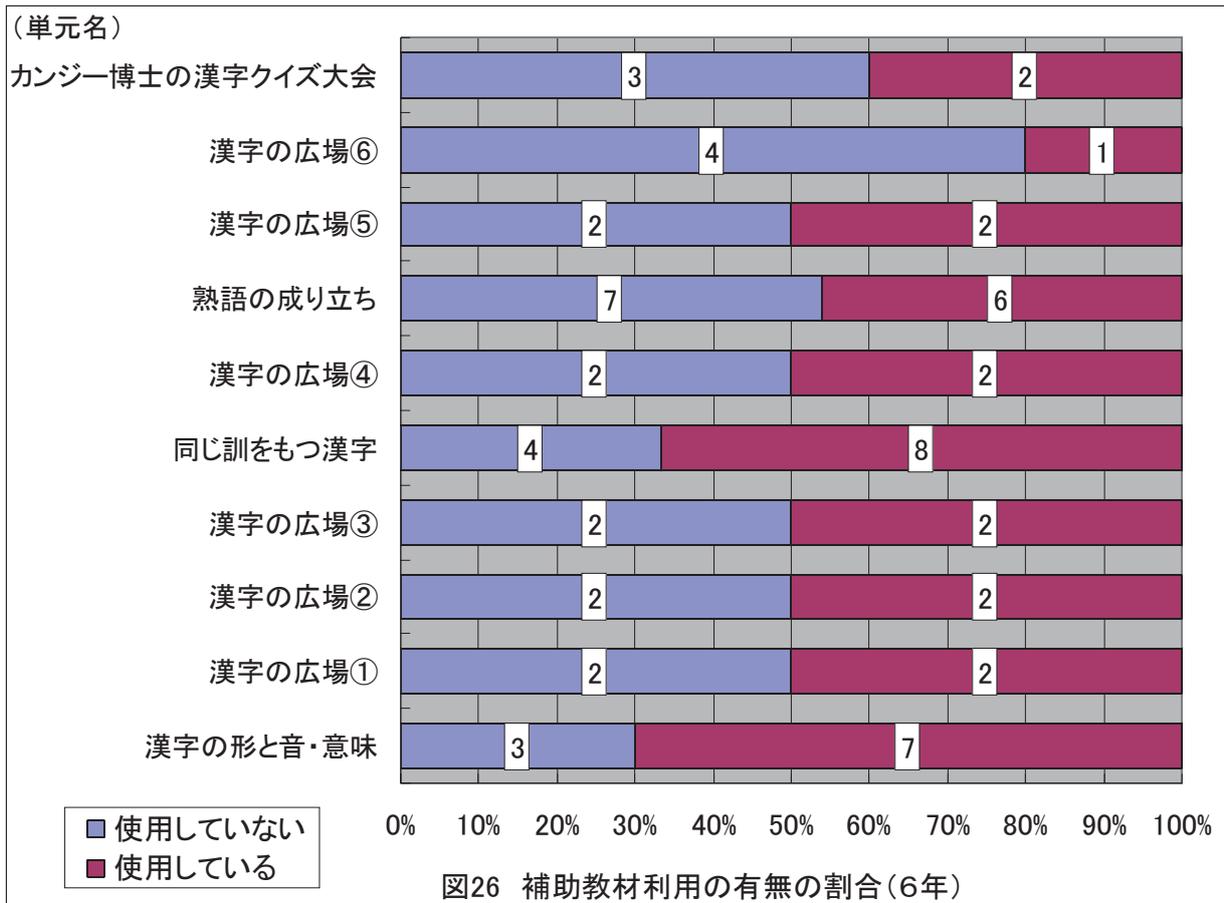


表9 補助教材の種類(6年)

単元名	自作教材				計	既製教材
	立体コピー	レスライター	点図	その他		
漢字の形と音・意味	3	3	1	2	9	3
漢字の広場①	1	0	0	0	1	2
漢字の広場②	1	0	0	0	1	2
漢字の広場③	1	0	0	0	1	2
同じ訓をもつ漢字	3	3	1	2	9	4
漢字の広場④	1	0	0	0	1	2
熟語の成り立ち	2	3	1	2	8	3
漢字の広場⑤	1	0	0	0	1	2
漢字の広場⑥	0	0	0	0	0	2
カンジー博士の漢字クイズ大会	1	0	0	1	2	2
計	14	9	3	7	33	24

補助教材活用の割合が多い単元（90 %から 65 %）は、3年「漢字と友達」、「へんづくり」、2年「かん字の書きじゅん」、6年「漢字の形と音・意味」、5年「漢字の成り立ち」、1年「かんじのはなし」、3年「漢字の音と訓」、4年「漢字の組み立て」、6年「同じ訓をもつ漢字」であった。また、(1)及び(2)の項目で、指導をしている割合が少なく、さらに指導をしているところでも、漢字には触れず本文の内容に沿って指導しているという回答が多かった「漢字の広場」については、全体的に補助教材の活用が少ない。その他の単元についてはおおよそ 50 %前後であった。

これら補助教材を活用していると回答したところのうち、その種類については、既製教材に比べ自作教材の利用が多い。これは点字使用児童に使用することのできる既製教材が少ない現状から当然の結果ではある。自作教材の作成方法については、簡便に作成できる「立体コピー」や「レーザーライター」が多い。コンピューターを使って点図を作成しているところは比較的少ない。また、その他の方法としては、サーモフォームの利用や、残存視力がある場合、一文字を大きくカードにして提示しているところが一部見られた。

(5) 点字使用児童に漢字を指導する際、配慮している点

上記項目についての自由記述を大きく次の5項目に整理した。

① 音・訓・意味を中心に指導し、語彙例を提示する。

音・訓・意味を中心としながら、その漢字を使った文章例や同音異義語等を例示すること。

② 身近な漢字が身に付くようにする。(名前・基本的な漢字等)

全ての漢字を指導するのではなく、例えば日常生活の中でよく出てくる漢字や基本になる漢字、自分の名前や住所に使われている漢字など、字種を選択して指導する。

③ 漢字の構成・字形・成り立ちを指導する。

学年の漢字にこだわらず、漢字の部首や旁など、後で部品として使えるものを優先する。漢字の字形から似ている字をさがしたり、漢字の構成と読みや意味の関わりに触れる。

④ 興味・関心がわくような工夫をする。(成り立ちの説明・漢字カード・パズル・ゲーム等)

点字使用の児童は日常的に漢字を使用していないので学習の定着が良くなかったり、興味関心がわきにくく継続しにくい。そこで、楽しく取り組めるような工夫を心がける。

⑤ 漢字指導導入前に縦・横・斜めの線をレーザーライターで書いたり・触ったりする指導を行う。

漢字の形を触察したり、レーザーライターで書いたりすることが漢字指導の過程で必要になるので、その前に十分にその基本となる指導をしておく。

(6) 国語の授業以外での漢字指導の有無（行っている場合の時間帯、時間数、内容）

国語の授業以外での漢字指導は、①朝の会や特別活動など、学校生活全体で気が付いたときに行っているところ、②自立活動の時間や③家庭学習でおこなっているとの回答があったが、全体的に授業以外に行っていないとの回答や無記入のところが多かった。時間数や内容については、他に指導すべき内容がある等の理由から、あまり行われていない実態が明らかになった。

(7)その他、漢字指導に関する課題

以下に漢字指導に関して、各指導者が課題に思っていることの代表的なものをあげる。

<漢字指導に関する課題>

- ・点字の習得も不十分であり、漢字の学習の時間を持つことが難しい。
- ・十分な時間が必要であるがその確保が難しい。
- ・教科書の内容を指導するのに精一杯で漢字に時間をかけられない。
- ・教材作りが追いつかない。
- ・交流教育を行っているので交流校の進度に合わせるように漢字指導を行わなければならない。補助教材が欲しい。
- ・「漢字の広場」は墨字教科書では絵と一緒に取り扱われており、点字教科書にした場合、あまり文脈がなく扱いにくい。どのようにしたら意欲的に学習を進められるのか。
- ・触察能力が発達しないと全盲児童に漢字を教えることは難しい。
- ・限られた時間なので、内容を精選していけると良いと思う。その基準が欲しい。
- ・小学校で扱う漢字を全て指導することは時間的に難しいし、点字を使用している児童には負担になる。どの字を指導すべきか、どんな順序で指導すれば効果的か。
- ・学年が進むに従ってだんだん漢字の形が複雑になり、分かりにくくなっていく。どうすれば興味を持って学んでくれるのか、どう工夫すれば良いのか。
- ・目的意識を持たせにくい。
- ・使う機会があまりないので知識として定着しにくい。
- ・パソコンで漢字変換することができるようになるためにはどのような力が必要か。どのように指導していったらよいのか。
- ・系統的に漢字指導ができない。
- ・どの程度の学習が必要なのか。
- ・別冊で漢字の資料編があると良い。
- ・系統的に指導できる資料集が別冊で欲しい。

これらの課題を整理すると、指導時間や教材作成時間の確保と指導方法に苦慮している実態が分かる。

盲学校点字教科書においてはその性格上、指導者が補助教材等を活用しながら、その内容を補うような配慮と工夫が必要である。しかしこれら(1)から(7)の項目の結果をみると、漢字指導の必要性は感じながらも、漢字を扱った単元を指導していないところや、漢字には触れずに本文に沿った指導に終わっているところ等があり、指導時間や教材作成時間の確保や、指導法等に課題を抱えている実態が浮き彫りになった。

これらの実態を考えると、効率よく学習できる系統だった指導プログラムや教材が切に望まれる。また、点字教科書とは別に各単元の補助教材を載せた漢字学習に特化した冊子や、点字使用児童を指導する場合の配慮点が記載された指導事例が含まれた学習指導書も必要ではないだろうか。

第4章 プログラム及び教材を活用した実践事例

ここでは、本プログラム及び教材を盲学校小学部国語の授業で活用した事例を紹介する。点字教科書を用いて学習している児童1名の5年から6年にかけての指導のうち、4単元を事例としてあげる。指導を通して漢字力の習得がどのようになされたのか、プログラムや教材の有効性、また今後の課題等も含めて後段で考察する。(この章は研究協力者の熊本県立盲学校の森崎洋子教諭、熊本県教育委員会の吉田道広指導主事が主に担当した。)

I. 事例の概要

1. 対象児童について

対象児童が小学部5年(平成17年度)～6年(平成18年度)在籍時に指導を実施。

普段は点字を使用しているが、墨字(普通文字)に対する関心も高い。パソコンを使ってひらがなやカタカナ、漢字を交えた文を書くことができ、表面作図器(レーズライター)を使って絵や文字を書く活動や触察にも興味を持ち、意欲的に取り組む様子が見られる。

<指導開始時の実態>

(1) カタカナ実態把握テスト(平成17年9月)

カタカナ46文字の字形の理解について、実態把握を実施。

方法は、点線文字(点図で作成した5cm程度の文字。以下同様。)で表したカタカナを児童が触察した後に、その文字が表す音を答えさせる。

結果は、46文字中、36文字を答えることができた。

(2) 基本的漢字実態把握テスト(平成17年9月)

「点字使用者の漢字学習プログラム」の第2段階及び第3段階において基本的漢字として取り上げられた漢字184字について実施。

方法は、点線文字で表された漢字を児童が触察した後に、その漢字の読みを答えさせる。

結果は以下の通り。

- ・第2段階 44字／113字
- ・第3段階 10字／71字
- ・合計 54字／184字

(3) 読書力診断検査(平成17年9月22日実施)

「教研式全国標準読書力診断検査 小学校高学年用(5,6年)」(社団法人日本図書文化協会制作、株式会社図書文化社発行)を、点訳して実施。

本検査は、第1部「読字力」、第2部「語い力」、第3部「文法力」、第4部「読解・鑑賞力」の4つの下位テストに分かれており、各部とも5段階評価で3が標準である。第1部は漢字の読みに関する下位テストであるため、第2部～第4部を実施した。検査は、通常の1.5倍の時間で行った。

結果は以下の通りである。

- 第2部 語い力 評価段階4
- 第3部 文法力 評価段階3
- 第4部 読解・鑑賞力 評価段階4
- 第1部をのぞく総合評価3

2. 漢字指導について

(1) 指導期間

平成17年9月～平成18年10月

(2) 指導を行った単元

平成17年度（小学部5年）

- ① カンジー博士の暗号解読
- ② 漢字の広場 4年生で習った漢字③
- ③ 和語・漢語・外来語
- ④ 漢字の広場 4年生で習った漢字④
- ⑤ 言葉の組み立て
- ⑥ 漢字の広場 4年生で習った漢字⑤
- ⑦ 漢字の読み方と使い方
- ⑧ 漢字の広場 4年生で習った漢字⑥
- ⑨ 同じ読み方の熟語

平成18年度（小学部6年）

- ① 漢字の形と音・意味
- ② 漢字の広場 5年生で習った漢字①
- ③ 漢字の広場 5年生で習った漢字②
- ④ 漢字の広場 5年生で習った漢字③
- ⑤ 同じ訓をもつ漢字
- ⑥ 漢字の広場 5年生で習った漢字④

(3) 指導内容及び指導方法

漢字の指導は主に国語の言語教材において行った。「漢字の広場」は、絵から想像を広げ、これまでに習った漢字を使って文や文章を作っていく題材である。ここでは、教科書に取り上げられている漢字（言葉）を使って文章作りを行った後、取り上げられている漢字の中で、特に基本漢字及び基本漢字の単語家族である漢字を中心に指導を行うようにした。「漢字の広場」以外の単元は、同音異義語や複数の読み等の漢字の知識を深め、言葉に関する興味関心を高める題材であり、ここでは、単元の内容に添って言葉の学習を行いながら、「漢字の広場」と同様に、基本漢字及び基本漢字の単語家族である漢字を中心に指導を行うようにした。

これらの漢字の学習では、読み（音読み、訓読み）、字形、部首、成り立ち、書き順、どのような熟語に使われるかについて学習をした。教材は、主に漢字学習プログラム教材とレーザーライターを使用し、漢字が親字である場合は、その単語家族についても指導を行った。

(4) 指導にあたっての配慮点、留意点など

- ・児童が触察で字形を確認した後、漢字の成り立ちの説明を行うようにした。へんやつくり、漢字のもつ意味や読み、どんな熟語に使われるかなどの説明は、漢字の成り立ちに関連づけて行うようにした。その際、教師が一方的に説明するのではなく、児童とのやりとりの中で、児童自身が気づいたり考えたりできるような言葉かけを行うようにした。
- ・特に基本漢字については、点線文字を触って字形を確認するだけでなく、レーザーライターを使って実際に書いて確認するようにした。
- ・児童が楽しみながら主体的に学習に取り組むことができるように、ゲームやクイズなどの活動ができるだけ多く取り入れるようにした。

Ⅱ. 指導事例

<事例1> 平成17年度2学期

1. 単元名 漢字の広場 4年生で習った漢字③

2. 指導期間 平成17年10月18日～24日

3. 指導時数 4時間

4. 単元について

本単元は、第4学年に配当された漢字を含む言葉（熟語）と絵が提示されており、それらを手がかりにして、4年生までに配当された漢字を使いながら文章を書き、物語を創作していくものである。点字の教科書では、絵はなく言葉のみ提示されており、提示された言葉は、漢字の部分がかっこで囲まれている。

5. 単元の目標

- ・提示された言葉と絵を手がかりに、物語を想像しながら創作することができる。
- ・漢字の字形や部首、成り立ちなどから漢字の持つ意味を知るとともに、意味を考えながら漢字を含む言葉を文や文章の中で正しく使うことができる。

6. 学習計画

単元の内容に沿った学習は、項目の前に「・」で、今回の漢字指導として加えた内容については「○」を付けて示す。

(1) 1／4時

- ・立体コピーで作成した図と教科書に提示された言葉を参考にして物語を作る。
- ・作った物語を発表する（録音）。
- ・自分の発表（録音）を聞き、表現の仕方や言葉の使い方などを推敲する。
- ・他の作品を聞いたり読んだりして、様々な構成や表現の方法を知る。

(2) 2～4／4時

- ・教科書に提示された言葉（熟語）の意味を確認する。

○提示された漢字について知る（漢字の意味や読み、形、へんやつくり、成り立ち、どのような熟語に使われているかなど）。

○学習した漢字の親字、同じ親字を持つ他の漢字（単語家族）について知る。

7. 使用教材

(1) 立体コピーで作成した図

教科書の挿絵を、児童が触って分かりやすいように加工したもの。それぞれの絵は別々のカードにし、裏にマグネットつけてホワイトボードに取り外しができるようにした。



(2) 漢字学習プログラム教材（点線文字）

児童が触って、漢字の成り立ち、形、読みを知るために使用。

(3) 教師が作成した物語

(4) レーズライター

(5) 漢字字典（公文）

漢字の成り立ち、読み、へんとつくり、漢字のもつ意味、熟語など、より詳しい内容を児童に伝えるために使用。

(6) ICレコーダー

児童の発表を録音し、児童自身が聴いて確認するために使用。

8. 学習活動及び児童の様子、教師の支援

学習活動	児童の様子及び教師の支援（C：児童、T：教師）
<p>①教科書を読み、提示された言葉と絵を参考にしながら、場面をイメージする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と一緒に立体コピーで作成した図を触りながら、どのような場面や状況なのか説明を行った。動作語などについては、児童と一緒に実際に動作を交えながら説明を行うようにした。児童も、絵を触りながら「人がこうしているね」と自分で動作するなど、自分なりに場面をイメージしたり、「これは何？」などと教師に質問し、楽しんで取り組む様子が見られた。 ・児童が言葉の意味を理解しているかどうか、その都度確認するようにした。児童は、ことばの意味をよく考えて自分の言葉で説明することができたが、分からない言葉については、教師が正しい意味を伝え、ノートに書くように指導した。

<p>②場面ごとに提示された言葉を使って短文を書き、物語のあらすじを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自身で考え、物語を作りやすくするため、場面ごとに絵を並び替えたり、また、短文を一つ書き終えるごとに絵をボードからはずしていったりするなど、場面が抜けることがないように工夫して取り組む様子が見られた。 ・児童が漢字の意味を確実に捉えることができるよう、他の読み方や使い方についても伝えるようにした。
<p>③物語を発表し、自分の発表を聞いて、表現や言葉の使い方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ＩＣレコーダーで録音した自分の発表を聞きながら、文章を確認したり自ら言葉の使い方を振り返ったりすることができた。
<p>④提示された漢字の意味や読み、形、へんとつくり、成り立ち、どのような熟語に使われているかなどを知るとともに、学習した漢字の親字、同じ親字を持つ他の漢字について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書に提示された言葉の漢字を知っているか確認 ・特に、提示された漢字が既習の漢字であるときは、漢字の形、訓読み、どんな熟語に使われたかなど、覚えていることをたずねた。児童が分からない場合は、まず、熟語の意味をたずね、熟語から漢字の意味を考えるように促した。 ○ 漢字の字形 ・児童が知っている場合、レーザーライターで書くようにし、知らない場合は点線文字で確認してからレーザーライターで書くようにした。児童は、点線文字の漢字を触り、形が似ていて知っている漢字を言ったり、漢字を構成している部分を言ったりしながら書く様子が見られた。児童が書いたり触ったりして確認した後に、児童が似ているといった漢字との違いを伝えるようにした。 C : 「児童会の『カイ』は『あう』？会社のカイ？」 T : 「そうそう、すごい！漢字、書ける？」 C : 「合」という字を書く。 T : 「おいしい！」 C : 「あれ？あつ、思い出した」と言って、「(会の二の部分が一になっている字)」を書く。 T : 『会』の点線文字を提示しながら「ここが一じゃなくて二だね」 C : 点線文字で字形と読みを確認する T : 『会』の成り立ちを説明する T : 「会は、『人に会う』ときの『あう』で、合は、『意見が合う』等に使うときの『あう』」 ・レーザーライターで書く際は、自ら書き順や線の交差の仕方などに気をつけながら書き、その後、書いた字を触って確認する様子が見られた。 ○ 漢字の成り立ち ・漢字の字形を確認しながら、成り立ちについて説明するようにした。 ・成り立ちの図があるときは、図を丁寧に触り、楽しみながら意味や読みを推測しようとしていた。 ○ 漢字の意味や読み、使われている熟語 ・字形の確認や成り立ちとともに、漢字のもつ意味や読みを伝えるようにし、また、どのような熟語で使われるかを説明するようにした。学習を

繰り返すうちに、児童自身も、熟語の意味から、構成している漢字を考えようとする様子が見られるようになった。

○ 単語家族や似た漢字

- ・点線文字で字形を確認する際、単語家族を自分から触って確認したり、読みや教師の説明から自分で漢字の意味を考え、どんな熟語に使われるか考える様子が見られた。

C : 『会』を確認した後、『絵』を触る

C : 「右に『会』がついているね」

T : 単語家族について説明

C : 「絵画のカイだ。そういえば、パソコンで変換のとき言ってる。」

T : 合の点線文字を提示し、合の漢字の意味を説明する。

C : (読みを触って) 「ゴウって書いてある」

T : 「合同とか合計とかのゴウだよ」

C : 「あっ、『合わせる』って意味だよね」

- ・熟語を構成している漢字を考えると、訓読みを意識するような言葉かけを行うようにした。

T : 『求』『球』『救』の3つの漢字(点線文字)を提示する

C : 「全部キュウって書いてある」

T : 「この中で、救助のキュウはどれでしょう？」

C : 『救』を選ぶ

T : 「どうして？」

C : (訓読みを触りながら) 「救助って助けたりすることでしょ。この字は『すくう』って読みもあるから」

○ へんやつくり

- ・提示された言葉を読んで、自分が知っている同じ読みの漢字を言う様子がよく見られた(副と福など)。

- ・「副」の学習の際、単語家族である「福」の学習を行った。『りっとう』『しめすへん』など、部首のもつ意味についても説明を行うようにした。

C : 「副会長のフクって、節分の『福は内』のフク？」

T : それはこっちの方(点線文字「福」を示す)

T : 「副委員長や副社長、薬の副作用とか」

C : 「あっ、そのフクなんだ。(副の点線文字を触りながら) 訓読みはないね」

T : 「副の左の部分、親になる字は、とっくりを表しているんだよ。とっくりって知ってる？」

C : 「お酒飲むときに使うこんな(手で形を作る)ちっちゃいやつ」

T : 副の成り立ちを説明する

C : 「じゃあ、こっち(福)は？」

T : 「この字の部首は何か知ってる？」

C : 点線文字を触りながら「カタカナのネだけど・・・。何だっけ。」

T : 「これは、しめすへん」しめすへんのもつ意味を伝える。

<事例2> 平成17年度2学期

1. 単元名 漢字の読み方と使い方

2. 指導期間 平成17年12月13日～15日

3. 指導時数 4時間

4. 単元について

本単元は、ゲームを通して、「間」（人間、時間）のように二つ以上音がある漢字の存在を知り、その使い分けを習得できるようにするとともに、「今日（きょう）」のように特別な読み方をする言葉があることを知る。

5. 単元の目標

- ・複数の音をもつ漢字の読み方や特別な読み方をする言葉について知り、言葉への関心を深める。
- ・漢字の字形や部首、成り立ちなどから漢字の持つ意味を知るとともに、意味を考えながら漢字を含む言葉を文や文章の中で正しく使うことができる。

6. 学習計画

単元の内容に沿った学習は、項目の前に「・」で、今回の漢字指導として加えた内容については「○」を付けて示す。

(1) 1 / 4時

- ・同じ漢字であっても熟語によって読み方がちがうことがあるということを知る。
- ・問題の解き方を知り、教科書の問題（一つの漢字にいろいろな音）に取り組む。
- 漢字の確認をする。

(2) 2 / 4時

- ・教科書の問題（一つの漢字にいろいろな音）に取り組む。
- ・特別な読み方をする言葉について知る。
- 漢字の確認をする。

(3) 3～4 / 4時

- ・教科書の問題（特別な読み方をする言葉）に取り組む。
- 漢字の確認、単語家族の確認をする。
- 練習問題（同じ漢字が異なる読み方で複数回使われている文章の中で、どれが同じ漢字であるか考えるもの）に取り組む。

7. 使用教材

(1) 漢字学習プログラム教材（点線文字）

児童が触って、漢字の成り立ち、形、読みを知るために使用。

(2) 点線文字カード（漢字カード、矢印カード）

(3) レーザライター

(4) 漢字字典（公文）

漢字の成り立ち、読み、へんとつくり、漢字のもつ意味、熟語など、より詳しい内容を児童

に伝えるために使用。

(5) 練習問題（４、５時間目に復習のために使ったもの）

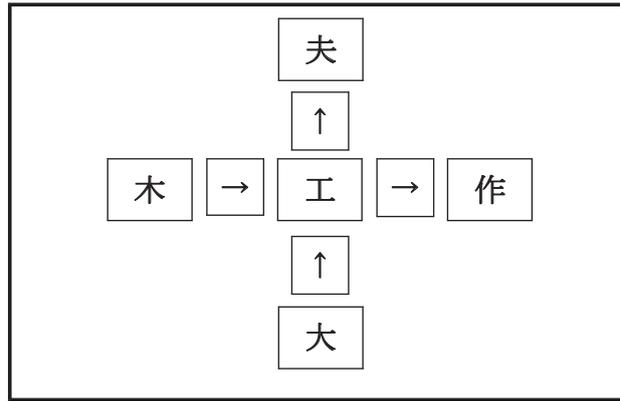
- ① 日程がちょうど合ったので、東町小学校と合同で合宿をした。
- ② 熊本の地下水の量と下水の仕組みを調べた。
- ③ ゲートボールは老人に人気のあるスポーツだ。
- ④ 氏名の欄に名字と名前をはっきり書く。
- ⑤ 練習問題の後半は、午後に解きました。
- ⑥ 父はつりの名人として、全国でも名高い。
- ⑦ 気楽に楽器を演奏する。
- ⑧ 今日是一月一日。元気に元旦を迎えよう。
- ⑨ 旅行の申し込みをするために行列にならんだ。
- ⑩ 自動車工場では、さまざまな工夫がされています。
- ⑪ その地方独特の言葉を方言と言います。
- ⑫ 明朝、明るくなる前に出発しよう。

8. 学習活動及び児童の様子、教師の支援

学習活動	児童の様子及び教師の支援（C：児童、T：教師）
<p>①同じ漢字であっても熟語によって読み方がちがうことがあるということを知る。</p> <p>・教科書の例文を読み、人間の「ゲン」と時間の「カン」は同じ漢字であることを知る。</p> <p>・教材を使って漢字の字形、読み、成り立ちやどんな熟語に使われるか、単語家族など確認する。</p>	<p>・教科書の例文『人間にとって、時間は大切な財産である。』を読んで、一つの漢字に複数の読み方があることを知り、自分の知っている知識と結びつけて考えようとする様子が見られた。</p> <p>C：「時間のカンって、『あいだ』でしょ？人間の『ゲン』も『あいだ』なんだ。これは、たしか『クダ』とも読めたよね」</p> <p>T：『間（あいだ）』っていう字は、カンとゲンの2つの音読みを持っているよ。」といい点線文字『間』を提示。</p> <p>C：触りながら「門構えに日だね」</p> <p>T：『管』を提示して、「これが『クダ』。これも音読みは『カン』っていうよ。よく覚えていたね。でも、この『カン』は、水道管、試験管とかのカン。『クダ』って分かる？」</p> <p>C：「あー、そっか」</p> <p>T：「時間の『ジ』は分かる？」</p> <p>C：「書けるかも」と言って『分』という字を書く。</p> <p>T：「この字には、『ジ』の他に読み方ある？」</p> <p>C：「何分の『フン』」</p> <p>T：「時間の『ジ』と何分の『フン』が同じ漢字になるかな？」</p> <p>C：「そうか、おかしいね」</p> <p>T：「時間の『ジ』って、どんな部首がつくと思う？」</p> <p>C：「時間の『ジ』って、何時の『ジ』だよ。う～ん。」</p> <p>T：「昔の人は時計がなかったときは、どうやって時間を知ったのかな」</p> <p>C：「太陽？あ、日だ」と言い、ひへんを書く。</p> <p>C：教師と一緒に、日の隣につくりの（寺）を書く。</p> <p>T：「こっち（寺）は、『てら』だよ。お寺は〇〇寺（ジ）って言うでしょ。寺は『ジ』って読むんだよね。これが親字で、この寺に日とか他</p>

	<p>の部首がついても、『ジ』って読む場合が多いよ。」</p> <p>T：寺の字の成り立ちを説明し、単語家族について、どんな字があるか、それぞれの読みや成り立ち、どんな熟語に使われるかを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から単語家族の漢字を触って質問するなど積極的に取り組む様子が見られた。
<p>②例を通して問題の解き方を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に例題として使われている漢字のカード『本』『名』『案』『人』『大』を提示し、1枚ずつ漢字を確認した。確認し終わったあと矢印カード(「→」)を提示して方法を説明すると、方法はすぐに理解し、自分から並べ始めた。 ・カードには音読みと訓読みをつけていたので、それを手がかりにしなから、教師と一緒に5枚のカードの中から熟語を1組ずつ作り、矢印の向きなどを考えながら作ることができた。 <div data-bbox="584 730 1206 1128" style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 10px;"> <pre> graph TD A[本] -- ↓ --> B[名] C[大] -- → --> B B -- → --> D[案] B -- ↓ --> E[人] </pre> </div>
<p>③教科書の問題(複数の音をもつ漢字について)に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字カードを1枚ずつ触り、字形と読みを確認する。 ・1組ずつ組み合わせ、熟語を作っていく。 ・漢字の一つ一つ 	<p>○問題1『作、工、大、夫、木』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて教師の支援なしで行った。かなり苦勞していたので、まず何を真ん中にもってくるか、共通して使うものは何かを考えるように伝えたと、2字の熟語を作り矢印をつけていった。『工』を真ん中におき、「工作」、「大工」は比較的すぐにできたが、残りの二つ(「工夫」「木工」)が難しいようだった。特に『木工』は、2つの漢字の読みがそのまま熟語の読みにつながるわけではないので、時間がかかったが、読み方が分からなくても、漢字1字1字の意味を考えて熟語の意味を考える様子が見られた。 <p>C：「あとは『木』と『工』だけど、どう並べるのかな」</p> <p>T：「この熟語はどんなことを意味しているかな。読み方は分からなくてもいいから、どんな意味があるか考えてみようか」</p> <p>C：「木で何かを作ることかな」</p> <p>T：「うん、そうだね」</p> <p>C：しばらくカードを入れ替えたりしながら考え、「モクコウ・・・？木で作ること・・・。あ、モッコウか！」と自分で気づくことができた。</p>

について、成り立ちやどんな熟語に使われるか確認し、レーザーライターで書く。
 ・教材を使って親字や単語家族を確認する。



- ・訓読みがない漢字が多い問題（山、下、校、地、以）は、手がかりがないためかなり難しいようだった。また、『下』のように読みが複数ある場合、一つの読みで考え始めると、他の読みで考えることを忘れてしまって分からなくなってしまうことがあったので、その都度、読みが複数あることを確認するようにした。
- ・はじめは問題を解くのに時間がかかっていたが、慣れてくると比較的スムーズに組み合わせを考えることができるようになり、自分の力で解くことができるようになった。また、構成している漢字の意味から、作った熟語の意味を考えることができるようになった。
- ・漢字の字形を確認し、教師による成り立ちの説明を聞きながら、「図のこの部分が漢字のこの部分になったんだ」等と自分で考える様子が見られた。

④特別な読み方をする言葉について知る。
 ・漢字カードで字形を確認する。
 ・漢字の一つ一つについて、成り立ちやどんな熟語に使われるか確認し、レーザーライターで書く。
 ・教材を使って親字や単語家族を確認する。

- 読み方から漢字を考える
- ・明日（あした）の他の言い方を児童にたずね、同じ漢字を書いて『みょうにち』とも読むことを伝えた。
 T：「明日（あした）ってどんな漢字を使うか分かる？」
 C：「分からない。でも、『みょうにち』の『にち』なら分かるよ。」と言って『日』を書いた。
 T：『『みょう』は、『あかるい』っていう字」
 C：「明るい・・・分からない。」
 T：「昔、電気がないときは、どうやって明かりをとっていたのかな？」
 C：「太陽と月。もしかして、『日（ひ）』と『月（つき）』？」と気づき、『明』と書いた。
 - ・同様に『今日』についても行った。
- 漢字から読み方を考える
- ・『一日』のカードを触って『『いち』と『ひ』。じゃあ、これは『ついたち』。『いちにち』とも読むんだよね」と気づき、さらに、「二人、大人、二十日」もカードを触って自分で気づいた。
 - ・『昨日』を提示するとすぐに『『昨』の右側は、『作』の右側と同じだから、これは『さく』って読むんだ。じゃあ、これは『さくじつ』？」と自分で考えることができた。また、教師が「さくじつって何のこと？」とたずねると、「きのう。じゃあ『きのう』って読むんだ」と気づくこと

	<p>ができた。</p> <p>○自分で特別な読み方をする言葉を見つける</p> <p>C : 『今日』のカードを触る。</p> <p>T : 「はじめの字は、『いま』っていう漢字だよ」</p> <p>C : 「『いま』と『日(ひ)』、『きょう』だ。」</p> <p>C : 「この『日』が『あさ』になると、『けさ』って読むのかな。『朝』は『あさ』か『ちょう』ってしか読まないから、『今朝』もこの特別な読み方をする言葉かな。」</p>
<p>⑤同じ漢字が複数回使われている文章を読み、どの言葉が同じ漢字であるか考える(単元のまとめ、復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文をノートに書き、どれが同じ漢字か考える。 ・漢字の一つ一つについて、成り立ちやどんな熟語に使われるか確認し、レーザーライターで書く。 ・教材を使って親字や単語家族を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題(1)は、すぐに『あう』と『ごう』と『がっ』だと気づき、レーザーライターで書くことができた。問題(2)は、少し時間がかかった熟語の意味などから考えることができた。 T : 「下水って何？」 C : 「下を・・・」と言いかけて、「地下と下水だ。下っていう字」と気づき、「下」を書くことができた。 T : 「そうだね。下っていう字は、象形文字・指事文字・形声文字・会意文字のうちどれでしょう」 C : 「指事文字」 ・どの言葉が同じ漢字を使ったものかは比較的早く解くことができた。 ・『前』の形を一緒に確認すると、「ゼンとも読むよね」と言い、「午前中のゴってどんな漢字だっけ」など、自分からたずねる様子が見られた。 ・問題を解きながら、問題文中の漢字とその単語家族についても確認した。(名字のジが『字』であることを確認し、字が「子(し)」の単語家族であることなど) ・単語家族を説明するときは、一つ一つに対して、どのような熟語に使われるか児童に考えてもらうようにした。『晴』の字形、読みを触って「セイ、ハレ」と確認したあと、「晴天の『セイ』だ」と言うなど、漢字の読みを参考にして使われている熟語を自分で考えることができた。

<事例3> 平成17年度3学期

1. 単元名 同じ読み方の熟語

2. 指導期間 平成18年2月13日～15日

3. 指導時数 4時間

4. 単元について

本単元では、漢字には「間」「刊」などのように同じ音をもつものがあること、また、熟語にも、「採集」「最終」などのように同じ音で意味の違うものがあることを知るとともに、漢字の意味やその漢字を使った熟語の意味を考えて同じ音の漢字の使い分けを理解させる。

5. 単元の見目標

- ・同じ読み方の熟語（同音異義語）の意味のちがいを理解し、言葉や漢字への興味を深める。
- ・漢字の字形や部首、成り立ちなどから漢字の持つ意味を知るとともに、意味を考えながら漢字を含む言葉を文や文章の中で正しく使うことができる。

6. 学習計画

単元の内容に沿った学習は、項目の前に「・」で、今回の漢字指導として加えた内容については「○」を付けて示す。

(1) 1 / 4時

- ・教科書の例文の意味を考え、熟語には同じ音読みでも意味が全く違うものがあることを知る。
- ・読み方が同じでも使われている漢字が違うことを知る。

(2) 2～3 / 4時

- ・練習問題1（同じ漢字を使ったものを選択肢の中から選ぶ）に取り組む。
- ・意味が分からない言葉でも漢字の訓読みを考えることで熟語の意味の見当をつけることができることを知る。

○漢字を確認し、親字、単語家族について知る。

○パソコン（新点字編集システム3の辞書機能）で、熟語の意味を調べ、意味からどんな漢字を使うか考える。

(3) 4 / 4時

- ・宿題（同じ音の熟語を含む文章を作る）を発表する。

○児童が考えた文章や練習問題2の中に使われた漢字について、触ったり書いたりして字形を確認しながら、どんな漢字を使うか学習する。

○部首などから漢字の成り立ちや漢字のもつ意味を考えたり、どんな熟語に使われるか、他にどんな単語家族があるかなどを知る。

7. 使用教材

(1) 漢字学習プログラム（点線文字）

児童が触って、漢字の成り立ち、形、読みを知るために使用。

(2) 点線文字（漢字カード）

(3) レーズライター

(4) 漢字字典（公文）

漢字の成り立ち、読み、へんとつくり、漢字のもつ意味、熟語など、より詳しい内容を児童に伝えるために使用。

(5) 練習問題1（同じ漢字を使ったものを、選択肢の中から選ぶ）

① 今【週】は、風邪で学校を休んだ。

（ア）計算をして円周率を求めました。

（イ）早起きの習慣をつける。

（ウ）お気に入りの週刊誌を買って読んだ。

② 一週【間】前のことを思い出す。

（ア）今日は新聞の休刊日だ。

（イ）ならばときはもう少し間隔をあげなさい。

（ウ）彼は敏感に感じ取った。

- ③【公】園で遊ぶ。
 (ア) おかしを公平に分ける。
 (イ) 交差点を渡る。
 (ウ) 学校の校歌を歌う。
- (6) パソコン及びソフト（新点字編集システム3）
- (7) 練習問題2
- ① カイジョウ：パーティー【会場】は【海上】の船です。【開場】は13：40です。
 ② キチョウ：飛行機の【機長】席に座るとい【貴重】な体験をした。
 ③ シンコウ：【親交】のある国と一緒に秘密のプロジェクトが【進行】している。
 ④ セイカ：【聖火】ランナーとしてこれまでの練習の【成果】を発揮する。
 ⑤ キカン：呼吸【器官】の調子が悪く、長い【期間】入院した。
 ⑥ コウソク：【高速】道路でスピード違反し、警察に【拘束】された。
 ⑦ カセイ：【家政】婦の聖実さんは【火星】で暮らすのが夢だった。
 ⑧ カンソウ：マラソン大会で【完走】したおじいさんがインタビューで【感想】を話した。
 ⑨ キセイ：田舎に【帰省】中に、お腹に【寄生】虫がいるネコが飛び出して交通事故にあつたため、道路が【規制】された。
 ⑩ ショウ：会社の電話を【私用】で【使用】して怒られた。
 ⑪ カイトウ：アンケートに電子レンジの【解凍】がうまくいかないという【回答】があつた。
 ⑫ カイコウ：彼女は【開口】一番、学校の【開校】式での出来事を話した。

8. 学習活動及び児童の様子、教師の支援

学習活動	児童の様子及び教師の支援（C：児童、T：教師）
<p>①例文の意味を考え、熟語には同じ音読みでも意味が全く違うものがあること、使われている漢字が違うことを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が、教科書の問題文「一週間前に発売された週刊誌」を提示し、「これ以外に知っているシュウカンってある？」とたずねると、児童は、『『〇〇を習慣にする』ってあるけど、一週間のシュウカンといっしょだよ』と答えた。一週間、週刊誌、習慣は、同じ漢字を使うと思っていたようだ。『週間』、『週刊』、『習慣』の言葉の意味については、自分なりの言葉で説明することができた。その後、正しい意味を説明し、ノートに書くようにした。 ・3つの『シュウカン』について、どういう漢字を使っているかをたずねると、理由も考えて答えた。 T：「一週間の『シュウ』ってどんな字か知ってる？」 C：『『一周回る』のシュウ？』 T：「どうしてそう思うの？」 C：「一週間って、7日間で一回りするから」 T：「じゃあ、『カン』は？」 C：「えっと・・・。何だっけ。」 T：「一週間の意味をよく考えて」 C：「一週間って、日曜日から土曜日までのあいだのことでしょ。あ、『あいだ』だ」 ・漢字学習プログラム教材の『周』を提示し、周にしんにようがついたも

	<p>のが『週』であること、「一週間」、「週刊誌」の『週』であることを伝え、『週』の成り立ちを説明した。また、『間』、『刊』の字形を確認して、成り立ちを説明し、親字、単語家族、どんな熟語に使われるかなどについて説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「習慣」については、教師が「訓読みは『ならう』だよ」と言うと、「学習の『シュウ』？」と、言葉の意味から熟語を考えることができた。
<p>②意味が分からない言葉でも漢字の訓読みを考えることで熟語の意味の見当をつけることができることを知る。</p> <p>親字、単語家族について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『公園』の『公』は、以前学習したことをよく覚えており、レーザーライターを使って支援なしで書くことができた。『園』については、分からなかったので漢字学習プログラム教材で字形を確認しながら成り立ち、親字、単語家族、どんな熟語に使われるかなどについて説明した。 ・教師とのやりとりの中で、字形や部首、読みなどをもとにして熟語や訓読みを自分で考えることができた。 <p>C：『園』を触る。</p> <p>C：「そういえば、パソコンでは『楽園の園』って言っている。こんな字だったんだ。」</p> <p>C：教材で『園』を確認する際、児童自ら進んで『遠』を触る。</p> <p>C：「これもエン？しんによろがついている」</p> <p>T：「それもエンだよ。どんな意味かな、どんな熟語に使われると思う？」</p> <p>C：「しんによろだから・・・。足で何かすることに関係あるよね」</p> <p>T：「そう。そして、これは同じ単語家族だから・・・。」</p> <p>C：「エンでしょ。（しばらく考えてから）遠足のエンだ。」</p> <p>T：「正解！じゃあ、訓読みは何か？」</p> <p>C：「難しい」</p> <p>T：「遠足ってどういうところに行くの？」</p> <p>C：「動物園」</p> <p>T：「動物園だけじゃないよね。一般的にどういうところに行く？」</p> <p>C：「遠いところ・・・。もしかして『とおい』？」</p> <p>T：「正解！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな「コウエン」（公園、公演、後援、講演など）があることを伝え、熟語の意味からどんな漢字を使うか、一緒に考えていった。
<p>③練習問題に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題（同じ漢字を使ったものを、選択肢の中から選ぶ）に取り組み、問題文中の熟語は、どんな漢字で構成されているか、教材を使いながら確認した。 ・問題3では、はじめは「交差点の『交』」が『公園』と同じ漢字を使うと言っていたが、教師が「公」「交」それぞれの漢字の訓読みをたずねると、訓読み「おおやけ」「まじわる」を答えることができ、その漢字の意味からちがうことに自分で気づくことができた。
<p>④パソコンで、教科書の問題文中の熟語の意味を調べ、意味からどんな漢字を使うか考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文中の熟語で、意味が曖昧なものや分からないものについて、パソコンで意味を調べてノートに書くようにした。 <p>○教科書の問題（『先生』と『先制』）</p> <p>T：『先生のチーム』の『センセイ』はどういう漢字か分かる？」</p> <p>C：「先生の『セン』は、形は分からないけど『サキ』っていう字で、『セ</p>

<p>える。</p>	<p>イ』は『生まれる』っていう字」 C : 『先』の字形を教材で確認し、『生』は机の上に指で書いてくれた T : 「よく覚えているね。じゃあ、『先制点』の『センセイ』は？」 C : 「分からない」 T : 「さっき調べた意味から考えてみよう。どんな意味だった？」 C : パソコンで調べた意味を書いたノートを読んで、『先手』って『先にする』ってことだよ。じゃあ、さっきの『先生』の『セン』と同じ字だ。」 C : 点線文字『制』の字形を確認する T : 『制』の単語家族を確認し、成り立ちや、読みや使われる熟語について説明した。 C : 同じページにあった『成』を触って、「これ、この前さわったことがある。どんな意味だったっけ」 T : 『成し遂げる』って意味を持つ漢字だよ C : 「これもセイ。『目標を達成する』のセイだ」 T : 「うん。完成、成功、成人式とかのセイだよ」 C : 「成人式もこれなんだ。正しいっていう字かと思ってた。」 ○教科書の問題2（最終と採集）、問題3（先頭と銭湯）についても、教師とのやりとりの中で児童が自分で考えて答えるように支援した。はじめての漢字は、点線文字で字形を確認し、親字、読み、成り立ち、どんな熟語に使われるかなどを説明した。『採』の学習の際、親字を触らせて、「この字（親字）にくさかんむりがついたら、何の『サイ』になるかな？」とたずねると、「野菜の『菜』と答えるなど、へんのもつ意味と音読みとから考えて答えることができた。</p>
<p>⑤同じ音の熟語を複数含む文章を作って発表し、提示された練習問題2の問題文を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題（同じ音の熟語を複数含む文章を考える）を発表する。文章の発表をしながら、どのような意味の言葉か、どのような漢字を使うかを自分なりの言葉で説明してくれた。 <p>[児童が考えた文章]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 広い大きな公園で大きな講演会が行われた。 ② 地震の避難訓練でふざけて怒られたので、自分自身後悔している。 ③ 校庭と学校の前にある木は高低の差が10mある。 ④ 高給をもらった人が高級なレストランで高級な食べ物を食べた。 ⑤ 開店したお店の前で風車が回転している。 <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題2の文章と一緒に読んで、言葉の意味やどのような漢字を使うかなどを確認した。
<p>⑥児童が考えた文章と練習問題の文章に出てきた漢字について、どのような漢字か考えるときともに、字形や意味、どんな熟語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が考えた文章に使われている熟語について、パソコンを使って意味を調べどのような漢字を使うか確認した。 ・複雑な字形の漢字の場合、字形を覚えることにはこだわらず一緒に書くようにしたが、その際、漢字の持つ意味を考えられるように部首やどんな熟語に使われるかなどは児童にたずねるようにした。 <p>T : 「講演会の講も演も難しい漢字だよ。講演ってどんな意味？」 C : 「何か話すっていうこと」</p>

に使われるか、ほかにどんな単語家族があるかなどを知る。

T : 「そうだね。じゃあ、講の部首はなんだと思う？」

C : 「話すことに関係ある・・・。口？」

T : 「話すことだけじゃなくて書くこととか、言葉に関係するよ。」

C : 「ごんべんだ」

C : レーズライターにごんべんを書き、つくりは教師と一緒に書いた

T : 『講』の部首をさんずいへんやきへんに変えたら、『溝』や『構』になること、『溝』や『構』の訓読みや熟語を説明した。

- 出てきた漢字の親字や単語家族についてもその都度説明を行った。
- 自分が知っている漢字が出ると積極的に書こうとする様子が見られた。

T : 「自分自身の『自』って分かる？（字形でも訓読みでも）」

C : 「あ、知ってる。書けるよ。」と言って『且』という字を書く

T : 「あー、おいしい。似ているけど、これは、『かつ』という字だね。『～も』っていう意味の字だよ。」

C : 「あれ？じゃあ、こうかな」と言って『自』を書く

T : 「そう、その字。すごい！正解。じゃあ、『シン』は分かるかな」

C : 「えっと・・・」

T : 「形は分からなくても、どういう意味の漢字か分かるかな」

C : 「こころ？こころって『シン』って音読みだったよね」

T : 「あー、そうね。確かに心は『シン』っていう読み方があるけど、この場合は心じゃないよ」

T : 「人間は心と何があるの？心と何があって『自分自身』になるのかな」

C : しばらく考えて「体」

T : 「そうだよね」

C : 『身』を教師と一緒に書く

T : 「この字（身）と、体育の体、『からだ』を合わせて身体。身体って体のこと。この『身』は訓読みが『み』で、これも体のこと。自分の体のことを『わが身』とか言うでしょ。『心身ともに健康』っていうよね。心の『シン』に、この身の『シン』で、『シンシン』だよ。心も体も健康っていうことだよ」

T : 『自信』についても説明を行った。

- 『高低』の『高』を書くとき、「これは高いビル、建物を表した字だよ」というなど、漢字の成り立ちを自分で説明しながら書く場面も見られた。
- 『想う』と『思う』の言葉の意味、使い方の違いについて、漢字そのものの持つ意味をもとに考えた。※正式には、『想』には『おもう』という読みは無いが、一般的に『想う』と書いて『おもう』と読ませることを付け加えて説明した。

<事例4> 平成18年度1学期

1. 単元名 漢字の形と音・意味
2. 指導期間 平成18年5月9日～5月12日
3. 指導時数 5時間

4. 単元について

本単元は、「同じ部分で同じ音」「同じ部分と意味」の二つの部分からなる。

原典教科書では、「同じ部分で同じ音」は、「化」「貨」「花」などの漢字が集められ、漢字をカッコ内にあてはめる活動が提示されている。その漢字を含む熟語だけでなく、前後の文脈も参考に、どの漢字を使えばよいかを考える問題であり、児童がこれまで学んだ多くの漢字が、共通する部分をもっているということに気づき、それを今後の漢字学習に生かしていこうとする態度を育てることをねらいとしている。また、「同じ部分と意味」は、「徒」「往」など「ぎょうにんべん」という共通の部首をもった漢字を集め、「ぎょうにんべん」が「行く」や「道」に関する意味を表す漢字に使われるなど、同じ部首をもつ漢字は意味の上でつながりがある場合があることを取り上げている。

点字教科書では、例題・問題で取り上げられた漢字や部首の字形を、点線文字で示している。

5. 単元の目標

- ・漢字には、形・音・意味があることを知るとともに、音や意味を表す部分が組み合わさってできていることを理解し、漢字への興味を深める。
- ・漢字の字形や部首、成り立ちなどから漢字の持つ意味を知るとともに、意味を考えながら漢字を含む言葉を文や文章の中で正しく使うことができる。

6. 学習計画

単元の内容に沿った学習は、項目の前に「・」で、今回の漢字指導として加えた内容については「○」を付けて示す。

(1) 1／5時

- ・教科書の例文にある「求」「球」「救」について、漢字カード（点線文字）を触りながら、ある漢字の一部分が音を表す働きをすることがあることを確認するとともに、これまで学習してきた単語家族について確認する。
- ・教科書に載っている「同じ部分で同じ音」の問題（選択肢の点線文字カード3～4枚を提示し、問題文中で使われている漢字を選択肢の中から選ぶ）に取り組む。

(2) 2／5時

- ・前時に取り組んだ問題文の中で問われた漢字以外の漢字について確認する。
【例】「一日の気温の変（ ）を調べる。」という問題文の中で、「変」について確認する。
- ・「同じ部分で同じ音」の練習問題に取り組む。

○練習問題の中で取り上げられた漢字の確認、単語家族の確認を行う。

(3) 3／5時

- ・「同じ部分で同じ音」で取り上げた漢字について復習を行う。
- ・教科書を読み、同じ部分をもつ漢字は意味の上でつながりがある場合があることを確認する。

・宿題（ぎょうにんべんのつく漢字で、知っているもの考える）の発表をする。

○「ぎょうにんべん」のつくいろいろな漢字について学習し、その中で出てきた漢字の単語家族について学習する。

(4) 4 / 5 時

・児童が知っている部首を発表し、その部首にはどのような意味があるかノートにまとめた後、どのような漢字があるか確認する。

(5) 5 / 5 時

○前時の復習と続き（どんな部首があるか）を行う。

○組み合わせゲーム（へんにつくりのカードを提示し、組み合わせで漢字を作る）を行う。

7. 使用教材

(1) 漢字学習プログラム教材（点線文字）

児童が触って、漢字の成り立ち、形、読みを知るために使用。

(2) 漢字カード（点線文字）

字形のみで読みはついていないものを使用。

(3) 部首カード、つくりカード（点線文字）

(4) レーズライター

(5) 漢字字典（公文）

漢字の成り立ち、読み、へんにつくり、漢字のもつ意味、熟語などより詳しい内容を児童に伝えるために使用。

(6) 練習問題

①「反」「飯」「版」「板」

(ア) (ハン) 対意見を言う。

(イ) 母は夕 (ハン) の支度で忙しい。

(ウ) 牛肉を鉄 (パン) で焼く

(エ) 今年の年賀状は (ハン) 画にしよう。

②「寺」「持」「時」

(ア) 京都には有名な (ジ) 院がたくさんある。

(イ) 1日は24 (ジ) 間ある。

(ウ) 弁当と水筒を (ジ) 参する。

8. 学習活動及び児童の様子、教師の支援

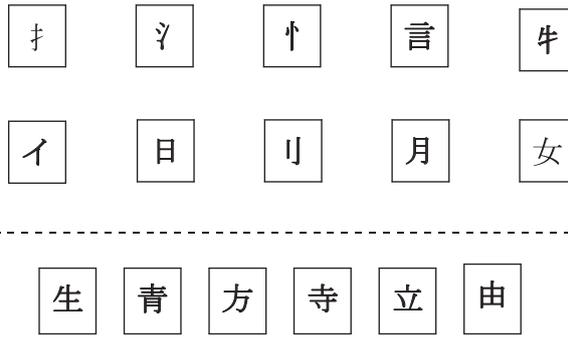
学習活動	児童の様子及び教師の支援 (C: 児童, T: 教師)
①漢字の一部分と なって音を表す働 きをする漢字があ ることを確認する とともに、単語家 族について学習す る。	・教科書の例文を読み、提示された点線文字カード「求」「球」「救」を触って、同じ部分があることを確認した。 ・これまで学習した単語家族について振り返り確認した。教師が児童にたずねると、児童は「生」「青」などを答え、さらに、教師とのやりとりの中で関連のある漢字や形が似ている漢字を思い出そうとする様子が見られた。 T: 「単語家族には、どういうものがあつたかな」 C: 「『生まれる』の『セイ』。」 T: 「うん。「生」を親字とする単語家族はたくさんあつたよね。例えば？」

	<p>C : 『生 (セイ)』の上に『日 (ひ)』をつけて、『星 (ほし)』とか。」</p> <p>C : 「生まれるってこういう字だったよね。」と言いながら、机の上に指で『生』を書く。</p> <p>C : 「ここ(一番上の横線)を突き通さない字もあったよね。なんだっけ。」</p> <p>T : 「一番下の横線を抜いて、上を突き通さない字ならあるよ。」</p> <p>C : 「うん、そんな字がたしかあったような・・・」</p> <p>T : 「午前、午後の『午 (ご)』だね。」</p> <p>C : 「ああ、そうだった」</p> <p>T : 『午』の成り立ちを説明して、『生』の話題に戻る。</p> <p>・漢字学習プログラム教材を使って『生』の単語家族の確認をした。</p>
<p>②教科書に載っている「同じ部分で同じ音」の問題に取り組むとともに、問題文中に使われた漢字及びその漢字の単語家族について学習を行う。</p> <p>・「化」「花」「貨」</p> <p>・「晴」「精」「清」「静」</p> <p>・「則」「側」「測」</p> <p>③教科書を読み、同じ部分をもつ漢字は意味の上でつながりがある場合があることを確認する。</p>	<p>・問題文、点線文字カード(読みはなし)を提示し、問題文中の空欄に当てはまる漢字のカードを選ぶようにした。</p> <p>・児童は、ほぼ正しくカードを選ぶことができ、分かるものは選んだ理由も自ら進んで答えていた。</p> <p>T : 『晴』『精』『清』『静』の漢字カード、問題文を提示</p> <p>C : 『晴』のカードを選んで、「日に青。これは、晴れっていう字だから、晴天だ。」</p> <p>T : 「そう、晴れだね。」</p> <p>C : 問題文『セイ潔な・・・』を読み、「セイケツって、きれいっていう意味だから、『清い』だ」と言い、『清』のカードを選んだ。</p> <p>T : 「掃除のことを清掃っていうでしょ。清掃のセイもこれだよ。」</p> <p>C : 「そうか。きれいにすることだもんね。」</p> <p>C : 『精』と『静』で迷った</p> <p>T : 『精』と『静』の漢字の成り立ち、漢字そのものがどのような意味を持つか、どんな熟語に使われているかなど、関連づけながら説明を行った。</p> <p>・一緒に教科書を読んで内容を確認し、教師がぎょうにんべんの説明(『行く』『道』を表すものに使われる)を行った。</p> <p>T : 「ぎょうにんべんってどんな形かわかる？」</p> <p>C : 「知ってる」と言い、自分からレーズライターで書き始める。</p> <p>C : はじめに『にんべん』を書くが、すぐに「あ、これ、にんべんだった」と気づき書き直す。</p> <p>C : 『行く』って、この字(行を書く)だよ。」</p> <p>T : 「そう、よく覚えているね。」</p> <p>C : 「成り立ちも覚えている。たしかこんな図が書いてあった。」と言いながら指で書き、成り立ちの説明をしてくれた。</p> <p>C : 「これって、音読みは『コウ』だったよね。旅行の『コウ』。『ギョウ』って読み方もあったかな。」</p> <p>T : 「一行、二行のギョウ。学校行事のギョウとか、あったでしょ。」</p> <p>C : 「あー、行列のギョウ」</p> <p>T : 改めて『行』の成り立ち、意味、どんな熟語に使われるか説明を行った。</p>

<p>④「ぎょうにんべん」のつくいろいろな漢字について学習し、その中で出てきた漢字の単語家族について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(往) (復) ・(徒) 歩 ・(従) う ・(待) ち合わせ ・三十分 (後) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の例文の中で取り上げられている漢字について、一つずつ考えていくようにした。児童は、これまで学習したことを思い出したり、自分の知っていることと関連づけて考えたり、予想したりして楽しんで取り組んだ。 T : 「オウフク (往復) ってどんな意味かな」 C : 「行ったり来たりすること」 T : 「そうだね。だから、オウもフクにもぎょうにんべんがつく。箱根駅伝で往路、復路って言うでしょ。」 C : 「知ってる。帰りが復路だよ。」 C : 「往復のオウには、王様のオウがつくのかな」と言って漢字学習プログラム教材を触って確認する。 C : 「あ、『主な』っていう字だ。(周辺の字を触りながら) やっぱり親字は王様の王だ。」 C : 「往復のフクって、『福は内』のフクかな」 T : 「『福は内』のフクって神様が関係する言葉だよ。」 C : 「そうか。たしか・・・しめすへんだったね。じゃあ、ちがうね。」 C : 教材で『福』『復』の字を触って確認 T : 『復』、『福』の成り立ちや意味を説明 T : 「この『復』のぎょうにんべんが、にくづきだったらどうなるかな」 C : 「読み方はたぶん『フク』だよ。体に関係があるから・・・、腹痛のフクだ。『はら』だ。」 ・教科書に出てきた漢字を漢字学習プログラムで確認する際、児童は自分からその周りにある漢字(単語家族や親字)を触り、へんとの関連を考えたり、訓読みを触ってどんな熟語に使われるか考えたりする様子が見られた。また、「後」の学習の際、「『前』ってどんな字だったかな。」と関連する字をたずねる様子も見られた。
<p>⑤知っている部首を発表し、その部首にはどのような意味があるかノートにまとめ、どのような漢字があるか確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に知っている部首をたずねると、りっしんべん、てへん、にんべん、かねへん、ごんべん、りっとう、にくづき、うかんむりなどをあげ、自らその部首のもつ意味を答えた。教師が補足しながらノートにまとめるようにした。 ・発表した部首を持つ漢字にどのようなものがあるかたずねると、意味と読みから考えて答えることができた。 T : 「りっしんべんがつく漢字で知っているものある？」 C : 「りっしんべんに『生む』って書く漢字があった」 T : 「りっしんべんに『生む』で、何て言う漢字？」 C : 「何だったかな・・・(考える)」 T : 「『生む』の漢字の音読みは？」 C : 「セイ」 T : 「りっしんべんはどういう意味を持つものだった？」 C : 「心に関係する」 T : 「心や気持ちに関係していて、読みが『セイ』。どんな熟語があるのかな」

	<p>C : 「性格のセイだ」</p> <p>T : 「うん。他にも、性質や個性のセイ。『ショウ』とも読むよ。根性とか性分とか」</p> <p>・てへん等は、「手ですることに関係するもの」という意味から『書く』と答える場面もあった。</p>								
<p>⑥組み合わせゲームを行う。</p>	<p>・へんとつくりのカードを提示し、組み合わせで正しい漢字を作る、組み合わせゲームを行った。</p> <p>《ゲーム1》</p> <p>・てへん、にくづき、りっとう、りっしんべんの部首カードと、「寺」のカードを提示し、組み合わせを選んで正しい漢字を作った。</p> <p>C : てへんの部首カードを選ぶ</p> <p>T : 「これは（持）は、何ていう漢字？」</p> <p>C : 「えっと・・・(考える)」</p> <p>T : 「右側（寺）の音読みは何だった？」</p> <p>C : 「ジ」</p> <p>T : 「音読みがジで、手ですることに関係するんだよね」</p> <p>C : 「『持参する』のジだ。だから、『持つ』。」</p> <div data-bbox="587 954 1291 1249" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>《ゲーム1》</p> <table style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">扌</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">月</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">リ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">亻</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">寺</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↑</p> </div> <p>《ゲーム2》</p> <p>8枚の部首カードと「生」「青」「寺」「方」「由」「立」のカードを提示し、組み合わせを選んで正しい漢字を作ってもらった。</p> <p>・「生」のカードと部首カードを選んで、「姓」「性」を作ることができたので、漢字の意味やどんな熟語に使われるかなどをたずねた。</p> <p>C : 『姓』を作る</p> <p>T : 「読みは？」</p> <p>C : 「セイ」</p> <p>T : 「どんな熟語に使われる？」</p> <p>C : 「女性のセイ」</p> <p>T : 「それじゃあ、男の人は？男性のセイは？」</p> <p>C : 「ああ、そうか(考える)。」</p> <p>C : 「あ！名前に使うときのセイだ」</p> <p>T : 「そう。姓名のセイだよね」</p>	扌	月	リ	亻				寺
扌	月	リ	亻						
			寺						

《ゲーム2》



- ・音読みと部首から作った漢字の訓読みを考えることができた。
C : 「こんな字があったような・・・」と言って、『油』を作る。
T : 「右側は何て読むの？」
C : 「ユ。由〇〇ちゃん（友達の名前）の『由』だよ」
T : 「そうね。じゃあ、左側は？」
C : 「さんずい。水とかに関係する」
T : 「液体に関係するものだね」
C : 「灯油のユ」
T : 「じゃあ、訓読みは？」
C : 「うーん（考える）」
T : 「灯油のほかには？」
C : 「石油」
C : 「あ、あぶらだ」
- ・「方」「立」など、つくりの漢字や組み合わせ（訪、位）は分かるが、作った漢字の意味やどんな熟語に使われるか分からなかったなので、成り立ちも含めて説明をした。

Ⅲ. 考察

1. 指導評価及び検査等の比較

(1) 基本的漢字実態把握テストによる指導評価

指導開始時（平成17年9月）に行った基本的漢字実態把握テストを、平成18年4月、平成18年9月にも実施した。第2, 3回のテストでは、漢字の読みだけでなく、成り立ち、どのような熟語に使われるかという項目を加えた。

○第1回：平成17年9月

段階	数	読み	成り立ち	熟語
第2段階	113	44	—	—
第3段階	71	10	—	—
合計	184	54	—	—

○第2回：平成18年4月

段階	数	読み	成り立ち	熟語
第2段階	113	62	35	55
第3段階	71	21	9	18
合計	184	83	44	73

○第3回：平成18年9月

段階	数	読み	成り立ち	熟語
第2段階	113	81	58	74
第3段階	71	22	11	22
合計	184	103	69	96

これらの結果を比較すると、各項目とも、指導を重ねるごとに習得漢字数が高くなっている。

読みについては、第1回は、音読みか訓読みいずれかの回答が多かったが、第2回、第3回は、音読みと訓読みの両方を回答することが多くなった。

第2回は、読みが分かった83字のうち64字について、音読みと訓読みの両方を答えることができ、第3回では、103字のうち93字について両方を答えることができた。特に、第3回のテストでは、「下」や「生」など、音読みと訓読みが複数ある漢字の場合、その漢字が使われている熟語や漢字そのものの意味を自分で考えて、複数の読みを答えることができるようになった。

各漢字が、どのような熟語に使われるかという問いに対しては、第2回では、1～2語の熟語を答えたのに対して、第3回では、3～5語の回答がみられた。

(2) 読書力診断検査（2回目：平成18年9月22日）

指導実施前（平成17年9月22日実施）に行った「読書力診断検査」を指導1年後である平成18年9月22日に実施し、その結果を比較した。

1回目と同様に、第1部は漢字の読みに関するものであるため、第2部～第4部のみを実施。検査時間は、通常の1.5倍の時間で行った。

2回目の結果は以下の通りである。

項目	検査日	1回目 (17.9.22.)	2回目 (18.9.22)
第2部 語い力		4	4
第3部 文法力		3	4
第4部 読解・鑑賞力		4	4
第1部をのぞく総合評価		3	4

1回目、2回目を比較すると、文法力の評価レベルが上がっている。表には示さなかったが、前回と同様の「4」の評価である語彙力や読解・鑑賞力においても、前回より回答している問題数が多く、正解も増加している。第1部をのぞく総合評価は「4」に上がり、力が付いてきていることが分かる。

(3) 熊本県学力テスト（平成18年3月実施）

第5学年の学年末に、熊本県が実施した学力テストを点訳し、通常の1.5倍の試験時間で実施した。漢字の書き、読みの問題については代替問題（漢字を含む言葉の意味を問う問題、複数の選択肢の中から問題文中の熟語と同じ漢字を使っているものを選択する問題）を作成した。代替不可能な問題については削除したため、97点満点として対応した。このテストは、今回初めて受けたため個人内での比較はできないが、熊本県内の5年生の平均とともに結果を下記に示す。

熊本県学力テスト結果

領域	児童の得点（得点率）	熊本県内5年生の平均
話すこと・聞くこと	22/25（88.0%）	14.6/25（58.3%）
言語事項	13/17（76.5%）	12.4/20（62.4%）
読むこと	23/30（76.7%）	19.7/30（65.8%）
書くこと	22/25（88.0%）	18.0/25（72.1%）
合計	80/97（82.3%）	64.7/100（64.65%）

この結果を見ると、熊本県内の5年生の平均と比べて、どの領域も平均以上となっている。

指導開始前は、単元末テストや学期末テストなどで、児童は、言葉の意味を問う問題や文章をまとめて書くような記述式の問題を苦手としていたが、このテストでは、漢字に関する問題（代替問題）だけでなく、読み取りや要約して文章を書く問題においても、漢字を意識し、言葉の意味をきちんと捉えて文章を書くことができていた。

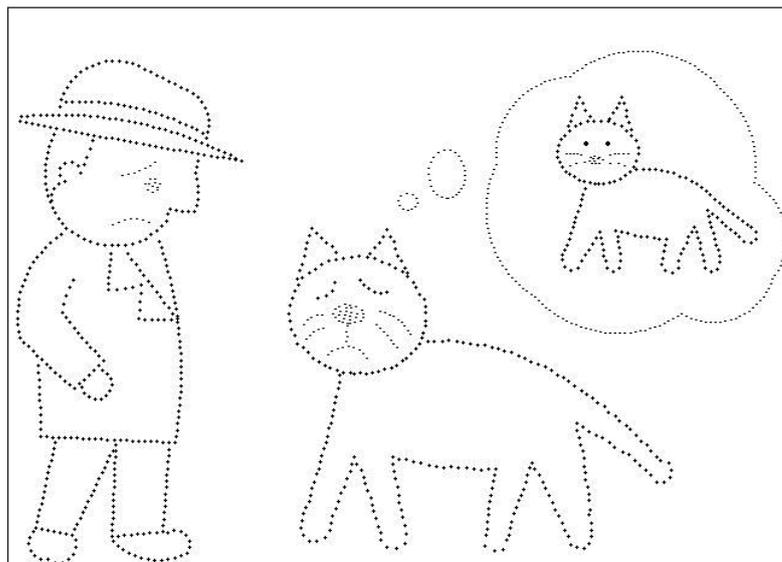
2. 教材及び指導方法について

各単元とも、まず文章作りやゲーム・クイズなど教科書の内容に沿った学習を行い、その後、取り上げられた漢字や基本漢字について指導するという流れで行った。教科書の内容に沿った学習の文章作りやゲームでは、主に立体コピーの絵や点図、漢字カード（点図）、などを使い、後半の漢字の学習では、主に漢字学習プログラム教材を使用した。

(1) 漢字の広場の図

単元「漢字の広場」は、絵と提示された言葉を手がかりにして文章や物語を作り、その中で既習の漢字を文章の中で使い、書き慣れていくことをねらいとしているが、点字教科書では、言葉のみの提示であるため、それだけでイメージを膨らませて短文や物語を作ることは非常に困難であった。そこで、教科書に提示された絵を触って分かりやすいように加工して立体コピーや点図であらわし、導入時に図の説明を行うようにした。図の説明にあたっては、挿絵の登場人物の姿勢や動作を児童と一緒に挙げるなど、イメージしやすいように配慮した。児童は、図を触って予想したり自分のイメージを表現しながら、意欲的に文章や物語を作ることができた。

立体コピーや点図があったことと図の説明を一緒に行ったことで、知らなかった熟語について、イメージからその意味を考えたり推測したりすることができた。言葉の意味を自分なりに考える場面をつくったことによって、児童は漢字のもつ意味を理解しやすくなった。「漢字の広場」の学習では、図をイメージするために適切な触察教材を準備しておくことが学習を進める上で重要であると感じた。



【漢字の広場に使った図】

(2) 漢字カード、部首カード（点線文字）を使ったクイズ・ゲーム

事例2，事例4に示したように、単元の内容に応じてゲームを通して学習するよう工夫した。例えば、事例2のようなゲームでは、カードの組み合わせ方（意味）と矢印の向き（読み）を同時に考えていかなければならないが、字形を知らない漢字や音読みが複数ある漢字が含まれていると、さらに複雑になり、情報を整理し総合的に考えていく力が必要となる。ゲームを通しての学習は、楽しみながら主体的に取り組めるだけでなく、字形や読みなど自分の持つ漢字の知識（情報）を整理することにも効果的であった。

(3) 漢字学習プログラム教材

漢字学習プログラム教材は、第7～10段階で、親字と単語家族がまとめている。教科書で取り上げられた漢字の字形や読みについて本教材を使って確認する際、親字とほかの単語家族についても確認するようにしていくと、児童自身も学習で使用したとき、必ずその漢字の周辺にある漢字も自分から触って確認するようになった。学習が進んで、単語家族のまとまりの左上に親字があることなどが分かってくると、「これが親になるんだ」と言いながら親字を触ったり、「こっちには『しんによう』がついている」などと自分からほかの単語家族を触ったりする様子が見られた。特に、単語家族については、部首と読みから使われている熟語を考えて表現するなど、教師の支援がなくても自分で関連づけて考えていくことができるようになった。

3. 漢字の指導について

単元「漢字の広場」は、本来、前学年までに習った漢字の復習として位置づけられたものであり、それ以外の単元も、漢字・言葉についての学習を通して、前学年までの既習漢字と当該学年の新出漢字を学習するものである。しかし、本指導では、基本漢字と基本漢字でないものに分けて、基本漢字については、字形、成り立ち、読み（音・訓）、漢字のもつ意味、どのような熟語に使われるか、単語家族などを指導するようにした。特に基本漢字の字形については、点線文字で字形を確認するだけでなく実際に書いて確認するようにした。基本漢字でないものについては、漢字の字形を確認する際、親となる字に重点を置いて指導するようにした。

(1) 漢字の字形・部首

点線文字を触って字形を確認する活動は、学習した漢字のほぼ全ての漢字について行ったが、基本漢字については、触って確認するだけでなくレーザーライターで書いて字形をきちんと捉えているか確認するようにした。字形を覚えることにはこだわらず、あくまでも漢字の成り立ちを知り、そこから漢字の意味や読みをを考えるための手だてとして字形の指導を行ったが、基本漢字は、最初に出てきたときに成り立ちの図に触って確認していったので、そのイメージから字形もよく覚えた。

単語家族の学習を始めてからは、知らない漢字でも字形を触って基本漢字をもとにまず音読みを考え、それから部首を手がかりにして漢字の意味や訓読みを推測しようとするようになった。

【例】

C：『洗』という字を触って「あ、『先（サキ）』がついている。」

T：「どんな熟語に使われたか覚えている？」

C：「これは確か『先生』の『セン』だから、これは音読みはたぶん『セン』だよ。」

T：「部首は？」

C：「さんずい」

T：「さんずいって何に関係あるのかな」

C：「水に関係あるから・・・、もしかして『洗濯する』の『セン』？」

T：「そうだよね。じゃあ、訓読みは？」

C：「洗濯・・・」

T：「洗剤の『セン』とか、洗顔の『セン』とか」

C：「あ、『あらう』かな」

(2) 漢字の読み

漢字の読みに関する指導は、教師が児童に教えるだけでなく、教師と児童とのやりとりの中で児童自身が考えたり気づいたりできるように心がけた。

訓読みが分かっているものは、訓読みから漢字の持つ意味や同義の熟語を考えて、そこから音読みを考えるようにしたり、字形と音読みが分かっているものは、部首の持つ意味と音から熟語や訓読みを考えるようにしたりするようにした。また、同音異義語については、熟語の意味から構成する漢字やその訓読み、他にどのような熟語に使われているかなどを考えるように指導した。

児童は、はじめは同音の漢字について、漢字のもつ意味などはあまり考えず、音のみに留意し知っている同音の漢字を答えることが多かった。また、「訓読みが漢字の意味を表す」と理解しているながらも、指導開始時は、音読みと訓読みを間違える場面がときどき見られたり、部首や親字など情報が多くなると、訓読みから漢字の意味を考えることを忘れてしまったりする様子が見られた。指導を重ねていくと、このような場面が少なくなり、一つの情報だけに固執せず、様々な情報を合わせて総合的に考えることができるようになった。

(3) 漢字の成り立ち

漢字学習プログラム教材は、第2～3段階が基本漢字で、成り立ちの図が点図で示されている。基本漢字を学習する際は、この図を触って学習するようにした。児童は、図を触りながら「これがこの部分だね」など、図を自分なりに理解して表現したり、手で形を作りながら「へびがこうなっているんだね」などと、自分の体を使って表現していた。時間をかけて児童自身が触りながら考えたり推測したりした漢字は、字形だけでなく成り立ちや意味についてもとてもよく覚え、後に出てきたとき、「成り立ちの図にこういうのがあったよね」と図を思い出し、そこから漢字の意味を考

える場面が見られた。また、成り立ちから漢字のもつ意味を幅広く考え、いろいろな熟語を考えることにもつながった。

4. まとめ

(1) 漢字の学習について

本指導では、点線文字や点図を触ったり、レーザーライターで書いたり、ゲームをしたりするなど、児童が操作をする場面を大切にするとともに、教師とのやりとりの中で、児童自身が考えて発見したり気づいたりする場面を大切にしているようにした。点図を触ったりレーザーライターで書いたりする活動が好きな本児童は、漢字の単元を楽しみにして、意欲的に学習に取り組むことができた。

各単元とも、「前半は文章づくりやゲームを行い、後半はその中で取り上げられた漢字について学習する」という流れで行い、漢字そのものについての学習も、漢字学習プログラム教材を継続して使用しながら、字形、成り立ち、部首、読み、どのような熟語に使われるかということに関連づけて指導する方法で、同じように進めた。指導開始時は、教師の説明を聞いたり提示された教材を確認するのみだった児童が、指導を進める中で、自分から教師にたずねたり、「訓読みが〇〇でこんな意味があるから、△△という熟語に使われている漢字では」と考えたり、提示された漢字の単語家族を自ら触って、その漢字についても進んで考えたりするようになった。同じ教材を使用し同じ流れで学習を進めたことで、児童自身、学習の見通しを持つとともに教材の使い方や学習の仕方を知り、自分から学んだり関連づけて考えたりする力がついてきたように思う。

点字使用の児童に対して漢字の学習を行うことの意義を以下のようにまとめておく。

- ① ことばそのものの意味を知ることに加えて、単語を構成する漢字の一つ一つの理解ができるので、ことばの意味理解がさらにはっきりする。
- ② 漢字の訓読みを理解することで、特に漢語の熟語の理解につながる。
- ③ パソコンでの学習に比べて漢字1文字1文字について多様な認識できる。
- ④ 形の確認等で漢字家族を学ぶことは、漢字同士のつながりを理解することができる。関連づけて理解することは学習を助ける。
- ⑤ 日本語はひらがなカタカナという表音文字と表意文字（漢字）でできているのだから漢字についても当然学ぶべきである。学ぶ権利であるといえる。
- ⑥ 継続して学ぶことで自ら学ぶ姿勢ができる。そのためには、自ら学べる本教材が有効であった。

(2) 他の場面での広がりについて

また、漢字の学習以外の場面でも、漢字を意識している様子が見られるようになった。特に、同音異義語の場合、漢字の学習を始めてからは、「これは、どんな漢字を使うんですか？」とたずねるようになり、学習が進むにつれ、「訓読みは〇〇？」や「もしかして、こういう漢字？」などと、指で机や空に書いたり、文脈から意味を考え、そこから漢字を考えたりする場面が多く見られるようになった。

今年度は社会科で歴史の学習を行っているが、歴史の学習では熟語が非常に多く、漢字からその内容を推測しやすいものが多い。本指導を行うようになり、社会や算数など他教科でも、どのような漢字を使っている言葉か、漢字学習プログラムの教材を使ったりレーザーライターで書いたりしながら説明を行うようにした。例えば、「廃藩置県」や「文明開化」「治外法権」などは、漢字の説明を聞くことで、言葉の意味がより理解できたようである。

言葉や文章を、漢字を意識しながら読んでいく習慣がついてきたことで、言葉の意味をよく考え

るようになり、国語での内容の読み取りをはじめ、他教科においても文章を理解する力がついたように思われる。また、文を作ったり口頭で発表したりする際においても、自分の思いを表現するための言葉をよく吟味して使うようになった。

第5章 総合考察及び今後の課題

本研究では、点字を常用している児童生徒が効率よく漢字の力を身に付けるための指導法の研究を行い、そこから指導プログラム及び教材の開発を目指した。第2章第1節で本漢字学習プログラム及び教材開発にあたっての考え方を述べたが、これらを基に漢字をグルーピングし、第1段階から第10段階までのプログラムと教材が出来上がった。このプログラムで取り上げた漢字の字種については、「学校教育段階で要求されている基礎的・基本的な漢字力」とはどのようなものなのかを考えながら選定した。結果的には、新聞に出現する漢字全体の97%をカバーするであろう漢字（国立国語研究所の調査である新聞の使用漢字頻度順位から）と一般の漢字使用の目安となっている常用漢字とからなった。選定の過程では、常用漢字ではあるが、使用頻度順位が低く、日常的にも馴染みのない漢字が入っており、ここで取り上げるかどうか思案した漢字もある。しかし、現行の学習指導要領では、常用漢字は義務教育段階で学習することになっているので、常用漢字全てを取り入れることとした。現在、国語審議会では、常用漢字一覧表の見直しについて検討しており、今後、時代にあった本来の常用漢字が選定されることになろう。これらの結果を見ながら、本プログラムも修正していく必要がでてくるであろう。いずれにせよ、本プログラムは段階別に構成されているので、全ての漢字を学習するというところにこだわらず、学習者の発達段階を踏まえながら、柔軟かつ応用的に活用することができると思う。

第3章においては、盲学校小学部での漢字指導状況について、アンケート調査をもとにその実態を明らかにした。盲学校点字教科書においてはその性格上、指導者が補助教材等を活用しながら、その内容を補うような配慮と工夫が必要である。しかし、アンケート結果から見えてきたものは、漢字指導の必要性は感じながらも、漢字を扱った単元を指導していなかったり、漢字には触れずに本文に沿った指導に終わっているところがあり、指導時間や教材作成時間の確保や、指導法等に課題を抱えていた。これらの実態を考えると、まず、国語の授業の中で、点字使用児童の漢字指導をしっかりと位置付ける必要があるだろう。漢字を扱った単元を指導していなかったり、漢字には触れずに指導を進めていたのでは、漢字力、語彙力等、国語科が本来目的としている力の育成はできない。このような漢字を扱った単元では、どのような補助教材や補足説明が必要なのか。現在、その指導は各指導者にゆだねられている感が強い。このように考えると、点字使用児童を指導するための補助教材や教材のアイデア、配慮事項が記載された指導書や、点字教科書とは別に漢字学習に特化した冊子等が必要ではなかろうか。

このような国語科の指導実態の中で、本プログラムと教材が有効なものになるのかどうか、国語の授業の中で活用した事例を第4章で紹介した。この事例は小学部5年から6年の国語の指導を追ったものの一部である。本プログラムと教材の他、必要に応じて補助教材を作成して指導に当たった。各種の評価テストの結果をみると、指導開始時から比べて漢字力、語彙力等の伸びが見られる。また、他の教科や日常のコミュニケーションへの広がりが見られている。事例の中で具体的に記載しているが、このプログラムの考え方で指導したことによって、未習得の漢字であっても、音や意味を推測する力がついている。このことは、日常的に漢字に触れることの少ない点字使用児童にとって、特に有効なことである。

本プログラムは、漢字の成り立ちから基本漢字を覚え、部首による漢字の構成要素間の配置関係の理解、そしてそこから単語家族の考え方を導入して多くの漢字を関係づけて学ぶという指導法であり、各段階ごとに漢字をグルーピングしている。教材はグルーピングした漢字を点線文字で表し、

音、訓を点字で示した。基本漢字の部分は具体物のイメージから中間体を通して漢字が成り立っていることを点図、点線文字で表し、簡単な図の説明を点字で入れた。今後、これらの漢字に合わせた説明文を作成していくことが必要である。漢字教材を触察しながら、説明文を聞く（あるいは読む）ことができれば、自学することもさらに進められる。説明文を作成していく際には、いくつか留意する点がある。それは、まず、楽しみながら漢字を学習することができる工夫である。日常的に漢字に接している晴眼児であっても、漢字学習を苦手とする者は多い。日常的に漢字に馴染みの薄い点字使用児童に対しては、苦手意識を持たせないようにすることが大切である。また、漢字はそれ自体が語であるゆえに、漢字の学習は国語の語彙力をつけることにもつながる。それを踏まえた言葉の使い方、取り上げる熟語の選択をしていかなければならない。

本報告書では、平成16年から18年までの3年間の成果を報告した。今後、このプログラムと教材を各所で使用し、さらなる修正をしていきたい。また、上記にあげた課題解決に取り組んでいきたい。

引用・参考文献

- 1) 井上一郎 (2001) : 語彙力の発達とその育成—国語科学習基本語彙選定の視座から—, 明治図書.
- 2) 尾崎雄二郎 (1989) : 訓読説文解字注, 許慎(撰), 東海大学出版会.
- 3) 海保博之・野村幸正 (1983) : 漢字情報処理の心理学, 教育出版.
- 4) 神谷弘子 (2000) : 点字を常用する児童生徒の漢字・漢語の理解と表現の指導, 岐阜大学大学院修士論文.
- 5) 国立国語研究所 (1976) : 国立国語研究所報告 56 現代新聞の漢字, 秀英出版.
- 6) 国立国語研究所 (1984) : 国立国語研究所報告 78 日本語教育のための基本語彙調査, 秀英出版.
- 7) 国立国語研究所 (2001) : 国立国語研究所報告 117 教育基本語彙の基本的研究—教育基本語彙データベースの作成—, 秀英出版.
- 8) 小林一仁 (1982) : 学校教育における漢字指導, ことばシリーズ 16 漢字, 文化庁, 74-84.
- 9) 澤田真弓 (1993) : 視覚障害教育における漢字指導に関する研究—点字使用者のための漢字学習プログラム—, 平成4年度国立特殊教育総合研究所長期研修成果報告書.
- 10) 澤田真弓・大内進・千田耕基・木塚泰弘 (2001) : 視覚障害教育における漢字指導に関する研究(Ⅱ)—構成要素言語補助による認知のしやすさの検証—, 第39回日本特殊教育学会発表論文集, 514.
- 11) 澤田真弓・香川邦生・千田耕基・木塚泰弘 (2003) : 点字使用者に対する漢字指導に関する研究—字源及び単語家族の考え方を取り入れた指導の有効性について—, 第41回日本特殊教育学会発表論文集, 647.
- 12) 澤田真弓・香川邦生・千田耕基 (2003) : 全盲児童の漢字構成要素学習の有効性についての検討, 国立特殊教育総合研究所研究紀要第30巻, 51-60.
- 13) 澤田真弓 (2003) : 点字使用者に対する漢字指導に関する研究—漢字構成要素の言語補助による理解のしやすさの検証と指導への可能性—, 国立特殊教育総合研究所視覚障害教育研究部一般研究成果報告書, 33-37.
- 14) 澤田真弓 (2003) : 点字使用者に対する漢字学習プログラムに関する研究—盲学校小・中学部の児童生徒を対象に—, 筑波大学大学院修士課程修士論文.
- 15) 藤堂明保 (1976) : 漢字語源辞典, 學燈社.
- 16) 藤堂明保 (1977) : 漢字概説, 岩波講座日本語8 文字, 岩波書店.
- 17) 藤堂明保 (1978) : 中国の文字とことば, 漢和大字典.
- 18) 藤堂明保・松本昭・竹田晃 (1988) : 漢字源, 学習研究社.
- 19) 藤堂明保 (1990) : 小学生の漢字早おぼえ字典, 改訂新版, 学習研究社.
- 20) 藤堂明保・黒須重彦・加納喜光 (1991) : 藤堂方式 小学生の漢字はかせ 1・2・3年, 改訂新版, 學燈社.
- 21) 藤堂明保・黒須重彦・加納喜光 (1991) : 藤堂方式 小学生の漢字はかせ 4・5・6年用, 改訂新版, 學燈社.
- 22) 光村図書 (2005) : 文部科学省検定済教科書小学校国語科用1年～6年, 光村図書出版株式会社.
- 23) 光村図書 (2005) : 小学校国語学習指導書1年～6年, 光村図書出版株式会社.

- 24) 宮下久夫・篠崎五六・伊東信夫・浅川満 (1992) : 101 漢字カルタ, 太郎次郎社.
- 25) 文部科学省 (2005) : 盲学校小学部国語教科書 1年～6年, 視覚障害者支援総合センター.
- 26) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2005) : 盲学校小学部点字教科書編集資料.
- 27) 文部省 (1999) : 盲学校、聾^{ろう}学校及び養護学校小学部・中学部学習指導要領.
- 28) 文部省 (2000) : 盲学校、聾^{ろう}学校及び養護学校学習指導要領(平成11年3月)解説—各教科道徳及び特別活動編一.
- 29) 横山詔一・笹原宏之・野崎浩成・Eric Long (1998) : 新聞電子メディアの漢字—朝日新聞CD-ROMによる漢字頻度表一, 国立国語研究所プロジェクト選書1, 三省堂.

資 料 編

1. 「点字使用者のための漢字学習プログラム」漢字一覧表（使用頻度順）
2. 小学部国語原典教科書と点字教科書編集資料（漢字を扱った単元）
3. 点字使用児童への漢字指導に関する調査用紙
4. 第44回日本特殊教育学会発表レジュメ
「点字使用者のための漢字学習プログラム及び教材の開発
一点字使用児童を対象とした漢字指導状況調査から」
5. 参考教材「漢字カルタ」

「点字使用者のための漢字学習プログラム」漢字一覧表(使用頻度順)

順位: 1966年(国立国語研究所1976)、1993年(横山1998)の調査順位。
 段階: 「点字使用者のための漢字学習プログラム」での学習段階。
 学年等: 数字は学年別漢字配当表による学年。その他は、常用、人名等で示す。

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1	1	1	日	2.5	ニチ・ジツ	ひ・か	1	4	象形	日(ひ・ひへん・にちへん)
2	2	2	一	2.5	イチ・イツ	ひと・ひとつ	1	1	指事	一(いち)
3	3	2	十	2.7	ジュウ・ジツ	とおと	1	2	指事	十(じゅう)
4	4	3	二	2.7	ニ	ふた・ふたつ	1	2	指事	二(に)
5	5	4	大	2	ダイ・タイ	おお・おおきい・おおいに	1	3	象形	大(だい)
6	6	5	人	2.6	ジン・ニン	ひと	1	2	象形	人(イ)(ひと・にんべん)
7	7	6	三	2	サン	み・みつ・みつ	1	3	指事	一(いち)
8	8	7	会	9	カイ・エ	あう	2	6	会意	人(イ)(ひと・にんべん)
9	9	8	国	4	コク	くに	2	8	会意兼形声	口(く)がまえ
10	10	9	年	4	ネン	とし	1	6	会意兼形声	干(い)ちゅう・かん
11	11	10	中	2.7	チュウ	なが	1	4	象形	丨(ぼう)
12	12	11	本	2	ホン	もと	1	5	指事	木(き・きへん)
13	13	12	東	4.7	トウ	ひがし	2	8	象形	木(き・きへん)
14	14	13	五	2.7	ゴ	いつ・いつ	1	4	指事	二(に)
15	15	14	時	4.8	ジ	とき	2	10	会意兼形声	日(ひ・ひへん・にちへん)
16	16	15	四	2	シ	よ・よつ・よつ	1	5	会意	口(く)がまえ
17	17	16	出	6.8	シュツ・スイ	で・る・だす	1	5	会意	丨(かん)によう・う(け)ぼこ
18	18	17	上	2	ジョウ・シヨウ	うえ・うわ・かみ・あ-げる・あ-がる のぼ-る・のぼ-せる・のぼ-す	1	3	指事	一(いち)
19	19	18	円	2.6	エン	まる-い	1	4	会意兼形声	冂(けい)がまえ・まきがまえ・どうがまえ
20	20	19	同	8	ドウ	おな-じ	2	6	会意	口(く)ち・ちへん
21	21	21	月	2.5	ゲツ・ガツ	つき	1	4	象形	月(つき・つきへん)
22	22	22	長	3.7	チヨウ	なが-い	2	8	象形	長(なががい)
23	23	23	学	9	ガク	まな-ぶ	1	8	会意兼形声	子(こ)へん
24	24	24	生	3.7	セイ・シヨウ	い-きる・い-かす・い-ける・う-まれる・う-む・お- う-は-える・は-やす・き-なま	1	5	会意	生(うまれる)
25	25	25	行	2.7	コウ・ギョウ・アン	い-く・ゆ-く・おこな-う	2	6	象形	行(ぎ)ようがまえ・ゆきがまえ
26	26	26	事	4.8	ジ・ズ	こと	3	8	会意	丨(は)ねぼう
27	27	27	京	3.7	キョウ・ケイ	わ-ける・わ-かれる・わ-かる・わ-かつ もの	2	8	象形	亠(けい)さんかんむり・なべぶた
28	28	28	分	8	ブン・フン・ブ	あいた・ま	2	4	会意	刀(かた)な
29	29	29	者	2.7	シャ	あたら-しい・あら-た-にい	3	8	象形	耂(お)いる・おいかんむり・おいがしら
30	30	30	間	5	カン・ケン	あた-ら-しい	2	12	会意	門(もん)もんがまえ・かどがまえ
31	31	31	新	7	シン	かた	2	13	会意兼形声	斤(お)の・お(の)づ(くり)
32	32	32	方	2.7	ホウ	た	2	4	象形	方(ほう)ほうへん・かたへん
33	33	33	田	2.5.7	テン	まえ	1	5	象形	田(た)たへん
34	34	34	前	4	ゼン		2	9	会意兼形声	丨(り)つとう

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
35	35	35	六	2	ロク	む・むっ・つ・むい	1	4	象形	八(はち・はちがしら)
36	36	36	地	9	チ・ジ		2	6	会意兼形声	土(つち・つちへん・どへん)
37	37	37	場	9	ジョウ	ば	2	12	会意兼形声	土(つち・つちへん・どへん)
38	38	38	発	6.8	ハツ・ホツ		3	9	会意兼形声	夨(はつがしら)
39	39	39	社	6.7	シャ	やしろ	2	7	会意兼形声	示(ネ)(しめす・しめすへん)
40	40	40	合	9	ゴウ・ガツ・カツ	あう・あわす・あわせる	2	6	会意	口(くち・くちへん)
41	41	41	子	2.7	シ・ス	こ	1	3	象形	子(こ・こへん)
42	42	42	後	4.9	ゴ・コウ	のち・うしろあと・おくれ	2	9	会意	イ(ぎよう・にんべん)
43	43	43	手	2.6	シュ	て・た	1	4	象形	手(テ)(てへん)
44	44	44	的	7	テキ	まと	4	8	会意兼形声	白(しろ・しろへん)
45	45	45	部	9	ブ		3	11	会意兼形声	邑(ヨ)(おおざと)
46	46	46	八	2.5.7	ハチ	や・やっ・やっ・つ・よう	1	2	指事	八(はち・はちがしら)
47	47	47	業	3	ギョウ・ゴウ	わざ	3	13	象形	木(き・きへん)
48	48	48	見	3.5	ケン	み-る・み-える・み-せる	1	7	会意	見(みる)
49	49	49	高	3.4.7	コウ	たか-い・たか-たか-まる・たか-める	2	10	象形	高(たかい)
50	50	50	政	8	セイ・シヨウ	まつりごと	5	9	会意兼形声	支(ヌ)(ぼくによう・ぼくづくり・とまた)
51	51	51	員	8	イン		3	10	会意	口(くち・くちへん)
52	52	52	内	6.8	ナイ・ダイ	うち	2	4	会意	冂(けい)がまえ・まきがまえ・どうがまえ)
53	53	53	議	7	ギ		4	20	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
54	54	54	自	2.5	ジ・シ	みずか-ら	2	6	象形	自(みずから)
55	55	55	九	2.7	キウ・ク	ここの・ここの-つ	1	2	象形	乙(おつ・おつによう)
56	56	56	対	6	タイ・ツイ	なな・なな-つ・なの	3	7	会意	寸(すん)
57	57	57	七	2	シチ		1	2	指事	一(いち)
58	58	58	代	8	ダイ・タイ	か-わる・か-える・よ-しろ	3	5	形声	人(イ)(ひと・にんべん)
59	59	59	金	4	キン・コン	かね・かな	1	8	会意兼形声	金(かね・かねへん)
60	60	60	定	8	テイ・ジヨウ	さだ-める・さだ-まる・さだ-か	3	8	会意兼形声	宀(うかんむり)
61	61	61	立	2.5	リツ・リュウ	た-つ・た-てる	1	5	会意	立(たつ・たつへん)
62	62	62	回	3	カイ・エ	まわ-る・まわ-す	2	6	象形	口(くに)がまえ)
63	63	63	全	9	ゼン	ま-つた-く	3	6	会意	人(イ)(ひと・にんべん)
64	64	64	小	2.5.7	シヨウ	ちい-さい・こ-お	1	3	象形	小(しょう)
65	65	65	山	2.5	サン	やま	1	3	象形	山(やま・やまへん)
66	66	66	目	2.5	モク・ボク	め・ま	1	5	象形	目(め・めへん)
67	67	67	力	2.5	リョク・リキ	ちから	1	2	象形	力(ちから)
68	68	68	気	9	キ・ケ		1	6	会意兼形声	气(きが)がまえ)
69	69	69	相	8	ソウ・シヨウ	あい	3	9	会意	目(め・めへん)
70	70	70	通	7	ツウ・ツ	とお-る・とお-す・かよ-う	2	10	会意兼形声	辶(しん)によう・しん(にゆう)
71	71	71	度	8	ド・ト・タク	た-び	3	9	形声	广(まだ)れ)
72	72	72	区	4.7	ク		3	4	会意	匚(かく)がまえ)
73	73	73	下	2	カ・ゲ	した・しも・もと・さ-げる・さ-がる・くだ-る・くだ-す	1	3	指事	一(いち)
74	74	74	入	3	ニユウ	い-る・い-れる・はい-る	1	2	指事	入(いる・いりがしら)
75	75	75	市	4	シ	いち	2	5	会意兼形声	巾(はば)・はばへん)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
76	76	76	問	7	モン	とーう・とーい・とん	3	11	会意兼形声	口(く)・ち(ち)へん
77	77	77	百	2	ヒヤク		1	6	形声	白(しろ)・し(し)へん
78	78	78	千	2	セン	ち	1	3	形声	十(じゅう)
79	79	79	開	5	カイ	ひら-く・ひら-ける・あ-く・あ-ける	3	12	会意	門(もん)・もんがまえ・かどがまえ
80	80	80	第	5	ダイ		3	11	会意兼形声	竹(たけ)・た(た)かんむり
81	81	81	現	5	ゲン	あらわ-れる・あらわ-す	5	11	会意兼形声	玉(王)・た(た)まへん・おうへん
82	82	82	明	8	メイ・ミョウ	あ-かり・あか-るい・あか-るむ・あか-らむ・あき-らか・あ-ける・あ-く・あ-くる・あ-かす	2	8	会意	日(ひ)・ひへん・に(ち)へん
83	83	83	家	6	カケ	いえ・や	2	10	会意	宀(うかんむり)
84	84	84	動	8	ドウ	うご-く・うご-かす	3	11	会意兼形声	力(ちから)
85	85	85	実	6	ジツ	み・みの-る	3	8	会意	宀(うかんむり)
86	86	86	戦	7	セン	いく-さ・た(た)か-う	4	13	会意兼形声	戈(ほこづくり)・ほ(こ)がまえ
87	87	87	野	7	ヤ	の	2	11	会意兼形声	里(さと)・さ(と)へん
88	88	88	主	2.7	シュス	ぬし・おも	3	5	象形	丶(てん)
89	89	89	都	4.7	トツ	みやこ	3	11	会意兼形声	邑(阝)・お(お)ざと
90	90	90	民	3.7	ミン	たみ	4	5	象形	氏(うじ)
91	91	91	米	4.5	ベイ・マイ	こめ	2	6	象形	米(こめ)・こ(め)へん
92	92	92	連	6	レン	つら-なる・つら-ねる・つ-れる	4	10	会意	辶(しん)・しん(しん)にゆう
93	93	93	作	9	サク・サ	つく-る	2	7	会意兼形声	人(イ)・ひと・にんべん
94	94	94	当	5	トウ	あ-た-る・あ-てる	2	6	形声	小(しょう)
95	95	95	理	7	リ		2	11	会意兼形声	玉(王)・た(た)まへん・おうへん
96	96	96	決	9	ケツ	き-め-る・き-まる	3	7	会意兼形声	水(水)・み(み)ず・した(み)・さん(ず)いず
97	97	97	化	8	カケ	ば-ける・ば-かす	3	4	会意	匕(ひ)・さ(じ)
98	98	98	万	3	マン・バン		2	3	象形	一(いち)
99	99	99	機	9	キ	はた	4	16	会意兼形声	木(き)・き(き)へん
100	100	100	教	7	キョウ	おし-える・おそ-わる	2	11	会意兼形声	支(攴)・ぼ(く)・に(に)・う(う)・ぼ(く)・くり(くり)・と(また)
101	100	101	午	2.7	ゴ		2	4	象形	十(じゅう)
102	102	102	用	2.7	ヨウ	もち-いる	2	5	会意	用(もち)いる
103	103	103	題	8	ダイ		3	18	会意兼形声	頁(お)が(い)・い(ち)の(かい)
104	104	104	北	4.7	ホク	きた	2	5	会意	匕(ひ)・さ(じ)
105	105	105	所	4.7	ショ	ところ	3	8	形声	戶(と)・た(た)れ・と(かんむり)
106	106	106	調	8	チョウ	しら-べる・と(と)の-う・と(と)の-える	3	15	会意兼形声	言(げん)・ご(ん)べん
107	107	107	関	5	カン	せき	4	14	会意兼形声	門(もん)・もんがまえ・かどがまえ
108	108	108	体	6	タイ・テイ	からだ	2	7	形声	人(イ)・ひと・にんべん
109	109	109	党	5	トウ		6	10	形声	小(しょう)
110	110	110	成	8	セイ・ジョウ	な-る・な-す	4	6	会意兼形声	戈(ほこづくり)・ほ(こ)がまえ
111	111	111	来	3	ライ	く-る・きた-る・きた-す	2	7	象形	木(き)・き(き)へん
112	112	112	強	7	キョウ・ゴウ	つよ-い・つよ-まる・つよ-める・し-いる	2	11	会意兼形声	弓(ゆみ)・ゆ(み)へん
113	113	113	要	8	ヨウ	い-る	4	9	会意	西(西)・に(し)
114	114	114	意	7	イ		3	13	会意	心(忄)・こ(ろ)・した(ご)ろ(ろ)・り(っ)しんべん
115	115	115	正	8	セイ・シヨウ	ただ-しい・た(た)だ-す・まさ	1	5	会意	止(と)め(る)・と(め)へん
116	116	116	最	8	サイ	も(っ)と-も	4	12	会意	日(ひ)・ひへん・に(ち)へん

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
117	117	117	名	7	メイ・ミヨウ	な	1	6	会意	口(くち・くちへん)
118	118	118	選	8	セン	えら-ぶ	4	15	会意兼形声	讠(しん)によウ・しん(にゆう)
119	119	119	外	7	ガイ・ゲ	そと・ほか・はず-す・はず-れる	2	5	会意兼形声	夕(た・ゆうべ)
120	120	120	川	2.7	セン	かわ	1	3	象形	川(かわ)
121	121	121	表	4.7	ヒョウ	おもて・あらわ-す・あらわ-れる	3	8	会意	衣(ネ)(ころも・ころもへん)
122	122	123	期	9	キゴ		3	12	会意兼形声	月(つき・つきへん)
123	123	124	公	8	コウ	おおやけ	2	4	会意	八(はち・はちがしら)
124	124	125	物	4	ブツ・モツ	もの	3	8	会意兼形声	牛(うし・うしへん)
125	125	126	町	4.7	チヨウ	まち	1	7	会意兼形声	田(た・たへん)
126	126	127	電	7	デン		2	13	会意兼形声	雨(あめ・あめかんむり)
127	127	128	近	7	キン	ちか-い	2	7	会意兼形声	讠(しん)によウ・しん(にゆう)
128	128	129	道	4.7	ドウ・トウ	みち	2	12	会意兼形声	讠(しん)によウ・しん(にゆう)
129	129	130	書	9	ショ	か-く	2	10	形声	日(ひ・ひへん・にちへん)
130	130	131	売	8	バイ	う-る・う-れる	2	7	会意兼形声	土(さむらい)
131	131	132	原	8	ゲン	はら	2	10	会意	厂(がんだれ)
132	132	133	法	6	ホウ・ハツ・ホツ		4	8	会意	水(み)(みず・したみ・さんずいず)
133	133	134	水	2.6	スイ	みず	1	4	象形	水(み)(みず・したみ・さんずいず)
134	134	135	話	7	ワ	はな-す・はなし	2	13	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
135	134	136	心	3.6	シン	こころ	2	4	象形	心(しん)によウ・しん(にゆう)
136	136	137	安	8	アン	やす-い	3	6	会意	宀(うかんむり)
137	137	138	産	9	サン	う-む・う-まれる・うぶ	4	11	会意	生(うまれる)
138	137	139	品	5	ヒン	しな	3	9	会意	口(くち・くちへん)
139	139	140	木	2.7	フ・ブ		4	4	象形	一(いち)
140	140	141	点	6.8	テン		2	9	会意兼形声	火(ひ)(ひ・ひへん・れつか・れんが)
141	141	142	文	2.7	ブン・モン	ふみ	1	4	象形	文(ぶん・ぶんによウ)
142	142	143	経	9	ケイ・キョウ	へ-る	5	11	会意兼形声	糸(いと・いとへん)
143	143	144	思	7	シ	おも-う	2	9	会意	心(しん)によウ・しん(にゆう)
144	144	145	約	7	ヤク		4	9	会意	糸(いと・いとへん)
145	145	146	今	9	コン・キン	いま	2	4	会意	人(い)(ひと・にんべん)
146	146	147	記	7	キ	しる-す	2	10	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
147	147	148	務	5	ム	つと-める	5	11	会意兼形声	力(ちから)
148	148	149	和	9	ワ・オ	やわ-らぐ・やわ-らげる・なご-む・なご-やか	3	8	会意兼形声	口(くち・くちへん)
149	149	150	画	5.5	ガ・カク		2	8	会意	田(た・たへん)
150	150	151	木	2.5	ボク・モク	き-こ	1	4	象形	木(き・きへん)
151	151	152	平	2.7	ヘイ・ピョウ	たい-ら・ひら	3	5	象形	干(いちじゆう・かん)
152	152	153	世	7	セイ・セ	よ	3	5	会意	一(いち)
153	153	154	総	9	ソウ		5	14	会意兼形声	糸(いと・いとへん)
154	153	155	重	8	ジュウ・チヨウ	え・おも-い・かさ-ねる・かさ-なる	3	9	会意兼形声	里(さと・さとへん)
155	155	156	特	8	トク		4	10	会意兼形声	牛(うし・うしへん)
156	156	157	府	4.8	フ		4	8	会意兼形声	广(まだれ)
157	157	158	以	8	イ		4	5	会意兼形声	人(い)(ひと・にんべん)
158	158	159	共	8	キョウ	とも	4	6	会意	八(はち・はちがしら)
159	159	160	車	3.5	シャ	くるま	1	7	象形	車(くるま・くるまへん)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
160	160	161	海	4.7	カイ	うみ	2	9	会意兼形声	水(シ)(みず)・したみ・さん(ずいず)
161	161	162	設	5	セツ	もろ-ける	5	11	会意	言(げん)・ごん(べん)
162	162	163	予	2.7	ヨ		3	4	象形	丁(はねぼう)
163	163	164	結	7	ケツ	むす-ぶ・ゆ-う・ゆ-わえる	4	12	会意兼形声	糸(いと)・いとへん
164	164	165	多	8	タ	おお-い	2	6	会意	夕(た)・ゆ(う)べ
165	165	166	面	4	メン	おも・おもて・つら	3	9	会意	面(めん)
166	166	167	西	4	セイ・サイ	にし	2	6	象形	面(西)(にし)
167	167	168	保	6	ホ	たも-つ	5	9	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にん(べん)
168	168	169	島	5	トウ	しま	3	10	会意兼形声	山(やま)・やまへん
169	169	170	集	9	シュウ	あつ-まる・あつ-める・つど-う	3	12	会意	隹(ふるとり)
170	170	171	委	9	イ		3	8	会意	女(おんな)・おんなへん
171	171	172	界	8	カイ		3	9	会意兼形声	田(た)・たへん
172	172	173	藤	10	トウ	ふじ	人名	18	会意兼形声	艸(++)・くさかんむり
173	173	174	校	7	コウ		1	10	会意兼形声	木(き)・きへん
174	174	175	団	9	ダン・トン		5	6	会意兼形声	口(く)にがまえ
175	175	176	進	6	シン	すす-む・すす-める	3	11	会意	辵(しん)によう・しんにゆう
176	175	177	工	2.5.7	コウ・ク		2	3	指事	工(え)・こう
177	177	178	氏	3.7	シン	うじ	4	4	象形	氏(うじ)
178	178	179	運	8	ウン	はこ-ぶ	3	12	会意兼形声	辵(しん)によう・しんにゆう
179	179	180	治	8	ジ・チ	おさ-める・おさ-まる・なお-る・なお-す	4	8	会意兼形声	水(シ)(みず)・したみ・さん(ずいず)
180	179	181	女	2.5	ジョ・ニョ・ニュウ	おんな・め	1	3	象形	女(おんな)・おんなへん
181	181	182	持	8	ジ	も-つ	3	9	会意兼形声	手(テ)・てへん
182	182	183	式	8	シキ		3	6	会意兼形声	弋(し)にがまえ
183	183	184	組	7	ソ	く-む・くみ	2	11	会意兼形声	糸(いと)・いとへん
184	184	185	計	7	ケイ	はか-る・はか-らう	2	9	会意	言(げん)・ごん(べん)
185	185	186	打	7	ダ	う-つ	3	5	会意兼形声	手(テ)・てへん
186	186	187	反	8	ハン・ホン・タン	そ-る・そ-らす	3	4	会意	又(また)
187	187	188	加	8	カ	くわ-える・くわ-わる	4	5	会意	力(ち)から
188	188	189	取	5	シュ	と-る	3	8	会意	又(また)
189	189	190	数	6	スウ・ス	かず・かぞ-える	2	13	会意	支(攴)(ぼく)によう・ぼくづくり・とまた
190	190	191	軍	8	グン		4	9	会意	車(くるま)・くるまへん
191	191	192	巢	4.7	ケン		3	9	指事	目(め)・めへん
192	192	193	考	9	コウ	かんが-える	2	6	会意兼形声	耂(お)いる・おいかんむり・おいがしら
193	193	194	解	5	カイ・ゲ	と-く・と-かす・と-ける	5	13	会意	角(つの)・つのへん
194	194	195	各	8	カク	おのおの	4	6	会意	口(く)ち・ちへん
195	195	196	制	8	セイ		5	8	会意	リ(り)つとう
196	195	197	局	6	キョク		3	7	会意	尸(しか)ばね
197	197	198	性	7	セイ・シヨウ		5	8	会意兼形声	心(しん)によう・しんごころ
198	198	199	勝	8	ショウ	か-つ・まさ-る	3	12	会意	力(ち)から
199	199	200	交	2.7	コウ	まじ-わる・まじ-える・ま-じる・ま-ざる・ま-ぜる・か-う・か-わす	2	6	象形	亠(けい)さんかんむり・なべぶた
200	200	201	信	6	シン		4	9	会意	人(イ)(ひと)・にん(べん)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
201	201	202	切	6.9	セツ・サイ	きる・き-れる	2	4	会意兼形声	刀(かたな)
202	202	203	先	8	セン	さき	1	6	会意	儿(ひとあし・にんにょう)
203	203	204	価	6カ	カ	あたい	5	8	会意兼形声	人(イ)(ひと・にんべん)
204	204	205	活	7カツ	カツ		2	9	会意兼形声	水(ミ)(みず・したみ・さんずいず)
205	205	206	南	4	ナン・ナ	みなみ	2	9	会意兼形声	十(じゅう)
206	206	207	首	3.7	シュ	くび	2	9	象形	首(くび)
207	206	208	協	9	キョウ		4	8	会意兼形声	十(じゅう)
208	208	209	店	8	テン	みせ	2	8	会意兼形声	广(まだれ)
209	209	210	料	7	リョウ		4	10	会意	斗(とます)
210	210	211	知	8チ	チ	し-る	2	8	会意	矢(や・やへん)
211	211	212	続	8ゾク	ゾク	つづ-く・つづ-ける	4	13	会意兼形声	糸(いと・いとへん)
212	211	213	村	4ソン	ソン	むら	1	7	会意兼形声	木(き・きへん)
213	213	214	台	8ダイ・タイ	ダイ・タイ		2	5	会意兼形声	口(くち・くちへん)
214	214	215	口	2.5	コウ・ク	くち	1	3	象形	口(くち・くちへん)
215	215	216	松	8シヨウ	シヨウ	まつ	4	8	会意兼形声	木(き・きへん)
216	216	217	向	5コウ	コウ	む-く・む-ける・む-かう・む-こう	3	6	会意	口(くち・くちへん)
217	217	218	案	8アン	アン		4	10	会意兼形声	木(き・きへん)
218	218	219	利	6リ	リ	き-く	4	7	会意	リ(りっとう)
219	219	220	演	6エン	エン		5	14	会意兼形声	水(ミ)(みず・したみ・さんずいず)
220	220	221	濱	7シ	シ		5	13	会意兼形声	貝(かい・かいへん)
221	221	222	私	6シ	シ	わたくし	6	7	会意兼形声	禾(のぎへん)
222	222	223	送	9ソウ	ソウ	おく-る	3	9	会意	辶(しんによろ・しんにゅう)
223	223	224	使	8シ	シ	つか-う	3	8	会意	人(イ)(ひと・にんべん)
224	224	225	官	8カン	カン		4	8	会意	宀(うかんむり)
225	224	226	半	2.7ハン	ハン	なか-ば	2	5	会意	十(じゅう)
226	226	227	無	4.7ム・ブ	ム・ブ	ない	4	12	会意兼形声	火(ヒ)(ひ・ひへん・れつか・れんが)
227	227	228	受	9ジュ	ジュ	う-ける・う-かる	3	8	形声	又(また)
228	228	229	男	2ダン・ナン	ダン・ナン	おとこ	1	7	会意	田(た・たへん)
229	229	230	神	6.7シン・ジン	シン・ジン	かみ・かん・こう	3	9	会意兼形声	示(ネ)(しめす・しめすへん)
230	230	231	楽	2ガク・ラク	ガク・ラク	たの-しい・たの-しむ	2	13	象形	木(き・きへん)
231	231	232	少	2.7ショウ	ショウ	すく-ない・すこ-し	2	4	会意	小(しょう)
232	232	233	映	5エイ	エイ	うつ-る・うつ-す・は-える	6	9	形声	日(ヒ)(ひへん・にちへん)
233	233	234	次	7ジ・シ	ジ・シ	つ-ぐ・つぎ	3	6	会意	欠(あくび)
234	234	235	空	7クウ	クウ	そら・あ-く・あ-ける・から	1	8	会意兼形声	穴(あな・あなかんむり)
235	235	236	院	7イン	イン	す-べる	3	10	会意兼形声	阜(β)(ござとへん)
236	236	237	統	8トウ	トウ		5	12	会意兼形声	糸(いと・いとへん)
237	236	238	郎	7ロウ	ロウ		常用	9	会意兼形声	邑(β)(おおざと)
238	238	239	引	7イン	イン	ひ-く・ひ-ける	2	4	会意	弓(ゆみ・ゆみへん)
239	239	240	側	8ソク	ソク	かわ	4	11	会意兼形声	人(イ)(ひと・にんべん)
240	240	241	指	6シ	シ	ゆび・さ-す	3	9	形声	手(テ)(てへん)
241	240	242	株	7		かぶ	6	10	会意兼形声	木(き・きへん)
242	242	243	省	7セイ・シヨウ	セイ・シヨウ	かえり-みる・はぶ-く	4	9	会意	目(め・めへん)
243	242	244	建	6.9ケン・コン	ケン・コン	た-てる・た-つ	4	9	会意	廴(えんによろ・いんにょう)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
244	244	245	在	7	サイ	ある	5	6	会意兼形声	土(つち)・つちへん・どへん)
245	245	246	風	4	フウ・フ	かぜ・かざ	2	9	会意兼形声	風(かぜ)
246	246	247	谷	2.7	コク	たに	2	7	会意	谷(たに)・たにへん)
247	247	248	育	9	イク	そだ-つ・そだ-てる	3	8	会意	肉(月)(にく)・にくづき)
248	248	249	線	7	セン		2	15	会意兼形声	糸(いと)・いとへん)
249	249	250	住	4.7	ジュウ	す-む・す-まう	3	7	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にんべん)
250	249	251	階	7	カイ		3	12	会意兼形声	阜(阝)(びと)・にんべん)
251	251	252	付	8	フ	つ-ける・つ-く	4	5	会意	人(イ)(ひと)・にんべん)
252	252	253	死	6	シ	し-ぬ	3	6	会意	歹(が)・つへん)
253	253	254	策	9	サク		6	12	会意兼形声	竹(たけ)・たけかんむり)
254	254	255	井	2	セイ・シヨウ	い	常用	4	象形	二(に)
255	255	256	別	9	ベツ	わか-れる	4	7	会意	冫(りつ)・とう)
256	256	257	夜	5	ヤ	よ-よる	2	8	会意兼形声	夕(た)・ゆうべ)
257	257	258	早	3.7	ソウ・サツ	はや-い・はや-まる・はや-める	1	6	象形	日(ひ)・ひへん・にちへん)
258	258	259	權	9	ケン・ゴン		6	15	形声	木(き)・きへん)
259	259	260	朝	4.7	チヨウ		2	12	会意兼形声	月(つき)・つきへん)
260	260	261	初	6	シヨ	あさ	4	7	会意	刀(かた)・な)
261	261	262	係	8	ケイ	はじ-め・はじ-めて・は-つ・うい・そ-める	3	9	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にんべん)
262	261	263	銀	4.9	ギン	かか-る・かかり	3	14	会意兼形声	金(かね)・かねへん)
263	263	264	夫	2	フ・フウ	おつと	4	4	象形	大(だい)
264	264	266	論	7	ロン		6	15	会意兼形声	言(げん)・ごんべん)
265	264	267	聞	7	ブン・モン	き-く・き-こえる	2	14	会意兼形声	耳(みみ)・みみへん)
266	266	268	白	4.7	ハク・ビヤク	しろ・しら・しろ-い	1	5	象形	白(しろ)・しろへん)
267	267	269	有	4	ユウ・ウ	あ-る	3	6	会意兼形声	月(つき)・つきへん)
268	268	270	屋	8	オク	や	3	9	会意	尸(しか)・ばね)
269	269	271	争	9	ソウ	あ-らそ-う	4	6	会意	丿(は)・ねぼう)
270	270	272	橋	9	キョウ	はし	3	16	会意兼形声	木(き)・きへん)
271	271	273	投	6	トウ	な-げる	3	7	会意兼形声	手(た)・てへん)
272	271	274	食	4.5	シヨク・ジキ	く-う・く-らう・た-べる	2	9	会意	食(しょく)・しょくへん)
273	273	275	石	2.5	セキ・シヤク・コク	いし	1	5	象形	石(いし)・いしへん)
274	274	276	急	8	キユウ	いそ-ぐ	3	9	会意兼形声	心(しん)・ころ・した・ごころ・りっしんべん)
275	275	277	果	2.7	カ	は-たす・は-てる・は-て	4	8	象形	木(き)・きへん)
276	276	278	真	8	シン	ま	3	10	会意	目(め)・めへん)
277	277	279	語	7	ゴ	かた-る・かた-らう	2	14	会意兼形声	言(げん)・ごんべん)
278	278	280	込	6		こ-む・こ-める	常用	5	会意	辶(しん)・しん(に)・ゆう)
279	279	281	放	7	ホウ	はな-す・はな-つ・はな-れる	3	8	会意兼形声	支(た)・た(に)・よ(う)・ぼくづくり・とまた)
280	280	282	両	2	リョウ		3	6	象形	一(いち)
281	281	283	言	3.5	ゲン・ゴン	い-う・こと	2	7	会意	言(げん)・ごんべん)
282	281	284	査	7	サ		5	9	会意兼形声	木(き)・きへん)
283	283	285	佐	6	サ		常用	7	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にんべん)
284	284	286	感	9	カン		3	13	会意兼形声	心(しん)・ころ・した・ごころ・りっしんべん)
285	285	287	叢	7	ギ		5	13	会意兼形声	羊(ひつじ)・ひつじへん)
286	286	288	件	6	ケン		5	6	会意	人(イ)(ひと)・にんべん)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
287	287	289	判	7	ハン・パン		5	7	会意兼形声	リ(り)つとう
288	288	290	情	7	ジョウ・セイ	なざ-け	5	11	会意兼形声	心(忄)(忄)こころ・したごころ・りっしんべん
289	289	291	美	7	ビ	うつく-しい	3	9	会意	羊(羊)ひつじ・ひつじへん
290	290	292	必	2.7	ヒツ	かなら-ず	4	5	象形	心(忄)(忄)こころ・したごころ・りっしんべん
291	291	293	派	9	ハ		6	9	会意兼形声	水(氵)(氵)みず・したみ・さんずいず
292	292	294	改	7	カイ	あらた-める・あらた-まる	4	7	会意兼形声	支(攴)(攴)ぼくによろ・ぼくづくり・とまた
293	293	295	濟	7	サイ	す-む・す-ます	6	11	会意兼形声	水(氵)(氵)みず・したみ・さんずいず
294	294	296	味	7	ミ	あじ-あじ-わう	3	8	会意兼形声	口(口)くちくちへん
295	295	297	流	9	リュウ・ル	なが-れる・なが-す	3	10	会意兼形声	水(氵)(氵)みず・したみ・さんずいず
296	296	298	増	9	ゾウ	なが-える・なが-やす	5	14	会意兼形声	土(土)つちへん・どへん
297	297	299	術	9	ジュツ	ま-す・ふ-える・ふ-む	5	11	会意兼形声	行(彳)(彳)ぎょうがまえ・ゆきがまえ
298	298	300	横	4.7	オウ	よこ	3	15	会意兼形声	木(木)き・きへん
299	299	301	士	3.5.7	シ		4	3	象形	土(土)さむらい
300	299	302	配	7	ハイ	くば-る	3	10	会意	酉(酉)とり・とりへん・ひよみのとり
301	301	303	談	5	ダン		3	15	会意兼形声	言(訵)げん・ごんべん
302	302	304	際	6	サイ	さわ	5	14	会意兼形声	阜(阡)ござとへん
303	302	305	足	2	ソク	あし-た-りる・た-る・た-す	1	7	象形	足(足)あしへん
304	304	306	支	8	シ	ささ-える	5	4	会意	支(支)しによろ・えだによろ
305	305	307	報	7	ホウ	むく-いる	5	12	会意	土(土)つちへん・どへん
306	306	308	説	9	セツ・ゼイ	とく	4	14	会意兼形声	言(訵)げん・ごんべん
307	307	309	任	9	ニン	まか-せる・まか-す	5	6	会意兼形声	人(亻)ひと・にんべん
308	308	310	好	7	コウ	この-む・す-く	4	6	会意	女(女)おんな・おんなへん
309	309	311	広	7	コウ	ひろ-い・ひろ-まる・ひろ-める・ひろ-がる・ひろ-げる	2	5	会意兼形声	广(广)ただれ
310	310	312	船	9	セン	ふね・ふな	2	11	会意兼形声	舟(舟)ふね・ふねへん
311	311	313	着	7	チャク・ジャク	き-る・き-せる・つ-く・つ-ける	3	12	会意兼形声	羊(羊)ひつじ・ひつじへん
312	311	314	歩	7	ホ・ブ・フ	ある-く・あゆ-む	2	8	会意	止(止)とめる・とめへん
313	313	315	館	8	カン		3	16	会意兼形声	食(食)しょく・しょくへん
314	313	316	製	8	セイ		5	14	会意兼形声	衣(衤)ころも・ころもへん
315	313	317	労	9	ロウ		4	7	会意	力(力)ちから
316	316	318	役	6	ヤク・エキ		3	7	会意	彳(彳)ぎょうにんべん
317	316	319	士	2.5.7	ド・ト	つち	1	3	象形	士(士)つちへん・どへん
318	318	320	置	8	チ	お-く	4	13	会意兼形声	网(囧)あみがしら・よこめ
319	318	321	黒	4.7	コク	くろ-くろ-い	2	11	会意	黒(黒)くろへん
320	320	322	番	8	バン		2	12	会意	田(田)たへん
321	321	323	変	9	ヘン	か-わる・か-える	4	9	会意	夂(夂)つあし
322	322	324	告	8	コク	つ-げる	4	7	会意	口(口)くちくちへん
323	323	326	備	6	ビ	そな-える・そな-わる	5	12	会意兼形声	人(亻)ひと・にんべん
324	324	326	防	7	ボウ	ふせ-く	5	7	会意兼形声	阜(阡)ござとへん
325	325	327	身	3	シン	み	3	7	象形	身(身)みへん
326	326	328	買	9	バイ	か-う	2	12	会意	貝(貝)かい・かいへん
327	326	329	鉄	8	テツ		3	13	形声	金(金)かね・かねへん

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
328	328	330	格	8	カク・コウ		5	10	会意兼形声	木(き・きへん)
329	329	331	求	3.7	キユウ	もと-める	4	7	象形	水(み)(みず・したみ・さんずいず)
330	330	332	色	4	シヨク・シキ	いろ	2	6	象形	色(いろ)
331	331	333	元	2.7	ゲン・ガン	もと	2	4	象形	儿(ひとあし・にんによう)
332	331	334	直	8	チヨク・ジキ	たさ-ちに-なお-す-なお-る	2	8	会意	目(め・めへん)
333	333	335	職	9	シヨク		5	18	会意兼形声	耳(みみ・みみへん)
334	333	336	算	5	サン		2	14	会意	竹(たけ・たけかんむり)
335	335	337	転	9	テン	ころ-がる-ころ-げる-ころ-がす-ころ-ぶ	3	11	会意兼形声	車(くるま・くるまへん)
336	336	338	消	7	シヨウ	き-える-け-す	3	10	会意兼形声	水(み)(みず・したみ・さんずいず)
337	337	339	領	8	リヨウ	ついで-やす-ついで-える	5	14	会意兼形声	頁(おおい・いかい)
338	338	340	費	9	ヒ		4	12	会意兼形声	貝(かい・かいへん)
339	339	341	段	8	ダン		6	9	会意兼形声	安(ほこづくり・るまた)
340	340	342	太	4	タイ・タ	ふと-い-ふと-る	2	4	会意	大(だい)
341	341	343	能	8	ノウ		5	10	会意兼形声	肉(月)(にく・にくづき)
342	341	344	戸	2.7	コ	と	2	4	象形	戸(と・ただれ・とかんむり)
343	343	344	終	7	シュウ	お-わる-お-える	3	11	会意兼形声	糸(いと・いとへん)
344	343	346	値	8	チ	ね-あ-た-い	6	10	会意兼形声	人(い)(ひと・にんべん)
345	345	347	昨	5	サク		4	9	形声	日(ひ・ひへん・にちへん)
346	345	348	検	9	ケン		5	12	会意	木(き・きへん)
347	347	349	商	5	シヨウ	あきな-う	3	11	形声	口(くち・くちへん)
348	348	350	營	6.9	エイ	いと-な-む	5	12	会意兼形声	ツ(つかんむり)
349	349	351	席	5	セキ		4	10	形声	巾(はば・はばへん)
350	350	352	望	8	ボウ・モウ	のぞ-む	4	11	会意兼形声	月(つき・つきへん)
351	350	353	申	2.7	シン	もう-す	3	5	象形	田(た・たへん)
352	352	354	常	8	ジョウ	つね-と-こ	5	11	形声	巾(はば・はばへん)
353	353	355	想	8	ソウ・ソ		3	13	会意兼形声	心(しん)(こころ・したごころ・りっしんべん)
354	354	356	得	8	トク	え-る-う-る	4	11	会意兼形声	彳(ぎよう・にんべん)
355	355	357	科	7	カ		2	9	会意	禾(のぎへん)
356	356	358	兼	4.7	ジョウ	の-る-の-せる	3	9	会意	丿(の)
357	357	359	他	9	タ		3	5	会意兼形声	人(い)(ひと・にんべん)
358	358	360	再	2.9	サイ・サ	ふ-た-た-び	5	6	指事	冂(けい)が-ま-え-ま-ぎが-ま-え-ま-え
359	359	361	割	9	カツ	わ-る-わ-り-わ-れる-さ-く	6	12	形声	冂(りつとう)
360	359	362	農	9	ノウ		3	13	会意	辰(たつ・しんのたつ)
361	361	363	態	8	タイ		5	14	会意兼形声	心(しん)(こころ・したごころ・りっしんべん)
362	362	364	認	7	ニン	み-と-める	6	14	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
363	363	365	勢	5	セイ	いき-お-い	5	13	会意	力(ちから)
364	364	366	洋	7	ヨウ		3	9	形声	水(み)(みず・したみ・さんずいず)
365	364	367	天	2	テン	あ-め-あ-ま	1	4	指事	大(だい)
366	366	368	質	7	シツ・シチ・チ		5	15	会意	貝(かい・かいへん)
367	367	369	号	9	ゴウ		3	5	会意	口(くち・くちへん)
368	368	370	宅	9	タク		6	6	会意兼形声	宀(うかんむり)
369	369	371	侍	8	タイ	ま-つ	3	9	会意兼形声	彳(ぎよう・にんべん)
370	370	372	岡	8		おか	第1	8	会意	山(やま・やまへん)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
371	370	373	路	8	ロ	じ	3	13	形声	足(あし・あしへん)
372	372	374	若	3.7	ジャク・ニヤク	わか-い・も-しくは	6	8	象形	艸(艸)(くさかんむり)
373	372	375	座	6	ザ	すわ-る	6	10	会意兼形声	广(まだけ)
374	374	376	由	2.7	ユ・ユウ・ユイ	よし	3	5	象形	田(た・たへん)
375	375	377	提	8	テイ	さ-げる	5	12	会意兼形声	手(才)(てへん)
376	375	378	古	7	コ	ふる-い・ふる-す	2	5	象形	口(くち・くちへん)
377	377	379	親	7	シン	おや-した-しい-した-しむ	2	16	会意兼形声	見(みる)
378	377	380	然	8	ゼン・ネン		4	12	会意	火(火)(ひ・ひへん・れっか・れんが)
379	379	381	球	7	キユウ	たま	3	11	会意兼形声	玉(王)(た・まへん・おうへん)
380	380	382	基	9	キ	もと・もとい	5	11	会意兼形声	土(つち・つちへん・どへん)
381	380	383	審	6	シン		常用	15	会意	宀(うかんむり)
382	382	384	税	9	ゼイ		5	12	会意兼形声	禾(のぎへん)
383	382	385	止	3.7	シ	と-まる-と-める	2	4	象形	止(とめる・とめへん)
384	382	386	門	2.5.7	モン	かど	2	8	象形	門(もん・もんがまえ・かどがまえ)
385	382	387	馭	7	エキ		3	14	会意兼形声	馬(うま・うまへん)
386	386	388	頭	7	トウ・ズ・ト	あたま・かしら	2	16	会意兼形声	頁(おおがしい・いちのかい)
387	387	389	阪	8	ハン	さか	坂の異体字	7	会意兼形声	阜(べ)(こざとへん)
388	388	390	青	4.7	セイ・シヨウ	あお・あお-い	1	8	会意	青(あお・あおへん)
389	388	391	億	3.7	オク		4	15	会意兼形声	人(イ)(ひとへん)
390	389	392	命	9	メイ・ミョウ	いのち	3	8	会意	口(くち・くちへん)
391	391	393	参	3	サン	まい-る	4	8	象形	厶(む)
392	391	394	衛	9	エイ		5	16	会意兼形声	行(ぎようがまえ・ゆきがまえ)
393	393	395	落	6	ラク	お-ちる・お-とす	3	12	形声	艸(艸)(くさかんむり)
394	394	396	音	3.7	オン・イン	おと・ね	1	9	会意	音(おと・おとへん)
395	395	397	沢	7	タク	さわ	常用	7	会意兼形声	水(シ)(みず・したみ・さんずいず)
396	395	398	技	8	ギ	わざ	5	7	会意兼形声	手(才)(てへん)
397	397	399	確	5	カク	たし-か-たし-かめる	5	15	形声	石(いし・いしへん)
398	398	400	毎	7	マイ		2	6	会意兼形声	母(ながれ)
399	399	401	桑	5	ジョウ		5	7	会意兼形声	木(き・きへん)
400	399	402	騷	9	ケン・ゲン		4	18	会意兼形声	馬(うま・うまへん)
401	401	403	収	9	シュウ	おさ-める・おさ-まる	6	4	会意	又(また)
402	402	404	園	9	エン	その	2	13	会意兼形声	口(くがまえ)
403	403	405	警	9	ケイ		6	19	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
404	403	406	試	8	シ	ころ-みる・ため-す	4	13	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
405	405	407	形	6.9	ケイ・ギョウ	かた・かたち	2	7	会意兼形声	彡(さんづくり)
406	405	408	助	7	ジョ	たす-ける・たす-かる・すけ	3	7	会意兼形声	力(ちから)
407	407	409	宿	8	シュク	やど・やど-る・やど-す	3	11	会意兼形声	宀(うかんむり)
408	408	410	応	6	オウ		5	7	会意兼形声	心(卂)(こころ・したごころ・りっしんべん)
409	408	411	葉	9	ヨウ	は	3	12	会意兼形声	艸(艸)(くさかんむり)
410	410	412	状	9	ジョウ		5	7	会意兼形声	犬(イ)(いぬ・けものへん)
411	411	413	浜	6	ヒン	はま	常用	10	形声	水(シ)(みず・したみ・さんずいず)
412	412	414	宮	6	キョウ・グウ・ク	みや	3	10	会意	宀(うかんむり)
413	413	415	録	9	ロク		4	16	会意兼形声	金(かね・かねへん)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
414	413	416	光	6	コウ	ひか-る・ひかり	2	6	会意	儿(ひとあし・にんによう)
415	415	417	容	7	ヨウ		5	10	会意兼形声	宀(うかんむり)
416	416	418	室	8	シツ	むろ	2	9	会意兼形声	宀(うかんむり)
417	417	419	型	9	ケイ	かた	4	9	会意兼形声	土(つち・つちへん・どへん)
418	418	420	蔵	8	ゾウ	くら	6	15	形声	艸(艹)(さかんむり)
419	419	421	示	2.6	ジシ	しめ-す	5	5	象形	示(ネ)(しめす・しめすへん)
420	420	422	林	5	リン	はやし	1	8	会意	木(き・きへん)
421	421	423	研	5	ケン	と-ぐ	3	9	会意兼形声	石(いし・いしへん)
422	422	424	害	9	ガイ		4	10	会意	宀(うかんむり)
423	422	425	撃	6	ゲキ	う-つ	常用	15	会意兼形声	手(才)(て・てへん)
424	423	426	輸	9	ユ		5	16	会意兼形声	車(くるま・くるまへん)
425	423	427	仕	7	シ・ジ	つか-える	3	5	会意兼形声	人(イ)(ひと・にんべん)
426	425	428	評	7	ヒョウ		5	12	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
427	426	429	究	7	キウ	きわ-める	3	7	会意兼形声	穴(あな・あなかんむり)
428	426	430	証	5	シヨウ		5	12	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
429	428	431	展	9	テン		6	10	会意	尸(しかばね)
430	429	432	答	9	トウ	こた-える・こた-え	2	12	会意	竹(たけ・たけかんむり)
431	429	433	火	2.6	カ	ひ・ほ	1	4	象形	火(心)(ひ・ひへん・れんが)
432	431	434	種	8	シュ	たね	4	14	会意兼形声	禾(のぎへん)
433	432	435	過	9	カ	す-ぎる・す-ごす・あやま-つ・あやま-ち	5	12	会意兼形声	辵(辵)によう・しんにゆう)
434	432	436	愛	6	アイ		4	13	会意兼形声	心(心)にころ・したごろ・りっしんべん)
435	434	437	注	7	チュウ	そそ-ぐ	3	8	会意兼形声	水(ミ)(みず・したみ・さんずいず)
436	435	438	拳	6.9	ケン	あ-がる・あ-げる	4	10	会意兼形声	手(才)(て・てへん)
437	436	439	週	4.8	シュウ		2	11	形声	辵(辵)によう・しんにゆう)
438	437	440	飛	3	ヒ	と-ぶ・と-ばす	4	9	象形	飛(とぶ)
439	438	440	難	9	ナン	かた-い・い・むずか-しい	6	18	会意	隹(ふるとり)
440	439	442	追	9	ツイ	お-う	3	9	形声	辵(辵)によう・しんにゆう)
441	440	443	起	7	キ	お-きる・お-こる・お-こす	3	10	会意兼形声	走(はしる・そうによう)
442	440	444	病	6.7	ビョウ・ハイ	や-む・やまい	3	10	会意兼形声	疒(やまいだれ)
443	443	445	兵	5	ヘイ・ヒョウ		4	7	会意	八(はち・はちがしら)
444	444	446	構	9	コウ	かま-える・かま-う	5	14	会意兼形声	木(き・きへん)
445	444	447	施	9	シ・セ	ほどこ-す	常用	9	会意兼形声	方(ほう・ほうへん・かたへん)
446	446	448	働	8	ドウ	はたら-く	4	13	会意兼形声	人(イ)(ひと・にんべん)
447	447	449	整	8	セイ	ととの-える・ととの-う	3	16	会意兼形声	支(攴)(ぼくによう・ぼくづくり・とまた)
448	447	450	港	6	コウ	みなと	3	12	会意兼形声	水(ミ)(みず・したみ・さんずいず)
449	449	451	福	9	フク		3	13	会意兼形声	示(ネ)(しめす・しめすへん)
450	450	452	武	7	ブ・ム		5	8	会意	止(とめる・とめへん)
451	451	453	故	7	コ	ゆえ	5	9	会意兼形声	支(攴)(ぼくによう・ぼくづくり・とまた)
452	452	454	優	4	ユウ	やさ-しい・すぐ-れる	6	17	会意兼形声	人(イ)(ひと・にんべん)
453	452	455	英	8	エイ		4	8	会意兼形声	艸(艹)(さかんむり)
454	454	456	庁	7	チョウ		6	5	会意兼形声	广(まだれ)
455	454	457	造	8	ゾウ	つく-る	5	10	会意	辵(辵)によう・しんにゆう)
456	454	458	帰	9	キ	かえ-る・かえ-す	2	10	形声	川(りっとう)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
457	454	459	劇	6	ゲキ		6	15	会意兼形声	リ(り)つとう
458	458	460	張	7	チヨウ	は-る	5	11	会意兼形声	弓(ゆみ)・ゆみへん
459	458	461	俣	8	キヨウ・ク	そな-える・とも	6	8	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にんべん
460	460	462	崎	5		さき	常用	11	会意兼形声	山(やま)・やまへん
461	461	463	春	4	シュン	はる	2	9	会意兼形声	日(ひ)・ひへん・にちへん
462	462	464	吉	3.7	キチ・キツ		常用	6	象形	口(くち)・くちへん
463	463	465	始	8	シ	はじ-める・はじ-まる	3	8	会意兼形声	女(おんな)・おんなへん
464	463	466	観	9	カン		4	18	会意兼形声	見(みる)
465	463	467	討	5	トウ	う-つ	6	10	形声	言(げん)・ごんべん
466	466	468	声	5	セイ・シヨウ	こえ・こわ	2	7	会意	士(さむらい)
467	467	469	隊	9	タイ		4	12	会意兼形声	阜(β)(ござと)へん
468	467	470	央	8	オウ		3	5	会意	大(だい)
469	469	471	何	3.7	カ	なに・なん	2	7	象形	人(イ)(ひと)・にんべん
470	469	472	念	9	ネン		4	8	会意兼形声	心(しん)(こころ)・したごころ・りっしんべん
471	469	473	様	5	ヨウ	さま	3	14	形声	木(き)・きへん
472	472	474	限	9	ゲン	かぎ-る	5	9	会意兼形声	阜(β)(ござと)へん
473	473	475	負	5	フ	ま-ける・ま-かす・お-う	3	9	会意	貝(かい)・かいへん
474	474	476	爆	8	バク		常用	19	会意兼形声	火(か)(ひ)・ひへん・れつか・れんが
475	475	477	赤	4	セキ・シヤク	あか・あか-い・あか-らむ・あか-らめる	1	7	会意	赤(あか)
476	476	478	左	4.7	サ	ひだり	1	5	会意	工(え)・こう
477	477	479	歌	7	カ	うた・うた-う	2	14	会意兼形声	欠(あく)び
478	478	480	独	6	ドク	ひと-り	5	9	会意兼形声	犬(イ)(いぬ)・けものへん
479	479	480	読	8	ドク・トク・トウ	よ-む	2	14	会意兼形声	言(げん)・ごんべん
480	480	482	器	5	キ	うつわ	4	15	会意	口(くち)・くちへん
481	480	483	婦	9	フ		5	11	会意	女(おんな)・おんなへん
482	482	484	与	5	ヨ	あた-える	常用	3	会意兼形声	一(いち)
483	483	485	位	6	イ	くらい	4	7	会意	人(イ)(ひと)・にんべん
484	483	486	閨	8	カク		6	14	会意兼形声	門(もん)・もんがまえ・かどがまえ
485	485	487	企	7	キ	くわだ-てる	常用	6	会意	人(イ)(ひと)・にんべん
486	486	488	規	5	キ		5	11	会意	見(みる)
487	486	489	完	7	カン		4	7	会意兼形声	宀(うかんむり)
488	488	490	非	3.7	ヒ		5	8	象形	非(あらず)
489	489	491	断	7	ダン	た-つことわ-る	5	11	会意	斤(おの)・おのづくり
490	490	492	残	6.9	ザン	のこ-る・のこ-す	4	10	会意兼形声	歹(が)つへん
491	491	493	写	6	シヤ	うつ-す・うつ-る	3	5	形声	冫(わかんむり)
492	492	494	伝	9	デン	つた-わる・つた-える・つた-う	4	6	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にんべん
493	493	495	編	9	ヘン	あ-む	5	15	会意兼形声	糸(いと)・いとへん
494	494	496	師	9	シ		5	10	会意	巾(はば)・はばへん
495	495	497	裁	7	サイ	た-つ・ざば-く	6	12	会意兼形声	衣(ネ)(ころも)・ころもへん
496	495	498	達	9	イ	ちが-う・ちが-える	常用	13	会意兼形声	辶(しん)によう・しん(にゆう)
497	495	499	雄	10	ユウ	お・おす	常用	12	会意兼形声	隹(ふ)るとり
498	495	500	航	9	コウ		4	10	会意兼形声	舟(ふね)・ふねへん
499	499	501	紙	7	シ	かみ	2	10	会意兼形声	糸(いと)・いとへん

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
500	500	502	視	5	シ		6	11	形声	見(みる)
501	501	503	王	2.5.7	オウ		1	4	会意	玉(王)(たま・たまへん・おうへん)
502	502	504	悪	7	アク・オ	わる-い	3	11	会意兼形声	心(忄)(こころ・したごころ・りっしんべん)
503	503	505	賞	5	シヨウ		4	15	形声	貝(かい・かいへん)
504	504	506	可	4.7	カ		5	5	会意	口(くち・くちへん)
505	505	507	右	4	ウ・ユウ		1	5	会意兼形声	口(くち・くちへん)
506	506	508	級	8	キユウ	みぎ	3	9	会意兼形声	糸(いと・いとへん)
507	507	509	積	8	セキ	つ・む・つ・もる	4	16	会意兼形声	禾(のぎへん)
508	508	510	清	7	セイ・シヨウ	きよ-い・きよ-まる・きよ-める	4	11	会意兼形声	水(氵)(みず・したみ・さんずいず)
509	509	511	具	5	グ		3	8	会意	八(はち・はちがしら)
510	510	512	例	8	レイ	たと-える	4	8	会意兼形声	人(亻)(ひと・にんべん)
511	511	513	馬	2.5	バ	うま・ま	2	10	象形	馬(うま・うまへん)
512	512	514	江	7	コウ	え	常用	6	会意兼形声	水(氵)(みず・したみ・さんずいず)
513	513	515	補	9	ホ	おぎな-う	6	12	会意兼形声	衣(衤)(ころも・ころもへん)
514	514	516	署	7	シヨ		6	13	形声	网(四)(あみがしら・よこめ)
515	515	517	良	4.7	リョウ	よ-い	4	7	会意	良(うしろら・ねづくり)
516	516	518	毛	7	モウ	け	2	4	象形	毛(け)
517	517	519	効	7	コウ	き-く	5	8	会意兼形声	力(ちから)
518	518	520	低	4.9	テイ	ひく-い・ひく-める・ひく-まる	4	7	会意兼形声	人(亻)(ひと・にんべん)
519	519	521	管	8	カン	くだ	4	14	会意兼形声	竹(竹)(たけかんむり)
520	520	522	額	8	ガク	ひたい	5	18	会意兼形声	頁(おおがしい・いちのかい)
521	520	523	末	2	マツ・バツ	すえ	4	5	指事	木(き・きへん)
522	522	524	曜	4	ヨウ		2	18	会意兼形声	日(ひ・ひへん・にちへん)
523	523	525	達	7	タツ		4	12	会意兼形声	辵(しん)によう・しんにゆう
524	524	526	導	7	ドウ	みちび-く	5	15	会意兼形声	寸(すん)
525	524	527	失	8	シツ	うしな-う	4	5	会意	大(だい)
526	524	527	専	9	セン	もっぱ-ら	6	9	会意兼形声	寸(すん)
527	527	529	越	6	エツ	こ-ず・こ-える	常用	12	会意兼形声	走(はしる・そうによう)
528	528	530	程	9	テイ	ほど	5	12	会意兼形声	禾(のぎへん)
529	528	531	顔	9	ガン	かお	2	18	会意兼形声	頁(おおがしい・いちのかい)
530	530	532	課	7	カ		4	15	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
531	531	533	彼	7	ヒ	かれ・かの	常用	8	会意兼形声	彳(ぎようにんべん)
532	532	534	監	7	カン	へ-る・へ-らす	常用	15	会意	皿(さら)
533	533	535	減	9	ゲン		5	12	会意兼形声	水(氵)(みず・したみ・さんずいず)
534	533	536	服	5	フク		3	8	会意兼形声	月(つき・つきへん)
535	535	537	訪	7	ホウ	おとず-れる・たず-ねる	6	11	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
536	535	538	根	9	コン	ね	3	10	会意兼形声	木(き・きへん)
537	535	539	森	5	シン	もり	1	12	会意	木(き・きへん)
538	538	540	富	9	フ・フウ	と-む・とみ	5	12	会意兼形声	宀(うかんむり)
539	538	541	葉	6	ヤク	くすり	3	16	会意兼形声	艸(艹)(さかんむり)
540	540	542	州	2.7	シュウ	す	3	6	象形	川(かわ)
541	541	543	量	5	リョウ	はか-る	4	12	会意	里(さと・さとへん)
542	541	543	友	5	ユウ	とも	2	4	会意	又(また)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
543	543	545	香	8	キ	よ-る・よ-せる	5	11	会意兼形声	㇇(うかんむり)
544	544	546	殺	6	サツ・サイ・セツ	ころ-す	4	10	会意	宀(ほこづくり・るまた)
545	545	547	準	9	ジュン		5	13	会意兼形声	水(氵)(みず・したみ・さんずいず)
546	545	548	花	8	カ	はな	1	7	会意兼形声	艸(艹)(くさかんむり)
547	545	549	秋	4	シュウ	あき	2	9	会意	禾(のぎへん)
548	545	550	昭	8	ショウ		3	9	会意兼形声	日(ひ・ひへん・にちへん)
549	545	551	池	9	チ	いけ	2	6	会意兼形声	水(氵)(みず・したみ・さんずいず)
550	550	551	歳	10	サイ・セイ		常用	13	会意	止(とめる・とめへん)
551	550	553	率	7	リツ・ソツ	ひき-いる	5	11	会意	玄(げん)
552	550	554	深	9	シン	ふか-い・ふか-まる・ふか-める	3	11	会意兼形声	水(氵)(みず・したみ・さんずいず)
553	553	555	母	4.7	ボ	はは	2	5	象形	母(なかれ)
554	554	556	比	3.7	ヒ	くら-べる	5	4	会意	比(くらべる・ならびひ)
555	554	557	医	6	イ		3	7	会意	匸(かくしがまえ)
556	554	558	見	2	ジ・ニ		4	7	象形	儿(ひとあし・にんによ)
557	554	559	般	8	ハン		常用	10	会意	舟(ふね・ふねへん)
558	558	560	擗	9	ジュ	さず-ける・さず-かる	5	11	会意兼形声	手(才)(て・てへん)
559	559	561	敗	6	ハイ	やぶ-れる	4	11	会意兼形声	支(攴)(ぼくによ)・ぼくづくり・とまた
560	560	562	庭	9	テイ	にわ	3	10	会意兼形声	广(まだれ)
561	561	563	史	8	シ		4	5	会意	口(くち・くちへん)
562	561	564	将	9	ショウ		6	10	会意兼形声	寸(すん)
563	563	565	守	8	シュ・ス	まも-る・もり	3	6	会意	㇇(うかんむり)
564	564	566	個	7	コ		5	10	会意兼形声	人(イ)(ひと・にんべん)
565	564	567	旅	9	リョ	たび	3	10	会意	方(ほう・ほうへん・かたへん)
566	566	568	丸	6	ガン	まる・まる-い・まる-める	2	3	会意	丿(てん)
567	567	569	衆	5	シュウ・シュ		6	12	会意	血(ち)
568	567	570	健	9	ケン	すこ-やか	4	11	会意兼形声	人(イ)(ひと・にんべん)
569	569	571	財	7	サイ・サイ		5	10	会意兼形声	貝(かい・かいへん)
570	570	572	客	8	キヤク・カク		3	9	会意兼形声	㇇(うかんむり)
571	570	573	登	6.7	トウ・ト	のぼ-る	3	12	会意	夨(はつがしら)
572	572	574	針	7	シン	はり	6	10	形声	金(かね・かねへん)
573	573	575	象	3.7	ショウ・ゾウ		4	12	象形	豕(ぶた・いのこへん)
574	574	576	接	7	セツ	つ-ぐ	5	11	会意兼形声	手(才)(て・てへん)
575	574	577	突	6	トツ	つ-く	常用	8	会意	穴(あな・あなかんむり)
576	576	578	核	9	カク		常用	10	会意兼形声	木(き・きへん)
577	577	579	便	8	ベン・ピン	たよ-り	4	9	会意	人(イ)(ひと・にんべん)
578	578	580	復	9	フク		5	12	会意兼形声	彳(ぎよう・にんべん)
579	579	581	返	8	ヘン	かえ-す・かえ-る	3	7	会意兼形声	辶(しんによ)・しん(にゆう)
580	579	582	満	6	マン	み-ちる・み-たす	4	12	会意兼形声	水(氵)(みず・したみ・さんずいず)
581	581	583	給	9	キョウ	なつ	4	12	会意	糸(いと・いとへん)
582	581	584	夏	4	カ・ゲ		2	10	象形	夂(すいによ)
583	583	585	押	7	オウ	お-す・お-さえる	常用	8	会意兼形声	手(才)(て・てへん)
584	584	586	休	6	キョウ	やす-む・やす-まる・やすめる	1	6	会意	人(イ)(ひと・にんべん)
585	585	587	芸	6	ゲイ		4	7	会意	艸(艹)(くさかんむり)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
586	586	588	券	9	ケン		5	8	会意兼形声	刀(か)たな
587	587	589	擗	9	エン		常用	12	会意兼形声	手(才)(て)へん
588	587	590	裝	9	ソウ・シヨウ	よそお-う	6	12	会意兼形声	衣(衤)(ころも)へん
589	589	591	材	7	ザイ		4	7	会意兼形声	木(き)きへん
590	590	592	單	3.7	タン		4	9	象形	ツ(つかんむり)
591	591	593	姿	7	シ	すがた	6	9	会意兼形声	女(おんな)おんなへん
592	592	594	久	6	キウ・ク	ひさ-しい	5	3	会意	亅(の)
593	593	595	攻	7	コウ	せ-める	常用	7	会意兼形声	支(攴)(ぼく)によう・ぼくづくり・とまた
594	594	596	苦	7	ク	くる-しい・くる-しむ・くる-しめる・にが-い・にが-	3	8	会意兼形声	艸(艹)(くさかんむり)
595	594	597	坂	8	ハン	さか	3	7	会意兼形声	土(つち)つちへん・どへん
596	596	598	激	6	ゲキ	はげ-しい	6	16	会意兼形声	水(氵)(みず)したみ・さんずいず
597	597	599	族	9	ゾク		3	11	会意	方(ほう)ほうへん・かたへん
598	597	600	庄	5	アツ		5	5	会意兼形声	土(つち)つちへん・どへん
599	599	601	振	9	シン	ふ-る・ふ-るう	常用	10	会意兼形声	手(才)(て)へん
600	600	602	養	7	ヨウ	やしな-う	4	15	会意兼形声	食(しよ)しよへん
601	601	603	伊	6	イ		人名	6	会意兼形声	人(亻)(ひと)にんべん
602	601	604	諸	7	シヨ		6	15	会意兼形声	言(げん)ごんべん
603	603	605	波	7	ハ	なみ	3	8	会意兼形声	水(氵)(みず)したみ・さんずいず
604	603	606	等	8	トウ	ひと-しい	3	12	形声	竹(たけ)たけかんむり
605	605	607	冷	4.6.8	レイ	つめ-たい・ひ-える・ひ-や・ひ-やす・ひ-やか す・さ-める・さ-ます	4	7	会意兼形声	冫(に)すい
606	605	608	曲	2	キョク	ま-がる・ま-げる	3	6	象形	曰(ひら)び
607	607	609	疑	9	ギ	うたが-う	6	14	会意兼形声	疋(ひき)ひきへん
608	608	610	玉	2	ギョク	たま	1	5	象形	玉(王)(たま)たまへん・おうへん
609	609	611	磬	5	キョウ・ケイ	きそ-う・せ-る	4	20	会意	立(た)つ・たつへん
610	610	612	壘	7	ルイ		常用	12	会意兼形声	土(つち)つちへん・どへん
611	611	613	散	4	サン	ち-る・ち-らす・ち-らかす・ち-らかる	4	12	会意	支(攴)(ぼく)によう・ぼくづくり・とまた
612	612	614	字	4.7	ジ	あざ	1	6	会意兼形声	子(こ)こへん
613	613	615	退	6	タイ	しりぞ-く・しりぞ-ける	5	9	会意	辵(しん)によう・しん(に)ゆう
614	614	616	渡	8	ト	わた-る・わた-す	常用	12	会意兼形声	水(氵)(みず)したみ・さんずいず
615	614	617	差	5	サ	さ-す	4	10	会意兼形声	工(え)こウ
616	616	618	識	9	シキ		5	19	会意兼形声	言(げん)ごんべん
617	616	619	隄	9	ケン	けわ-しい	5	11	会意	阜(阡)(こざ)へん
618	618	620	熱	4	ネツ	あつ-い	4	15	形声	火(火)ひへん・れつか・れんが
619	619	621	影	8	エイ	かげ	常用	15	会意兼形声	彡(さん)づくり
620	619	622	罔	6	ズト	はか-る	2	7	会意	口(く)がまえ
621	621	623	婚	5	コン		常用	11	会意兼形声	女(おんな)おんなへん
622	622	624	去	2.7	キョウコ	さ-る	3	5	象形	厶(む)
623	623	625	豊	7	ホウ	ゆた-か	5	13	会意兼形声	豆(まめ)まめへん
624	624	626	城	8	ジョウ	しろ	6	9	会意兼形声	土(つち)つちへん・どへん
625	625	627	推	9	スイ	お-す	6	11	会意兼形声	手(才)(て)へん
626	625	628	静	7	セイ・ジヨウ	しず・しず-か・しず-まる・しず-める	4	14	会意兼形声	青(あお)あおへん

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
627	625	628	善	7	ゼン	よーい	6	12	会意	口(くち・ちへん)
628	625	630	巻	9	カン	まーく・まき	6	9	会意	己(おのれ)
629	625	631	才	2.7	サイ		2	3	象形	手(才)(てへん)
630	630	632	破	7	ハ	やぶーる・やぶーれる	5	10	形声	石(いし・いしへん)
631	631	633	離	9	リ	はなーれる・はなーす	常用	19	会意	隹(ふるとり)
632	634	634	呼	5	コ	よーぶ	6	8	会意兼形声	口(くち・ちへん)
633	633	635	修	6	シュウ・シュ	おさーめる・おさーまる	5	10	会意	人(イ)(ひと・にんべん)
634	634	636	景	8	ケイ		4	12	形声	日(ひ・ひへん・にちへん)
635	634	637	血	2.5	ケツ	ち	3	6	象形	血(ち)
636	636	638	響	8	キョウ	ひびーく	常用	20	会意兼形声	音(おと・おとへん)
637	636	639	講	9	コウ		5	17	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
638	636	640	囚	8	イン	よーる	5	6	会意	口(くにかまえ)
639	639	641	護	9	ゴ		5	20	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
640	640	642	陸	4	リク		4	11	会意兼形声	阜(β)(にざとへん)
641	641	643	極	4	キョク・ゴク	きわーめる・きわーまる・きわーみ	4	12	会意兼形声	木(き・きへん)
642	641	644	闘	5	トウ	たたかーう	常用	18	会意兼形声	鬥(もん・もんがまえ・かどがまえ)
643	643	645	庫	6	コク		3	10	会意	广(まだれ)
644	643	646	雨	2.4	ウ	あめ・あま	1	8	象形	雨(あめ・あめかんむり)
645	647	647	速	8	ソク	はやーい・はやーめる・すみーやか	3	10	会意兼形声	辵(しん)によう・しん(にゆう)
646	645	648	宝	6	ホウ	たから	6	8	会意	宀(うかんむり)
647	647	649	督	10	トク		常用	13	会意兼形声	目(め・めへん)
648	647	650	諱	7	セイ・シン	こーう・うーける	常用	15	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
649	649	651	堂	8	ドウ		4	11	会意兼形声	土(つち・つちへん・どへん)
650	650	652	輕	9	ケイ	かるーい・かるーやか	3	12	会意兼形声	車(くるま・くるまへん)
651	651	653	習	7	シュウ	ならーう	3	11	会意	羽(はね)
652	652	654	況	10	キョウ		常用	8	会意兼形声	水(ゝ)(みず・したみ・さんずいず)
653	652	655	弘	6	フツ	はらーう	常用	5	会意兼形声	手(才)(てへん)
654	654	656	舍	9	ガン	ふくーむ・ふくーめる	常用	7	会意兼形声	口(くち・ちへん)
655	654	657	舍	8	レイ		4	5	会意	人(イ)(ひと・にんべん)
656	656	658	適	9	テキ		5	14	会意兼形声	辵(しん)によう・しん(にゆう)
657	657	659	域	9	イキ		6	11	会意兼形声	土(つち・つちへん・どへん)
658	657	660	捕	9	ホ	とーらえる・とーらわれる・とーる・つかーまえる・つかーまる	常用	10	形声	手(才)(てへん)
659	659	660	担	9	タン	かつーぐ・になーう	6	8	形声	手(才)(てへん)
660	659	662	察	6	サツ		4	14	会意兼形声	宀(うかんむり)
661	659	663	介	8	カイ		常用	4	会意	人(イ)(ひと・にんべん)
662	659	664	精	7	セイ・シヨウ		5	14	会意兼形声	米(こめ・こめへん)
663	663	665	処	9	ショ		6	5	会意	几(つくえ・きによう)
664	663	666	墮	8	ショウ	さわーる	6	14	形声	阜(β)(にざとへん)
665	663	667	版	8	ハン		5	8	会意兼形声	片(かた・かたへん)
666	663	668	尾	6.9	ビ	お	常用	7	会意	尸(しかばね)
667	667	669	津	9	シン	つ	常用	9	会意兼形声	水(ゝ)(みず・したみ・さんずいず)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首	
668	667	670	仏	6	フツ	ほとけ	5	4	形声	人(イ)(ひと・にんべん)	
669	669	671	副	9	フク	はば	4	11	形声	巾(リ)つとう	
670	669	672	幅	9	フク	さいわい・さち・しあわせ	常用	12	形声	巾(は)ば・はばへん	
671	669	673	幸	3.7	コウ	ぬく・ぬける・ぬかす・ぬかる	常用	3	8	象形	手(イ)ちじゆう・かん
672	672	674	抜	6	バツ	かわ	4	18	会意兼形声	手(才)てへん	
673	672	675	類	6	ルイ	てら	6	9	会意	頁(お)おが・い・いちの(かい)	
674	674	676	草	3	カク	のぞく	2	6	象形	草(か)わ・か・くのかわ・かわへん・つくりがわ	
675	675	677	寺	8	ジ	あぶら	2	6	会意兼形声	寸(すん)	
676	676	678	韓	9	カン	もよおす	第1	17	会意兼形声	草(な)めしがわ	
677	676	678	除	8	ジョ・ジ	あた-り・べ	6	10	会意兼形声	卓(β)(こ)ざとへん	
678	676	680	歴	9	レキ	まわ-り	4	14	会意兼形声	止(と)めるとめへん	
679	676	681	油	7	ユ	なが-い	3	8	会意兼形声	水(シ)みず・したみ・さんずいず	
680	680	682	催	10	サイ	おこ-る・おこ-す	常用	13	形声	人(イ)(ひと・にんべん)	
681	681	683	模	9	モ・ボ	の・これ・この・ゆ-く	6	14	会意兼形声	木(き)きへん	
682	682	684	辺	6	ヘン	かわ	4	5	会意兼形声	辶(しん)によう・しん(に)ゆう	
683	682	685	周	8	シュウ	さが-す	4	8	会意	口(く)ち・くちへん	
684	682	686	永	2.7	エイ	ね-る	5	5	象形	水(シ)みず・したみ・さんずいず	
685	685	687	興	2	コウ・キョウ	ふくろ	5	16	会意	臼(う)す	
686	685	688	之	3	シ	いと	人名	3	象形	丿(てん)	
687	687	689	融	5	ユウ	くさ	常用	16	形声	虫(む)し・むしへん	
688	687	690	河	7	カ	かわ	5	8	会意兼形声	水(シ)みず・したみ・さんずいず	
689	687	691	摺	10	ソウ	さが-す	常用	10	会意兼形声	手(才)てへん	
690	687	692	練	7	レン	ね-る	3	14	会意兼形声	糸(いと)・いとへん	
691	687	693	袋	8	タイ	ふくろ	常用	11	会意兼形声	衣(ネ)(ころも・ころもへん)	
692	687	694	糸	2.5	シ	いと	1	6	会意	糸(いと)・いとへん	
693	693	695	草	6.7	ソウ	くさ	1	9	形声	艸(艸)(くさかんむり)	
694	694	696	異	8	イ	こと	6	11	会意	田(た)たへん	
695	694	696	寡	9	ボ	つもの-る	常用	12	会意兼形声	力(ち)から	
696	694	698	板	8	ハン・バン	いた	3	8	会意兼形声	木(き)きへん	
697	694	699	君	8	ケン	きみ	3	7	会意兼形声	口(く)ち・くちへん	
698	698	700	犯	9	ハン	おか-す	5	5	会意	犬(イ)(いぬ)けものへん	
699	699	700	移	8	イ	おか-す	5	11	形声	禾(の)ぎへん	
700	700	702	角	3.5	カク	うつ-る・うつ-す	2	7	象形	角(つ)の・つのへん	
701	701	703	筋	5	キン	かど・つの	6	12	会意	竹(た)け・たけかんむり	
702	702	704	倉	6	ソウ	すじ	4	10	会意	人(イ)(ひと・にんべん)	
703	703	705	並	3	ヘイ	くら	6	8	会意	一(いち)	
704	703	706	司	8	シ	なみ・なら-べる・なら-ぶ・なら-びに	4	5	会意	口(く)ち・くちへん	
705	705	707	素	5	ソ・ス	たけ	4	10	会意	糸(いと)・いとへん	
706	705	708	竹	3.5.7	チク	お-びる・お-び	1	6	象形	竹(た)け・たけかんむり	
707	705	709	帯	8	タイ	お-びる・お-び	4	10	会意	巾(は)ば・はばへん	
708	708	710	印	9	イン	しるし	4	6	会意	卍(ふ)しづくり・わりふ	
709	709	711	芝	6	シ	しほ	常用	6	会意兼形声	艸(艸)(くさかんむり)	
710	710	712	細	4.7	サイ	ほそ-い・ほそ-る・こま-か・こま-かい	2	11	会意兼形声	糸(いと)・いとへん	

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
711	710	713	存	7	ソン・ゾン		6	6	会意	子(こ)へん
712	710	714	傷	6	シヨウ	さず・いた・む・いた=める	6	13	会意兼形声	人(イ)(ひと)にんべん
713	713	715	走	6.8	ソウ	はし-る	2	7	会意	走(は)しる・そう(よう)
714	713	716	迎	9	ゲイ	むか-える	常用	7	会意兼形声	辶(しん)によう・しんにゆう
715	715	717	従	8	ジュウ・シヨウ・ジュ	したが-う・したが-える	6	10	会意兼形声	彳(ぎ)ようにんべん
716	715	718	乱	7	ラン	みだ-れる・みだ-す	6	7	会意	乙(お)つ・おつ(よう)
717	715	719	遊	9	ユウ・ユ	あそ-ぶ	3	12	会意兼形声	辵(しん)によう・しんにゆう
718	715	720	遊	7.7	ジュウ	しぶ・しぶ-い・しぶ-る	常用	11	会意兼形声	水(み)みず・したみ・さんずいず
719	719	721	羽	3.7	ウ	は・はね	2	6	象形	羽(は)ね
720	720	722	余	8	ヨ	あま-る・あま-す	5	7	会意	人(イ)(ひと)にんべん
721	720	723	節	4.9	セツ・セチ	ふし	4	13	会意	竹(た)け・たけかんむり
722	720	724	枚	5	マイ		6	8	会意	木(き)へん
723	720	725	焼	9	シヨウ	や-く・や-ける	4	12	会意	火(ひ)(ひ)へん・れつか・れんが
724	724	726	述	9	ジュツ	の-べる	5	8	会意兼形声	辶(しん)によう・しんにゆう
725	724	727	締	7	テイ	し-まる・し-める	常用	15	会意兼形声	糸(いと)いとへん
726	724	728	卒	8	ソツ		4	8	会意	十(じ)ゆう
727	724	729	晴	4.7	セイ	は-れる・は-らす	2	12	会意兼形声	日(ひ)へん・にちへん
728	728	730	父	4	フ	ちち	2	4	会意	父(ち)ち
729	729	731	伸	7	シン	の-びる・の-ばす	常用	7	会意兼形声	人(イ)(ひと)にんべん
730	729	732	絶	5	ゼツ	た-える・た-やす・た-つ	5	12	会意	糸(いと)いとへん
731	731	733	岩	9	ガン	いわ	2	8	会意	山(や)ま・やまへん
732	732	734	舞	7	ブ	ま-う・まい	常用	15	会意兼形声	舛(まい)あし
733	732	735	采	9	エイ	さか-える・は-え・は-える	4	9	会意兼形声	木(き)へん
734	734	736	錠	8	ジョウ		常用	16	会意兼形声	金(か)ね・かねへん
735	735	737	及	8	キョウ	およ-ぶ・およ-び・およ-ぼす	常用	3	会意	丿(の)
736	735	738	招	8	シヨウ	まね-く	5	8	会意兼形声	手(た)て・てへん
737	735	739	布	5	フ	ぬの	5	5	形声	巾(は)ば・はばへん
738	738	740	盛	8	セイ・ジョウ	も-る・さか-る・さか-ん	6	11	会意兼形声	皿(さ)ら
739	738	741	勤	9	キン・ゴン	つと-める・つと-まる	6	12	会意兼形声	力(ち)から
740	740	742	織	9	シヨク・シキ	お-る	5	18	会意兼形声	糸(いと)いとへん
741	740	743	許	7	キョ	ゆる-す	5	11	会意兼形声	言(げ)ん・ごんべん
742	740	744	停	7	テイ		4	11	会意兼形声	人(イ)(ひと)にんべん
743	743	745	裏	4.7	リ	うら	6	13	会意兼形声	衣(え)ころも・ころもへん
744	743	746	宇	9	ウ		6	6	会意兼形声	宀(う)かんむり
745	745	747	賃	9	チン		6	13	会意兼形声	貝(かい)かいへん
746	746	748	賈	8	セキ	せ-める	5	11	会意兼形声	貝(かい)かいへん
747	746	748	延	6.7	エン	の-びる・の-べる・の-ばす	6	8	会意	廾(え)んによう・いんによう
748	748	750	績	8	セキ		5	17	会意兼形声	糸(いと)いとへん
749	749	751	幹	7	カン	みき	5	13	会意兼形声	干(い)ちじゆう・かん
750	750	752	訴	7	ソ	うた-える	常用	12	会意	言(げ)ん・ごんべん
751	750	753	販	8	ハン		常用	11	会意兼形声	貝(かい)かいへん
752	752	754	妻	5	サイ	つま	5	8	会意	女(お)んな・おんなへん
753	752	755	巨	2.6.7	キョ		常用	5	象形	二(に)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
754	752	756	功	7	コウ・ク		4	5	会意兼形声	力(ちから)
755	755	757	徒	8	ト		4	10	形声	彳(ぎょうにんべん)
756	756	758	痛	7	ツウ	いた-い-いた-む-いた-める	6	12	会意兼形声	疒(やまいだれ)
757	757	759	欧	7	オウ		常用	8	会意兼形声	欠(あくひ)
758	757	760	喜	5	キ	よろこ-ぶ	4	12	会意	口(くち-くちへん)
759	757	761	房	7	ボウ		常用	8	会意兼形声	戸(と-とだれ-とかんむり)
760	760	762	批	7	ヒ	ふさ	6	7	会意兼形声	手(才)(て-へん)
761	760	762	盟	8	メイ		6	13	会意兼形声	皿(さら)
762	760	764	厚	9	コウ	あつ-い	5	9	会意	厂(がんだれ)
763	760	765	著	7	チヨ	あらわ-す-いちじる-しい	6	11	会意兼形声	艸(+)(くさかんむり)
764	764	766	居	7	キョ	い-る	5	8	会意兼形声	尸(しかばね)
765	765	767	遺	9	イ・ユイ		6	15	会意兼形声	辶(しん)によう・しんにゆう)
766	765	768	標	8	ヒョウ		4	15	会意兼形声	木(き-きへん)
767	765	769	康	9	コウ		4	11	会意兼形声	广(まだれ)
768	768	770	肉	3.6	ニク		2	6	象形	肉(月)(にく-にくづき)
769	769	771	塚	5		つか	常用	12	会意兼形声	土(つち-つちへん・どへん)
770	769	772	賀	8	ガ		5	12	会意兼形声	貝(かい-かいへん)
771	771	773	酒	6	シュ	さけ-さか	3	10	会意	酉(とじ-とじへん・ひよみのとじ)
772	772	774	債	8	サイ		常用	13	会意兼形声	人(イ)(ひと-にんべん)
773	773	775	系	8	ケイ		6	7	会意	糸(いと-いとへん)
774	774	776	降	4	コウ	お-り-る-お-ろ-す-ふ-る	6	10	会意兼形声	阜(阝)(ご-ごへん)
775	775	777	抗	9	コウ		常用	7	会意兼形声	手(才)(て-てへん)
776	775	778	背	7	ハイ	せ-せい-そむ-く-そむ-ける	6	9	会意兼形声	肉(月)(にく-にくづき)
777	777	779	努	8	ド	つと-める	4	7	会意兼形声	力(ちから)
778	778	780	短	7	タン	みじか-い	3	12	会意	矢(や-やへん)
779	779	781	境	9	キョウ・ケイ	さかい	5	14	会意兼形声	土(つち-つちへん・どへん)
780	779	782	街	9	ガイ・カイ	まち	4	12	会意兼形声	行(ぎようがまえ-ゆきがまえ)
781	781	783	弁	6	ベン		5	5	会意	升(にじゅうあし)
782	782	784	底	9	テイ	そこ	4	8	会意兼形声	广(まだれ)
783	782	785	温	4	オン	あたた-か-あたた-かい-あたた-まる-あたた-める	3	12	会意兼形声	水(ミ)(みず-したみ-さんずいず)
784	782	786	丁	2.7	チヨウ・テイ		3	2	象形	一(いち)
785	785	787	老	3	ロウ	お-いる-ふ-ける	4	6	象形	耂(おいる-おいかんむり-おいがしら)
786	786	788	拈	7	カク		6	8	会意兼形声	手(才)(て-てへん)
787	787	789	危	9	キ	あぶ-ない-あや-うい-あや-ぶむ	6	6	会意	厶(ふしづくり-わりふ)
788	788	790	洗	8	セン	あら-う	6	9	会意兼形声	水(ミ)(みず-したみ-さんずいず)
789	789	791	脳	9	ノウ		6	11	会意兼形声	肉(月)(にく-にくづき)
790	790	792	未	2.7	ミ		4	5	象形	木(き-きへん)
791	790	793	震	9	シン		常用	15	会意兼形声	雨(あめ-あめかんむり)
792	792	794	屬	9	ゾク	ふる-う-ふる-える	5	12	会意兼形声	尸(しかばね)
793	792	795	刊	6.7	カン		5	5	会意兼形声	リ(り-とう)
794	792	796	御	6	ギョ・ゴ	おん	常用	12	会意兼形声	彳(ぎょうにんべん)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首	
795	795	797	頰	10	ライ	たのむ・たの-もしい・たよ-る	常用	16	形声	頁(おおがしい・いちのかい)	
796	795	798	希	5	キ		4	7	会意	巾(はば・はばへん)	
797	797	799	志	8	シ	ころざ-す・ころざし	5	7	会意兼形声	心(ト)(ころ・したごころ・りっしんべん)	
798	798	800	博	9	ハク・バク		4	12	会意兼形声	十(じゅう)	
799	798	801	夕	2.5.7	セキ	ゆう	1	3	象形	夕(た・ゆうべ)	
800	798	802	漁	7	ギョ・リョウ		4	14	会意兼形声	水(シ)(みず・したみ・さんずいず)	
801	798	803	郡	4.8	グン		4	10	会意兼形声	邑(β)(おおざと)	
802	802	804	遠	9	エン・オン	とお-い	2	13	会意兼形声	辵(しん)・由(しん)にゆう	
803	802	805	鈴	8	レイ・リン	ずず	常用	13	会意兼形声	金(かね)・カ(ねへん)	
804	802	806	茶	4.8	チャ・サ		2	9	会意兼形声	艸(十)(くさかんむり)	
805	805	807	涉	7	シヨウ		常用	11	会意	水(シ)(みず・したみ・さんずいず)	
806	805	809	均	9	キン		5	7	会意兼形声	土(つち)・ち(へん)・ど(へん)	
807	807	810	旧	5	キョウ		5	5	形声	日(ひ)・ひ(へん)・に(ちへん)	
808	807	811	華	10	カ	はな	常用	10	会意兼形声	艸(十)(くさかんむり)	
809	809	812	倍	9	バイ		3	10	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にん(べん)	
810	810	813	易	8	エキ・イ	やさ-しい	5	8	会意	日(ひ)・ひ(へん)・に(ちへん)	
811	811	813	札	7	サク	ふだ	4	5	会意	木(き)・き(へん)	
812	811	815	築	7	チク	きず-く	5	16	会意兼形声	竹(たけ)・た(けかんむり)	
813	813	816	益	5	エキ・ヤク		5	10	会意	皿(さら)	
814	814	817	順	7	ジュン		4	12	会意	頁(おおがしい・いちのかい)	
815	815	818	候	8	コウ	そうろう	4	10	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にん(べん)	
816	815	819	探	9	サイ	と-る	5	11	会意兼形声	手(オ)(て)・て(へん)	
817	815	820	否	7	ヒ	いな	6	7	形声	口(くち)・く(ちへん)	
818	818	821	陣	6	ジン		常用	10	会意	阜(β)(ござとへん)	
819	818	821	雑	9	ザツ・ゾウ		5	14	会意兼形声	隹(ふるとり)	
820	818	823	弱	7	ジャク	よわ-い・よわ-る・よわ-まる・よわ-める	2	10	会意	弓(ゆみ)・ゆ(みへん)	
821	821	824	奈	10	ナ		人名	8	会意	大(だい)	
822	821	825	塗	8	ト		常用	10	会意兼形声	辵(しん)・由(しん)にゆう	
823	823	826	香	10	コウ・キョウ	か・かお-り・かお-る	常用	9	会意	香(かおり)	
824	823	827	暴	8	ボウ・バク	あば-ぐ・あば-れる	常用	5	15	会意	日(ひ)・ひ(へん)・に(ちへん)
825	825	828	留	5	リュウ・ル	と-める・と-まる	5	10	会意	田(た)・た(へん)	
826	826	829	鮮	7	セン	あざ-やか	常用	17	会意	魚(うお)・う(おへん)	
827	827	830	源	8	ゲン	みなもと	6	13	会意兼形声	水(シ)(みず・したみ・さんずいず)	
828	828	831	砂	7	ビョウ		3	9	会意	禾(のぎ)へん	
829	828	832	冲	6	チュウ	おき	常用	7	会意兼形声	水(シ)(みず・したみ・さんずいず)	
830	828	833	折	7	セツ	お-る・おり・お-れる	4	7	会意	手(オ)(て)・て(へん)	
831	828	834	奥	10	オウ	おく	常用	12	会意	大(だい)	
832	828	834	群	7.8	グン	む-れる・む-れ・むら	5	13	会意兼形声	羊(ひつじ)・ひ(つじへん)	
833	833	836	純	8	ジュン		6	10	会意兼形声	糸(いと)・いと(へん)	
834	834	837	固	7	コ	かた-める・かた-まる・かた-い	4	8	会意兼形声	口(く)・が(まへ)	
835	834	838	暮	9	マク・バク		6	13	会意兼形声	巾(はば)・は(ばへん)	
836	834	839	郵	8	ユウ		6	11	会意	邑(β)(おおざと)	
837	837	840	療	6	リョウ		常用	17	形声	疒(やまいだれ)	

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
838	838	841	徳	8	トク		5	14	会意兼形声	イ(ぎょう)にんべん
839	838	842	淺	9	セン	あさ-い	4	9	会意兼形声	水(し)(みず)・したみ・さんずいず
840	840	843	迫	7	ハク	せま-る	常用	8	形声	辵(しん)によう・しんにゆう
841	840	844	扱	8		あつか-う	常用	6	会意	手(才)(て)へん
842	842	845	脱	9	ダツ	ぬ-ぐ・ぬ-げる	常用	11	会意兼形声	肉(月)(にく)にくづき
843	842	846	貸	8	タイ	か-す	5	12	会意兼形声	貝(かい)・かいへん
844	844	847	換	10	カン	か-える・か-わる	常用	12	会意兼形声	手(才)(て)へん
845	844	848	替	5	タイ	か-える・か-わる	常用	12	会意	日(ひ)・ひへん・にちへん
846	844	849	刑	9	ケイ		常用	6	会意兼形声	川(り)とう
847	844	850	昇	8	シヨウ	のぼ-る	常用	8	会意兼形声	日(ひ)・ひへん・にちへん
848	848	851	被	6.7	ヒ	こうむ-る	常用	10	会意兼形声	衣(ネ)(ころも)・ころもへん
849	848	852	占	8	セン	し-める・うらな-う	常用	5	会意	卜(ぼく)と
850	850	853	禁	6	キン		5	13	会意	示(ネ)(しめす)・しめすへん
851	850	854	浦	9	ホ	うら	常用	10	形声	水(し)(みず)・したみ・さんずいず
852	850	855	岸	9	ガン	さし	3	8	会意兼形声	山(やま)・やまへん
853	850	856	奏	9	ソウ	かな-でる	6	9	会意	大(だい)
854	850	857	綿	5	メン	わた	5	14	会意	糸(いと)・いとへん
855	855	857	逆	6	ギャク	さか-さか-らう	5	9	会意兼形声	辵(しん)によう・しんにゆう
856	855	859	密	7	ミツ		6	11	会意兼形声	宀(う)かんむり
857	857	860	僚	9	リョウ		常用	14	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にんべん
858	857	861	秀	8	シユウ	ひい-でる	常用	7	会意	禾(のぎ)へん
859	859	862	承	2	シヨウ	うけたまわ-る	5	8	会意	手(才)(て)へん
860	859	863	困	6	コン	こま-る	6	7	会意	口(く)にがまえ
861	861	864	票	8	ヒョウ		4	11	会意	示(ネ)(しめす)・しめすへん
862	861	865	測	8	ソク	はか-る	5	12	会意兼形声	水(し)(みず)・したみ・さんずいず
863	861	866	逃	7	トウ	に-げる・に-がす・のが-れる	常用	9	会意兼形声	辵(しん)によう・しんにゆう
864	861	867	昼	4	チュウ	ひる	2	9	会意	日(ひ)・ひへん・にちへん
865	865	868	秘	7	ヒ	ひめ-る	6	10	会意兼形声	禾(のぎ)へん
866	866	869	則	8	ソク		5	9	会意	川(り)とう
867	867	870	辟	7	ジ	や-める	4	13	会意	辛(からい)
868	867	871	鋼	8	コウ	はがね	6	16	会意兼形声	金(かね)・かねへん
869	869	872	願	8	ガン	ねが-う	4	19	会意兼形声	頁(お)おがしいちのかい
870	870	873	季	4.9	キ		4	8	会意	子(こ)へん
871	870	874	息	6	ソク	いき	3	10	会意	心(しん)にころ・したごころ・りっしんべん
872	870	875	簡	5	カン		6	18	会意兼形声	竹(たけ)・たけかんむり
873	873	876	乳	5	ニユウ	ちち・ち	6	8	会意	乙(おつ)・おつによう
874	874	877	膺	9	ソウ		6	14	会意兼形声	尸(しかばね)
875	875	878	託	9	タク		常用	10	会意兼形声	言(げん)・ごんべん
876	875	879	贈	9	ゾウ・ソウ	おく-る	常用	18	会意兼形声	貝(かい)・かいへん
877	877	880	覺	9	カク	おぼ-える・さ-ます・さ-める	4	12	会意兼形声	見(みる)
878	877	881	逮	10	タイ		常用	11	会意兼形声	辵(しん)によう・しんにゆう
879	877	882	臨	7	リン	のぞ-む	6	18	会意	臣(しん)
880	880	883	混	7	コン	ま-じる・ま-ざる・ま-ぜ-る	5	11	会意兼形声	水(し)(みず)・したみ・さんずいず

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
881	881	884	豪	10	ゴウ		常用	14	会意兼形声	豕(ぶた)のこへん
882	882	885	創	6	ソウ		6	12	形声	川(り)つとう
883	883	886	遅	6	チ	おく-れる・おく-らす・おそ-い	常用	12	会意	辵(しん)によつ・しんにゆう
884	883	887	救	7	キユウ	すく-う	4	11	会意兼形声	支(た)く(ぼく)によつ・ぼくづくり・とまた
885	883	888	荒	8	コウ	あら-い・あ-れる・あ-らす	常用	9	会意兼形声	艸(た)く(さ)かんむり
886	886	888	祭	6	サイ	まつ-る・まつ-り	3	11	会意	示(め)しめす・しめすへん
887	887	890	訊	7	ヤク	わけ	6	11	会意兼形声	言(げん)・ごんべん
888	888	891	星	7	セイ・シヨウ	ほし	2	9	会意兼形声	日(ひ)・ひへん・にちへん
889	888	892	亡	8	ボウ・モウ	な-い	6	3	会意	亠(けい)さんかんむり・なべぶた
890	890	893	避	9	ヒ	さ-ける	常用	16	会意兼形声	辵(しん)によつ・しんにゆう
891	890	894	恵	9	ケイ・エ	めぐ-む	常用	10	会意	心(け)く(ご)ろ・したごころ・りっしんべん
892	892	895	普	5	フ		常用	12	会意	日(ひ)・ひへん・にちへん
893	893	896	胃	6	イ		4	9	会意	肉(く)く(に)く(づ)き
894	894	897	贄	8	サン		5	15	会意	貝(かい)・がいへん
895	894	898	列	8	レツ		3	6	会意	川(り)つとう
896	894	899	駐	7	チュウ		常用	15	会意兼形声	馬(う)ま・うまへん
897	897	900	快	9	カイ	こころよ-い	5	7	会意兼形声	心(しん)く(ご)ろ・したごころ・りっしんべん
898	897	901	柄	7	ヘイ	がら-え	常用	9	会意兼形声	木(き)・きへん
899	899	903	笑	5	シヨウ	わら-う・え-む	4	10	会意	竹(た)け・たけかんむり
900	899	903	片	3	ヘン	かた	6	4	象形	片(かた)・かたへん
901	899	904	冬	4.7	トウ	ふゆ	2	5	象形	凵(に)すい
902	902	904	盤	8	バン		常用	15	会意兼形声	皿(さ)ら
903	902	906	仲	7	チュウ	なか	4	6	会意兼形声	人(い)く(ひと)・にんべん
904	902	907	揮	8	キ		6	12	会意兼形声	手(て)・てへん
905	902	908	雪	4	セツ	ゆき	2	11	会意	雨(あ)め・あめかんむり
906	906	909	泉	2.7	セン	いずみ	6	9	象形	水(み)く(み)ず・したみ・さんずいず
907	906	910	牛	2.5	ギユウ	うし	2	4	象形	牛(う)し・うしへん
908	908	912	像	7	ゾウ		5	14	会意兼形声	人(い)く(ひと)・にんべん
909	908	913	描	8	ビョウ	えが-く	常用	11	会意兼形声	手(て)・てへん
910	908	914	杉	5	シン	すぎ	常用	7	会意兼形声	木(き)・きへん
911	911	915	貨	8	カ		4	11	会意兼形声	貝(かい)・かいへん
912	911	915	賢	7	ケン		常用	15	会意兼形声	糸(いと)・いとへん
913	911	915	暮	9	ボ	く-れる・く-らす	6	14	会意兼形声	日(ひ)・ひへん・にちへん
914	911	918	傾	10	ケイ	かたむ-く・かたむ-ける	常用	13	会意兼形声	人(い)く(ひと)・にんべん
915	911	919	堅	7	ケン	かた-い	常用	12	会意兼形声	土(つち)・つちへん・どへん
916	916	920	致	8	チ	いた-す	常用	10	会意兼形声	至(いた)る
917	916	921	了	3	リョウ		常用	2	象形	亅(は)ねぼう
918	916	922	衝	8	シヨウ		常用	15	会意兼形声	行(ぎ)ょうがまえ・ゆきがまえ
919	916	923	窓	9	ソウ	まど	6	11	会意兼形声	穴(あ)な・あなかんむり
920	920	924	略	8	リヤク		5	11	形声	田(た)・たへん
921	920	925	辰	10	レイ	もど-す・もど-る	常用	7	会意	戸(と)・ただれ・とかんむり
922	922	926	措	8	ソ		常用	11	会意兼形声	手(て)・てへん

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
923	922	927	縮	8	シユク	ちぢむ・ちぢまる・ちぢめる・ちぢぢれる・ちぢぢらす	6	17	会意兼形声	糸(いと)いとへん
924	922	928	慮	10	リヨ		常用	15	形声	心(しん)こころ・したごころ・りっしんべん
925	925	928	維	9	イ		常用	14	会意兼形声	糸(いと)いとへん
926	925	930	罪	9	ザイ	つみ	5	13	会意	网(ワ)あみがしら・よこめ
927	925	931	紅	5	コウ・ク	べに・くれない	6	9	形声	糸(いと)いとへん
928	928	932	械	8	カイ		4	11	会意兼形声	木(き)きへん
929	929	933	紀	7	キ		4	9	会意兼形声	糸(いと)いとへん
930	929	934	弾	7	ダン	ひやくはずむ・たま	常用	12	会意兼形声	弓(ゆみ)ゆみへん
931	929	935	鳥	3.5	チヨウ	とり	2	11	象形	鳥(とり)とりへん
932	929	936	跡	10	セキ	あと	常用	13	会意	足(あし)あしへん
933	929	937	躑	10	ヤク	おどる	常用	21	会意兼形声	足(あし)あしへん
934	929	938	須	10	ス		人名	12	会意	頁(おのがい)いちのかい
935	935	939	旬	9	ジュン		常用	6	会意兼形声	日(ひ)ひへん・にちへん
936	935	940	紹	8	シヨウ		常用	11	会意兼形声	糸(いと)いとへん
937	935	941	飲	7	イン	のむ	3	12	会意兼形声	食(しょく)しょくへん
938	935	942	筆	9	ヒツ	ふで	3	12	会意	竹(たけ)たけかんむり
939	935	943	皮	3.7	ヒ	かわ	3	5	会意	皮(かわ)かわ
940	940	944	端	5	タン	はし・は・はた	常用	14	会意兼形声	立(たて)たつへん
941	940	945	堀	8	ケン	ほり	常用	11	会意兼形声	土(つち)つちへん・どへん
942	942	946	憲	9	ケン		6	16	会意兼形声	心(しん)こころ・したごころ・りっしんべん
943	942	947	箱	8	イ	はこ	3	15	会意兼形声	竹(たけ)たけかんむり
944	944	948	困	8	イ	かこむ・かこう	4	7	会意兼形声	口(く)にがまえ
945	944	949	勉	8	ベン		3	10	会意兼形声	力(ちから)
946	946	950	誌	8	シ		6	14	会意兼形声	言(げん)ごんべん
947	946	950	劑	7	ザイ		常用	10	会意兼形声	リ(り)どう
948	948	952	瀨	6		せ	常用	19	形声	水(みづ)みず・したみ・さんずいず
949	948	953	鼻	4	ドン	くもる	常用	16	会意	日(ひ)ひへん・にちへん
950	950	954	就	7	シュウ・ジュ	つぐつづける	6	12	会意	尤(ただい)まげあし
951	950	955	輪	7	リン	わ	4	15	会意兼形声	車(くるま)くるまへん
952	950	956	恐	6	キョウ	おそれる・おそるしい	常用	10	会意兼形声	心(しん)こころ・したごころ・りっしんべん
953	950	957	絡	8	ラク	からむ・からまる	常用	12	形声	糸(いと)いとへん
954	950	957	互	3	ゴ	たがひ	常用	4	象形	二(に)
955	950	959	症	6	シヨウ		常用	10	形声	疒(やまいだれ)
956	950	960	典	7	テン		4	8	会意	八(はち)はちがしら
957	950	961	刺	9	シ	さす・ささる	常用	8	会意兼形声	リ(り)どう
958	950	962	盜	7	トウ	ぬすむ	常用	11	会意	皿(さら)
959	959	963	併	10	ヘイ	あわせる	常用	8	会意兼形声	人(イ)ひと・にんべん
960	959	964	讜	9	ジョウ	ゆずる	常用	20	会意兼形声	言(げん)ごんべん
961	961	965	慶	10	ケイ		常用	15	会意	心(しん)こころ・したごころ・りっしんべん
962	962	966	皇	7	コウ・オウ		6	9	会意兼形声	白(しろ)しろへん
963	962	967	執	7	シツ・シユウ	とる	常用	11	会意	土(つち)つちへん・どへん

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
964	962	968	屈	9		とど-ける・とど-く	6	8	会意兼形声	尸(しかばね)
965	962	969	楯	6		いな-いな	常用	14	会意兼形声	禾(のぎへん)
966	966	970	草	8			3	11	会意	立(たつ・たつへん)
967	966	971	夢	5		ゆめ	5	13	会意	夕(た・ゆうべ)
968	968	972	繼	5		つ-ぐ	常用	13	会意	糸(いと・いとへん)
969	968	973	扱	9			常用	8	会意兼形声	手(才)(て・てへん)
970	968	973	溥	9		うす-い・うす-める・うす-まる・うす-らぐ・うす-れる	常用	16	会意兼形声	艸(艹)(くさかんむり)
971	968	975	吹	7		ふ-く	常用	7	会意	口(くちくちへん)
972	968	976	飾	5		かざ-る	常用	13	形声	食(しょく・しょくへん)
973	973	977	欠	2.7		か-ける・か-く	4	4	象形	欠(あくひ)
974	973	978	絵	9			2	12	会意兼形声	糸(いと・いとへん)
975	973	978	預	7		あず-ける・あず-かる	5	13	会意兼形声	頁(おおがいがい・いちのかい)
976	973	980	臣	3.7			4	7	象形	臣(しん)
977	977	981	更	8		さら-ふ-ける・ふ-かす	常用	7	会意	日(ひ・ひへん・にちへん)
978	977	982	充	8		あ-てる	常用	6	会意兼形声	儿(ひとあし・にんにょう)
979	977	983	娘	5		むすめ	常用	10	形声	女(おんな・おんなへん)
980	977	984	威	10			常用	9	会意	女(おんな・おんなへん)
981	977	985	疲	7		つか-れる・つか-らす	常用	10	会意兼形声	疒(やまいだれ)
982	982	986	騷	5		さわ-ぐ	常用	18	会意兼形声	馬(うま・うまへん)
983	982	987	豆	4.7		まめ	3	7	象形	豆(まめ・まめへん)
984	984	988	陽	9			3	12	会意兼形声	阜(阝)(こざとへん)
985	984	989	菱	10		ひし	第1	12	会意兼形声	艸(艹)(くさかんむり)
986	984	990	操	9		みさお・あやつ-る	6	16	会意兼形声	手(才)(て・てへん)
987	984	990	到	8			常用	8	会意兼形声	辶(りつどう)
988	984	992	礼	6			3	5	会意兼形声	示(ネ)(しめす・しめすへん)
989	989	993	環	9			常用	17	会意兼形声	玉(王)(たま・たまへん・おうへん)
990	989	994	惱	9		なや-む・なや-ます	常用	10	会意兼形声	心(忄)(こころ・したごころ・りっしんべん)
991	991	994	納	8		おさ-める・おさ-まる	常用	6	会意兼形声	糸(いと・いとへん)
992	991	996	亩	7			6	8	形声	阝(うかんむり)
993	993	997	束	8		たば	4	7	会意	木(き・きへん)
994	993	998	頃	7			常用	12	会意兼形声	頁(おおがいがい・いちのかい)
995	993	999	幌	5		ほろ	第1	13	会意兼形声	巾(はば・はばへん)
996	993	999	祝	6		いわ-う	4	9	会意	示(ネ)(しめす・しめすへん)
997	997	1001	邦	6			常用	7	会意兼形声	邑(阝)(おおざと)
998	997	1002	射	8		い-る	6	10	会意	寸(すん)
999	997	1003	借	8		か-りる	4	10	会意兼形声	人(亻)(ひと・にんべん)
1000	997	1004	隣	10		とな-る・となり	常用	16	会意兼形声	阜(阝)(こざとへん)
1001	1001	1005	縄	5		なわ	常用	15	会意	糸(いと・いとへん)
1002	1001	1006	齒	3.7		は	3	12	会意兼形声	齒(は・はへん)
1003	1001	1007	郷	8			6	11	会意兼形声	邑(阝)(おおざと)
1004	1001	1008	炭	6		すみ	3	9	会意	火(火)(ひ・ひへん・れつか・れんが)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1005	1005	1009	欲	7	ヨク	ほっ-ずる・ほ-しい	6	11	会意兼形声	欠(あくび)
1006	1005	1010	梅	7	バイ	うめ	4	10	会意兼形声	木(き)・きへん
1007	1005	1011	魚	2.7	ギョ	うお・さかな	2	11	象形	魚(うお)・うおへん
1008	1008	1011	超	8	チヨウ	こ-える・こ-す	常用	12	会意兼形声	走(はしる)・そう(によ)
1009	1008	1013	廢	8	ハイ	すた-れる・すた-る	常用	12	会意兼形声	广(まだれ)
1010	1008	1014	絹	5	ケン	ぎぬ	6	13	会意兼形声	糸(いと)・いとへん
1011	1011	1015	看	5	カン		6	9	会意	目(め)・めへん
1012	1011	1016	園	10	キン		常用	11	会意兼形声	艸(+)・くさかんむり
1013	1013	1017	槽	8	シヨク	う-える・う-わる	3	12	会意兼形声	木(き)・きへん
1014	1013	1018	蓋	9	ジュ		常用	14	会意	雨(あめ)・あめかんむり
1015	1013	1019	徹	9	テツ		常用	15	会意	彳(ぎ)・うにんべん
1016	1013	1020	翼	8	ヨク	つばさ	常用	17	会意兼形声	羽(はね)
1017	1017	1021	宗	6	シュウ・ソウ		6	8	会意	宀(う)かんむり
1018	1017	1022	荷	7	カ	に	3	10	会意兼形声	艸(+)・くさかんむり
1019	1017	1023	衣	4.7	イ	ころも	4	6	象形	衣(ネ)・ころも・ころもへん
1020	1017	1024	湯	9	トウ	ゆ	3	12	会意兼形声	水(ミ)・(み)ず・したみ・さんずいず
1021	1017	1024	脚	7	キヤク・キヤ	あし	常用	11	会意兼形声	肉(月)・にく・にくづき
1022	1022	1026	宣	9	セン		6	9	会意兼形声	宀(う)かんむり
1023	1022	1027	酸	6	サン	す-い	5	14	会意兼形声	酉(とり)・とりへん・ひよみのとり
1024	1024	1028	灣	10	ワン		常用	12	会意兼形声	水(ミ)・(み)ず・したみ・さんずいず
1025	1024	1029	徵	10	チヨウ		常用	14	会意	彳(ぎ)・うにんべん
1026	1024	1030	仙	10	セン		常用	5	会意	人(イ)・ひと・にんべん
1027	1024	1031	帝	3.7	テイ		常用	9	象形	巾(は)ば・はばへん
1028	1028	1032	砂	7	サ・シャ	すな	6	9	会意兼形声	石(い)・いしへん
1029	1028	1033	鈇	7	コウ		5	13	会意兼形声	金(かね)・かねへん
1030	1030	1034	悲	7	ヒ	かな-しい・かな-しむ	3	12	会意兼形声	心(ト)・(こ)ろ・したごころ・りっしんべん
1031	1030	1035	敏	9	カン		常用	15	形声	欠(あくび)
1032	1032	1036	質	5	ボウ		5	12	会意兼形声	貝(かい)・かいへん
1033	1032	1037	刻	9	コク	きざ-む	6	8	会意兼形声	刀(リ)・つとう
1034	1034	1038	載	7	サイ	の-せる・の-る	常用	13	会意兼形声	車(くるま)・くるまへん
1035	1034	1039	詰	7	キツ	つ-める・つ-まる・つ-む	常用	13	会意兼形声	言(げん)・ごんべん
1036	1034	1040	潟	10		かた	常用	15	形声	水(ミ)・(み)ず・したみ・さんずいず
1037	1037	1041	樹	7	ジュ		6	16	会意兼形声	木(き)・きへん
1038	1037	1042	忠	7	チュウ		6	8	会意兼形声	心(ト)・(こ)ろ・したごころ・りっしんべん
1039	1037	1043	封	6	フウ・ホウ		常用	9	会意兼形声	寸(すん)
1040	1040	1045	兼	8	ケン	か-ねる	常用	10	会意	八(は)ち・はちがしら
1041	1040	1045	肩	6	ケン	かた	常用	8	会意	肉(月)・(に)く・にくづき
1042	1040	1047	呈	9	テイ		常用	7	会意兼形声	口(くち)・くちへん
1043	1043	1048	浮	6	フ	う-く・う-かれる・う-かぶ・う-かべる	常用	10	会意兼形声	水(ミ)・(み)ず・したみ・さんずいず
1044	1043	1049	律	9	リツ・リチ		6	9	会意	彳(ぎ)・うにんべん
1045	1043	1050	侵	9	シン	おか-す	常用	9	会意兼形声	人(イ)・(ひ)と・にんべん
1046	1043	1051	兄	4	ケイ・キョウ	あに	2	5	象形	儿(ひと)・あし・にん(によ)
1047	1047	1052	複	9	フク		5	14	会意兼形声	衣(ネ)・(こ)ろも・ころもへん

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1048	1048	1053	聴	8	チヨウ	きく	常用	17	会意兼形声	耳(みみ)・みみへん
1049	1048	1054	敷	9	フ	しく	常用	15	会意兼形声	支(た)・(ぼく)によろ・ぼくづくり・とまた
1050	1048	1055	即	9	ソク		常用	7	会意	口(くち)・(ぼく)・わりふ
1051	1051	1056	蔽	9	ゲン・ゴン	おごそか・きびしい	6	17	会意兼形声	ツ(つかんむり)
1052	1051	1057	暗	7	アン	くらしい	3	13	会意兼形声	日(ひ)・(ひ)へん・にちへん
1053	1051	1057	舎	6.8	シャ		5	8	会意兼形声	人(い)・(ひ)と・にんべん
1054	1051	1059	敵	9	テキ	かたき	5	15	形声	支(た)・(ぼく)によろ・ぼくづくり・とまた
1055	1055	1060	貯	5	チヨ		4	12	会意兼形声	貝(かい)・(かい)へん
1056	1055	1060	塩	5	エン	しお	4	13	形声	土(つち)・(つち)へん・どへん
1057	1055	1060	妙	7	ミョウ		常用	7	会意	女(おんな)・(おんな)へん
1058	1055	1063	訓	7	クン		4	10	会意兼形声	言(げん)・(ごん)べん
1059	1059	1064	摘	9	テキ	つむ	常用	14	会意兼形声	手(た)・(て)へん
1060	1059	1065	齡	8	レイ		常用	17	形声	齒(は)・(は)へん
1061	1059	1065	災	6	サイ	わざわい	5	7	会意兼形声	火(ひ)・(ひ)へん・れつか・れんが
1062	1059	1067	唱	9	ショウ	となえる	4	11	会意兼形声	口(くち)・(ち)へん
1063	1059	1068	壁	9	ヘキ	かべ	常用	16	会意兼形声	土(つち)・(つち)へん・どへん
1064	1064	1068	踏	10	トウ	ふむ・ふまえる	常用	15	会意兼形声	足(あし)・(あし)へん
1065	1064	1070	巡	7	ジュン	めぐる	常用	6	会意	川(かわ)
1066	1064	1071	糞	4.7	ジュン・オウ	きこ	2	11	象形	黄(きいろ)
1067	1067	1072	糞	9	ダツ	うばう	常用	14	会意	大(だい)
1068	1068	1072	撰	8	ソン	そこなう・そこねる	5	13	会意	手(た)・(て)へん
1069	1068	1074	診	9	シン	みる	常用	12	会意兼形声	言(げん)・(ごん)べん
1070	1068	1075	摩	8	マ		常用	15	会意兼形声	手(た)・(て)へん
1071	1071	1076	弘	10	コウ	ひろい	人名	5	会意兼形声	弓(ゆみ)・(ゆみ)へん
1072	1071	1077	甲	3.7	コウ・カン		常用	5	象形	田(た)・(た)へん
1073	1071	1078	照	8	ショウ	てらる・てらす・てられる	4	13	会意兼形声	火(ひ)・(ひ)へん・れつか・れんが
1074	1074	1079	彦	6	ゲン	ひこ	人名	9	会意兼形声	彡(さん)・(づ)くり
1075	1074	1080	里	2.5.7	リ	さと	2	7	会意	里(さと)・(さと)へん
1076	1074	1081	虫	2.5	チュウ	むし	1	6	象形	虫(むし)・(むし)へん
1077	1077	1081	埼	5	キ	さき	第1	11	会意兼形声	土(つち)・(つち)へん・どへん
1078	1077	1083	骨	3.9	コツ	ほね	6	10	会意兼形声	骨(ほね)・(ほね)へん
1079	1077	1084	飯	8	ハン	めし	4	12	会意兼形声	食(しょく)・(しょく)へん
1080	1077	1085	菊	6	キク		常用	11	会意兼形声	艸(くさ)・(くさ)へん
1081	1081	1086	免	8	メン	まぬか-れる	常用	8	会意	儿(ひと)・(あし)・(にん)によろ
1082	1081	1087	胸	6	キョウ	まぬか-れる	6	10	会意兼形声	肉(にく)・(にく)・(くつき)
1083	1081	1088	寢	9	シン	むね・むな	常用	13	会意兼形声	宀(う)・(かんむり)
1084	1081	1089	湖	6	コ	ね-る・ね-かす	3	12	会意兼形声	水(みづ)・(みづ)・(した)・(み)・(さん)・(ず)・(い)・(ず)
1085	1081	1090	霧	4	ム	みずうみ	常用	19	会意兼形声	雨(あめ)・(あめ)・(かんむり)
1086	1081	1091	陽	9	チヨウ	きり	4	13	形声	肉(にく)・(にく)・(くつき)
1087	1081	1092	紳	7	シン		常用	11	会意兼形声	糸(いと)・(いと)へん
1088	1088	1093	慎	8	シン	つつし-む	常用	13	会意兼形声	心(こころ)・(こころ)・(した)・(こころ)・(り)・(つ)・(しん)・(べん)
1089	1088	1094	弟	4	テイ・ダイ・デ	おとうと	2	7	指事	弓(ゆみ)・(ゆみ)へん
1090	1090	1095	償	10	ショウ	つぐな-う	常用	17	会意兼形声	人(い)・(ひと)・(にん)・(べん)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1091	1090	1096	至	8シ		いた-る	6	6	会意	至(いたる)
1092	1090	1097	詩	8シ			3	13	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
1093	1090	1097	矢	2シ		や	2	5	象形	矢(や・やへん)
1094	1090	1099	岳	5ガク		たけ	常用	8	会意	山(やま・やまへん)
1095	1095	1100	獻	6ケン・コン			常用	13	会意兼形声	犬(けん)(いぬ・けものへん)
1096	1095	1101	錢	9セン		ぜに	5	14	会意兼形声	金(かね)(かねへん)
1097	1095	1102	紛	8フン		まぎ-れる・まぎ-らす・まぎ-らわす・まぎ-らわしい	常用	10	会意兼形声	糸(いと)(いとへん)
1098	1095	1103	忘	8ボウ		わす-れる	6	7	会意兼形声	心(しん)(こころ・したごころ・りっしんべん)
1099	1095	1104	綠	4.9リョク・ロク		みどり	3	14	会意兼形声	糸(いと)(いとへん)
1100	1095	1105	幼	9ヨウ		おさな-い	6	5	会意兼形声	幺(いと)(がしら)
1101	1101	1106	棄	10キ			常用	13	会意	木(き・きへん)
1102	1101	1108	臧	8ゾウ			6	19	会意兼形声	肉(月)(にく)(にくづき)
1103	1101	1109	柳	5リュウ		やなぎ	常用	9	会意兼形声	木(き・きへん)
1104	1101	1110	潮	7チヨウ		しお	6	15	会意兼形声	水(し)(みず・したみ・さんずいず)
1105	1101	1111	奉	9ホウ・ブ		たてまつ-る	常用	8	会意	大(だい)
1106	1106	1112	促	10ソク		うなが-す	常用	9	会意兼形声	人(イ)(ひと・にんべん)
1107	1106	1113	包	3.6.7ホウ		つつ-む	4	5	象形	勹(つ)(み)がまえ
1108	1106	1114	驚	9キョウ		おどろ-く・おどろ-かす	常用	22	会意兼形声	馬(うま・うまへん)
1109	1106	1115	童	8ドウ		わらべ	3	12	会意兼形声	立(たつ・たつへん)
1110	1106	1116	麻	8マ		あさ	常用	11	会意	麻(あさ・あさかんむり)
1111	1106	1117	菓	99サイ		な	4	11	会意兼形声	艸(艹)(くさかんむり)
1112	1106	1117	紡	7ボウ		つむ-ぐ	常用	10	会意兼形声	糸(いと)(いとへん)
1113	1113	1119	伴	7ハン・バン		ともな-う	常用	7	会意兼形声	人(イ)(ひと・にんべん)
1114	1113	1120	揚	9ヨウ		あ-げる・あ-がる	常用	12	会意兼形声	手(才)(て・てへん)
1115	1113	1121	腕	6ワン		うで	常用	12	会意兼形声	肉(月)(にく)(にくづき)
1116	1113	1122	浴	7ヨク		あ-びる・あ-びせる	4	10	会意兼形声	水(し)(みず・したみ・さんずいず)
1117	1113	1123	竜	3リュウ			常用	10	象形	龍(竜)(りゅう)
1118	1118	1124	桜	5オウ		さくら	5	10	会意兼形声	木(き・きへん)
1119	1118	1126	鶴	5カク		つる	人名	21	会意兼形声	鳥(とり・とりへん)
1120	1118	1127	織	10セン			常用	17	会意兼形声	糸(いと)(いとへん)
1121	1121	1128	貴	9キ		たつと-い・とうと-い・たい-つと-ぶ・とうと-ぶ	6	12	会意	貝(かい)(かいへん)
1122	1121	1129	恋	9レン		こ-う・こ-い・こ-い-しい	常用	10	会意兼形声	心(しん)(こころ・したごころ・りっしんべん)
1123	1123	1130	患	6カン		わずら-う	常用	11	会意	心(しん)(こころ・したごころ・りっしんべん)
1124	1123	1131	雲	4ウン		くも	2	12	会意兼形声	雨(あめ・あめかんむり)
1125	1123	1131	眼	9ガン・ゲン		まなこ	5	11	会意兼形声	目(め・めへん)
1126	1123	1133	糲	9トウ			6	16	形声	米(こめ・こめへん)
1127	1127	1134	誤	8ゴ		あやま-る	6	14	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
1128	1127	1135	貫	8カン		つらぬ-く	常用	11	会意	貝(かい)(かいへん)
1129	1127	1136	寿	10ジュ		ことぶき	常用	7	会意兼形声	寸(すん)
1130	1130	1137	撮	8サツ		と-る	常用	15	会意兼形声	手(才)(て・てへん)
1131	1130	1138	勸	9カン		すす-める	常用	13	会意兼形声	力(ちから)
1132	1130	1139	範	9ハン			常用	15	会意兼形声	竹(たけ・たけかんむり)
1133	1130	1140	林	7ハイ		さかづき	常用	8	会意兼形声	木(き・きへん)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1175	1172	1185	桂	5	ケイ	かつら	人名	10	会意兼形声	木(き)・きへん
1176	1176	1186	漣	10	ケン	つかう・つかわす	常用	13	会意兼形声	氵(しん)・しん(しん)にゆう
1177	1176	1187	濃	8	ノウ	こい	常用	16	会意兼形声	水(み)・みず・したみ・さんずいず
1178	1176	1188	鳴	5	メイ	なく・なる・な-らす おど-る・おど-り	2 常用	14	会意	鳥(とり)・とりへん
1179	1176	1188	踊	7	ヨウ		常用	14	会意兼形声	足(あし)・あしへん
1180	1176	1191	帳	7	チョウ		3	11	会意兼形声	巾(はば)・はばへん
1181	1181	1191	倒	8	トウ	たお-れる・たお-す	常用	10	会意兼形声	人(い)・ひと・にんべん
1182	1181	1193	衿	10	シヨウ		常用	10	会意兼形声	衤(のぎ)へん
1183	1181	1194	銘	7	メイ		常用	14	会意兼形声	金(かね)・かねへん
1184	1181	1195	紋	7	モン		常用	10	会意兼形声	糸(いと)・いとへん
1185	1185	1196	掛	9		か-ける・か-かる・かかり	常用	11	会意兼形声	手(才)・てへん
1186	1186	1197	殿	9	デン・テン	と-どの	常用	13	会意兼形声	宀(ほこ)・くり・るまた
1187	1186	1198	戒	8	カイ	いまし-める	常用	7	会意	戈(ほこ)・くり・ほこがまえ
1188	1186	1199	趣	6	シュ	おもむき	常用	15	会意兼形声	走(は)・しる・そう(よう)
1189	1186	1199	覓	7	ラン		6	17	会意兼形声	見(みる)
1190	1186	1201	泣	6	キョウ	な-く	4	8	会意	水(み)・みず・したみ・さんずいず
1191	1186	1202	坊	7	ボウ・ボツ		常用	7	会意兼形声	土(つち)・つちへん・どへん
1192	1192	1203	誘	8	ユウ	さそ-う	常用	14	会意兼形声	言(げん)・ごんべん
1193	1192	1204	泳	7	エイ	およ-ぐ	3	8	会意兼形声	水(み)・みず・したみ・さんずいず
1194	1192	1205	冊	2.7	サツ・サク		6	5	象形	冂(けい)がまえ・まきがまえ・どうがまえ
1195	1192	1206	寒	4	カン	さむ-い	3	12	会意	冫(う)かんむり
1196	1192	1207	罍	5	ハン	はた	第1	15	形声	巾(は)・ぼへん
1197	1197	1208	軟	5	ナン	やわ-らか・やわ-らかい	常用	11	会意兼形声	車(くるま)・くるまへん
1198	1197	1208	奇	8	キ		常用	8	会意兼形声	大(だい)
1199	1197	1210	妹	4.7	マイ	いもうと	2	8	会意兼形声	女(おんな)・おんなへん
1200	1200	1211	焦	9	ショウ	こ-げる・こ-がす・こ-がれる・あせ-る	常用	12	会意	火(ひ)・ひへん・れつか・れんが
1201	1200	1212	穴	6	ケツ	あな	6	5	会意	宀(あな)・あなかんむり
1202	1200	1213	零	8	レイ		常用	13	会意兼形声	雨(あめ)・あめかんむり
1203	1200	1214	水	6	ヒョウ	こおり・ひ	3	5	会意兼形声	水(み)・みず・したみ・さんずいず
1204	1204	1215	懇	9	コン	ねんご-ろ	常用	17	会意兼形声	心(しん)・ころ・したごころ・りっしんべん
1205	1204	1215	昔	8	セキ・シヤク	むかし	3	8	会意	日(ひ)・ひへん・にちへん
1206	1204	1217	輝	8	キ	かがや-く	常用	15	会意兼形声	車(くるま)・くるまへん
1207	1204	1218	鬼	3.7	キ	おに	常用	10	象形	鬼(おに)・き(よう)
1208	1209	1219	汚	9	オ	けが-す・けが-れる・けが-らわしい・よご-す・よご-れる・きたない	常用	6	会意兼形声	水(み)・みず・したみ・さんずいず
1209	1209	1220	控	7	コウ	ひか-える	常用	11	会意兼形声	手(才)・てへん
1210	1209	1221	滯	8	タイ	とどこお-る	常用	13	会意兼形声	水(み)・みず・したみ・さんずいず
1211	1209	1222	微	10	ビ		常用	13	会意兼形声	彳(ぎ)・よう・にんべん
1212	1209	1223	釈	7	シヤク		常用	11	会意兼形声	采(の)・ごめ・ごめへん
1213	1209	1225	尊	8	ソン	たつと-い・とうと-い・たつと-ぶ・とうと-ぶ	6	12	会意	寸(すん)
1214	1209	1226	畑	5		はた・はたけ	3	9	会意	田(た)・たへん
1215	1209	1227	砲	7	ホウ		常用	10	会意兼形声	石(い)・いしへん

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1216	1209	1228	銳	9	エイ	するどい	常用	15	会意兼形声	金(かね)・かねへん
1217	1209	1229	据	10		すゝえる・すゝわる	常用	11	会意兼形声	手(才)(て)へん
1218	1209	1230	粧	5	シヨウ		常用	12	形声	米(こめ)・こめへん
1219	1221	1232	抱	7	ホウ	だく・いだく・かかえる	常用	8	会意兼形声	手(才)(て)へん
1220	1221	1233	掲	9	ケイ	かかへげる	常用	11	会意兼形声	手(才)(て)へん
1221	1221	1234	捨	8	シャ	すてる	6	11	会意兼形声	手(才)(て)へん
1222	1221	1235	似	8	ジ	にる	5	7	会意兼形声	人(イ)ひと・にんべん
1223	1221	1237	珍	9	チン	めずらしい	常用	9	会意兼形声	玉(王)(たま)・たまへん・おうへん
1224	1221	1238	莊	9	ソウ		常用	9	会意兼形声	艸(艸)(くさ)・かんむり
1225	1221	1239	釣	7	チヨウ		常用	11	会意兼形声	金(かね)・かねへん
1226	1221	1240	厘	7	リン	つる	常用	9	会意兼形声	厂(かん)だれ
1227	1230	1241	拒	7	キョ	こばむ	常用	8	会意兼形声	手(才)(て)へん
1228	1230	1242	獲	9	カク	える	常用	16	会意兼形声	犬(イ)いぬ・けものへん
1229	1230	1243	炎	6	エン	ほのお	常用	8	会意	火(火)(ひ)・ひへん・れっか・れんが
1230	1230	1244	掃	9	ソウ	はく	常用	11	会意兼形声	手(才)(て)へん
1231	1230	1245	抽	7	チュウ		常用	8	会意兼形声	手(才)(て)へん
1232	1230	1246	巢	6	ソウ	す	4	11	会意	ツ(つかん)むり
1233	1236	1248	探	9	タン	さぐる・さがす	6	11	会意兼形声	手(才)(て)へん
1234	1236	1249	挑	7	チヨウ	いどむ	常用	9	会意兼形声	手(才)(て)へん
1235	1236	1250	床	6	シヨウ	とこゆか	常用	7	会意	广(まだれ)
1236	1236	1251	牧	5	ボク	まき	4	8	会意	牛(ウ)うしへん
1237	1236	1252	泊	7	ハク	とまる・とめる	常用	8	形声	水(ミ)みず・したみ・さんずいず
1238	1241	1253	誠	8	セイ	まこと	6	13	会意兼形声	言(げん)・ごんべん
1239	1242	1254	迷	6	メイ	まよーう	5	9	会意兼形声	辶(しん)によう・しんにゆう
1240	1242	1255	敬	9	ケイ	うやまーう	6	12	会意	支(攴)(ぼく)によう・ぼくづくり・とまた
1241	1242	1256	孝	7	コウ		6	7	会意	子(こ)へん
1242	1242	1257	剣	9	ケン	つるぎ	常用	10	会意兼形声	リ(り)とう
1243	1242	1258	甘	10	カン	あまい	常用	5	会意	甘(あま)い
1244	1247	1260	陸	10	リョウ		常用	11	会意	阜(阝)にぎとへん
1245	1247	1261	却	7	キヤク		常用	7	会意兼形声	卩(ふ)しづくり・わりふ
1246	1247	1263	距	7	キョ		常用	12	会意兼形声	足(あし)あしへん
1247	1247	1264	賦	10	フ		常用	15	会意兼形声	貝(かい)かいへん
1248	1251	1265	触	9	シヨク	ふれる・さわる	常用	13	会意兼形声	角(つ)のつへん
1249	1251	1266	綱	8	コウ	つな	常用	14	会意兼形声	糸(いと)いとへん
1250	1251	1266	暑	7	シュ	あつい	3	12	会意兼形声	日(ひ)ひへん・にちへん
1251	1255	1268	句	5	ク		5	5	会意	口(くち)くちへん
1252	1255	1269	龔	6	シユウ	おそーう	常用	22	会意兼形声	衣(衤)にころも・ころもへん
1253	1255	1270	刷	9	サツ	すーる	4	8	会意	リ(り)とう
1254	1255	1270	丹	6	タン		常用	4	会意	丶(てん)
1255	1259	1272	縹	9		くーる	常用	19	会意兼形声	糸(いと)いとへん
1256	1259	1273	棋	9	キ		常用	12	会意兼形声	木(き)きへん
1257	1261	1273	壙	9	カイ	こわす・こわれる	常用	16	会意兼形声	土(つち)つちへん・どへん
1258	1261	1275	纒	9	カン	ゆるい・ゆるーやか・ゆるむ・ゆるーめる	常用	15	会意兼形声	糸(いと)いとへん

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首	
1259	1261	1276	耐	9	タイ	た-える	常用	9	会意兼形声	而(しかして)	
1260	1261	1277	軒	5	ケン	のき	常用	10	形声	車(くるま)・く(るまへん)	
1261	1261	1279	卸	10		おろ-す・おろし	常用	9	会意兼形声	尸(ふし)・づ(くり)・わ(りふ)	
1262	1267	1280	既	9	キ	すで-に	常用	10	会意兼形声	无(む)・に(よう)	
1263	1267	1281	礎	5	ソ	いし-ずえ	常用	18	会意兼形声	石(いし)・い(しへん)	
1264	1267	1282	凍	6.7	トウ	こお-る・こご-える	常用	10	会意兼形声	冫(にすい)	
1265	1271	1283	懸	7	ケン・ケ	か-ける・か-かる	常用	20	会意兼形声	心(しん)・こ(ころ)・した(ごころ)・り(つしん)・ん(べん)	
1266	1271	1284	雅	10	ガ		常用	13	形声	隹(ふ)・と(り)	
1267	1271	1285	邸	9	テイ		常用	8	会意兼形声	邑(β)・(お)お(ざと)	
1268	1276	1286	俳	7	ハイ		6	10	会意兼形声	人(イ)・(ひ)と・に(ん)べん	
1269	1276	1286	掘	8	クツ	ほ-る	常用	11	会意兼形声	手(才)・(て)へん	
1270	1276	1288	遇	9	グウ		常用	12	会意兼形声	辶(しん)・に(よう)・し(ん)に(ゆう)	
1271	1279	1289	克	6	コク		常用	7	会意	儿(ひと)・あ(し)・に(ん)に(よう)	
1272	1279	1290	貧	8	ヒン・ピン	まず-しい	5	11	会意兼形声	貝(かい)・(かい)へん	
1273	1281	1291	撤	9	テツ		常用	15	会意兼形声	手(才)・(て)へん	
1274	1281	1291	携	10	ケイ	た-ずさ-える・た-ずさ-わる	常用	13	形声	手(才)・(て)へん	
1275	1281	1293	誕	7	タン	た-くわ-える	常用	6	15	会意兼形声	言(げん)・(ごん)べん
1276	1281	1293	蓄	8	チク		常用	13	会意兼形声	艸(せう)・(く)さ(かんむり)	
1277	1281	1295	往	7	オウ		5	8	会意兼形声	彳(ぎ)・(う)に(ん)べん	
1278	1281	1296	灯	6	トウ	ひ	4	6	会意兼形声	火(ひ)・(ひ)へん・れ(つか)・れ(ん)が	
1279	1281	1297	遠	10		たき	常用	13	会意兼形声	水(み)・(み)ず・した(み)・さん(ず)い(ず)	
1280	1289	1297	孱	7	ギ		常用	17	会意兼形声	牛(うし)・(う)し(へん)	
1281	1289	1297	隳	6.9	フク	はら	6	13	会意兼形声	肉(月)・(にく)・に(く)に(く)ぎ	
1282	1292	1300	緒	7	ショ・チヨ	お	常用	14	会意兼形声	糸(いと)・いとへん	
1283	1292	1301	哲	7	テツ	あみ	常用	10	会意兼形声	口(くち)・(ち)へん	
1284	1292	1302	網	10	モウ		常用	14	会意兼形声	糸(いと)・いとへん	
1285	1292	1303	犬	2.6	ケン	いぬ	1	4	象形	犬(いぬ)・(いぬ)へん	
1286	1292	1304	煮	7	シヤ	に-る・に-える・に-やす	常用	12	会意兼形声	火(ひ)・(ひ)へん・れ(つか)・れ(ん)が	
1287	1292	1305	陳	10	チン		常用	11	会意兼形声	阜(β)・(ご)と(へん)	
1288	1292	1306	眠	7	ミン	ねむ-る・ねむ-い	常用	10	会意兼形声	目(め)・(め)へん	
1289	1292	1307	潜	10	セン	ひそ-む・もぐ-る	常用	15	会意兼形声	水(み)・(み)ず・した(み)・さん(ず)い(ず)	
1290	1292	1307	舗	9	ホ		常用	15	会意兼形声	人(イ)・(ひ)と・に(ん)べん	
1291	1292	1310	量	10	ジョウ	た-た-む・た-た-み	常用	12	会意	田(た)・た(へん)	
1292	1302	1311	慣	8	カン	なれ-る・な-らす	5	14	会意兼形声	心(しん)・(こ)ろ(ころ)・した(ごころ)・り(つしん)・ん(べん)	
1293	1302	1312	聖	9	セイ		6	13	会意兼形声	耳(みみ)・(み)み(へん)	
1294	1302	1313	頂	7	チヨウ	いた-だ-く・い-た-だ-き	6	11	会意兼形声	頁(お)お(が)い(い)ち(のかい)	
1295	1302	1314	艦	7	カン		常用	21	会意兼形声	舟(ふ)・ね(ふ)・ね(へん)	
1296	1306	1315	儀	7	ギ		常用	15	会意兼形声	人(イ)・(ひ)と・に(ん)べん	
1297	1306	1317	翌	7	ヨク		6	11	会意兼形声	羽(は)・ね(ね)	
1298	1306	1318	泰	6	タイ		常用	10	会意兼形声	水(み)・(み)ず・した(み)・さん(ず)い(ず)	
1299	1306	1319	勲	9	クン		常用	15	会意兼形声	力(ち)・(ち)から	
1300	1306	1320	宴	6	エン		常用	10	会意兼形声	宀(う)・(かんむり)	
1301	1306	1322	墜	9	ツイ		常用	15	会意兼形声	土(つち)・(つち)へん・(ど)へん	

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1302	1312	1323	貞	5	テイ		常用	9	形声	貝(かい)・かいへん
1303	1312	1324	丈	5	ジョウ	たけ	常用	3	会意	一(いち)
1304	1312	1325	瞬	5	シュン	またた-く	常用	18	会意兼形声	目(め)・めへん
1305	1312	1326	祥	7	ショウ		常用	10	会意兼形声	示(ネ)(しめす)・しめすへん
1306	1312	1327	勤	8	カン	かり	常用	11	会意	力(ちから)
1307	1319	1328	仮	6	カケ	おのれ	5	6	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にんべん
1308	1319	1329	己	2.7	コキ	おのれ	6	3	象形	己(おのれ)
1309	1319	1330	耳	2	ジ	のみ	1	6	象形	耳(みみ)・みみへん
1310	1319	1331	沈	10	チン	しず-む・しず-める	常用	7	会意兼形声	水(シ)(みず)・したみ・さんずいず
1311	1319	1331	祖	7	ソ		5	9	会意兼形声	示(ネ)(しめす)・しめすへん
1312	1319	1333	皆	7	カイ	みな	常用	9	会意	白(しろ)・しろへん
1313	1319	1334	魔	7.8	マ		常用	21	会意兼形声	鬼(おに)・きによう
1314	1319	1335	舟	3	シュウ	ふね・ふな	常用	6	象形	舟(ふね)・ふねへん
1315	1319	1335	縫	9	ホウ	ぬ-う	常用	16	会意兼形声	糸(いと)・いとへん
1316	1328	1337	俊	10	シュン		常用	9	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にんべん
1317	1328	1337	裂	6.8	レツ	さ-く・さ-ける	常用	12	会意兼形声	衣(ネ)(ころも)・ころもへん
1318	1328	1339	殊	7	シュ	こと	常用	10	会意兼形声	歹(が)・つへん
1319	1328	1339	概	9	ガイ		常用	14	会意兼形声	木(き)・きへん
1320	1328	1341	姉	4	シ	あね	2	8	会意兼形声	女(おんな)・おんなへん
1321	1328	1341	酔	8	スイ	よ-う	常用	11	会意兼形声	酉(とり)・とりへん・ひよみのとり
1322	1334	1343	壘	3.7	ア		常用	7	象形	二(に)
1323	1334	1344	影	8	ショウ		常用	14	会意兼形声	彡(さん)・づくり
1324	1334	1345	芳	7	ホウ	かんば-しい	常用	7	会意兼形声	艸(+)・(くさかんむり)
1325	1334	1346	叫	9	キョウ	さけ-ぶ	常用	6	会意兼形声	口(くち)・くちへん
1326	1334	1347	肅	10	シュク		常用	11	会意	聿(ふ)・ふでづくり
1327	1339	1348	妥	10	ダ		常用	7	会意	女(おんな)・おんなへん
1328	1339	1349	埋	10	マイ	う-める・う-まる・う-もれる	常用	10	形声	土(つち)・つちへん・どへん
1329	1339	1350	序	7	ジョ	はげ-む・はげ-ます	5	7	会意兼形声	广(まだれ)
1330	1339	1351	励	5	レイ		常用	7	会意兼形声	力(ちから)
1331	1339	1352	稿	7	コウ		常用	15	形声	禾(のぎ)へん
1332	1339	1353	彩	9	サイ	いろど-る	常用	11	会意兼形声	彡(さん)・づくり
1333	1339	1354	髮	10	ハツ	かみ	常用	14	会意兼形声	髟(かみかんむり)・かみがしら
1334	1339	1355	塗	8	ト	ぬ-る	常用	13	会意兼形声	土(つち)・つちへん・どへん
1335	1347	1356	裕	6.7	ユウ		常用	12	会意兼形声	衣(ネ)(ころも)・ころもへん
1336	1347	1356	抵	9	テイ		常用	8	形声	手(テ)・てへん
1337	1347	1358	仁	7	ジン・ニ		6	4	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にんべん
1338	1347	1359	柔	5	ジュウ・ニユウ	やわ-らか・やわ-らかい	常用	9	会意	木(き)・きへん
1339	1347	1360	較	7	カク		常用	13	会意兼形声	車(くるま)・くるまへん
1340	1347	1361	郊	7	コウ		常用	9	会意兼形声	邑(阝)・おおざと
1341	1347	1362	墓	9	ボ	はか	5	13	会意兼形声	土(つち)・つちへん・どへん
1342	1347	1363	漫	9	マン		常用	14	会意兼形声	水(シ)(みず)・したみ・さんずいず
1343	1347	1364	廊	7	ロウ		常用	12	形声	广(まだれ)
1344	1356	1365	恩	8	オン		5	10	会意兼形声	心(ハ)・(こころ)・したごころ・りっしんべん

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1345	1356	1366	狂	7	キョウ	くる-う-くる-おしい	常用	7	会意兼形声	犬(犾)(いぬ・けものへん)
1346	1356	1367	坪	7		つぼ	常用	8	会意兼形声	土(つち・つちへん・どへん)
1347	1361	1368	誉	9	ヨ	ほま-れ	常用	13	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
1348	1361	1369	卵	3	ラン	たまご	6	7	象形	凵(ふしづくり・わりふ)
1349	1361	1370	鏡	9	キョウ	かがみ	4	19	会意兼形声	金(かね・かねへん)
1350	1361	1370	孫	8	ソン	まご	4	10	会意	子(こ・こへん)
1351	1361	1372	霊	10	レイ・リョウ	たま	常用	15	会意兼形声	雨(あめ・あめかんむり)
1352	1361	1373	涙	10	レイ	なみだ	常用	10	会意	水(ミ)(みず・したみ・さんずいず)
1353	1361	1374	乾	7	カン	かわ-く-かわ-かす	常用	11	会意	乙(おつ・おつによ)
1354	1369	1375	析	7	セキ		常用	8	会意	木(き・きへん)
1355	1369	1376	斎	10	サイ		常用	11	会意兼形声	齊(さい)
1356	1369	1378	縁	10	エン	ふち	常用	15	会意兼形声	糸(いと・いとへん)
1357	1369	1379	随	9	ズイ		常用	12	会意兼形声	阜(阡)(ござとへん)
1358	1369	1381	峰	9	ホウ	みね	常用	10	会意兼形声	山(やま・やまへん)
1359	1369	1382	稚	10	チ		常用	13	会意	禾(のぎへん)
1360	1369	1383	怪	6	カイ	あや-しい-あや-しむ	常用	8	会意兼形声	心(忄)(ごころ・したごころ・りっしんべん)
1361	1376	1383	敏	7	ビン		常用	10	会意	支(攴)(ぼくによ)・ぼくづくり・とまた
1362	1376	1386	罰	9	バツ・バチ		常用	14	会意	网(囧)(あみがしら・よこめ)
1363	1376	1388	糧	5	リョウ・ロウ	かて	常用	18	会意兼形声	米(こめ・こめへん)
1364	1376	1389	諮	5	シ	はか-る	常用	16	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
1365	1376	1389	狭	9	キョウ	せま-い-せば-める-せば-まる	常用	9	会意兼形声	犬(犾)(いぬ・けものへん)
1366	1376	1392	彫	8	チョウ	ほ-る	常用	11	会意兼形声	彡(さんづくり)
1367	1376	1393	忙	8	ボウ	いそが-しい	常用	6	会意兼形声	心(忄)(ごころ・したごころ・りっしんべん)
1368	1376	1394	忍	7	ニン	しの-ぶ-しの-ばせる	常用	7	会意兼形声	心(忄)(ごころ・したごころ・りっしんべん)
1369	1384	1395	阻	7	ソ	はば-む	常用	8	会意兼形声	阜(阡)(ござとへん)
1370	1384	1396	猛	6	モウ		常用	11	会意兼形声	犬(犾)(いぬ・けものへん)
1371	1386	1396	滅	10	メイ	ほろ-びる-ほろ-ぼす	常用	13	会意兼形声	水(ミ)(みず・したみ・さんずいず)
1372	1386	1398	縦	4.8	ジュウ	たて	6	16	会意兼形声	糸(いと・いとへん)
1373	1386	1399	騰	8	トウ		常用	20	会意兼形声	馬(うま・うまへん)
1374	1386	1400	壇	10	タン・ダン		常用	16	会意兼形声	土(つち・つちへん・どへん)
1375	1386	1401	磨	8	マ	みが-く	常用	16	会意兼形声	石(いし・いしへん)
1376	1386	1402	烈	8	レイ		常用	10	会意兼形声	火(火)(ひ・ひへん・れつか・れんが)
1377	1393	1403	顧	7	コ	かえり-みる	常用	21	会意兼形声	頁(おおがしい・いちのかい)
1378	1393	1404	薦	10	セン	すす-める	常用	16	会意	艸(艹)(くさかんむり)
1379	1393	1405	沿	9	エン	そ-う	6	8	会意兼形声	水(ミ)(みず・したみ・さんずいず)
1380	1393	1406	怒	8	ド	いか-る-おこ-る	常用	9	会意兼形声	心(忄)(ごころ・したごころ・りっしんべん)
1381	1393	1407	簿	9	ボ		常用	19	会意兼形声	竹(たけ・たけかんむり)
1382	1402	1408	抑	9	ヨク	おさ-える	常用	7	会意	手(才)(てへん)
1383	1402	1409	我	3.7	ガ	われ-わ	6	7	象形	戈(ほこづくり・ほこがまえ)
1384	1402	1410	柱	7	チュウ	はしら	3	9	会意兼形声	木(き・きへん)
1385	1402	1411	添	10	テン	そ-える-そ-う	常用	11	会意兼形声	水(ミ)(みず・したみ・さんずいず)
1386	1402	1412	肥	6	ヒ	こ-える-こ-え-こ-らす-こ-やし	5	8	形声	肉(月)(にく・にくづき)
1387	1402	1413	唯	10	ユイ・イ		常用	11	形声	口(くち・くちへん)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首	
1388	1402	1415	漢	9	カン		3	13	会意兼形声	水(シ)(みず)・したみ・さんずい(ず)	
1389	1410	1416	圈	9	ケン		常用	12	会意兼形声	口(ク)(がまえ)	
1390	1410	1417	腐	6.8	フ	くさ-る・くさ-れる・くさ-らす	常用	14	会意兼形声	肉(月)(にく)・にく(づき)	
1391	1410	1418	是	8	ゼ		常用	9	会意	日(ヒ)・ひへん・にちへん	
1392	1410	1419	恒	10	コウ		常用	9	会意兼形声	心(忄)(こころ)・したごころ・りっしんべん	
1393	1410	1422	麦	4	ハク	むぎ	2	7	会意兼形声	麦(むぎ)・ばく(じょう)	
1394	1410	1423	潔	6	ケツ	いさぎよい	5	15	会意兼形声	水(シ)(みず)・したみ・さんずい(ず)	
1395	1410	1425	隻	9	セキ		常用	10	会意	隹(ふるとり)	
1396	1410	1426	譜	5	フ		常用	19	会意兼形声	言(げん)・ごんべん	
1397	1418	1426	扨	7	タク		常用	7	会意兼形声	手(才)(て)・てへん	
1398	1418	1428	肝	6.7	カン	きも	常用	7	会意兼形声	肉(月)(にく)・にく(づき)	
1399	1418	1430	拓	10	タク		常用	8	形声	手(才)(て)・てへん	
1400	1418	1431	欄	10	ラン		常用	20	会意兼形声	木(き)・きへん	
1401	1418	1432	黙	7	モク	だま-る	常用	15	会意兼形声	黒(くろ)・くろへん	
1402	1418	1432	陰	9	イン	かげ・かげ-る	常用	11	会意兼形声	阜(阝)(ござと)へん	
1403	1418	1434	伏	10	フク	ふ-せる	常用	6	会意	人(イ)(ひと)・にんべん	
1404	1418	1436	披	10	ヒ		常用	8	会意兼形声	手(才)(て)・てへん	
1405	1418	1437	臭	5	シュウ	くさ-い	常用	9	会意	自(み)・みずから	
1406	1430	1438	牲	4	セイ		常用	9	会意兼形声	牛(ウ)・しうしへん	
1407	1430	1439	棒	9	ボウ		常用	6	12	会意兼形声	木(き)・きへん
1408	1430	1440	梟	8	ゴウ		常用	7	会意	口(くち)・くちへん	
1409	1430	1443	僧	10	ソウ		常用	13	形声	人(イ)(ひと)・にんべん	
1410	1434	1443	兆	7	チヨウ	きざ-す・きざ-し	常用	4	6	象形	儿(ひ)とあし・にん(じょう)
1411	1434	1445	雇	7	コ	やと-う	常用	12	会意兼形声	隹(ふ)・るとり	
1412	1434	1446	脅	9	キョウ	おびや-かす・おど-す・おど-かす	常用	10	会意兼形声	肉(月)(にく)・にく(づき)	
1413	1434	1447	遂	9	スイ	と-げる	常用	12	形声	辵(辵)・しん(じょう)	
1414	1434	1448	飼	8	シ	か-う	5	13	形声	食(しょく)・しょくへん	
1415	1434	1449	桑	5	ソウ	くわ	常用	10	会意	木(き)・きへん	
1416	1434	1449	鐘	8	シヨウ	かね	常用	20	会意兼形声	金(かね)・かねへん	
1417	1441	1449	岐	8	キ		常用	7	会意兼形声	山(やま)・やまへん	
1418	1441	1449	卓	7	タク		常用	8	会意	十(じゅう)	
1419	1441	1453	慢	9	マン		常用	14	会意兼形声	心(忄)(こころ)・したごころ・りっしんべん	
1420	1441	1454	謀	8	ボウ・ム	はか-る	常用	16	会意兼形声	言(げん)・ごんべん	
1421	1441	1455	墨	7	ボク	すみ	常用	14	会意兼形声	土(つち)・つちへん・どへん	
1422	1441	1456	銅	8	ドウ		5	14	会意兼形声	金(かね)・かねへん	
1423	1441	1458	艇	9	テイ		常用	13	会意兼形声	舟(ふ)・ふねへん	
1424	1448	1459	葬	10	ソウ	ほうむ-る	常用	12	会意	艸(艹)(くさかんむり)	
1425	1448	1460	祉	7	シ		常用	8	会意兼形声	示(示)・しめす・しめすへん	
1426	1448	1461	朗	7	ロウ	ほが-らか	6	10	会意兼形声	月(つき)・つきへん	
1427	1448	1461	孤	9	コ		常用	9	会意兼形声	子(こ)・こへん	
1428	1448	1463	浪	7	ロウ		常用	10	会意兼形声	水(シ)(みず)・したみ・さんずい(ず)	
1429	1448	1464	喫	10	キツ		常用	12	会意兼形声	口(くち)・くちへん	
1430	1448	1465	咲	4	サイ	さ-く	常用	9	会意兼形声	口(くち)・くちへん	

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1431	1448	1467	班	5	ハン		6	10	会意	玉(王)たま・たまへん・おうへん
1432	1448	1467	汗	7	カン	あせ	常用	6	形声	水(氵)みず・したみ・さんずいず
1433	1448	1469	壯	9	ソウ		常用	6	会意兼形声	士(さむらい)
1434	1448	1470	扇	7	セン	おうぎ	常用	10	会意	戸(と)だれ・とかんむり
1435	1460	1471	削	7	サク	けず-る	常用	9	会意兼形声	刀(りつとう)
1436	1460	1472	闊	10	バツ		常用	14	会意兼形声	門(もん)もんがまえ・かどがまえ
1437	1460	1473	啓	10	ケイ		常用	11	会意	口(くち)くちへん
1438	1460	1474	秩	10	チツ		常用	10	形声	禾(のぎ)へん
1439	1460	1475	徑	9	ケイ		4	8	会意兼形声	彳(ぎ)よう・にんべん
1440	1460	1476	巧	9	コウ	たく-み	常用	5	会意兼形声	工(え)こう
1441	1460	1477	靴	8	カ	くつ	常用	13	形声	革(かわ)かくのかわ・かわへん・つくりがわ
1442	1460	1478	詐	9	サ		常用	12	会意兼形声	言(げん)ごんべん
1443	1460	1479	痢	6	リ		常用	12	会意兼形声	疒(やまいだれ)
1444	1471	1479	鼻	2	ビ	はな	3	14	形声	鼻(はな)はなへん
1445	1473	1481	簪	8	セキ		常用	20	会意兼形声	竹(たけ)たけかんむり
1446	1473	1481	脈	9	ミヤク		4	10	会意兼形声	肉(月)にく・にくづき
1447	1473	1483	寮	9	リョウ		常用	15	会意兼形声	宀(うかんむり)
1448	1473	1484	船	7	ハク		常用	11	形声	舟(ふね)ふねへん
1449	1473	1485	又	2.5		また	常用	2	象形	又(また)
1450	1479	1485	握	8	アク	にぎ-る	常用	12	会意兼形声	手(才)て・てへん
1451	1479	1487	滑	9	カツ	すべ-る・なめ-らか	常用	13	会意兼形声	水(氵)みず・したみ・さんずいず
1452	1479	1487	慰	9	イ	なぐさ-める・なぐさ-む	常用	15	会意兼形声	心(忄)こころ・したごころ・りっしんべん
1453	1479	1489	寛	10	カン		常用	13	会意兼形声	宀(うかんむり)
1454	1479	1490	湿	10	シツ	しめ-る・しめ-す	常用	12	会意	水(氵)みず・したみ・さんずいず
1455	1479	1490	慘	6	サン・ザン	しみ-め	常用	11	形声	心(忄)こころ・したごころ・りっしんべん
1456	1479	1492	拝	6	ハイ	みが-む	6	8	会意	手(才)て・てへん
1457	1479	1494	召	8	シヨウ	おが-む	常用	5	会意兼形声	口(くち)くちへん
1458	1479	1496	欺	9	ギ	め-す	常用	12	会意兼形声	欠(あくひ)
1459	1491	1496	馱	7	ク	あざむ-く	常用	14	会意兼形声	馬(うま)うまへん
1460	1491	1498	淡	10	タン	か-ける・か-る	常用	11	形声	水(氵)みず・したみ・さんずいず
1461	1491	1499	嫁	5	カ	あわ-い	常用	13	会意兼形声	女(おんな)おんなへん
1462	1491	1500	泥	10	デイ	よめ・とつ-ぐ	常用	8	会意兼形声	水(氵)みず・したみ・さんずいず
1463	1496	1500	穂	9	スイ	どろ	常用	15	会意	禾(のぎ)へん
1464	1496	1502	陸	7	ヘイ	ほ	6	10	会意兼形声	阜(阝)ごどへん
1465	1499	1503	攀	10	キン	こと	常用	12	会意兼形声	玉(王)たま・たまへん・おうへん
1466	1499	1505	撲	10	ボク		常用	15	形声	手(才)て・てへん
1467	1499	1506	悟	7	ゴ	さと-る	常用	10	会意兼形声	心(忄)こころ・したごころ・りっしんべん
1468	1499	1507	涼	7	リョウ	すず-しい・すず-む	常用	11	会意	水(氵)みず・したみ・さんずいず
1469	1499	1509	盲	8	モウ		常用	8	会意兼形声	目(め)めへん
1470	1507	1510	賢	7	ケン	かしこ-い	常用	16	会意兼形声	貝(かい)かいへん
1471	1507	1510	冒	8	ボウ	おか-す	常用	9	会意兼形声	目(め)めへん
1472	1507	1512	紫	4	シ	むらさき	常用	11	会意兼形声	糸(いと)いとへん
1473	1507	1512	匠	6.7	シヨウ		常用	6	会意	匚(はこ)がまえ

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1474	1507	1514	硫	9	リュウ		常用	12	会意兼形声	石(いし)・いしへん
1475	1513	1514	征	8	セイ		常用	8	会意兼形声	彳(ぎ)・彳へん
1476	1513	1516	俗	7	ゾク		常用	9	会意兼形声	人(い)・(ひと)・にんべん
1477	1513	1517	亭	6	テイ		常用	9	会意兼形声	一(けい)・いさんかんむり・なべぶた
1478	1513	1518	漂	8	ヒョウ	ただよう	常用	14	会意兼形声	水(み)・(み)ず・したみ・さんずい
1479	1517	1518	購	9	コウ		常用	17	会意兼形声	貝(かい)・かいへん
1480	1517	1521	廷	9	テイ		常用	7	会意兼形声	廾(えん)・えんへん
1481	1517	1522	妨	7	ボウ	さまたげる	常用	7	会意兼形声	女(おんな)・おんなへん
1482	1517	1522	汁	10	ジュウ	しる	常用	5	形声	水(み)・(み)ず・したみ・さんずい
1483	1517	1526	膏	9	フン	ふるう	常用	6	会意	大(だい)
1484	1517	1529	脂	8	シ	あぶら	常用	10	会意兼形声	肉(にく)・にくへん
1485	1517	1530	刀	2.6	トウ	かたな	常用	2	象形	刀(かたな)
1486	1517	1532	凡	2.7	ボン・ハン		常用	3	象形	几(つくえ)・きへん
1487	1529	1533	僕	10	ボク		常用	14	会意兼形声	人(い)・(ひと)・にんべん
1488	1529	1534	熟	6	ジュク	うれる	常用	6	15 会意	火(ひ)・(ひ)へん・れんが
1489	1529	1537	玄	8	ゲン		常用	5	会意	玄(げん)
1490	1529	1540	雷	4.7	ライ	かみなり	常用	13	会意兼形声	雨(あめ)・あめかんむり
1491	1529	1541	穩	9	オン	おだやか	常用	16	会意兼形声	禾(のぎ)へん
1492	1529	1542	鎮	8	チン	しずめる・しずまる	常用	18	会意兼形声	金(かね)・かねへん
1493	1529	1543	塔	10	トウ		常用	12	形声	土(つち)・つちへん・どへん
1494	1529	1544	憩	7	ケイ	いこい	常用	16	会意兼形声	心(しん)・(こ)ろ・したごころ・りっしんべん
1495	1539	1545	齊	3.7	セイ		常用	8	象形	齊(さい)
1496	1539	1545	拍	10	ハク・ヒョウ		常用	8	形声	手(て)・てへん
1497	1539	1548	粒	5	リュウ	つぶ	常用	11	会意兼形声	米(こめ)・こめへん
1498	1539	1550	惜	8	セキ	おしい・おしむ	常用	11	会意兼形声	心(しん)・(こ)ろ・したごころ・りっしんべん
1499	1539	1551	諛	5	ヨウ	うたしい	常用	16	形声	言(げん)・ごんべん
1500	1539	1552	寸	6.8	スン		常用	6	3 会意	寸(すん)
1501	1539	1553	如	5	ジョ・ニョ		常用	6	会意兼形声	女(おんな)・おんなへん
1502	1539	1554	暮	9	ゴ		常用	13	会意兼形声	石(いし)・いしへん
1503	1547	1555	晝	5	ハイ		常用	15	会意兼形声	車(くるま)・くるまへん
1504	1547	1556	俵	7	ヒョウ	たわら	常用	5	10 会意兼形声	人(い)・(ひと)・にんべん
1505	1547	1557	諭	9	ユ	さとす	常用	16	会意兼形声	言(げん)・ごんべん
1506	1547	1558	涯	10	ガイ		常用	11	会意兼形声	水(み)・(み)ず・したみ・さんずい
1507	1547	1559	弓	2.7	キョウ	ゆみ	常用	2	3 象形	弓(ゆみ)・ゆみへん
1508	1547	1560	珠	7	シュ		常用	10	会意兼形声	玉(たま)・たまへん・おうへん
1509	1547	1561	尿	9	ニョウ		常用	7	会意	尸(しかばね)
1510	1547	1563	偉	9	イ	えらい	常用	12	会意兼形声	人(い)・(ひと)・にんべん
1511	1547	1563	粹	8	スイ		常用	10	会意兼形声	米(こめ)・こめへん
1512	1547	1565	刃	3.7	ジン	は	常用	3	指事	刀(かたな)
1513	1559	1566	淨	10	ジョウ		常用	9	形声	水(み)・(み)ず・したみ・さんずい
1514	1559	1567	峻	10	サン	そそのかす	常用	10	会意兼形声	口(くち)・くちへん
1515	1559	1568	暇	5	カ	ひま	常用	13	会意兼形声	日(ひ)・ひへん・いちへん
1516	1559	1569	冠	7	カン	かんむり	常用	9	形声	冫(わか)かんむり

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1517	1559	1570	幻	9	ゲン	まぼろし	常用	4	会意	幺(いとがしら)
1518	1559	1571	堤	8	テイ	つつみ	常用	12	会意兼形声	土(つち・つちへん・どへん)
1519	1559	1572	帽	8	ボウ		常用	12	会意兼形声	巾(はば・はばへん)
1520	1559	1574	豚	10	トン	ぶた	常用	11	会意	豕(ぶた・いのこへん)
1521	1559	1575	藩	10	ハン		常用	18	形声	艸(草)(さかんむり)
1522	1559	1576	禪	7	ゼン		常用	13	会意兼形声	示(ネ)(しめす・しめすへん)
1523	1572	1576	貢	7	コウ	みつぐ	常用	10	会意兼形声	貝(かい・かいへん)
1524	1572	1578	没	10	ボツ		常用	7	会意兼形声	水(ミ)(みず・したみ・さんずいず)
1525	1572	1579	衰	7	スイ	おとろ-える	常用	10	会意	衣(ネ)(ころも・ころもへん)
1526	1572	1580	劣	7	レツ	おと-る	常用	6	会意	力(ちから)
1527	1572	1581	叙	8	ジョ		常用	9	会意兼形声	又(また)
1528	1572	1581	升	8	シヨウ	ます	常用	4	会意	十(じゅう)
1529	1581	1583	怖	10	フ	こわ-い	常用	8	形声	心(忪)(ころ・したごころ・りっしんべん)
1530	1581	1584	屈	8	クツ		常用	8	会意	尸(しかばね)
1531	1581	1585	耕	6.7.9	コウ	たがや-す	5 常用	10	会意兼形声	耒(すきへん・らいすき)
1532	1581	1586	墾	9	シヨウ		常用	13	会意兼形声	大(だい)
1533	1581	1587	訂	7	テイ		常用	9	形声	言(げん・ごんべん)
1534	1581	1588	逸	10	イツ		常用	11	会意	辵(しん)によろ・しんにゅう)
1535	1581	1588	嘆	9	タン	なげ-く・なげ-かわしい	常用	13	会意	口(くちくちへん)
1536	1581	1590	乏	6	ボウ	とぼ-しい	常用	4	会意	丿(の)
1537	1581	1590	陶	10	トウ		常用	11	会意兼形声	阜(阜)(にぎとへん)
1538	1581	1593	貝	2.5		かい	1	7	象形	貝(かい・かいへん)
1539	1594	1594	透	8	トウ	す-く・す-かす・す-ける	常用	10	会意	辵(しん)によろ・しんにゅう)
1540	1594	1595	膨	6	ボウ	ふく-らむ・ふく-れる	常用	16	会意兼形声	肉(月)(にく・にくづき)
1541	1594	1596	拘	10	コウ		常用	8	会意兼形声	手(才)(て・てへん)
1542	1594	1596	垣	9		かき	常用	9	会意兼形声	土(つち・つちへん・どへん)
1543	1594	1598	刺	7	ジョウ		常用	11	会意兼形声	リ(りつとう)
1544	1594	1598	虚	6	キョウ		常用	11	形声	虎(とらかんむり・とらがしら)
1545	1594	1598	匹	66	ヒツ	ひき	常用	4	会意	亠(かくしがまえ)
1546	1594	1598	筒	8	トウ	つつ	常用	12	会意兼形声	竹(たけ・たげかんむり)
1547	1594	1601	拾	9	シユウ・ジュウ	ひろ-う	3 常用	9	会意	手(才)(て・てへん)
1548	1594	1602	麗	10	レイ	うるわ-しい	常用	19	象形	鹿(しか)
1549	1594	1603	弊	6.9	ヘイ		常用	15	会意兼形声	升(にじゅうあし)
1550	1594	1604	獸	6	ジュウ	けもの	常用	16	会意	犬(イ)(いぬ・けものへん)
1551	1594	1605	酵	7	コウ		常用	14	会意兼形声	酉(とり・とりへん・ひよみのとり)
1552	1594	1605	胴	6.8	ドウ		常用	10	会意兼形声	肉(月)(にく・にくづき)
1553	1610	1605	揺	10	ヨウ	ゆ-れる・ゆ-る・ゆ-らぐ・ゆ-るぐ・ゆ-す・ゆ-する・ゆ-さぶる	常用	12	形声	手(才)(て・てへん)
1554	1610	1608	鎖	10	サ	くさり	常用	18	会意兼形声	金(かね・かねへん)
1555	1610	1608	尽	10	ジン	つ-くす・つ-きる・つ-かす	常用	6	会意	尸(しかばね)
1556	1610	1613	佳	9	カ		常用	8	会意兼形声	人(イ)(ひと・にんべん)
1557	1610	1613	祈	6.7	キ	いの-る	常用	8	会意兼形声	示(ネ)(しめす・しめすへん)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1558	1610	1616	潤	10	ジュン	うるお-う-うるお-す-うる-む	常用	15	会意兼形声	水(シ)(みず)・したみ・さんずいず)
1559	1610	1617	駄	5	ダ		常用	14	会意兼形声	馬(うま)・うまへん)
1560	1610	1619	謙	5	ケン		常用	17	形声	言(げん)・ごんべん)
1561	1610	1619	燥	9	ソウ		常用	17	会意兼形声	火(ひ)(ひ)・ひへん・れつか・れんが)
1562	1620	1621	嬰	10	ソウ	も	常用	12	会意	口(くち)・くちへん)
1563	1620	1622	尙	8	ショウ		常用	8	会意	小(しょう)
1564	1620	1622	培	9	バイ	つちか-う	常用	11	形声	土(つち)・つちへん・どへん)
1565	1620	1625	隔	10	カク	へだ-てる-へだ-たる	常用	13	会意	阜(β)(ござとへん)
1566	1620	1626	怠	8	タイ	おこた-る-なま-ける	常用	9	会意兼形声	心(忄)(ごころ)・したごころ・りっしんべん)
1567	1620	1627	傑	10	ケツ		常用	13	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にんべん)
1568	1620	1627	嬢	9	ジョウ		常用	16	会意兼形声	女(おんな)・おんなへん)
1569	1628	1630	懲	10	チョウ	こ-りる-こ-らす-こ-らしめる	常用	18	会意兼形声	心(忄)(ごころ)・したごころ・りっしんべん)
1570	1628	1631	粗	7	ソ	あら-い	常用	11	形声	米(こめ)・こめへん)
1571	1628	1633	弦	8	ゲン	つる	常用	8	会意兼形声	弓(ゆみ)・ゆみへん)
1572	1628	1634	菓	7	カ		常用	11	会意兼形声	艸(+)(くさ)・かんむり)
1573	1628	1634	疊	10	ユウ	うれ-える-うれ-い-う-い	常用	15	会意	心(忄)(ごころ)・したごころ・りっしんべん)
1574	1628	1636	穀	6,9	コク		6	14	会意兼形声	禾(のぎ)へん)
1575	1628	1637	机	9	キ	つくえ	6	6	形声	木(き)・きへん)
1576	1628	1637	娯	8	ゴ		常用	10	会意兼形声	女(おんな)・おんなへん)
1577	1628	1640	掌	8	ショウ		常用	12	会意兼形声	手(才)(て)へん)
1578	1638	1641	臆	9	イン	かく-す-かく-れる	常用	14	会意兼形声	阜(β)(ござとへん)
1579	1638	1642	浸	9	シン	ひた-す-ひた-る	常用	10	会意兼形声	水(シ)(みず)・したみ・さんずいず)
1580	1638	1643	軌	7	キ		常用	9	会意兼形声	車(くるま)・くるまへん)
1581	1642	1644	擁	10	ヨウ		常用	16	会意兼形声	手(才)(て)へん)
1582	1642	1645	滋	9	ジ		常用	12	会意兼形声	水(シ)(みず)・したみ・さんずいず)
1583	1642	1647	噴	9	フン	ふ-く	常用	15	会意兼形声	口(くち)・くちへん)
1584	1642	1649	殖	8	ショク	ふ-える-ふ-やす	常用	12	会意兼形声	歹(が)へん)
1585	1642	1650	覆	9	フク	くつがえ-す-くつがえ-る-おお-う	常用	18	会意兼形声	西(西)(にし)
1586	1642	1651	詞	8	シ		6	12	形声	言(げん)(にし)
1587	1642	1653	霜	4,8	ソウ	しも	常用	17	会意兼形声	雨(あめ)・あめかんむり)
1588	1651	1653	霸	10	ハ		常用	19	会意	西(西)(にし)
1589	1651	1655	偏	9	ヘン	かたよ-る	常用	11	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にんべん)
1590	1651	1656	偏	8	ギ	いつわ-る-に-せ	常用	11	会意兼形声	人(イ)(ひと)・にんべん)
1591	1651	1658	辛	3,7	シン	から-い	常用	7	象形	辛(からい)
1592	1651	1659	朴	5	ボク		常用	6	形声	木(き)・きへん)
1593	1651	1660	澄	7,7	チョウ	す-む-す-ます	常用	15	会意兼形声	水(シ)(みず)・したみ・さんずいず)
1594	1651	1661	戲	10	ギ	たわむ-れる	常用	15	形声	戈(ほこ)・くり・ほこがまえ)
1595	1651	1662	桃	7	トウ	もも	常用	10	会意兼形声	木(き)・きへん)
1596	1651	1663	酢	6	サク	す	常用	12	形声	酉(とり)・とりへん・ひよみのとり)
1597	1651	1664	款	7	カン		常用	12	会意	欠(あく)び)
1598	1663	1665	盾	8	ジュン	たて	常用	9	会意	目(め)・めへん)
1599	1663	1665	邗	9	ジャ		常用	8	会意兼形声	邑(β)(おおざと)
1600	1663	1667	獄	6	ゴク		常用	14	会意	犬(イ)(いぬ)・けものへん)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1601	1663	1667	皿	2.5		さら	3	5	象形	皿(さら)
1602	1663	1669	符	8	フ		常用	11	会意兼形声	竹(たけ)・たけかんむり
1603	1663	1670	狩	8	シユ	か-る・か-り	常用	9	会意兼形声	犬(イヌ)・いぬ・けものへん
1604	1663	1672	魂	7	コン	たましい	常用	14	会意兼形声	鬼(おに)・きによう
1605	1663	1672	履	9	リ	は-く	常用	15	会意	尸(しかばね)
1606	1663	1674	旋	9	セン		常用	11	会意	方(ほう)・ほうへん・かたへん
1607	1663	1674	幾	9	キ	いく	常用	12	会意	幺(いと)がしら
1608	1663	1676	閑	10	カン		常用	12	会意	門(もん)・もんがまえ・かどがまえ
1609	1677	1676	溶	7	ヨウ	と-ける・と-かす・と-く	常用	13	会意兼形声	水(ミヅ)・みず・したみ・さんずいず
1610	1677	1676	缶	10	カン		常用	6	象形	缶(ほとぎ)・ほとぎへん
1611	1677	1679	胆	9	タン		常用	9	形声	肉(ニク)・にく・にくづき
1612	1677	1680	仰	9	ギョウ・コウ	あお-ぐ・おお-せ	常用	6	会意兼形声	人(イ)・ひと・にんべん
1613	1677	1680	伯	10	ハク		常用	7	形声	人(イ)・ひと・にんべん
1614	1677	1682	鷄	5	ケイ	にわとり	常用	19	会意兼形声	鳥(トリ)・とりへん
1615	1677	1683	瓶	10	ビン		常用	11	会意兼形声	瓦(かわら)
1616	1677	1684	尼	9	ニ	あま	常用	5	会意	尸(しかばね)
1617	1687	1685	訟	8	ショウ		常用	11	会意兼形声	言(ゲン)・ごんべん
1618	1687	1687	括	7	カツ		常用	9	会意兼形声	手(テ)・てへん
1619	1687	1688	憶	7	オク		常用	16	会意兼形声	心(シン)・ころ・したごころ・りっしんべん
1620	1687	1689	徐	8	ジョ		常用	10	会意兼形声	彳(ぎ)・ぎへん
1621	1687	1689	矛	10	ム	ほこ	常用	5	象形	矛(ほこ)・ほこへん
1622	1687	1689	莽	9	ガ	め	4	8	会意兼形声	艸(クサ)・くさかんむり
1623	1687	1693	架	8	カ	か-ける・か-かる	常用	9	会意兼形声	木(キ)・きへん
1624	1687	1694	虜	10	リョ		常用	13	形声	虍(とら)かんむり・とらがしら
1625	1687	1695	諾	7	ダク		常用	15	形声	言(ゲン)・ごんべん
1626	1687	1696	循	8	ジュン		常用	12	会意兼形声	彳(ぎ)・ぎへん
1627	1687	1696	衰	7	アイ	あわ-れ・あわ-れむ	常用	9	会意兼形声	口(クチ)・くちへん
1628	1702	1698	陷	10	カン	おちい-る・おとしい-れる	常用	10	会意兼形声	阜(クサ)・くさへん
1629	1702	1701	妊	9	ニン		常用	7	会意兼形声	女(オン)・おんなへん
1630	1702	1702	唐	9	トウ	から	常用	10	会意	口(クチ)・くちへん
1631	1711	1703	緯	9	イ		常用	16	会意兼形声	糸(イト)・いとへん
1632	1711	1703	隅	9	グウ	すみ	常用	12	会意兼形声	阜(クサ)・くさへん
1633	1711	1705	頤	10	ケン		常用	18	会意兼形声	頁(お)おがいがい・いちのかい
1634	1711	1705	穫	9	カク		常用	18	会意兼形声	禾(ノギ)・へん
1635	1711	1705	鉛	9	エン	なまり	常用	13	会意兼形声	金(カネ)・かねへん
1636	1711	1709	傍	10	ボウ	かたわ-ら	常用	12	会意兼形声	人(イ)・ひと・にんべん
1637	1722	1709	崩	5	ホウ	くず-れる・くず-す	常用	11	会意兼形声	山(ヤマ)・やまへん
1638	1722	1711	軸	7	ジク		常用	12	会意兼形声	車(クルマ)・くるまへん
1639	1722	1711	衡	7	コウ		常用	16	会意兼形声	行(ギョウ)がまえ・ゆきがまえ
1640	1722	1711	晶	5	ショウ		常用	12	象形	日(ヒ)・ひへん・いちへん
1641	1722	1714	悅	9	エツ		常用	10	会意兼形声	心(シン)・ころ・したごころ・りっしんべん
1642	1722	1715	碎	8	サイ	くだ-く・くだ-ける	常用	9	会意兼形声	石(イシ)・いしへん
1643	1722	1715	庶	6	ショ		常用	11	会意	广(まだれ)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1644	1722	1717	濯	10	タク		常用	17	会意兼形声	水(シ)(みず)・したみ・さんずいず)
1645	1722	1717	笛	7	テキ	ふえ	3	11	会意兼形声	竹(たけ)・たけかんむり)
1646	1722	1719	曹	10	ソウ		常用	11	会意	日(ひ)・ひへん・にちへん)
1647	1722	1720	医	10	トク		常用	10	会意	二(かく)しがまえ)
1648	1722	1720	羊	3.7	ヨウ	ひつじ	3	6	象形	羊(ひつじ)・ひつじへん)
1649	1739	1722	栽	7	サイ		常用	10	会意兼形声	木(き)・きへん)
1650	1739	1723	棚	5		たな	常用	12	会意兼形声	木(き)・きへん)
1651	1739	1724	恥	10	チ	は-じる・は-じ・は-じらう・は-ずかしい	常用	10	会意兼形声	心(しん)・ごころ・したごころ・りっしんべん)
1652	1739	1725	溝	9	コウ	みぞ	常用	13	会意兼形声	水(シ)(みず)・したみ・さんずいず)
1653	1739	1726	偶	9	グウ		常用	11	会意兼形声	人(い)(ひと)・にんべん)
1654	1739	1727	裸	6.7	ラ	はだか	常用	13	会意兼形声	衣(え)・ごころも・ごころもへん)
1655	1739	1728	沸	9	フツ	わ-く・わ-かす	常用	8	会意兼形声	水(シ)(みず)・したみ・さんずいず)
1656	1739	1728	舌	3.7.7	ゼツ	した	5	6	会意	舌(した)・したへん)
1657	1739	1731	肖	7	シヨウ		常用	7	会意兼形声	肉(じく)・にく・にくつき)
1658	1753	1734	暫	10	ザン		常用	15	会意兼形声	日(ひ)・ひへん・にちへん)
1659	1753	1734	碑	8	ヒ		常用	14	会意兼形声	石(いし)・いしへん)
1660	1753	1734	酷	8	コク		常用	14	会意兼形声	酉(と)・とりへん・ひよみのとり)
1661	1753	1734	垂	8	スイ	た-れる・た-らす	6	8	会意	土(つち)・つちへん・どへん)
1662	1753	1738	朱	2.7	シュ		常用	6	指事	木(き)・きへん)
1663	1761	1738	塾	10	ジュク		常用	14	会意兼形声	土(つち)・つちへん・どへん)
1664	1761	1740	刈	6		か-る	常用	4	会意兼形声	刀(り)・つとう)
1665	1761	1741	鈍	8	ドン	に-ぶ-い-に-ぶ-る	常用	12	会意兼形声	金(かね)・かねへん)
1666	1761	1742	凶	6	キョウ		常用	4	会意	凵(かん)・によう・うけぼこ)
1667	1761	1742	恭	8	キョウ	うやうや-しい	常用	10	会意兼形声	心(しん)・ごころ・したごころ・りっしんべん)
1668	1761	1742	搬	8	ハン		常用	13	会意兼形声	手(て)・てへん)
1669	1761	1745	畜	8	チク		常用	10	会意	田(た)・たへん)
1670	1761	1746	鍛	8	タン	きた-える	常用	17	会意兼形声	金(かね)・かねへん)
1671	1761	1747	疾	6	シツ		常用	10	会意	疒(やまいだれ)
1672	1761	1747	猿	6	エン	さる	常用	13	会意兼形声	犬(いぬ)・いぬ・けものへん)
1673	1761	1749	乙	3.5.7	オツ		常用	1	指事	乙(おつ)・おつによ)
1674	1761	1749	糾	9	キョウ		常用	9	会意兼形声	糸(いと)・いとへん)
1675	1778	1751	酬	7	シュウ		常用	13	会意兼形声	酉(と)・とりへん・ひよみのとり)
1676	1778	1752	后	5	コウ		常用	6	会意	口(くち)・くちへん)
1677	1778	1753	誓	7	セイ	ちか-う	常用	14	会意兼形声	言(げん)・ごんべん)
1678	1778	1755	騎	8	キ		常用	18	会意兼形声	馬(うま)・うまへん)
1679	1778	1755	羴	9	クン	かお-る	常用	16	会意兼形声	艸(くさ)・くさかんむり)
1680	1778	1757	槽	10	ソウ		常用	15	会意兼形声	木(き)・きへん)
1681	1778	1759	篤	7	トク		常用	16	会意兼形声	竹(たけ)・たけかんむり)
1682	1778	1760	廉	8	レン		常用	13	会意兼形声	广(まだれ)
1683	1778	1762	冗	6	ジョウ		常用	4	会意	冂(わかかんむり)
1684	1778	1763	扶	10	フ		常用	7	形声	手(て)・てへん)
1685	1778	1764	獺	6	リョウ		常用	11	会意兼形声	犬(いぬ)・いぬ・けものへん)
1686	1778	1764	紺	4	コン		常用	11	会意兼形声	糸(いと)・いとへん)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1687	1778	1767	睡	8	スイ		常用	13	会意兼形声	目(め)めへん
1688	1778	1770	汽	9	キ		2	7	会意兼形声	水(氵)みず・したみ・さんずいず
1689	1778	1771	愁	10	シュウ	うれ-える・うれ-い	常用	13	会意兼形声	心(忄)こころ・したごころ・りっしんべん
1690	1778	1771	峠	5		とうげ	常用	9	会意	山(やま)やまへん
1691	1798	1773	苗	8	ビョウ	なえ・なわ	常用	8	会意	艸(艹)くさかんむり
1692	1798	1773	妃	7	ヒ		常用	6	会意兼形声	女(おんな)おんなへん
1693	1798	1773	郭	6	カク		常用	11	会意	邑(阝)おおざと
1694	1798	1777	斜	4.8	シヤ	なな-め	常用	11	会意兼形声	斗(と)とます
1695	1798	1777	猫	8	ビョウ	ねこ	常用	11	会意兼形声	犬(イ)いぬ・けものへん
1696	1798	1777	洞	8	ドウ	ほら	常用	9	会意兼形声	水(氵)みず・したみ・さんずいず
1697	1798	1777	羅	10	ラ		常用	19	会意	网(罒)あみがしら・よこめ
1698	1798	1782	寶	5	ヒン		常用	15	会意兼形声	貝(貝)かい・かいへん
1699	1798	1782	暁	9	ギョウ	あかつき	常用	12	形声	日(ひ)ひへん・にちへん
1700	1798	1782	滴	9	テキ	しずく・した-る	常用	14	会意兼形声	水(氵)みず・したみ・さんずいず
1701	1798	1782	禍	9	カ		常用	13	会意兼形声	示(示)しめす・しめすへん
1702	1798	1786	孔	10	コウ		常用	4	会意	子(子)こへん
1703	1813	1787	胞	7	ホウ		常用	9	会意兼形声	肉(月)にく・にくづき
1704	1813	1789	肺	6	ハイ		6	9	会意兼形声	肉(月)にく・にくづき
1705	1813	1790	蒸	6	ジョウ	む-す・む-れる・む-らす	6	13	会意兼形声	艸(艹)くさかんむり
1706	1813	1793	炊	7	スイ	た-く	常用	8	会意	火(火)ひ・ひへん・れっか・れんが
1707	1813	1795	吐	7	ト	は-く	常用	6	会意兼形声	口(口)くちへん
1708	1813	1797	娠	9	シン		常用	10	会意兼形声	女(おんな)おんなへん
1709	1813	1798	憎	9	ゾウ	にく-む・にく-い・にく-らしい・にく-しみ	常用	14	会意兼形声	心(忄)こころ・したごころ・りっしんべん
1710	1813	1800	撰	10	ゼツ		常用	13	会意兼形声	手(才)てへん
1711	1813	1800	尉	9	イ		常用	11	会意	寸(寸)すん
1712	1813	1802	蚊	5		か	常用	10	会意兼形声	虫(虫)むし・むしへん
1713	1831	1803	賠	9	バイ		常用	15	形声	貝(貝)かい・かいへん
1714	1831	1804	炬	6	コ		常用	8	会意兼形声	火(火)ひ・ひへん・れっか・れんが
1715	1831	1804	倫	7	リン		常用	10	会意兼形声	人(亻)ひと・にんべん
1716	1831	1804	鯨	7	ゲイ	くじら	常用	19	会意兼形声	魚(魚)うおへん
1717	1831	1807	翻	8	ホン	ひるがえ-る・ひるがえ-す	常用	18	会意兼形声	羽(羽)はね
1718	1831	1808	准	9	ジュン		常用	10	会意兼形声	冫(冫)すい
1719	1831	1812	懷	9	カイ	ふところ・なつ-かしい・なつ-かしま-なつ-く・なつ-ける	常用	16	会意兼形声	心(忄)こころ・したごころ・りっしんべん
1720	1831	1815	姓	7	セイ・シヨウ		常用	8	会意兼形声	女(おんな)おんなへん
1721	1831	1817	疎	8	ソ	うと-い-うと-む	常用	12	会意兼形声	疋(疋)ひき・ひきへん
1722	1831	1817	踐	9	セン		常用	13	会意兼形声	足(足)あし・あしへん
1723	1831	1819	憾	9	カン		常用	16	会意兼形声	心(忄)こころ・したごころ・りっしんべん
1724	1831	1821	漠	9	バク		常用	13	会意兼形声	水(氵)みず・したみ・さんずいず
1725	1831	1821	曆	9	レキ	こよみ	常用	14	会意兼形声	日(日)ひへん・にちへん
1726	1831	1823	枯	7	コ	か-れる・か-らす	常用	9	会意兼形声	木(木)きへん
1727	1831	1823	轄	9	カツ		常用	17	会意兼形声	車(車)くるまへん

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1728	1831	1825	泡	7	ホウ	あわ	常用	8	会意兼形声	水(シ)(み)みず・したみ・さんずいず
1729	1831	1825	濁	9	ダク	にご-る・にご-す	常用	16	会意兼形声	水(シ)(み)みず・したみ・さんずいず
1730	1831	1827	醜	9	ジョウ	かも-す	常用	20	会意兼形声	酉(トリ)とりへん・ひよみの(トリ)
1731	1831	1828	斗	2.7	ト		常用	4	象形	斗(とます)
1732	1831	1829	吟	9.9	ギン		常用	7	会意兼形声	口(ク)くちへん
1733	1831	1830	拙	8	セツ		常用	8	会意兼形声	手(テ)てへん
1734	1831	1832	某	8	ボウ		常用	9	会意	木(キ)きへん
1735	1857	1832	賄	5	ワイ	まかな-う	常用	13	会意兼形声	貝(ガイ)かいへん
1736	1857	1832	猶	10	ユウ		常用	12	会意	犬(イヌ)いぬ・けものへん
1737	1857	1835	累	7	レイ		常用	11	会意兼形声	糸(イト)いとへん
1738	1857	1835	灰	6	カイ	はい	6	6	会意	火(カ)かへん・れつか・れんが
1739	1857	1837	閑	9	エツ		常用	15	会意兼形声	門(モン)もんがまえ・かどがまえ
1740	1857	1838	該	9	ガイ		常用	13	会意兼形声	言(ゲン)ごんべん
1741	1857	1841	窮	10	キョウ	きわ-める	常用	15	会意兼形声	穴(アナ)あなかんむり
1742	1857	1843	憤	9	フン	いきどお-る	常用	15	会意兼形声	心(シン)ごころ・したごころ・りっしんべん
1743	1857	1843	慨	9	ガイ		常用	13	会意兼形声	心(シン)ごころ・したごころ・りっしんべん
1744	1857	1845	礎	9	シヨウ		常用	17	会意兼形声	石(イシ)いしへん
1745	1857	1846	敢	10	カン		常用	12	会意兼形声	支(シ)ほくじょう・ぼくじょう・りつしんべん
1746	1857	1849	愉	9	ユ		常用	12	会意兼形声	心(シン)ごころ・したごころ・りつしんべん
1747	1857	1850	畔	7	ハン		常用	10	会意兼形声	田(タ)たへん
1748	1857	1852	租	7	ソ		常用	10	会意兼形声	禾(コ)こへん
1749	1878	1854	滬	10	ロウ	も-る・も-れる・も-らす	常用	14	会意兼形声	水(シ)(み)みず・したみ・さんずいず
1750	1878	1857	虐	6	ギャク	しいた-げる	常用	9	会意	虎(コ)からかんむり・とらがしら
1751	1878	1859	錯	8	サク		常用	16	会意兼形声	金(カネ)かねへん
1752	1878	1861	膚	6	フ		常用	15	会意	肉(ニク)にく・くづき
1753	1878	1865	胎	8	タイ		常用	9	会意兼形声	肉(ニク)にく・くづき
1754	1888	1866	絞	7	コウ	しぼ-る・し-める・し-まる	常用	12	会意兼形声	糸(イト)いとへん
1755	1888	1867	尋	8	ジン	たず-ねる	常用	12	会意	寸(スン)すん
1756	1888	1867	髓	9	ズイ		常用	19	会意兼形声	骨(ホネ)ほねへん
1757	1888	1869	宰	10	サイ		常用	10	会意	宀(ウ)かんむり
1758	1888	1870	慈	9	ジ	いつく-しむ	常用	13	会意兼形声	心(シン)ごころ・したごころ・りつしんべん
1759	1888	1870	囚	10	シユウ		常用	5	会意	口(ク)くがまえ
1760	1888	1872	侍	8	ジ	さむらい	常用	8	会意兼形声	人(イ)ひと・にんべん
1761	1888	1874	岬	5	ミサキ	みさき	常用	8	形声	山(ヤマ)やまへん
1762	1888	1874	忌	7	キ	い-む・い-まわしい	常用	7	会意兼形声	心(シン)ごころ・したごころ・りつしんべん
1763	1888	1877	湊	10	ケイ		常用	11	会意兼形声	水(シ)(み)みず・したみ・さんずいず
1764	1905	1879	疫	6	エキ・ヤク		常用	9	会意兼形声	疒(ヤ)やいだれ
1765	1905	1879	漬	8		つ-ける・つ-かる	常用	14	会意兼形声	水(シ)(み)みず・したみ・さんずいず
1766	1905	1879	枢	7	スウ		常用	8	会意兼形声	木(キ)きへん
1767	1905	1882	鼓	10	コ	つづみ	常用	13	会意	鼓(ツ)つみ
1768	1905	1882	昆	7	コン		常用	8	会意	日(ヒ)ひへん・にちへん
1769	1905	1882	癡	9	ギョウ	こ-る・こ-らす	常用	16	会意兼形声	疒(ヒ)ひへん・にちへん
1770	1905	1888	尺	2.7	シヤク		6	4	象形	尸(シ)しばね

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1771	1905	1889	扉	7	ヒ	とびら	常用	12	会意兼形声	戸(と)・とだれ・とかんむり)
1772	1905	1889	朽	9	キユウ	く-ちる	常用	6	会意兼形声	木(き)・きへん)
1773	1905	1892	鎮	7	レン		常用	16	会意兼形声	金(かね)・かねへん)
1774	1905	1893	泌	7	ヒツ・ヒ		常用	8	会意兼形声	水(み)・(み)ず・したみ・さんずいず)
1775	1905	1894	謹	9	キン	つつし-む	常用	17	会意兼形声	言(げん)・ごんべん)
1776	1905	1895	帥	10	スイ		常用	9	会意	巾(は)・ばへん)
1777	1928	1895	剛	8	ゴウ		常用	10	会意兼形声	冫(り)・つとう)
1778	1928	1895	粘	8	ネン	ねば-る	常用	11	会意兼形声	米(こめ)・こめへん)
1779	1928	1899	赴	10	フ	おもむ-く	常用	9	会意兼形声	走(は)・しる・そうによう)
1780	1928	1900	傘	10	サン	かさ	常用	12	象形	人(イ)・ひと・にんべん)
1781	1928	1901	媒	8	バイ		常用	12	会意兼形声	女(おんな)・おんなへん)
1782	1928	1902	眺	7	チヨウ	なが-める	常用	11	会意兼形声	目(め)・めへん)
1783	1928	1902	淑	8	シュク		常用	11	会意兼形声	水(み)・(み)ず・したみ・さんずいず)
1784	1928	1905	渦	10	カ	うず	常用	12	会意兼形声	水(み)・(み)ず・したみ・さんずいず)
1785	1928	1906	遍	9	ヘン		常用	12	会意兼形声	辶(しん)・しんによう・しんにゆう)
1786	1928	1906	嗣	8	シ		常用	13	形声	口(くち)・くちへん)
1787	1928	1908	酪	10	ラク		常用	13	会意兼形声	酉(とり)・とりへん・ひよみのとり)
1788	1928	1908	奔	9	ホン		常用	8	会意	大(だい)
1789	1928	1910	帆	7	ハン	ほ	常用	6	会意兼形声	巾(は)・ばへん)
1790	1928	1910	坑	9	コウ		常用	7	会意兼形声	土(つち)・つちへん・どへん)
1791	1928	1914	擬	9	ギ		常用	17	会意兼形声	手(て)・てへん)
1792	1928	1915	幽	10	ユウ		常用	9	会意兼形声	幺(いと)・がしら)
1793	1958	1915	宜	7	ギ		常用	8	会意	宀(うかんむり)
1794	1958	1917	盆	8	ボン		常用	9	会意兼形声	皿(さら)
1795	1958	1917	寂	8	セキ・ジャク	さび・さび-しい・さび-れる	常用	11	会意兼形声	宀(うかんむり)
1796	1958	1920	殼	6	カク	から	常用	11	会意兼形声	宀(ほ)・つくり・るまた)
1797	1958	1921	偵	10	テイ		常用	11	会意兼形声	人(イ)・ひと・にんべん)
1798	1958	1921	悠	10	ユウ		常用	11	会意兼形声	心(しん)・(しん)ごころ・したごころ・りっしんべん)
1799	1958	1924	遞	10	テイ		常用	10	会意兼形声	辶(しん)・しんによう・しんにゆう)
1800	1958	1926	送	8	テツ		常用	8	会意兼形声	辶(しん)・しんによう・しんにゆう)
1801	1958	1926	褒	10	ホウ	ほ-める	常用	15	会意兼形声	衣(ネ)・(ころも)・ころもへん)
1802	1958	1936	耗	6	モウ・コウ		常用	10	会意兼形声	束(す)・きへん・らいすぎ)
1803	1958	1937	棧	9	サン		常用	10	会意兼形声	木(き)・きへん)
1804	1958	1937	漸	7	ゼン		常用	14	会意兼形声	水(み)・(み)ず・したみ・さんずいず)
1805	1958	1939	但	10		ただ-し	常用	7	形声	人(イ)・ひと・にんべん)
1806	1983	1941	椽	10	カ	かせ-ぐ	常用	15	会意兼形声	禾(の)・ぎへん)
1807	1983	1942	棟	5	トウ	むね・むな	常用	12	会意兼形声	木(き)・きへん)
1808	1983	1944	膜	9	マク		常用	14	会意兼形声	肉(月)・(にく)・にくぎ)
1809	1983	1948	壤	9	ジョウ		常用	16	会意兼形声	土(つち)・つちへん・どへん)
1810	1983	1956	愚	9	グ	おろ-か	常用	13	会意兼形声	心(しん)・(しん)ごころ・したごころ・りっしんべん)
1811	1983	1956	囑	9	シュク		常用	15	会意兼形声	口(くち)・くちへん)
1812	1983	1956	奴	8	ド		常用	5	会意兼形声	女(おんな)・おんなへん)
1813	1983	1968	鑄	10	チュウ	い-る	常用	15	形声	金(かね)・かねへん)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1814	1983	1969	慕	9	ボ	した-う	常用	14	会意兼形声	心(忄)(こころ)した-こころ・りっしんべん
1815	1983	1971	殉	9	ジュン		常用	10	会意兼形声	歹(冫)がっへん
1816	1983	1971	蚕	9	バン		常用	12	会意兼形声	虫(虫)むし・むしへん
1817		1975	甚	8	ジン	はなは-だ・はなは-だしい	常用	9	会意	甘(甘)あまい
1818		1975	酌	7	シヤク	く-む	常用	10	会意兼形声	酉(酉)とりへん・ひよみのとり
1819		1981	胥	7	シヨウ	よい	常用	10	会意兼形声	冫(冫)かんむり
1820		1985	粹	5		わく	常用	8	会意	木(木)きへん
1821		1985	喚	10	カン		常用	12	形声	口(口)くちへん
1822		1985	嫌	5	ケン・ゲン	きら-う・いや	常用	13	会意兼形声	女(女)おんな・おんなへん
1823		1988	頑	6	ガン		常用	13	会意兼形声	頁(頁)おがいがい・いちのかい
1824		1993	跳	7	チヨウ	は-ねる・と-ぶ	常用	13	会意兼形声	足(足)あしへん
1825		1996	霽	8	フン		常用	12	会意兼形声	雨(雨)あめ・あめかんむり
1826		1998	悔	7	カイ	く-いる・く-やむ・く-や-しい	常用	9	形声	心(忄)(こころ)した-こころ・りっしんべん
1827		2004	癒	6	ユ		常用	18	会意兼形声	疒(疒)やまいだれ
1828		2005	磁	9	ジ		6	14	会意兼形声	石(石)しいしへん
1829		2006	擦	10	サツ	す-る・す-れる	常用	17	会意兼形声	手(扌)(て)へん
1830		2006	陵	10	リョウ	みささぎ	常用	11	会意兼形声	阜(阡)(こざと)へん
1831		2010	姪	5		ひめ	常用	10	形声	女(女)おんな・おんなへん
1832		2016	婣	7	トウ	いた-む	常用	11	形声	心(忄)(こころ)した-こころ・りっしんべん
1833		2019	把	10	ハ		常用	7	会意兼形声	手(扌)(て)へん
1834		2022	箇	7	カ		常用	14	会意兼形声	竹(竹)たけ・たけかんむり
1835		2024	扨	10	カイ		常用	8	会意	手(扌)(て)へん
1836		2026	股	6	シ		常用	8	会意兼形声	肉(月)(にく)にくづき
1837		2031	頻	10	ピン		常用	17	会意	頁(頁)おがいがい・いちのかい
1838		2031	棒	10	ホウ		常用	10	会意兼形声	人(亻)(ひと)にんべん
1839		2031	飢	5	キ	う-える	常用	10	形声	食(食)しょく・しょくへん
1840		2035	寧	10	ネイ		常用	14	会意兼形声	宀(宀)かんむり
1841		2037	赦	10	シヤ		常用	11	形声	赤(赤)あか
1842		2040	陞	7	オウ	なぐ-る	常用	8	会意兼形声	宀(宀)こづくり・るまた
1843		2041	鉢	10	ハチ・ハツ		常用	13	形声	金(金)かね・かねへん
1844		2042	峽	9	キョウ		常用	9	会意兼形声	山(山)やま・やまへん
1845		2043	墳	9	フン		常用	15	会意兼形声	土(土)つち・つちへん・どへん
1846		2043	壑	8	チツ		常用	11	会意兼形声	穴(穴)あな・あなかんむり
1847		2043	幣	9	ヘイ		常用	15	会意兼形声	巾(巾)はば・はばへん
1848		2047	縛	9	バク	しば-る	常用	16	会意兼形声	糸(糸)いと・いとへん
1849		2051	搭	10	トウ		常用	12	形声	手(扌)(て)へん
1850		2054	辱	9	ジョク	はずかし-める	常用	10	会意	辰(辰)つ・しんのたつ
1851		2057	蛇	5	ダ・ジャ	へび	常用	11	会意兼形声	虫(虫)むし・むしへん
1852		2059	餓	7	ガ		常用	15	会意兼形声	食(食)しょく・しょくへん
1853		2060	飽	7	ホウ	あ-きる・あ-かす	常用	13	会意兼形声	食(食)しょく・しょくへん
1854		2064	洪	8	コウ		常用	9	会意兼形声	水(氵)(みず)したみ・さんずいず
1855		2064	崇	5	スウ		常用	11	形声	山(山)やま・やまへん
1856		2067	悵	9	コン	うら-む・うら-めしい	常用	9	会意兼形声	心(忄)(こころ)した-こころ・りっしんべん

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1857		2067	痴	8	チ		常用	13	会意	疒(やまいだれ)
1858		2067	遷	10	セン		常用	15	会意兼形声	辶(しん)によろ・しん(にゆう)
1859		2070	伐	10	バツ		常用	6	会意	人(イ)(ひと)にんべん
1860		2072	享	6	キョウ		常用	8	象形	一(けい)さんかんむり・なべぶた)
1861		2072	弔	10	チョウ	とむらう	常用	4	象形	弓(ゆみ)ゆみへん
1862		2075	陪	9	バイ		常用	11	形声	阜(β)(こざとへん)
1863		2080	挟	9	キョウ	はさむ・はさまる	常用	9	会意兼形声	手(才)(てへん)
1864		2080	肯	10	コウ		常用	8	会意	肉(月)(にく)にくづき
1865		2082	塊	7	カイ	かたまり	常用	13	会意兼形声	土(つち)つちへん・どへん
1866		2082	挿	10	ソウ	さす	常用	10	会意兼形声	手(才)(てへん)
1867		2089	屯	8	トン		常用	4	会意	艹(くさのめ)
1868		2089	剖	9	ボウ		常用	10	会意兼形声	刀(りつとう)
1869		2092	詠	7	エイ	よむ	常用	12	会意兼形声	言(げん)ごんべん
1870		2092	莖	9	ケイ	くき	常用	8	会意兼形声	艹(++)くさかんむり)
1871		2098	喝	9	カツ		常用	11	会意兼形声	口(くち)くちへん
1872		2098	逝	10	セイ	ゆーく	常用	10	会意兼形声	辶(しん)によろ・しん(にゆう)
1873		2098	迅	10	ジン		常用	6	会意兼形声	辶(しん)によろ・しん(にゆう)
1874		2101	癡	9	ヘキ	くせ	常用	18	会意兼形声	疒(やまいだれ)
1875		2101	慌	8	コウ	あわてる・あわただしい	常用	12	会意兼形声	心(忄)(こころ)したごころ・りっしんべん)
1876		2101	抹	10	マツ		常用	8	会意兼形声	手(才)(てへん)
1877		2101	遮	10	ジャ	さえぎる	常用	14	会意兼形声	辶(しん)によろ・しん(にゆう)
1878		2101	硝	7	ショウ		常用	12	会意兼形声	石(いし)いしへん
1879		2108	勅	8	チョク		常用	9	会意	力(ちから)
1880		2114	隸	10	レイ		常用	16	会意	隶(たい)れいづくり)
1881		2117	翁	10	オウ		常用	10	形声	羽(はね)
1882		2121	防	7	ボウ	あぶら	常用	8	会意兼形声	肉(月)(にく)にくづき)
1883		2121	蚕	5	サン	かいこ	6	10	形声	虫(むし)むしへん)
1884		2121	卑	8	ヒ	いやしい・いやしむ・いやしめる	常用	9	会意	土(じゆう)
1885		2127	堙	10	ヘイ		常用	12	会意兼形声	土(つち)つちへん・どへん)
1886		2127	庸	9	ヨウ		常用	11	会意兼形声	广(まだれ)
1887		2135	凜	9	ソウ	も	常用	19	会意兼形声	艹(++)くさかんむり)
1888		2135	霰	10	ソウ	かま	常用	15	形声	穴(あな)あなかんむり)
1889		2140	襟	6	キン	えり	常用	18	会意兼形声	衣(ネ)(ころも)ころもへん)
1890		2140	漆	10	シツ	うるし	常用	14	会意兼形声	水(シ)(みず)したみ・さんずいず)
1891		2140	繕	7	ゼン	つくろう	常用	18	会意兼形声	糸(いと)いとへん)
1892		2149	楼	10	ロウ		常用	13	会意兼形声	木(き)きへん)
1893		2149	斥	7	セキ		常用	5	会意	斤(おの)おのづくり)
1894		2152	嫡	9	チャク		常用	14	会意兼形声	女(おんな)おんなへん)
1895		2152	侮	7	ブ	あなどる	常用	8	形声	人(イ)(ひと)にんべん)
1896		2152	蚕	5	ケイ	ほたる	常用	11	会意兼形声	虫(むし)むしへん)
1897		2162	棺	8	カン		常用	12	会意兼形声	木(き)きへん)
1898		2162	婿	5	セイ	むこ	常用	12	会意	女(おんな)おんなへん)
1899		2162	醜	7	シュウ	みにくい	常用	17	会意兼形声	酉(とり)とりへん・ひよみのとり)

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1900		2162	凸	4	トツ		常用	5	象形	凵(かん)によつてうげぼこ
1901		2169	賊	5	ゾク		常用	13	会意	貝(かい)・かいへん
1902		2169	姻	8	イン		常用	9	会意兼形声	女(おんな)・おんなへん
1903		2180	堪	8	カン	た-える	常用	12	会意兼形声	土(つち)・つちへん・どへん
1904		2180	叔	8	シユク		常用	8	会意	又(また)
1905		2180	寡	10	カ		常用	14	会意	宀(うかんむり)
1906		2180	寡	10	カク	た-める	常用	17	会意兼形声	口(くち)・くちへん
1907		2190	嬌	9	キョウ		常用	17	会意兼形声	矢(や)・やへん
1908		2190	姪	5	セン	たまわ-る	常用	10	会意兼形声	木(き)・きへん
1909		2199	賜	8	シ		常用	15	会意兼形声	貝(かい)・かいへん
1910		2199	窃	9	セツ		常用	9	会意兼形声	穴(あな)・あなかんむり
1911		2205	搾	9	サク	しば-る	常用	13	会意兼形声	手(才)・てへん
1912		2209	渴	9	カツ	かわ-く	常用	11	会意兼形声	水(シ)・みず・したみ・さんずいず
1913		2212	罷	10	ヒ		常用	15	会意	网(四)・あみがしら・よこめ
1914		2212	唇	9	シン	くちびる	常用	10	会意兼形声	口(くち)・くちへん
1915		2216	拷	9	ゴウ		常用	9	会意兼形声	手(才)・てへん
1916		2216	墮	9	ダ		常用	12	会意兼形声	土(つち)・つちへん・どへん
1917		2221	逐	9	チク		常用	10	会意	辶(しん)によつてしんにゆう
1918		2232	凹	4	オウ		常用	5	象形	凵(かん)によつてうげぼこ
1919		2264	附	8	フ		常用	8	会意兼形声	阜(阝)・にぎとへん
1920		2268	厄	10	ヤク		常用	4	会意	厂(がんだれ)
1921		2284	侯	8	コウ		常用	9	会意兼形声	人(イ)・ひと・にんべん
1922		2290	爵	10	シヤク		常用	17	象形	爪(つめ)・つめ・そうによつてつめかんむり
1923		2292	雌	10	シ	め・めす	常用	13	会意兼形声	隹(ふるとり)
1924		2299	衷	7	チュウ		常用	9	会意兼形声	衣(ネ)・ころも・ころもへん
1925		2299	倣	10	ホウ	なら-う	常用	10	会意兼形声	人(イ)・ひと・にんべん
1926		2310	煩	6	ハン・ボン	わすら-う・わすら-わす	常用	13	会意	火(火)・ひ・ひへん・れつか・れんが
1927		2317	妄	8	モウ・ボウ		常用	6	会意兼形声	女(おんな)・おんなへん
1928		2317	抄	7	シヨウ		常用	7	会意兼形声	手(才)・てへん
1929		2324	婆	7	バ		常用	11	形声	女(おんな)・おんなへん
1930		2339	韻	8	イン		常用	19	形声	音(おと)・おとへん
1931		2359	儒	9	ジュ		常用	16	会意兼形声	人(イ)・ひと・にんべん
1932		2359	芋	9	ジュ	いも	常用	6	会意兼形声	艸(艹)・くさかんむり
1933		2390	惰	9	ダ		常用	12	会意兼形声	心(忄)・こころ・したごころ・りっしんべん
1934		2390	伺	8	シ	うかが-う	常用	7	会意兼形声	人(イ)・ひと・にんべん
1935		2415	莒	10	イチ		常用	7	会意兼形声	士(さむらい)
1936		2428	痘	7	トウ		常用	12	会意兼形声	疒(やまいだれ)
1937		2428	褐	6	カツ		常用	13	会意兼形声	衣(ネ)・ころも・ころもへん
1938		2428	儉	9	ケン		常用	10	会意兼形声	人(イ)・ひと・にんべん
1939		2437	藪	10	ケン	まゆ	常用	18	会意	糸(いと)・いとへん
1940		2437	薪	7	シン	たきぎ	常用	16	会意兼形声	艸(艹)・くさかんむり
1941		2467	詔	8	シヨウ	みことのり	常用	12	会意兼形声	言(げん)・ごんべん
1942		2481	吏	8	リ		常用	6	会意	口(くち)・くちへん

No.	順位1966	順位1993	漢字	段階	音	訓	学年等	画数	六書	部首
1943		2501	弧	9	コ		常用	9	会意兼形声	弓(ゆみ・ゆみへん)
1944		2537	敵	10		せ・うね	常用	10	会意	田(た・たへん)
1945		2570	丙	3.7	ヘイ		常用	5	象形	一(いち)
1946		2570	銃	8	セン		常用	14	会意兼形声	金(かね・かねへん)
1947		2576	塑	10.ソ			常用	13	会意兼形声	土(つち・つちへん・どへん)
1948		2586	勺	3.7	シャク		常用	3	象形	勺(つづみがまえ)
1949		2660	劾	9	ガイ		常用	8	会意兼形声	力(ちから)
1950		2660	蓋	10	ラン		常用	18	会意兼形声	水(みづ)(みず・したみ・さんずいず)
1951		2680	襲	9	コン		常用	16	会意兼形声	士(つち・つちへん・どへん)
1952		2680	騰	8	トウ		常用	17	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
1953		2751	巾	2.5	キン		第1	3	象形	巾(はば・はばへん)
1954		2779	謁	9	エツ		常用	15	会意兼形声	言(げん・ごんべん)
1955		2879	頒	8	ハン		常用	13	会意兼形声	頁(おのがい・いちのかい)
1956		2984	錘	8	スイ	つむ	常用	16	会意兼形声	金(かね・かねへん)
1957		3161	璽	10	ジ		常用	19	会意兼形声	玉(王)(たま・たまへん・おうへん)
1958		3161	虜	10		おそれ	常用	13	形声	虎(とらかんむり・とらがしら)
1959		3233	遵	8	ジュン		常用	15	会意兼形声	辵(しん)によろ・しんにゆう)
1960		3233	式	7	ニ		常用	6	会意兼形声	弋(しががまえ)
1961		3576	且	3.7		か-つ	常用	5	象形	一(いち)
1962		3756	斤	2.7	キン		常用	4	象形	斤(おの・おのづくり)
1963		3756	脹	7	チヨウ		常用	12	会意兼形声	肉(月)(にく・にくつき)
1964		3756	夂	6		もんめ	常用	4	「文メ」から	勺(つづみがまえ)
1965			朕	8	チン		常用	10	会意	月(つき・つきへん)

特研支第 3-28 号
平成 18 年 2 月 27 日

各盲学校長 殿

独立行政法人
国立特殊教育総合研究所理事長
小 田 豊
(公印省略)

平成 17 年度科学研究費補助金 (基盤研究(C))
「点字使用者のための漢字学習プログラム及び教材の開発」にかかる
調査について (依頼)

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、平成 17 年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)) 「点字使用者のための漢字学習プログラム及び教材の開発」(研究代表者：澤田真弓) にかかる調査を下記の通り実施したく存じます。年度末のお忙しい時期ではございますが、なにとぞご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

記

1. 目的

盲学校小学部の点字使用児童に対する国語教科書中の漢字を扱った単元の指導状況を明らかにし、点字使用者のための漢字学習プログラム及び教材の開発に役立てます。

2. 方法

小学部各学年用の調査用紙にお答えください。対象児童のいない場合においても、その旨を記載してください。

3. 締め切り

お忙しいところ申し訳ありませんが、平成 18 年 3 月 20 日までに同封致しました返信用封筒にてご提出下さいますようお願い致します。対象児童のいない場合もご返送下さい。

<本件問い合わせ先>

平成 17 年度科学研究費補助金 (基盤研究(C))

「点字使用者のための漢字学習プログラム及び教材の開発」

研究代表者 澤 田 真 弓 (教育支援研究部)

電話：046-839-6854

FAX：046-839-6908

E-mail：sawada@nise.go.jp

点字使用児童への漢字指導に関する調査

校名： 盲学校

対象児童の有無： 有・無

★点字を使用して学習をしている児童の状況を右の口に数字で記入して下さい。

・点字使用児童と墨字使用児童の混合クラス→0

・点字使用児童のみのクラス 1名→1 2名→2 3名→3 4名以上→4

I. 国語教科書中の漢字を扱った単元についてその指導状況についてお尋ねします。

下記の表は、国語教科書(光村出版)の各該当学年で漢字に関する事項を扱った単元です。今年度の授業でその単元を指導したかどうか、

また、その指導の状況や内容、教材について、該当する数字をお書き下さい。その他の項目等()付き項目を選ばれた方は、具体的に書き下さい。

点字教科書巻末追加事項についても、その指導の有無と指導状況、内容、教材について記載ください。

有無

この単元を指導しなかった→0 指導した→1

指導状況

漢字には特に触れず、本文の内容にそって指導→1 点字教科書に点図として記載されている漢字を中心に指導→2 新出漢字を中心に指導→3

新出漢字以外の漢字についても指導→4 その他→5(具体的に記載してください)

漢字についての指導内容(複数選択可)

漢字の読み、意味の指導→1 漢字の字形→2 漢字の画数→3 漢字の筆順→4 漢字の構成と読みや意味の関係→5

漢字の字源→6 パソコンで漢字を交換しながら読みと意味の指導→7 その他→8(具体的な指導内容を記載してください)

補助教材の使用状況(複数選択可)

特に使用していない→0

使用している→自作の場合 立体コピー→1 レーズライター→2 点図→3 その他→4(具体的に記載してください)

既製教材→5(具体名を入れて下さい)

この一年 上(ページ)	領域	単元名	有無	指導状況	指導内容	補助教材
88～91	かんじでかこう ことば	かずとかんじ				
下(ページ)						
16～19	たのしくつかおう ことば	かんじのはなし				
38～39	日づけとよう日 ことば					
54～55	ことば	かたかなのかたち				
66～67	ことば	にているかん字				
点字教科書 巻末追加事項	おぼえておきたいかん字	点線文字				

Ⅱ. 点字使用児童に漢字を指導する際、配慮している点をお書き下さい。

--

Ⅲ. 国語の授業以外で漢字の指導を行っていますか。行っている場合はどの時間で、どのくらいの回数で行っているのか、またその内容についてお書き下さい。

--

Ⅳ. その他、漢字指導に関して日頃課題に思っていることをお書き下さい。

--

点字使用児童への漢字指導に関する調査

校名： 盲学校

対象児童の有無： 有・無

★点字を使用して学習をしている児童の状況を右の口に数字で記入して下さい。

・点字使用児童と墨字使用児童の混合クラス→0

・点字使用児童のみのクラス 1名→1 2名→2 3名→3 4名以上→4

I. 国語教科書中の漢字を扱った単元についてその指導状況についてお尋ねします。

下記の表は、国語教科書(光村出版)の各該当学年で漢字に関する事項を扱った単元です。今年度の授業でその単元を指導したかどうか、

また、その指導の状況や内容、教材について、該当する数字をお書き下さい。その他の項目等()付き項目を選ばれた方は、具体的に書き下さい。

点字教科書巻末追加事項についても、その指導の有無と指導状況、内容、教材について記載ください。

有無

この単元を指導しなかった→0 指導した→1

指導状況

漢字には特に触れず、本文の内容にそって指導→1 点字教科書に点図として記載されている漢字を中心に指導→2 新出漢字を中心に指導→3

新出漢字以外の漢字についても指導→4 その他→5(具体的に記載してください)

漢字についての指導内容(複数選択可)

漢字の読み、意味の指導→1 漢字の字形→2 漢字の画数→3 漢字の筆順→4 漢字の構成と読みや意味の関係→5

漢字の字源→6 パソコンで漢字を交換しながら読みと意味の指導→7 その他→8(具体的な指導内容を記載してください)

補助教材の使用状況(複数選択可)

特に使用していない→0

使用している→自作の場合 立体コピー→1 レーズライター→2 点図→3 その他→4(具体的に記載してください)

既製教材→5(具体名を入れて下さい)

くご二年 上(ページ)	領域	単元名	有無	指導状況	指導内容	補助教材
27	一年生でならったかん字①	かん字のひろば				
37～38	ことば	同じぶぶんをもつかん字				
39	ことば	かん字の書きじゆん				
54	一年生でならったかん字②	かん字のひろば				
68～69	ことば	カンジーはかせの犬はつめい				
78	一年生でならったかん字③	かん字のひろば				
点字教科書 巻末追加事項	おぼえておきたいかん字	点線文字				
下(ページ)						
21～23	ことば	かん字の読み方				
45	一年生でならったかん字④	かん字の広場				

58～59	ことば	なかまのことばとかん字			
67	一年生でならったかん字⑤	かん字の広場			
点字教科書 巻末追加事項	おぼえておきたいかん字	点線文字			

Ⅱ. 点字使用児童に漢字を指導する際、配慮している点をお書き下さい。

Ⅲ. 国語の授業以外で漢字の指導を行っていますか。行っている場合はどの時間で、どのくらいの時間数で行っているのか、またその内容についてお書き下さい。

Ⅳ. その他、漢字指導に関して日頃課題に思っていることをお書き下さい。

点字使用児童への漢字指導に関する調査

校名: 盲学校

対象児童の有無: 有・無

★点字を使用して学習をしている児童の状況を右の口に数字で記入して下さい。

・点字使用児童と墨字使用児童の混合クラス→0

・点字使用児童のみのクラス 1名→1 2名→2 3名→3 4名以上→4

I. 国語教科書中の漢字を扱った単元についてその指導状況についてお尋ねします。

下記の表は、国語教科書(光村出版)の各該当学年で漢字に関する事項を扱った単元です。今年度の授業でその単元を指導したかどうか、

また、その指導の状況や内容、教材について、該当する数字をお書き下さい。その他の項目等()付き項目を選ばれた方は、具体的に書き下さい。

有無

この単元を指導しなかった→0 指導した→1

指導状況

漢字には特に触れず、本文の内容にそって指導→1 点字教科書に点図として記載されている漢字を中心に指導→2 新出漢字を中心に指導→3

新出漢字以外の漢字についても指導→4 その他→5(具体的に記載して下さい)

漢字についての指導内容(複数選択可)

漢字の読み、意味の指導→1 漢字の字形→2 漢字の画数→3 漢字の筆順→4 漢字の構成と読みや意味の関係→5

漢字の字源→6 パソコンで漢字を交換しながら読みと意味の指導→7 その他→8(具体的な指導内容を記載して下さい)

補助教材の使用状況(複数選択可)

特に使用していない→0

使用している→自作の場合 立体コピー→1 レーズライター→2 点図→3 その他→4(具体的に記載して下さい)

既製教材→5(具体名を入れて下さい)

国語三年 上(ページ)	領域	単元名	有無	指導状況	指導内容	補助教材
24～25	言葉	漢字の音と訓				
33	二年生で習った漢字①	漢字の広場				
49	二年生で習った漢字②	漢字の広場				
53	話す・聞く	たしかめながら話す・聞く				
69	二年生で習った漢字③	漢字の広場				
72～73	言葉	へんとつくり				
下(ページ)						
21	二年生で習った漢字④	漢字の広場				
33～34	言葉	カンジューはかせの音訓遊び歌				

42	二年生で習った漢字⑤	漢字の広場				
46～47	言葉	漢字の意味				
52～58	言葉って、おもしろいな 話す・聞く・書く	漢字と友だち				
59	二年生で習った漢字⑥	漢字の広場				

Ⅱ. 点字使用児童に漢字を指導する際、配慮している点をお書き下さい。

Ⅲ. 国語の授業以外で漢字の指導を行っていますか。行っている場合はどの時間で、どのくらいの回数で行っているのか、またその内容についてお書き下さい。

Ⅳ. その他、漢字指導に関して日頃課題に思っていることをお書き下さい。

点字使用児童への漢字指導に関する調査

校名: 盲学校

対象児童の有無: 有・無

★点字を使用して学習をしている児童の状況を右の口に数字で記入して下さい。

・点字使用児童と墨字使用児童の混合クラス→0

・点字使用児童のみのクラス 1名→1 2名→2 3名→3 4名以上→4

I. 国語教科書中の漢字を扱った単元についてその指導状況についてお尋ねします。

下記の表は、国語教科書(光村出版)の各該当学年で漢字に関する事項を扱った単元です。今年度の授業でその単元を指導したかどうか、

また、その指導の状況や内容、教材について、該当する数字をお書き下さい。その他の項目等()付き項目を選ばれた方は、具体的に書き下さい。

有無

この単元を指導しなかった→0 指導した→1

指導状況

漢字には特に触れず、本文の内容にそって指導→1 点字教科書に点図として記載されている漢字を中心に指導→2 新出漢字を中心に指導→3

新出漢字以外の漢字についても指導→4 その他→5(具体的に記載して下さい)

漢字についての指導内容(複数選択可)

漢字の読み、意味の指導→1 漢字の字形→2 漢字の画数→3 漢字の筆順→4 漢字の構成と読みや意味の関係→5

漢字の字源→6 パソコンで漢字を交換しながら読みと意味の指導→7 その他→8(具体的な指導内容を記載して下さい)

補助教材の使用状況(複数選択可)

特に使用していない→0

使用している→自作の場合 立体コピー→1 レーズライター→2 点図→3 その他→4(具体的に記載して下さい)

既製教材→5(具体名を入れて下さい)

国語四年 上(ページ)	領域	単元名	有無	指導状況	指導内容	補助教材
20～21	言葉	漢字の組み立て				
29	三年生で習った漢字①	漢字の広場				
32～35	言葉	漢字辞典の使い方				
43	三年生で習った漢字②	漢字の広場				
69	三年生で習った漢字③	漢字の広場				
86	三年生で習った漢字④	漢字の広場				
下(ページ)						
29	三年生で習った漢字⑤	漢字の広場				
40～41	言葉	熟語の意味				

55	三年生で習った漢字⑥	漢字の広場			
56～59	言葉	カンジーはかせの漢字しりとり			

Ⅱ. 点字使用児童に漢字を指導する際、配慮している点をお書き下さい。

Ⅲ. 国語の授業以外で漢字の指導を行っていますか。行っている場合はどの時間で、どのくらいの時間数で行っているのか、またその内容についてお書き下さい。

Ⅳ. その他、漢字指導に関して日頃課題に思っていることをお書き下さい。

校名： 盲学校

対象児童の有無： 有・無

★点字を使用して学習をしている児童の状況を右の口に数字で記入して下さい。

・点字使用児童と墨字使用児童の混合クラス→0

・点字使用児童のみのクラス 1名→1 2名→2 3名→3 4名以上→4

I. 国語教科書中の漢字を扱った単元についてその指導状況についてお尋ねします。

下記の表は、国語教科書(光村出版)の各該当学年で漢字に関する事項を扱った単元です。今年度の授業でその単元を指導したかどうか、

また、その指導の状況や内容、教材について、該当する数字をお書き下さい。その他の項目等()付き項目を選ばれた方は、具体的に書き下さい。

有無

この単元を指導しなかった→0 指導した→1

指導状況

漢字には特に触れず、本文の内容にそって指導→1 点字教科書に点図として記載されている漢字を中心に指導→2 新出漢字を中心に指導→3

新出漢字以外の漢字についても指導→4 その他→5(具体的に記載して下さい)

漢字についての指導内容(複数選択可)

漢字の読み、意味の指導→1 漢字の字形→2 漢字の画数→3 漢字の筆順→4 漢字の構成と読みや意味の関係→5

漢字の字源→6 パソコンで漢字を変換しながら読みと意味の指導→7 その他→8(具体的な指導内容を記載して下さい)

補助教材の使用状況(複数選択可)

特に使用していない→0

使用している→自作の場合 立体コピー→1 レーザライター→2 点図→3 その他→4(具体的に記載して下さい)

既製教材→5(具体名を入れて下さい)

国語五年 上(ページ)	領域	単元名	有無	指導状況	指導内容	補助教材
20～21	言葉	漢字の成り立ち				
41～43	書く	雨が付く言葉				
49	四年生で習った漢字①	漢字の広場				
63	四年生で習った漢字②	漢字の広場				
66～67	言葉	カンジ―博士の暗号解読				
79	四年生で習った漢字③	漢字の広場				
80～81	言葉	和語・漢語・外来語				
下(ページ)						
27	四年生で習った漢字④	漢字の広場				
45	四年生で習った漢字⑤	漢字の広場				

48～49	言葉	漢字の読み方と使い方				
69	四年生で習った漢字⑥	漢字の広場				
70～71	言葉	同じ読み方の熟語				

Ⅱ. 点字使用児童に漢字を指導する際、配慮している点をお書き下さい。

Ⅲ. 国語の授業以外で漢字の指導を行っていますか。行っている場合はどの時間で、どのくらいの回数で行っているのか、またその内容についてお書き下さい。

Ⅳ. その他、漢字指導に関して日頃課題に思っていることをお書き下さい。

点字使用児童への漢字指導に関する調査

校名: 盲学校

対象児童の有無: 有・無

★点字を使用して学習をしている児童の状況を右の口に数字で記入して下さい。

・点字使用児童と墨字使用児童の混合クラス→0

・点字使用児童のみのクラス 1名→1 2名→2 3名→3 4名以上→4

I. 国語教科書中の漢字を扱った単元についてその指導状況についてお尋ねします。

下記の表は、国語教科書(光村出版)の各該当学年で漢字に関する事項を扱った単元です。今年度の授業でその単元を指導したかどうか、

また、その指導の状況や内容、教材について、該当する数字をお書き下さい。その他の項目等()付き項目を選ばれた方は、具体的に書き下さい。

有無

この単元を指導しなかった→0 指導した→1

指導状況

漢字には特に触れず、本文の内容にそって指導→1 点字教科書に点図として記載されている漢字を中心に指導→2 新出漢字を中心に指導→3

新出漢字以外の漢字についても指導→4 その他→5(具体的に記載して下さい)

漢字についての指導内容(複数選択可)

漢字の読み、意味の指導→1 漢字の字形→2 漢字の画数→3 漢字の筆順→4 漢字の構成と読みや意味の関係→5

漢字の字源→6 パソコンで漢字を交換しながら読みと意味の指導→7 その他→8(具体的な指導内容を記載して下さい)

補助教材の使用状況(複数選択可)

特に使用していない→0

使用している→自作の場合 立体コピー→1 レーズライター→2 点図→3 その他→4(具体的に記載して下さい)

既製教材→5(具体名を入れて下さい)

国語六年 上(ページ)	領域	単元名	有無	指導状況	指導内容	補助教材
22～23	言葉	漢字の形と音・意味				
32	五年生で習った漢字①	漢字の広場				
45	五年生で習った漢字②	漢字の広場				
69	五年生で習った漢字③	漢字の広場				
72～73	言葉	同じ訓をもつ漢字				
84	五年生で習った漢字④	漢字の広場				
下(ページ)						
28～29	言葉	熟語の成り立ち				
31	五年生で習った漢字⑤	漢字の広場				

47	五年生で習った漢字⑥	漢字の広場				
66～67	言葉	カンジー博士の漢字クイズ大会				

Ⅱ. 点字使用児童に漢字を指導する際、配慮している点をお書き下さい。

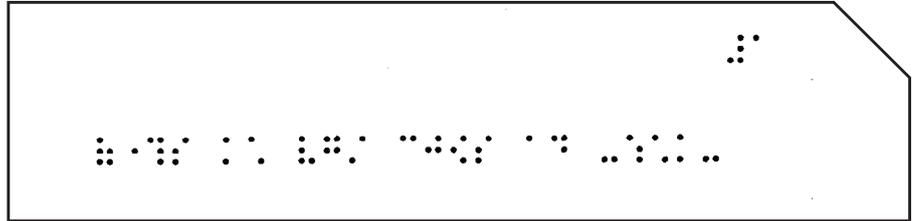
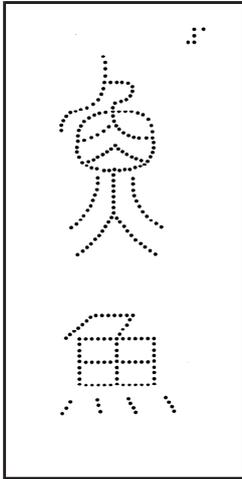
Ⅲ. 国語の授業以外で漢字の指導を行っていますか。行っている場合はどの時間で、どのくらいの時間数で行っているのか、またその内容についてお書き下さい。

Ⅳ. その他、漢字指導に関して日頃課題に思っていることをお書き下さい。

漢字カルタ

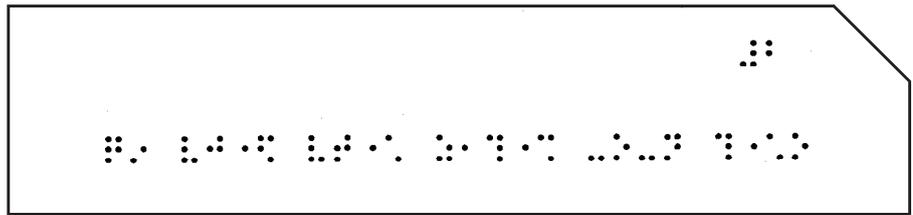
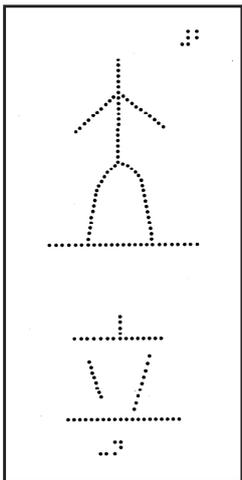
太郎次郎社の『101漢字カルタ』は、漢字の成り立ちを用いながら楽しく漢字を学習できる教材である。そこで、これを点訳して授業で活用した。

1



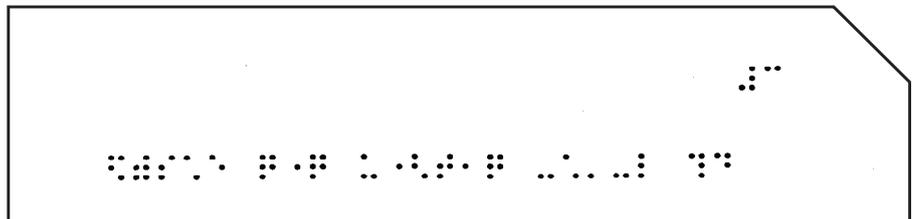
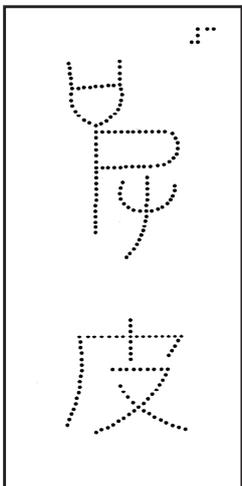
水の中 ひれやうろこのある 「魚」

2



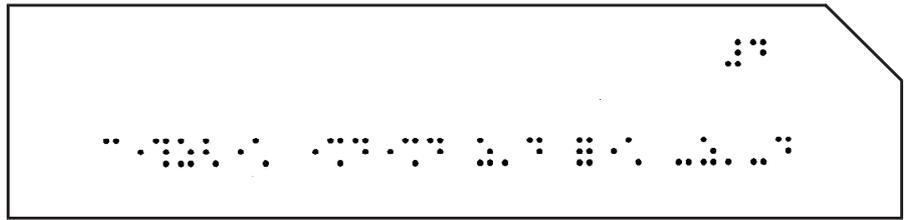
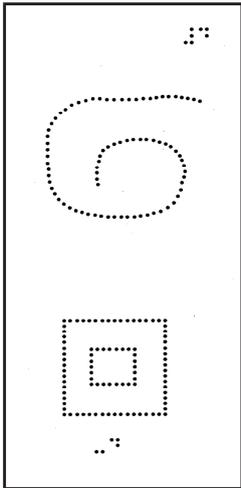
手を広げ 人が真っ直ぐ 「立」つ姿

3



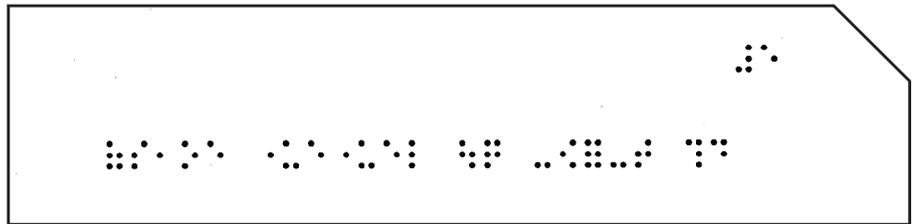
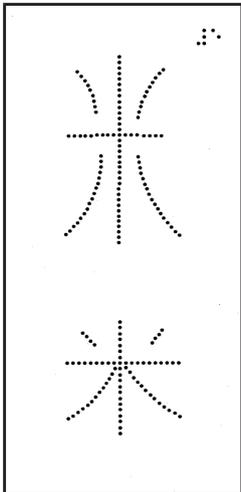
獣から 手ではぎ取って 「皮」にする

4



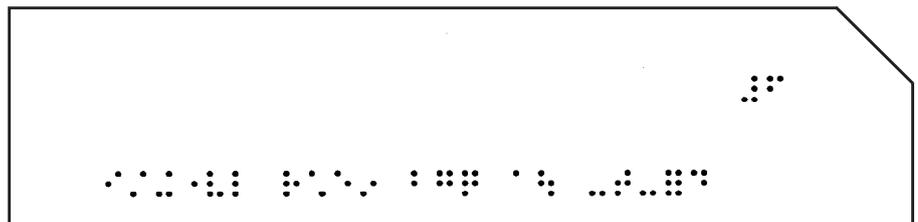
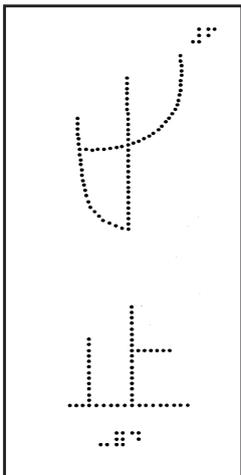
渦巻きが ぐるぐる回る 目が「回」る

5



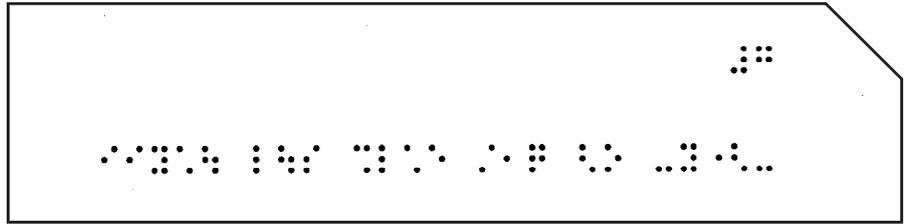
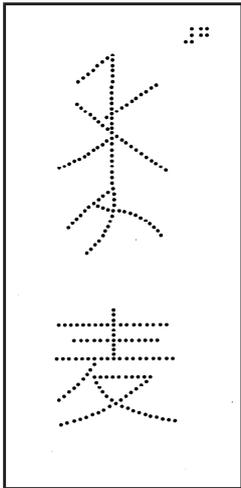
みのったら バラバラにして 「米」とする

6



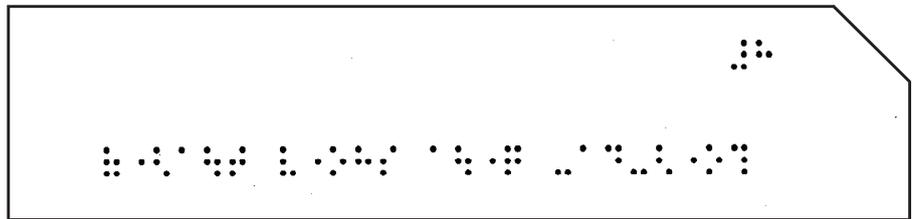
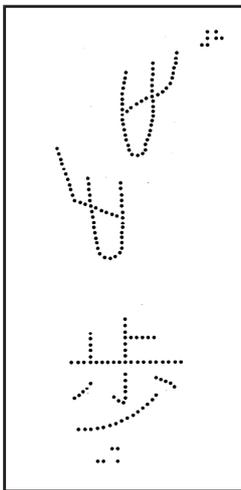
親指に 力を入れて 足「止」める

7



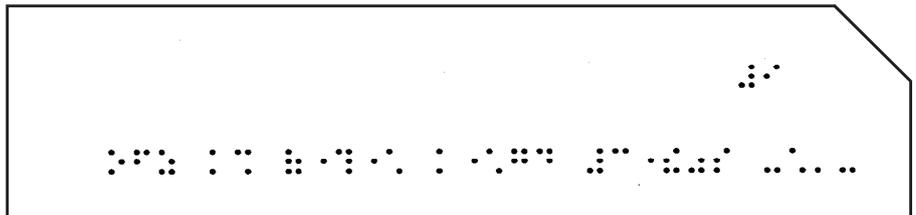
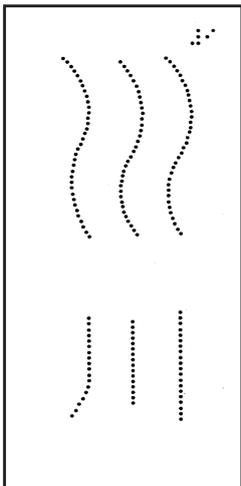
大昔 西の国から やってきた

8



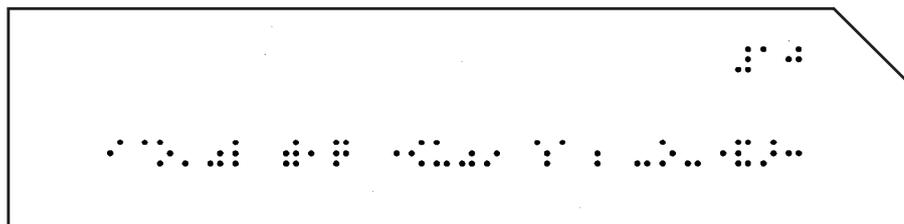
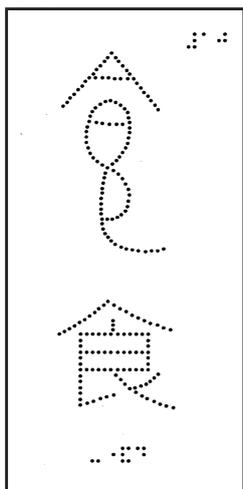
右足と 左の足で 「歩」き出す

9



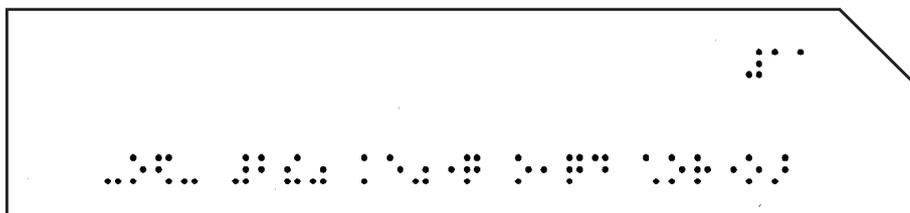
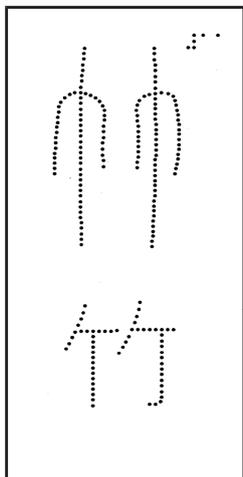
絶え間なく 水が流れる 三本の「川」

10



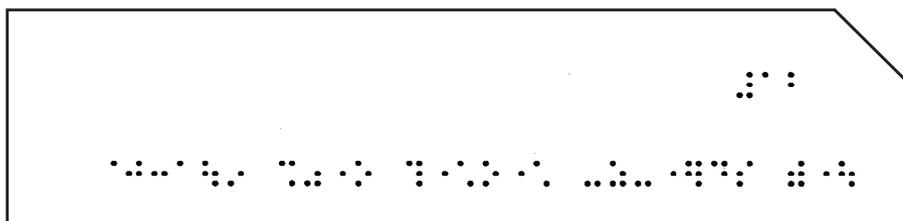
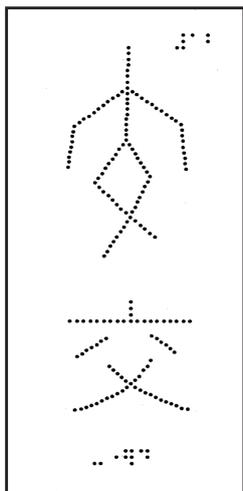
お茶碗に 盛ってご飯を さあ「食」べよう

11



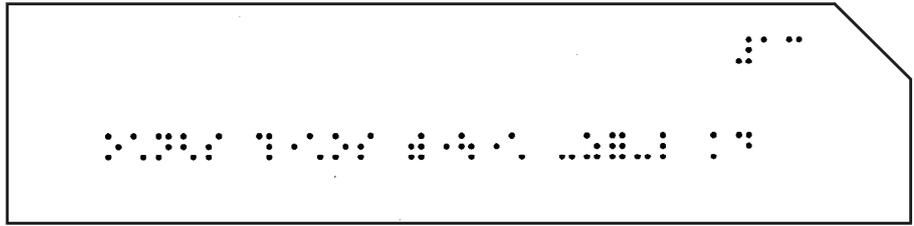
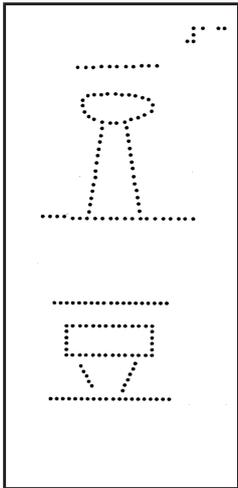
「竹」二本 並んで立ってる 形だよ

12



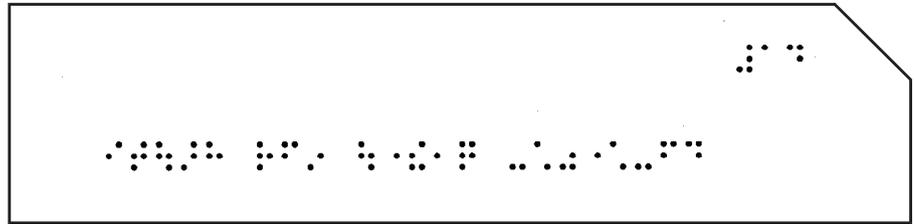
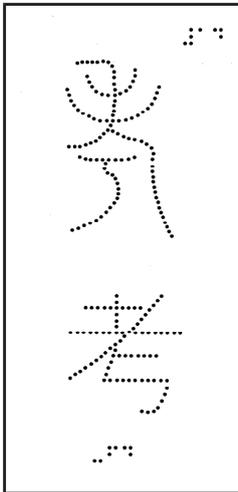
両足を 組んだ姿が 「交」 ぜるの文字

13



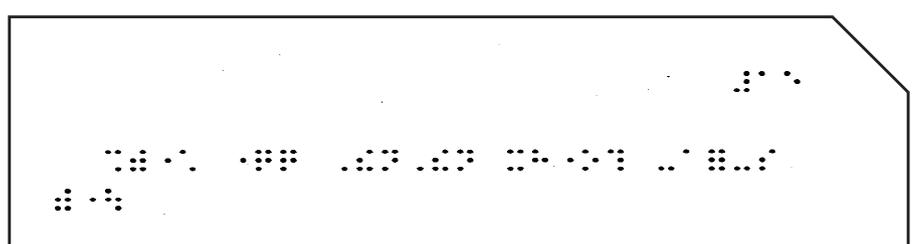
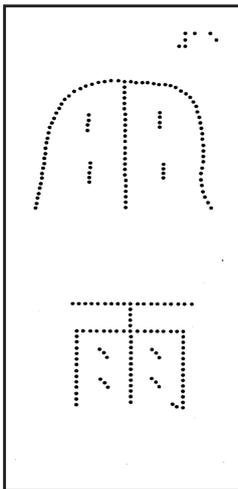
高坏の 姿の文字が 「豆」になる

14



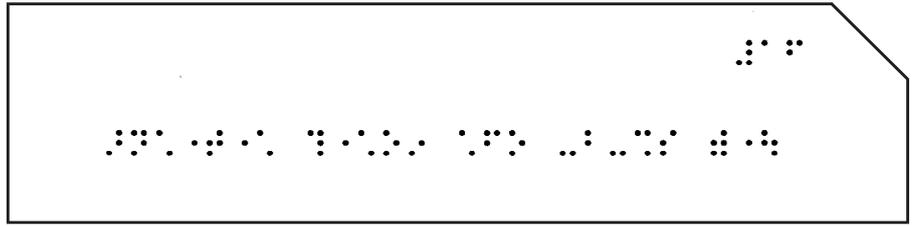
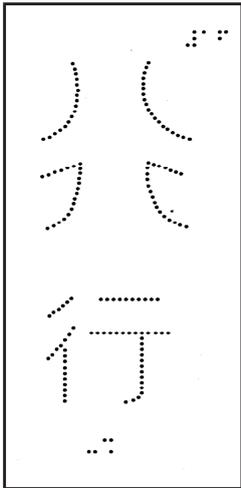
お年寄り 知恵を絞って 「考」える

15



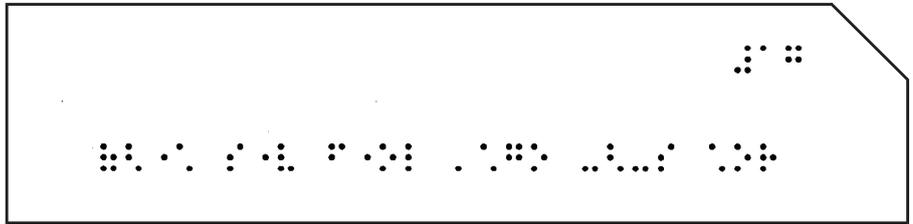
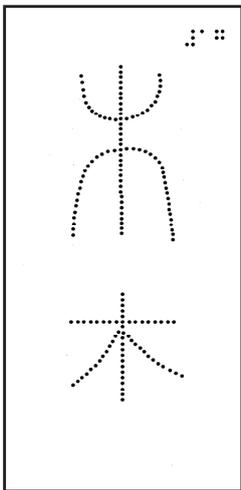
雲が出て ポツポツ降り出す 「雨」の文字

16



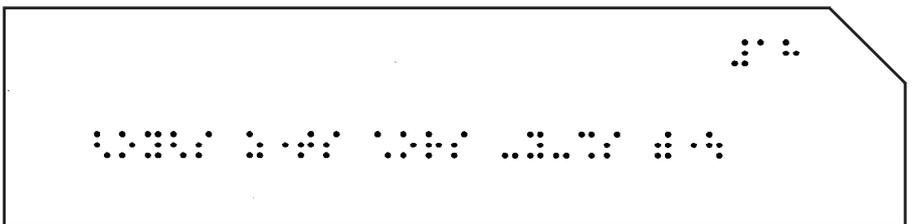
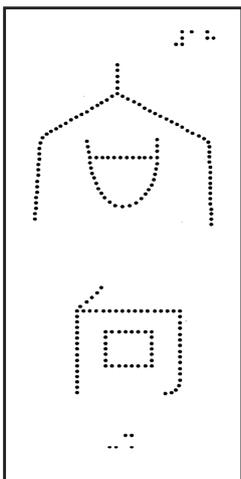
四つ角が 姿を変えた 「行」くの文字

17



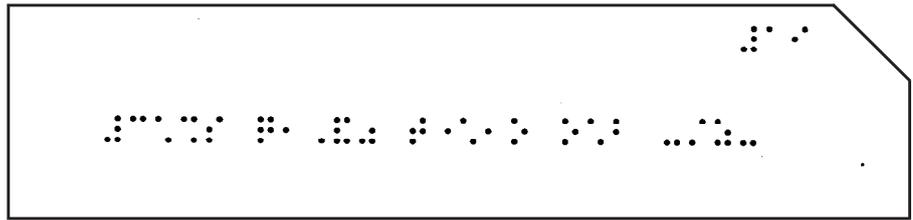
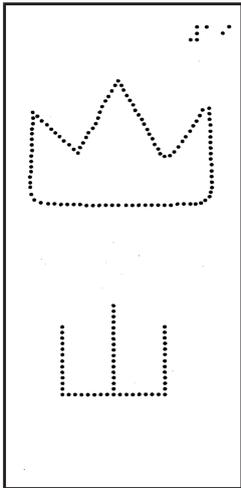
幹が伸び 枝に分かれた 「木」の形

18



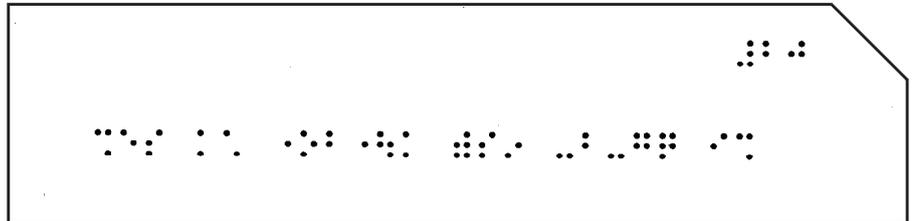
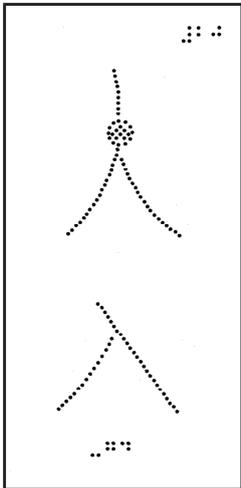
北向きの 窓の形の 「向」くの文字

19



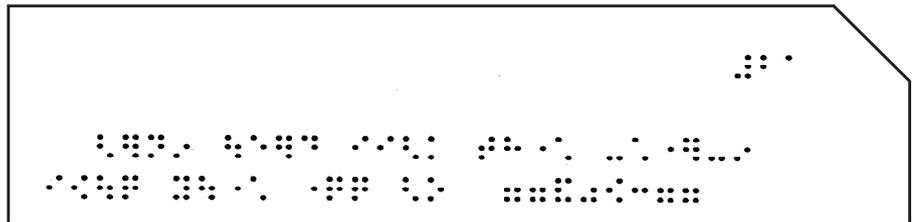
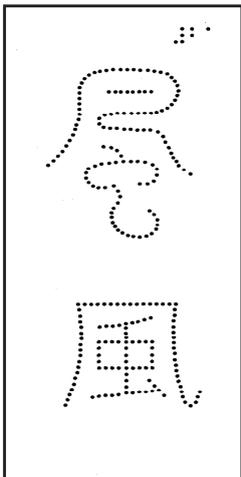
三角の てっぺん尖った 高い「山」

20



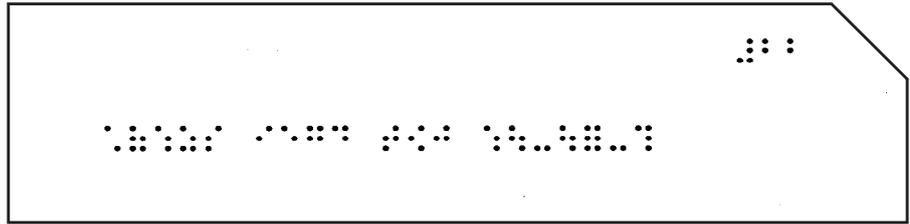
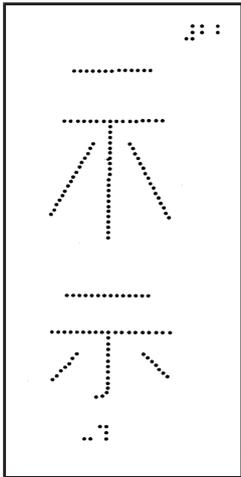
倉の中 大事なものを 「入」 れておく

21



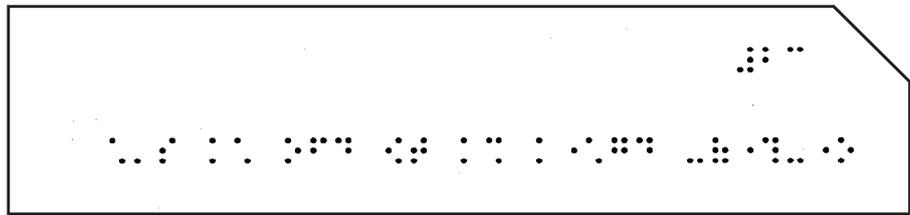
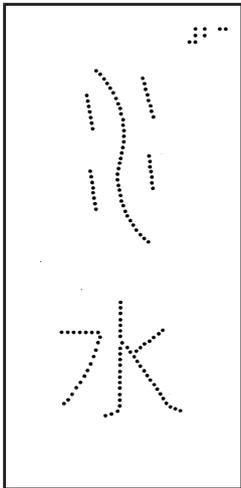
季節を知らせる 大きな鳥が 「風」 を起こして 虫が出てきた (変更)

2 2



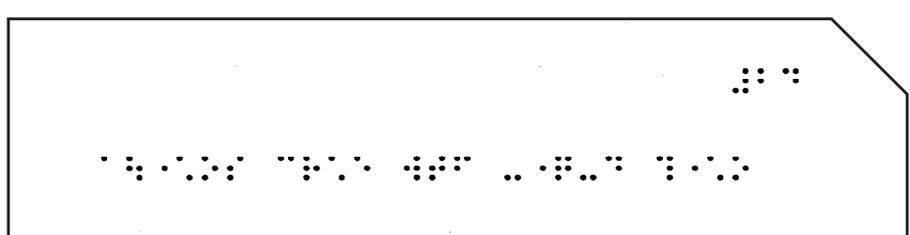
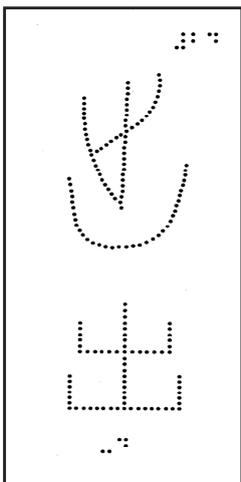
神様の おられる所 さし「示」す

2 3



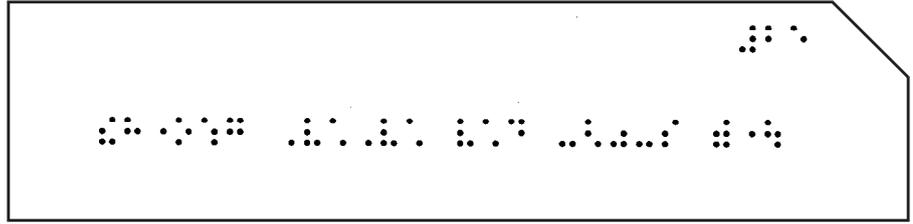
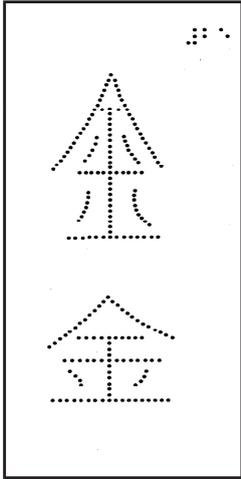
川の中 絶えることなく 流れる「水」だ

2 4



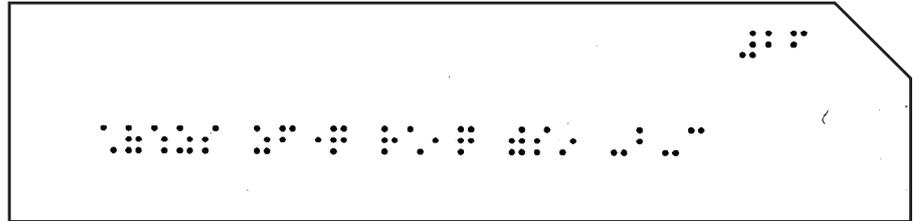
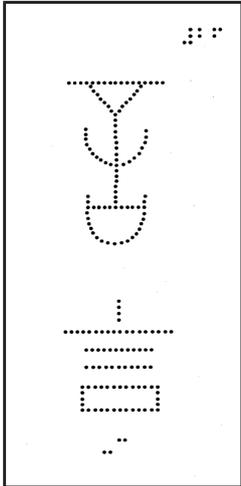
足形の 内から外へ 「出」る姿

25



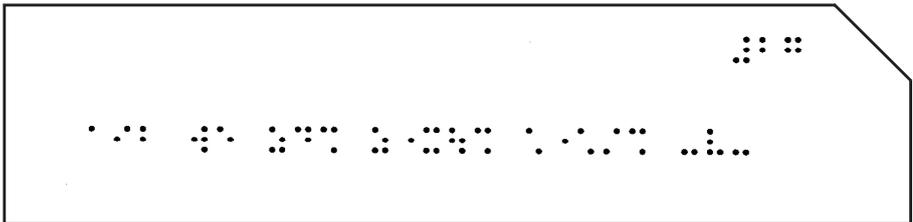
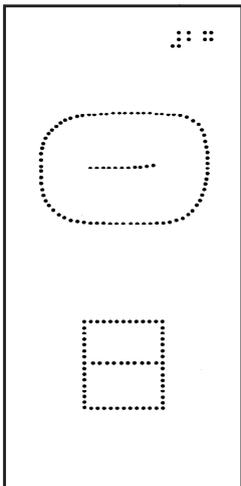
掘り出され ピカピカ光る 「金」の文字

26



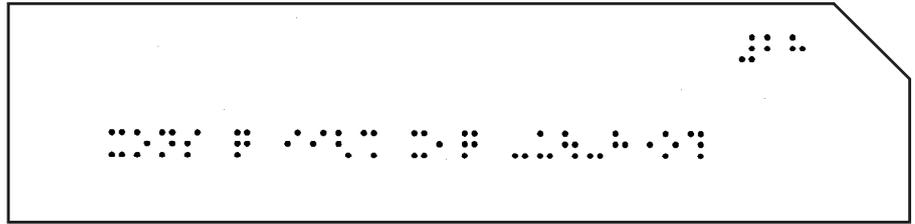
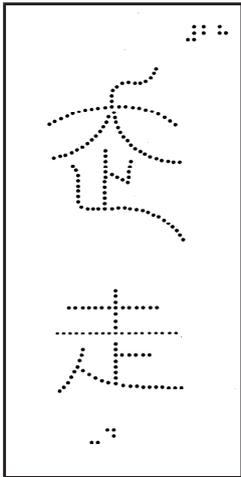
神様の 前で誓って ものを「言」う

27



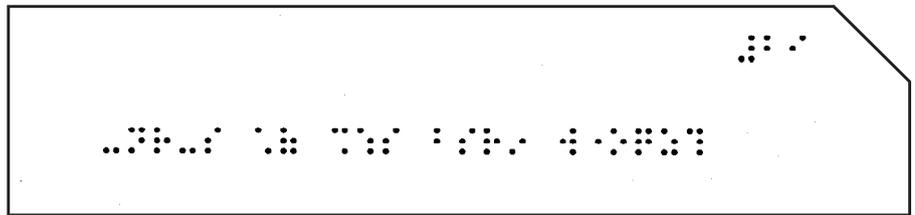
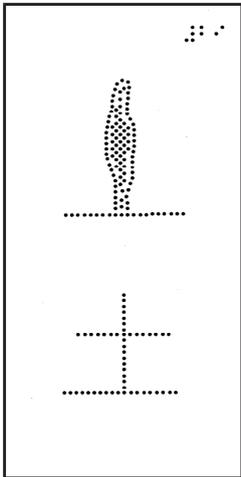
青い空 丸く眩しく 輝く「日」

28



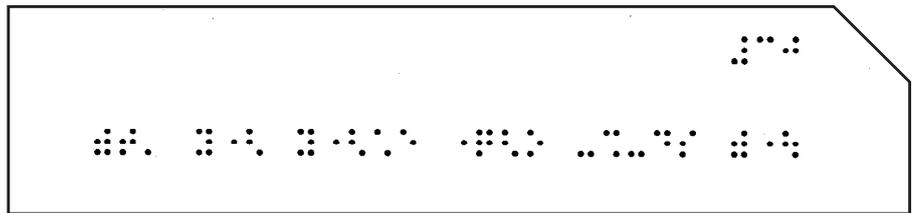
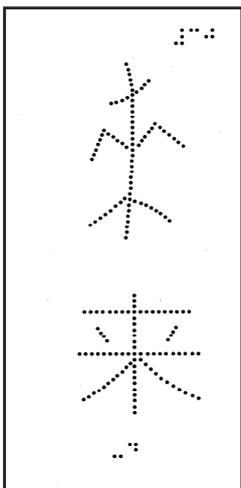
二つの手 大きく振って 「走」り出す

29



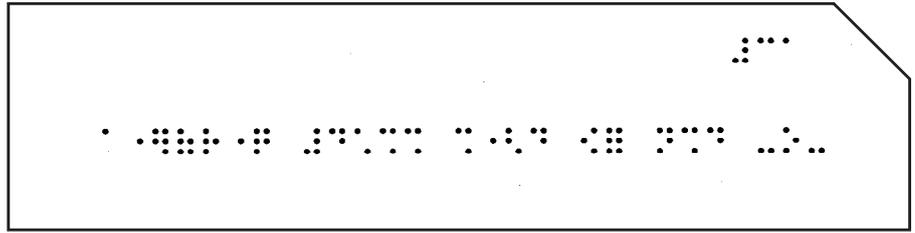
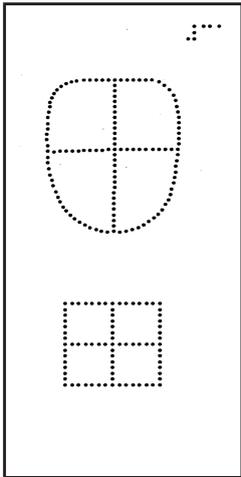
「土」の神 草の命を 育てます

30



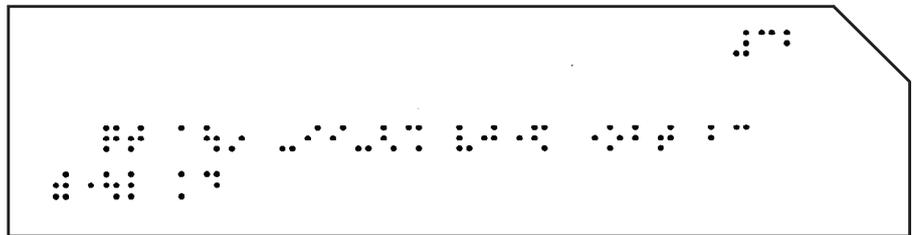
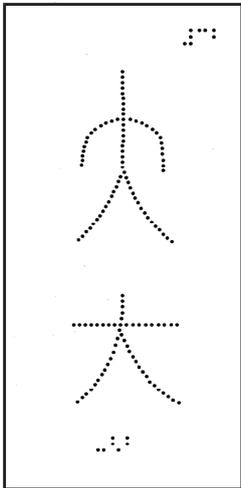
もとは麦 麦からできた 「来」るの文字

3 1



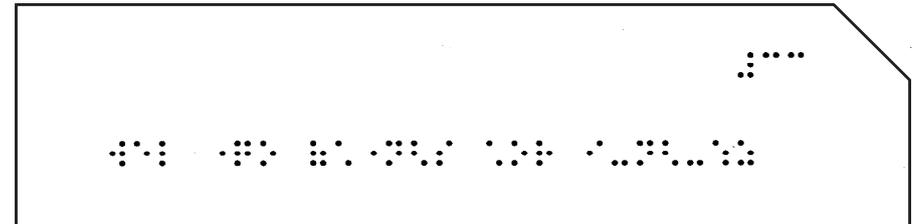
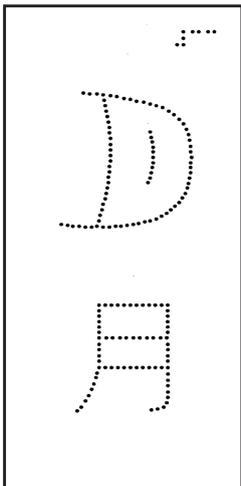
あぜ道で 四角く区切る 米作る「田」

3 2



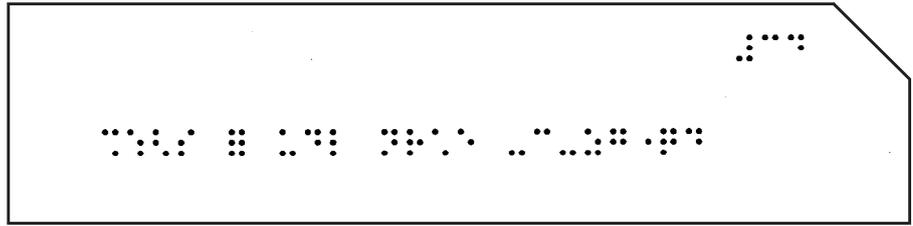
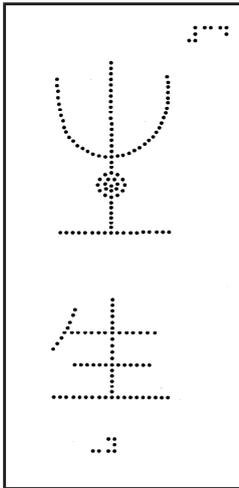
手と足を 「大」 大きく広げ 大という文字になる

3 3



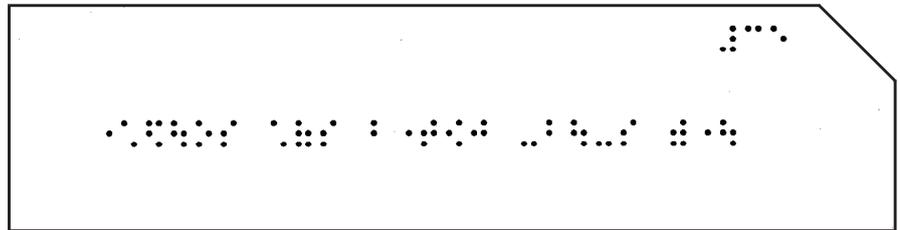
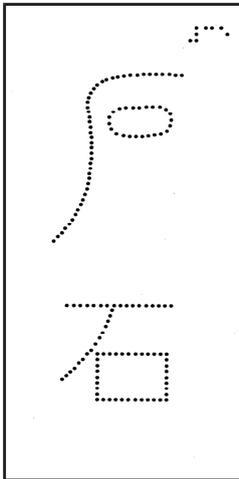
空に出た 三日月の形 お「月」さま

34



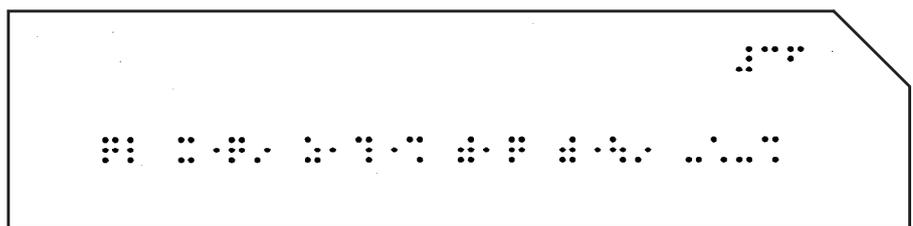
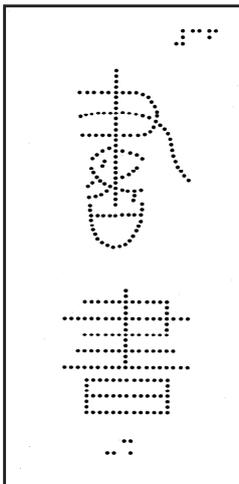
草木の芽 春に土から 「生」まれ出る

35



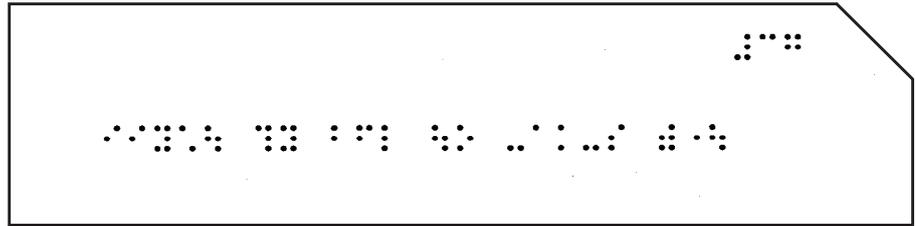
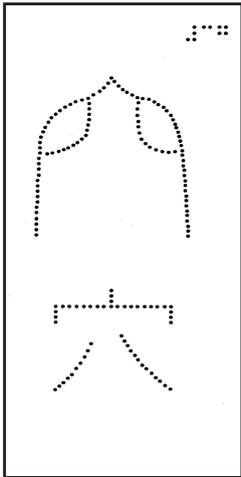
崖下の 神の居所 「石」の文字

36



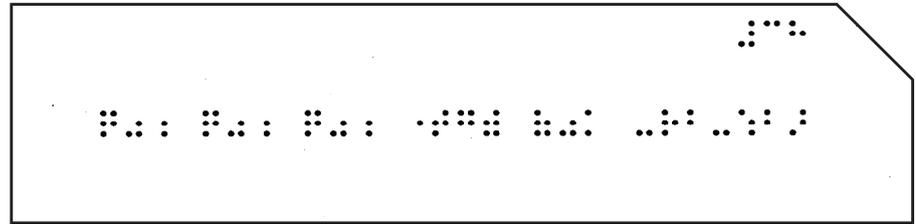
手に筆を 真っ直ぐ持って 文字を「書」く

37



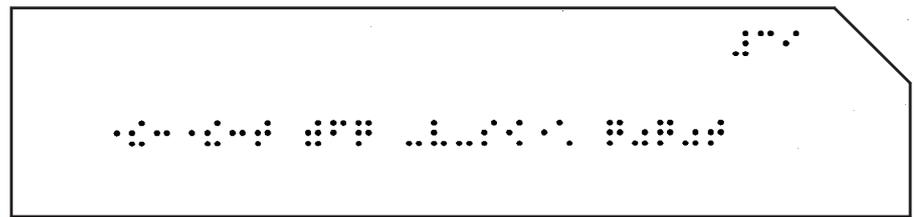
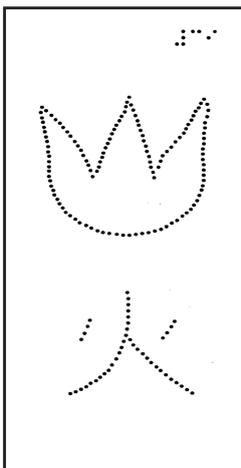
大昔 住む家にした 「穴」 の文字

38



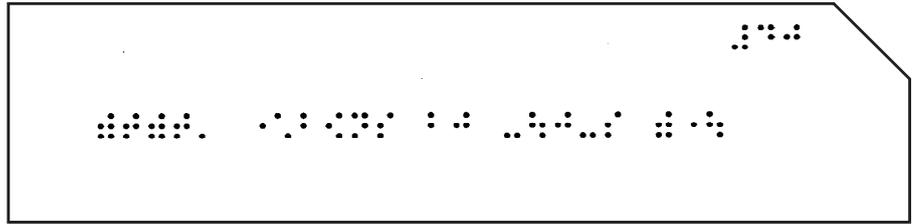
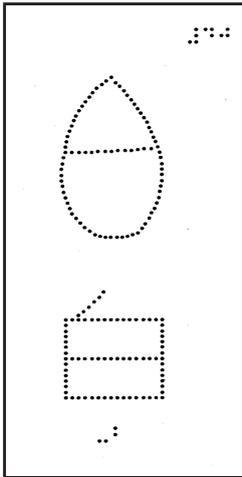
てん、てん、てん、 どれもみんな 「小」 さいよ

39



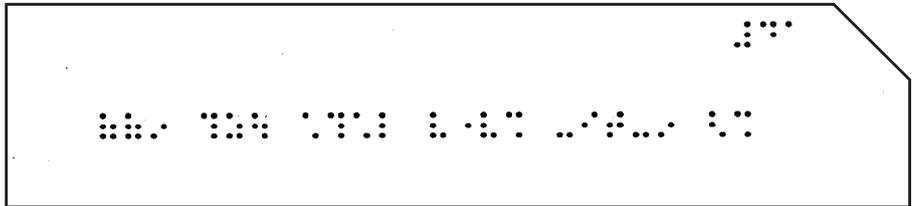
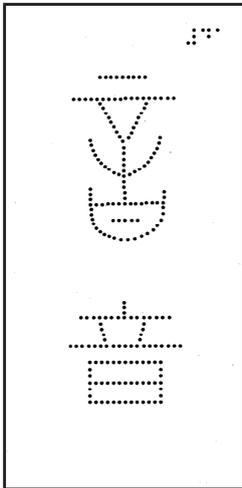
ぼうぼうと 燃えて「火」のこが 点々と

40



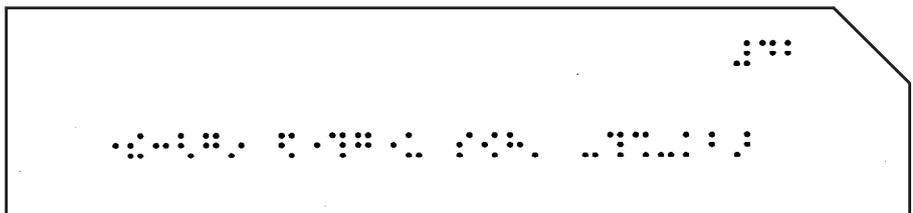
元々は 骸骨の色 「白」の文字

41



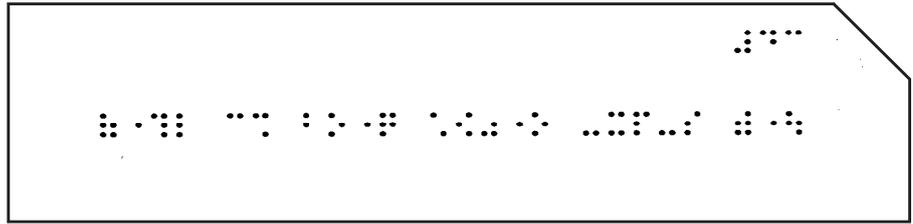
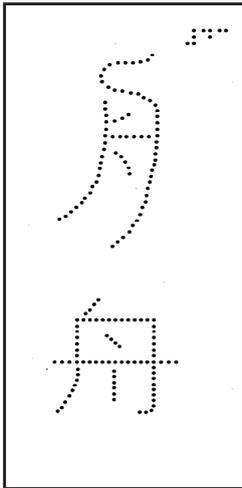
耳をすまし かすかに響く 「音」を聞く

42



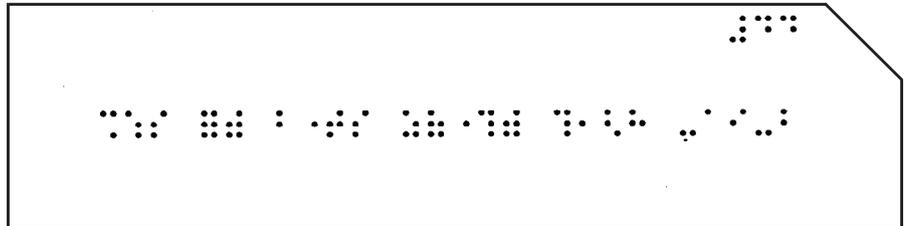
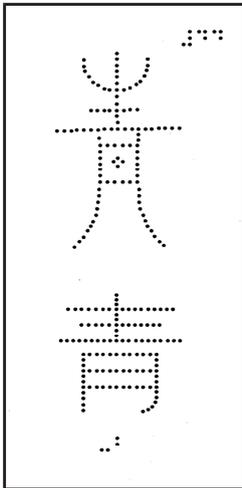
棒切れを 削れば残りは 「少」ないよ

4 3



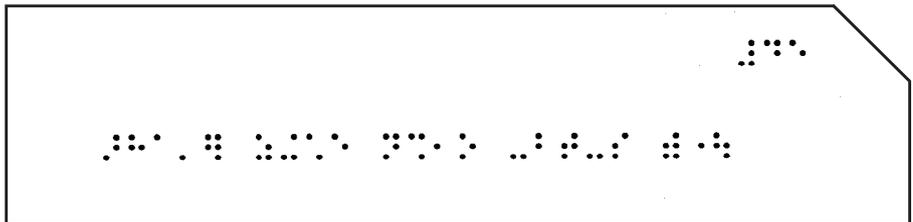
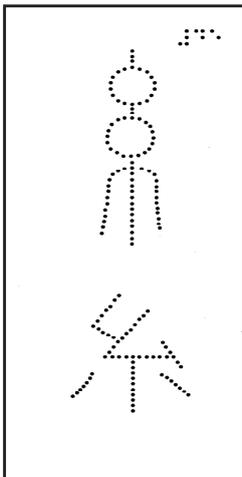
水に浮く 板で囲んだ 「舟」の文字

4 4



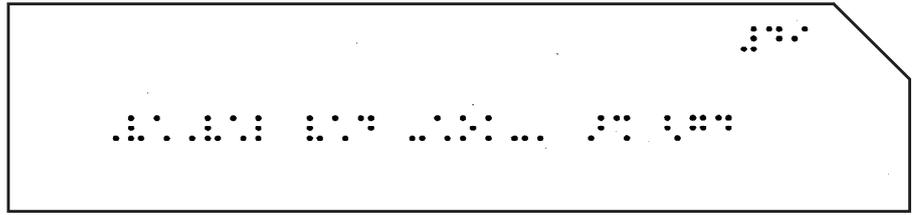
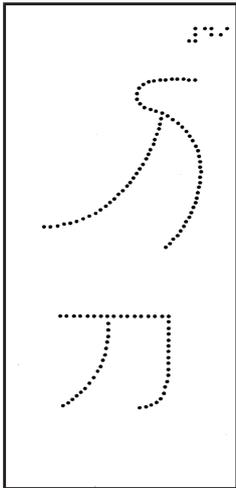
草の芽も 井戸の真水も すっきり「青」い

4 5



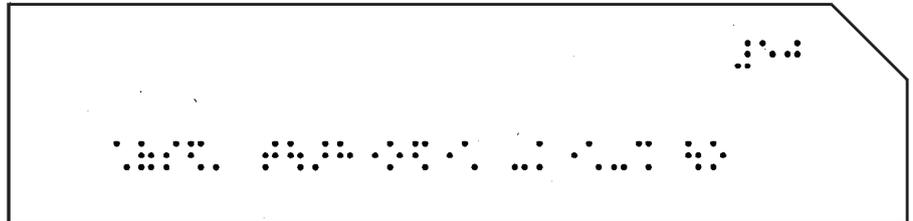
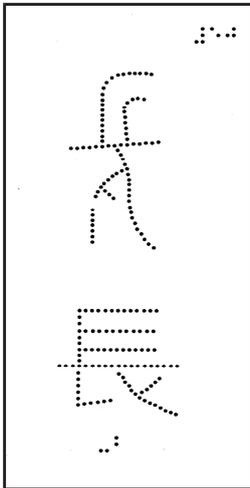
寄り合わせ 繭から作った 「糸」の文字

49



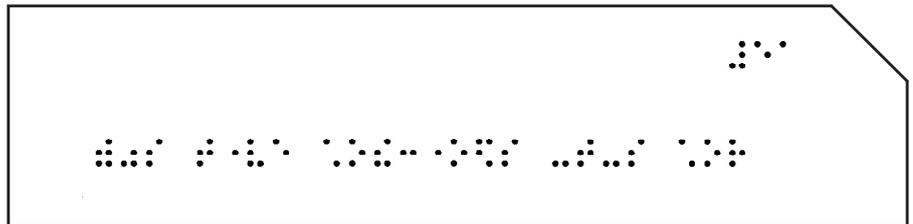
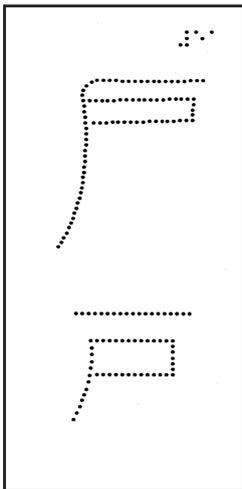
ピカピカに 光る「刀」は よく切れる

50



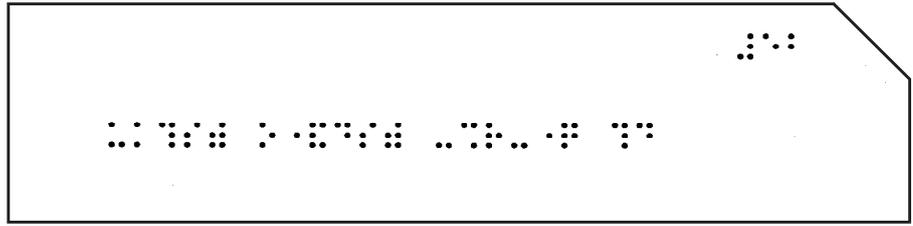
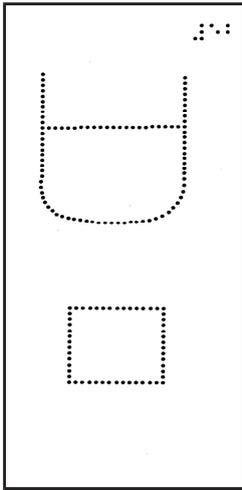
髪の毛は 年寄りだけが 「長」くした

51



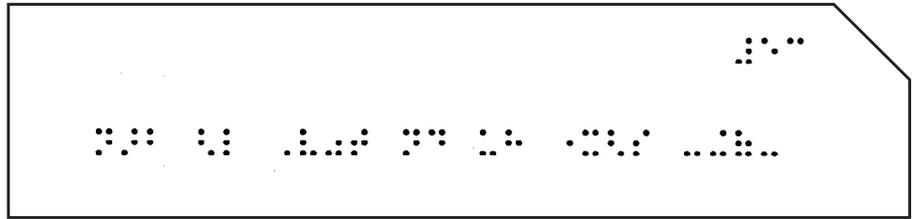
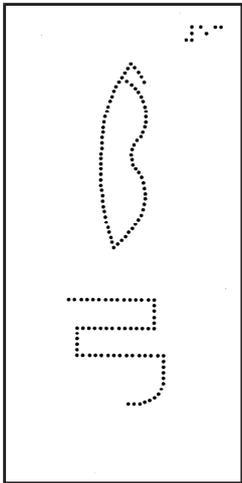
門の扉 片方だけの 「戸」の形

5 2



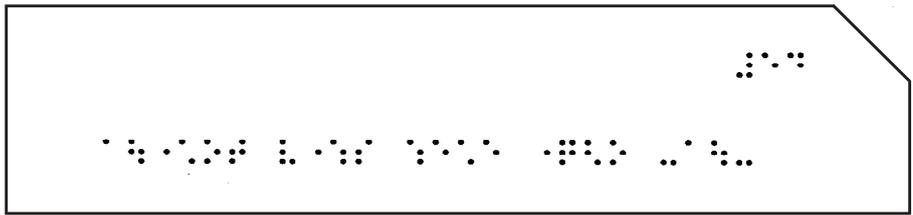
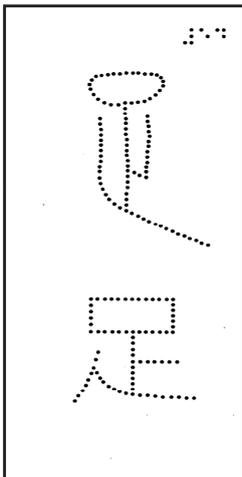
話すのも 食べるのも 「口」 である

5 3



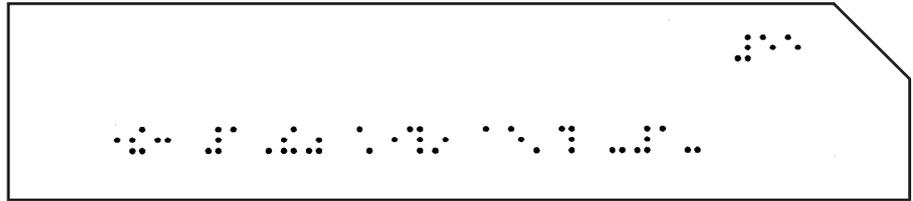
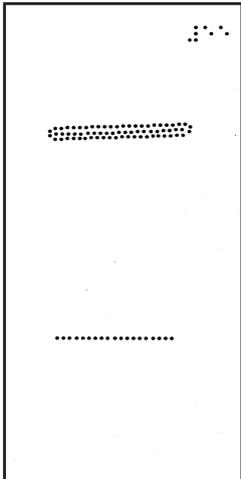
強い木に ピンとつる張り 武器の「弓」

5 4



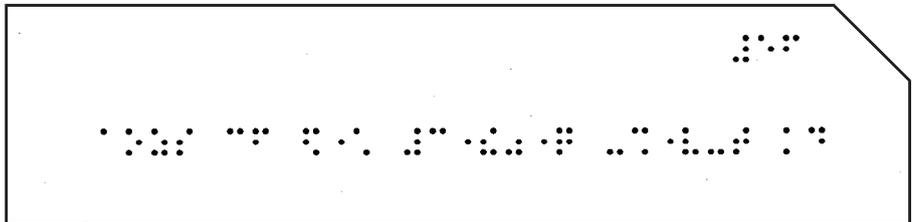
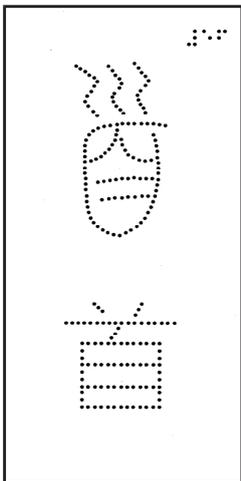
足形と 膝の皿から できた「足」

5 5



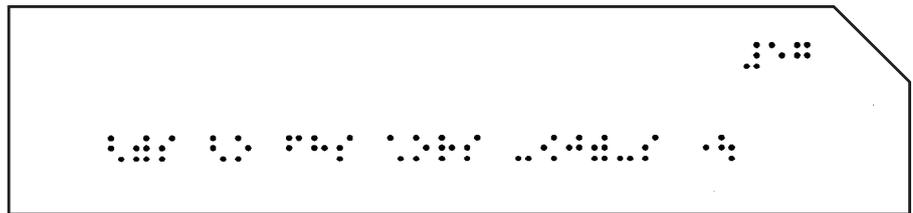
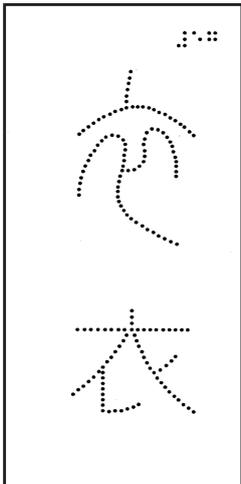
棒一本 数を表す 「一」

5 6



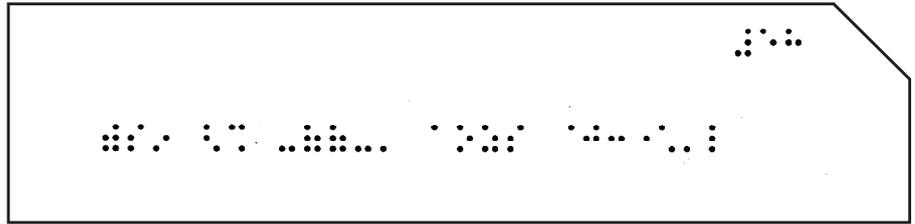
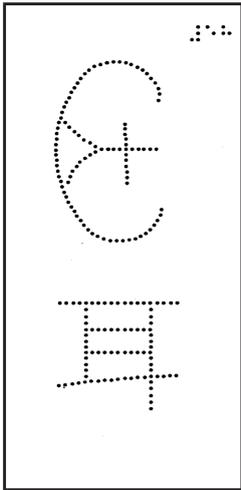
頭の上 毛が三本で 「首」 となる

5 7



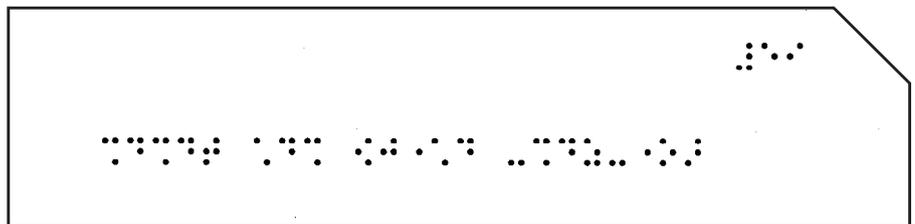
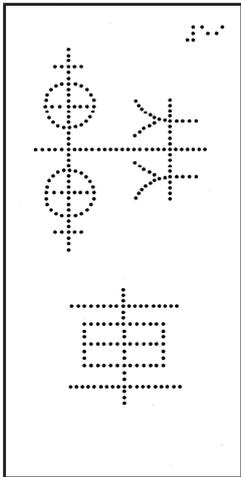
着物きた 襟の形の 「衣」 の字

58



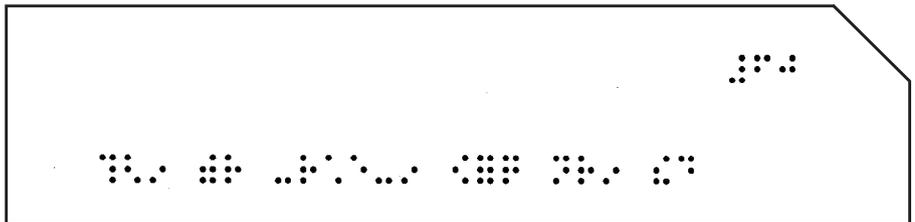
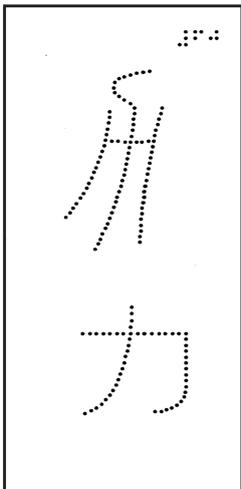
ものを聞く 「耳」は頭の 両側に

59



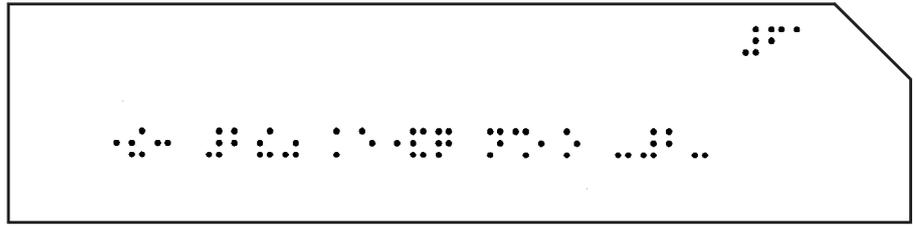
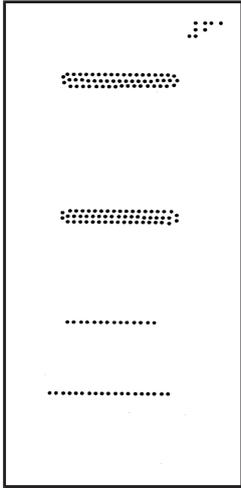
くるくると 軽く転がる 「車」だよ

60



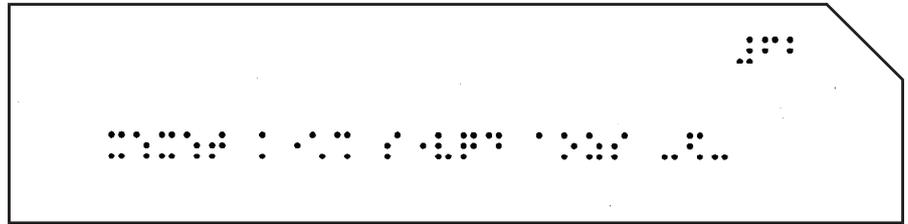
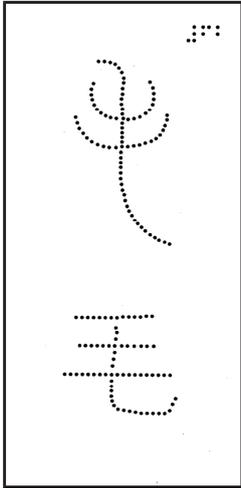
すきを持つ 「力」を込めて 土を掘る

6 1



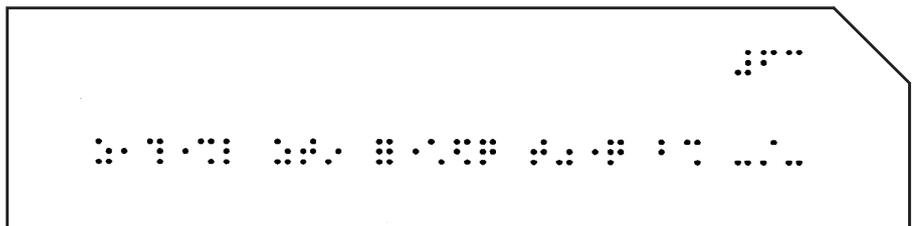
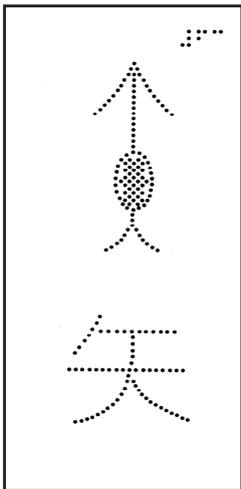
棒二本 並べて作った 「二」

6 2



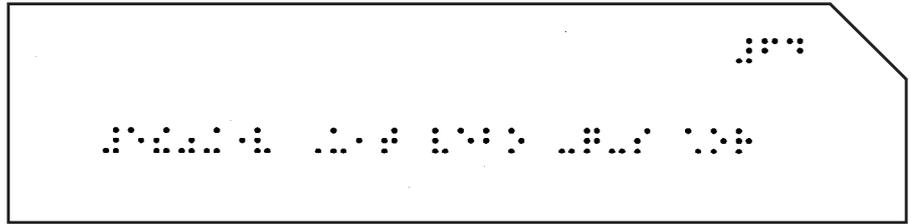
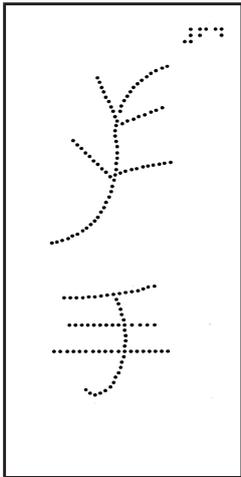
ふさふさと 長く伸びてる 頭の「毛」

6 3



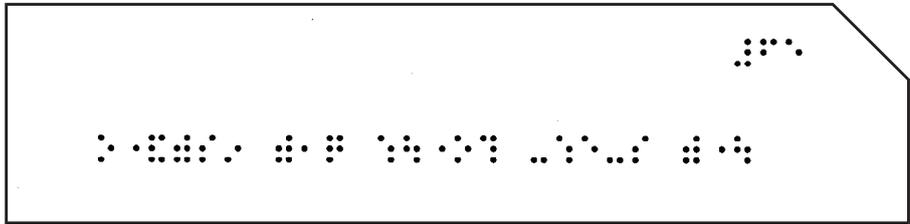
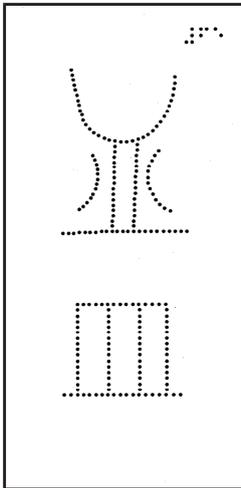
真っ直ぐに 的をめがけて 飛んでいく「矢」

6 4



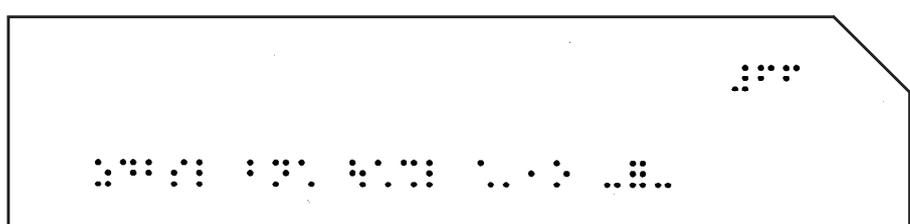
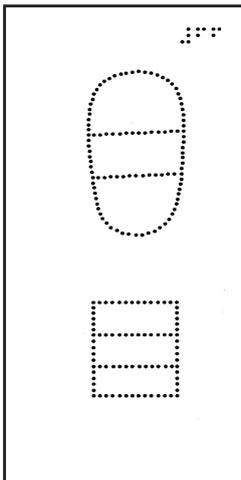
五本指 ぱっと開いた 「手」の形

6 5



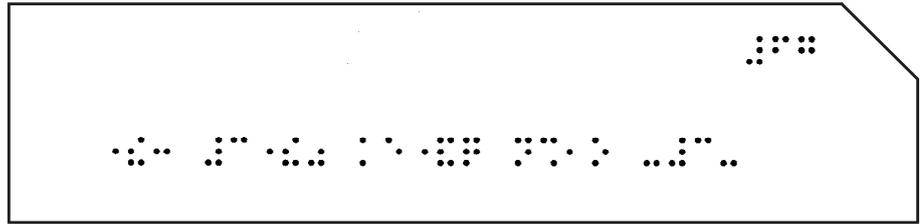
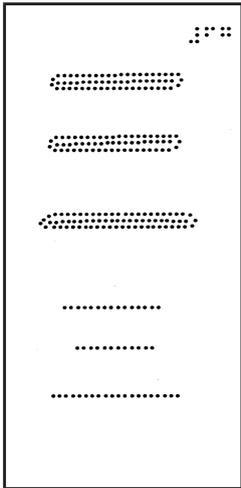
食物を 持って差し出す 「皿」の文字

6 6



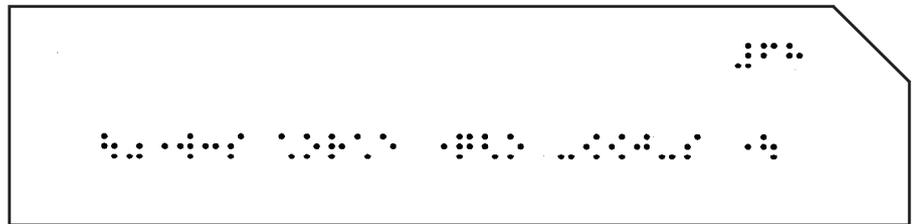
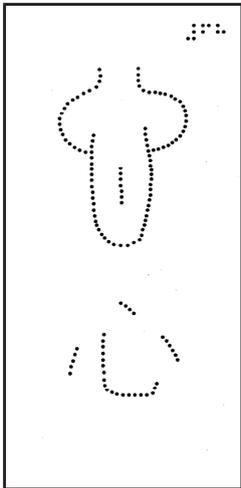
丸いのに いつ四角に変わった 「目」

67



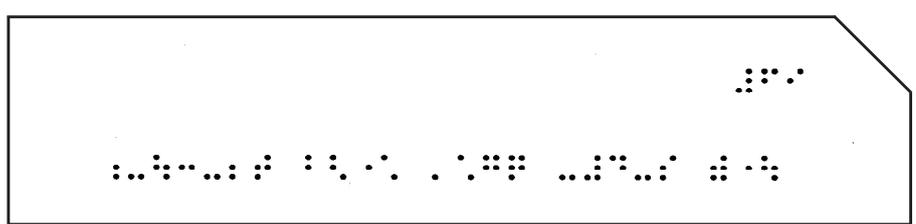
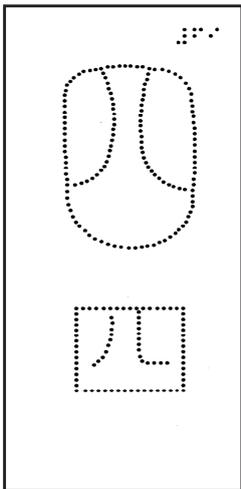
棒三本 並べて作った 「三」

68



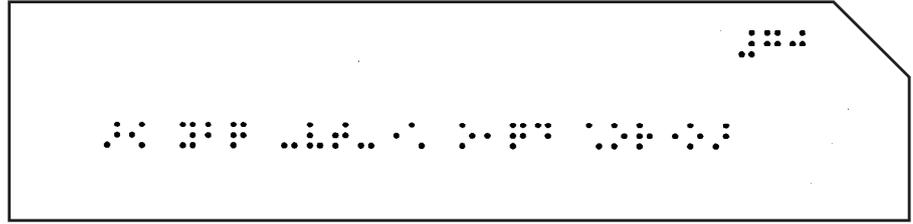
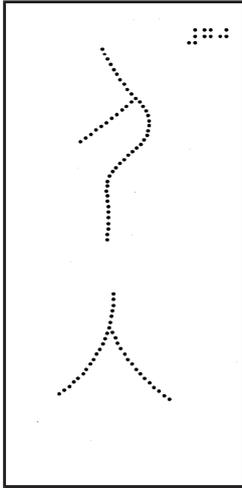
心臓の 形から出来た 「心」 の字

69



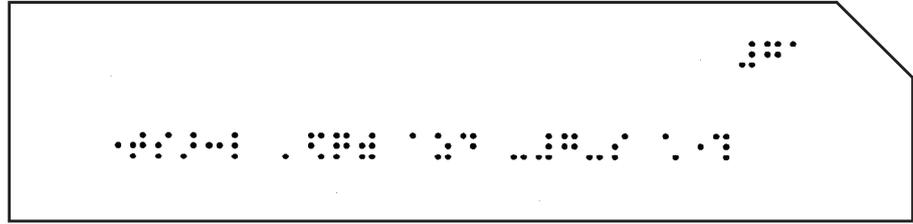
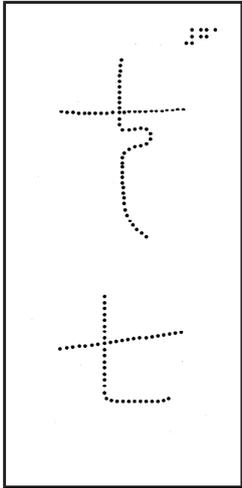
「シー」と 息が分かれて 「四」 の文字

70



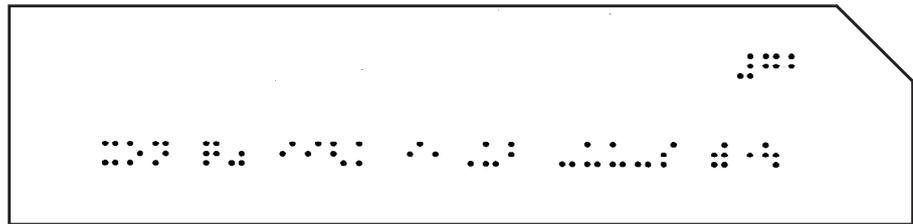
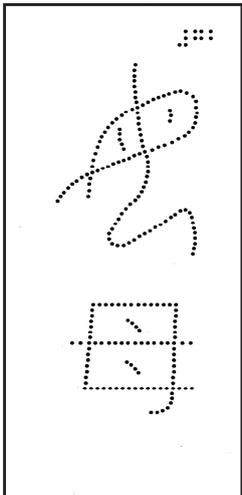
横向いて 「人」が立ってる 形だよ

71



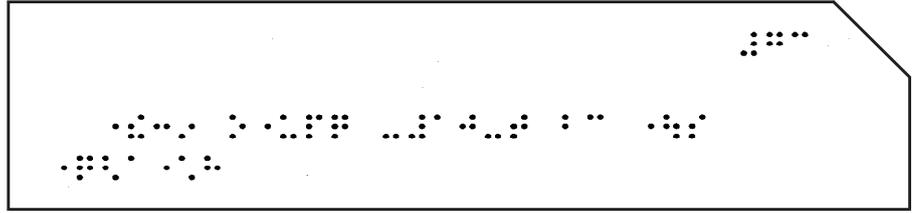
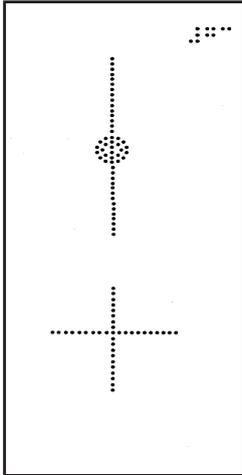
どのように 分けても余る 「七」の数

72



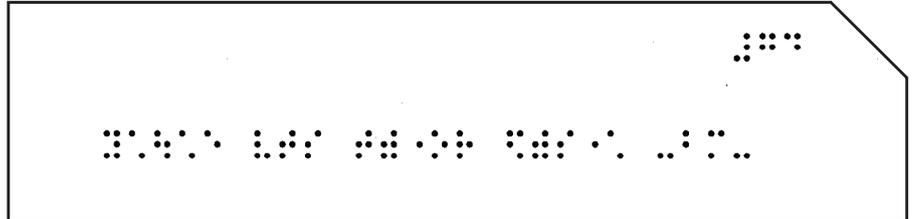
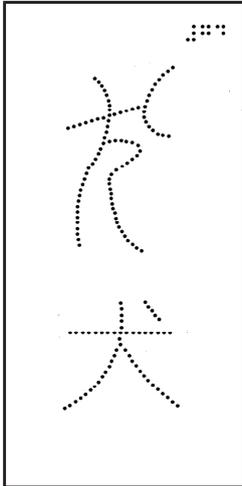
二つの点 大きなおっばい 「母」の文字

73



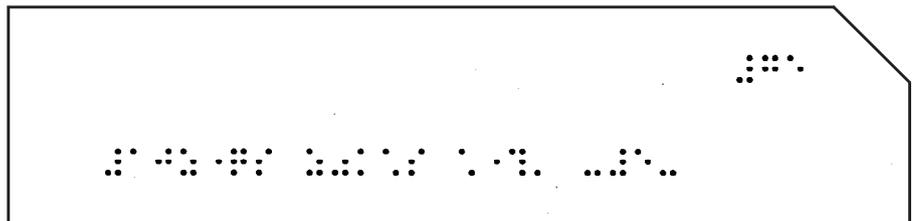
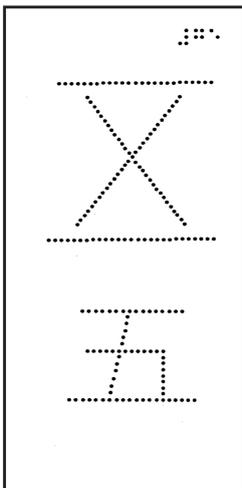
棒を束ねて 「十」という 字の出来上がり

74



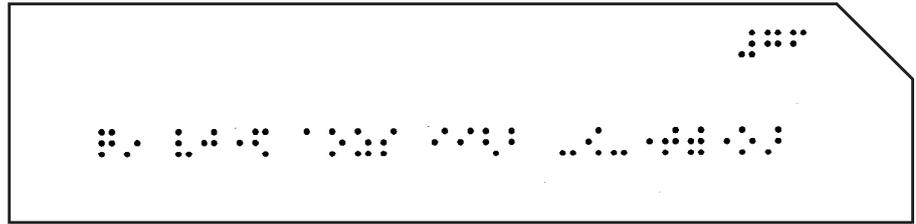
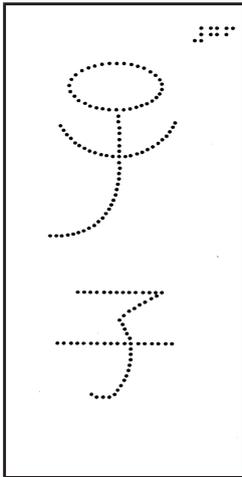
昔から 人の友だち けものが「犬」

75



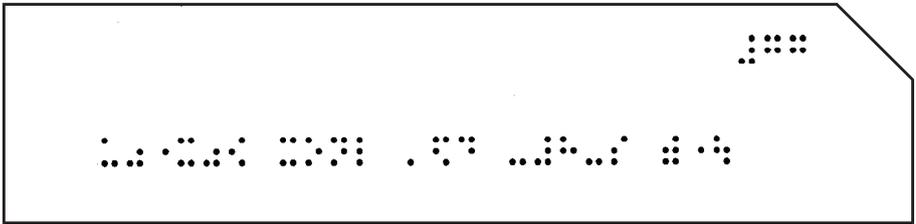
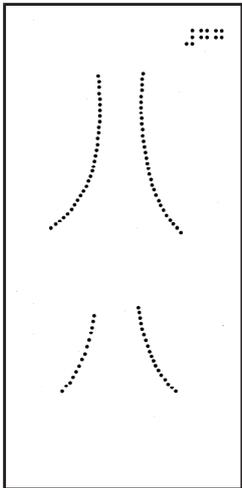
十までの 真ん中の数は 「五」

76



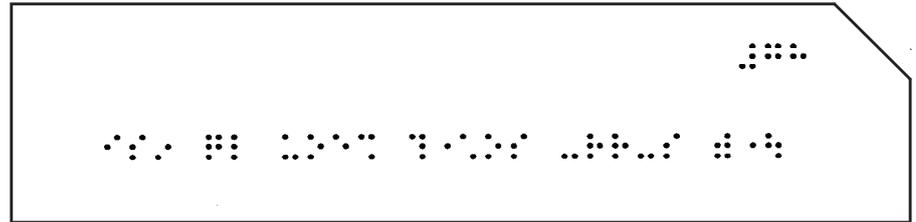
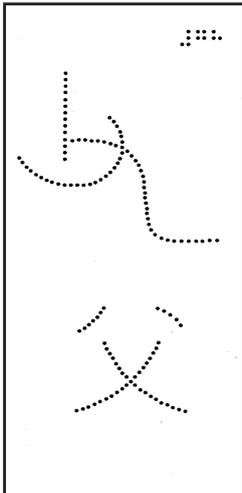
手を広げ 頭の大きい 「子」 どもだよ

77



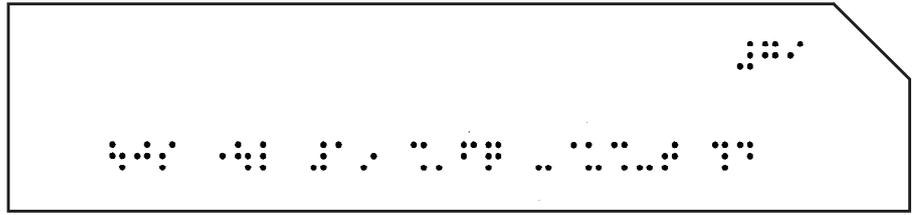
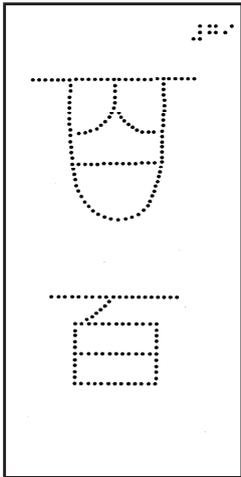
半分こ 二つに分ける 「八」 の文字

78



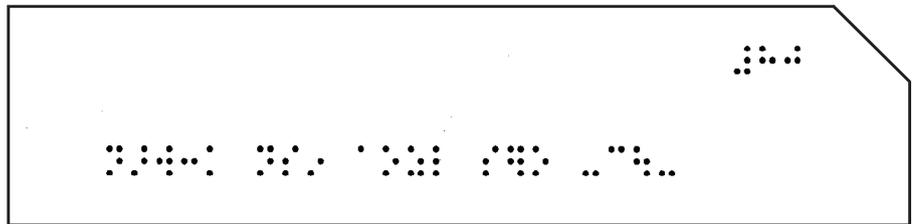
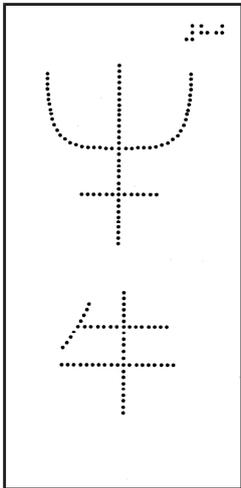
斧を手に 働く姿の 「父」 の文字

79



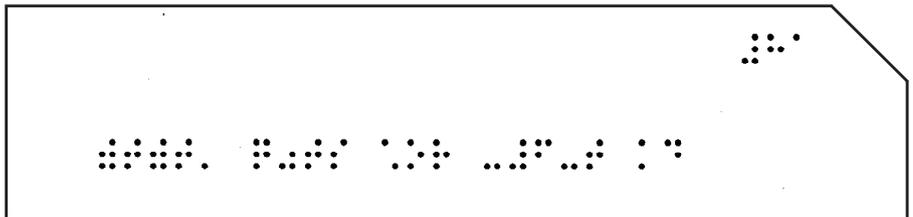
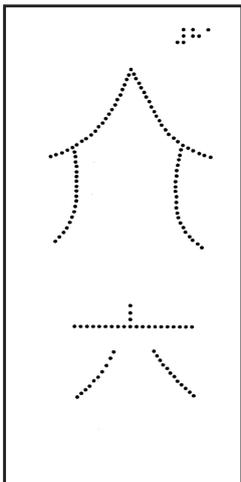
白の字に 一を加えて 「百」とする

80



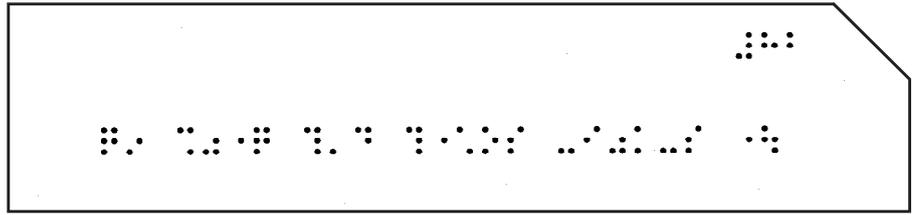
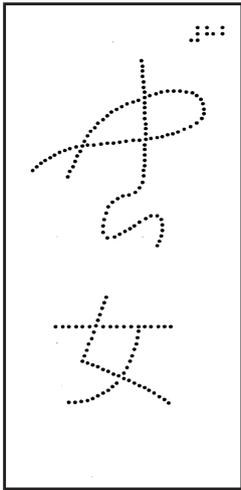
強そうな 角を頭にのせた 「牛」

81



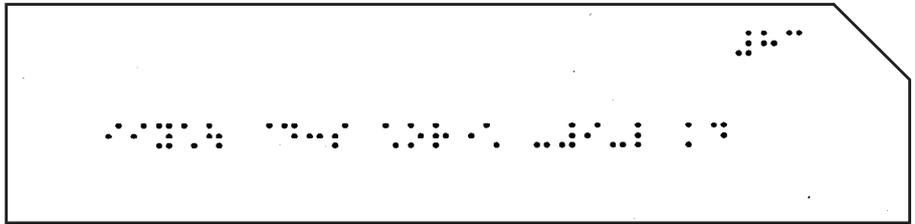
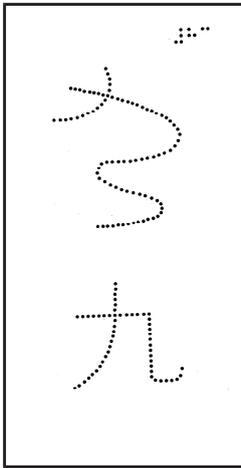
もともとは テントの形 「六」となる

82



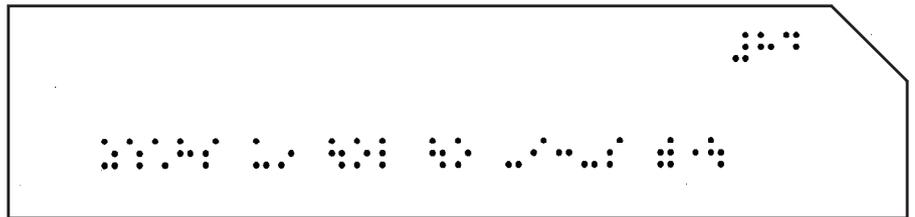
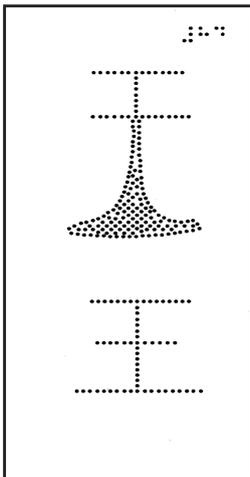
手を組んで 座る姿の 「女」 の字

83



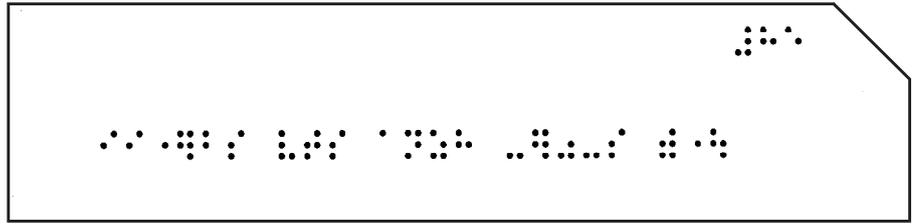
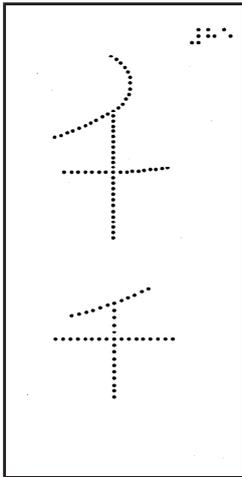
大昔 竜の形が 「九」 になる

84



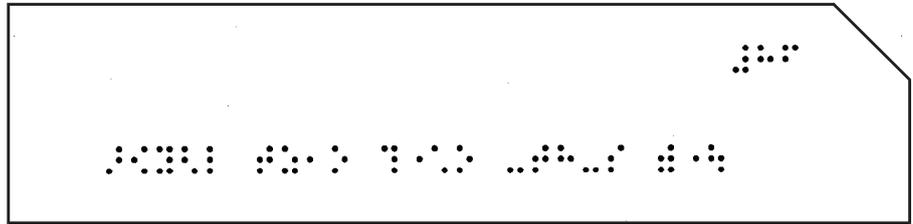
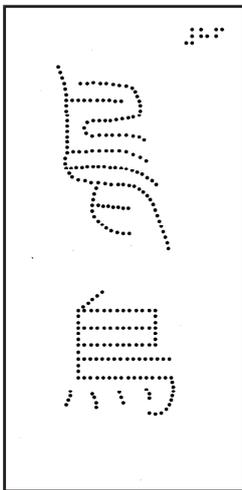
まさかりの 刃を下にした 「王」 の文字

85



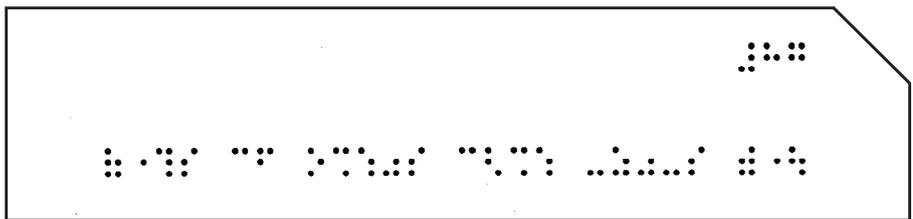
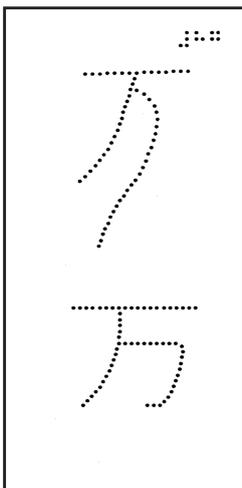
大勢の 人の集まり 「千」の文字

86



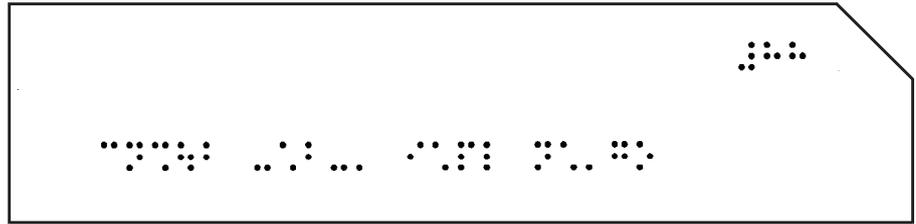
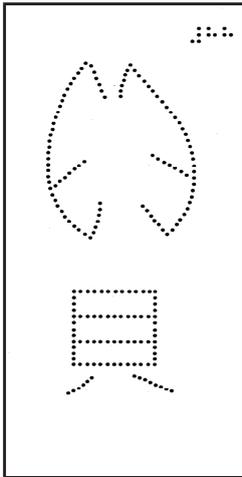
横向きに 止まった姿 「鳥」の文字

87



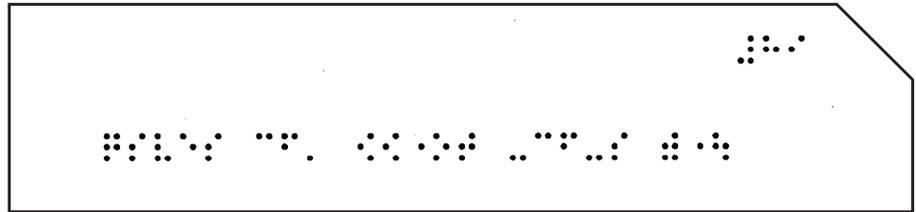
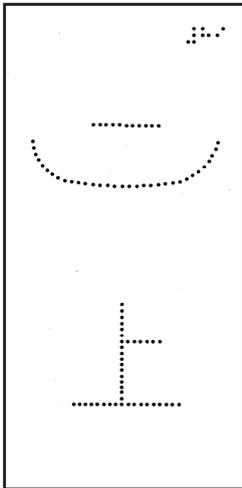
水の上 たくさんの浮き草 「万」の文字

88



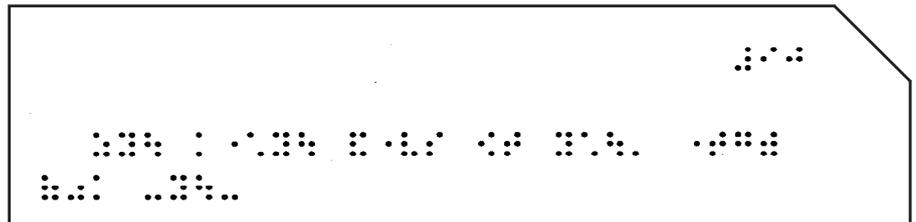
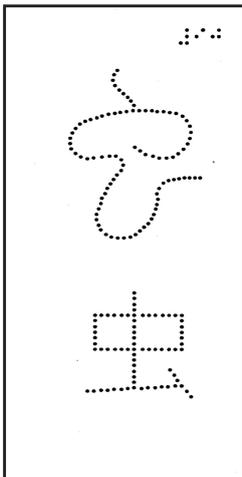
美しい 「貝」は お金に使われた

89



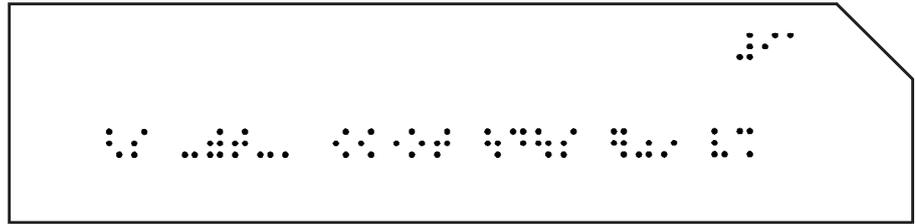
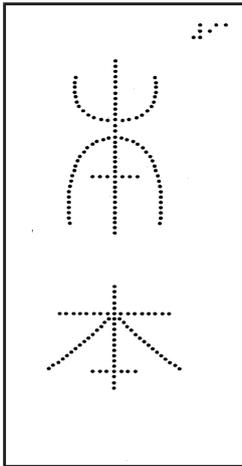
手のひらの 上はここだと 「上」の文字

90



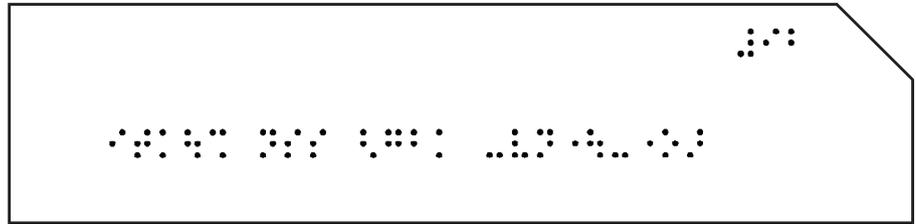
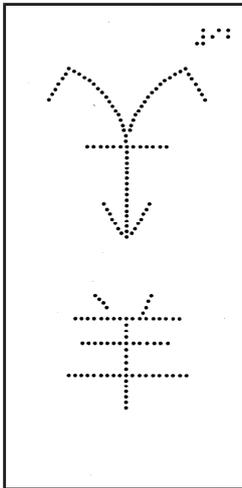
まむし長虫 蛇のこと 昔はどれも みんな「虫」

9 1



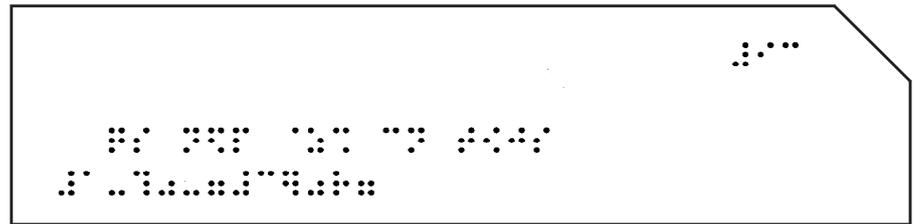
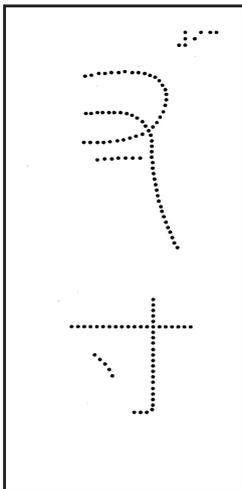
木の「本」は ここだと 印の線を書く

9 2



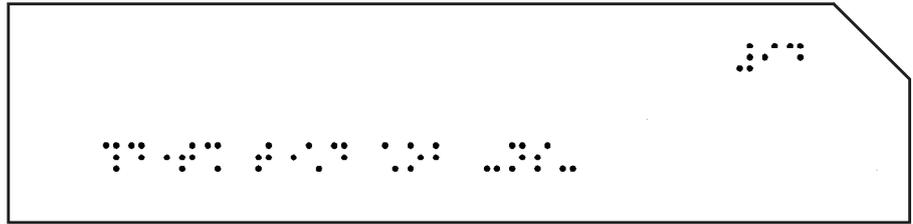
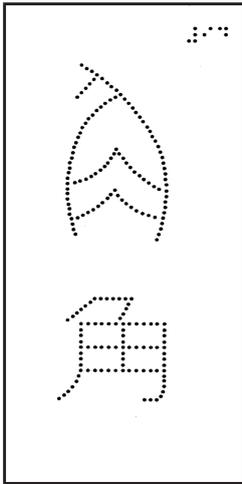
おとなしく 角のきれいな 「羊」だよ

9 3



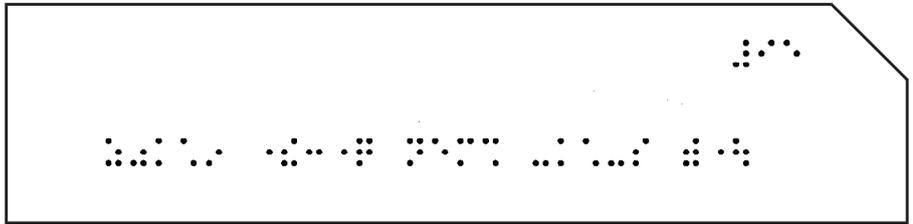
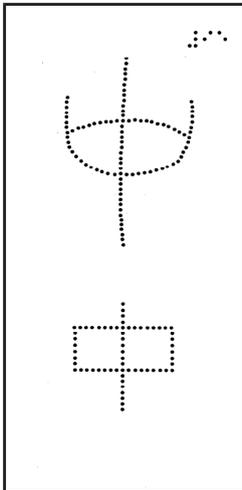
手の付け根 脈打つところの 一「寸」(3 cm)

9 4



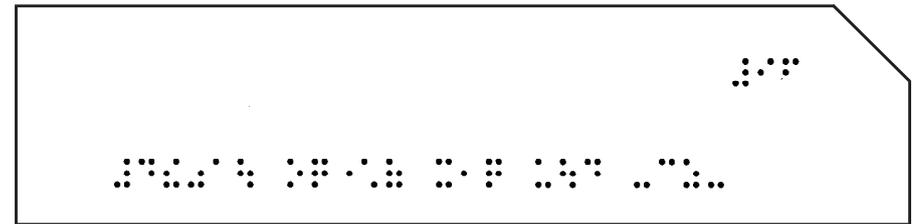
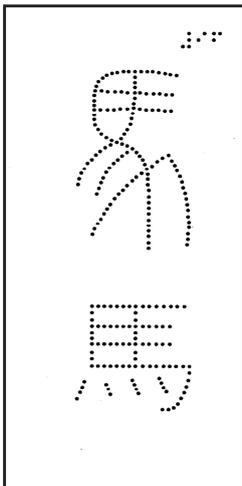
鋭く 尖る 固い「角」

9 5



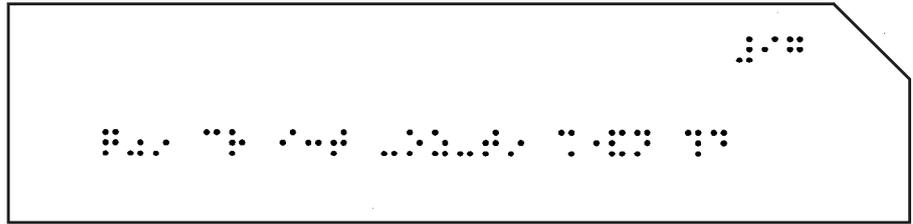
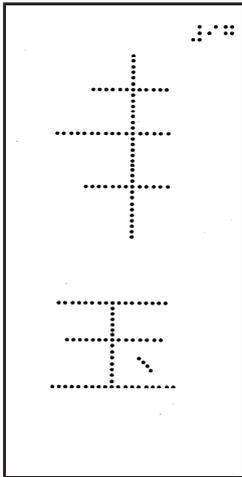
真ん中を 棒で貫く 「中」の文字

9 6



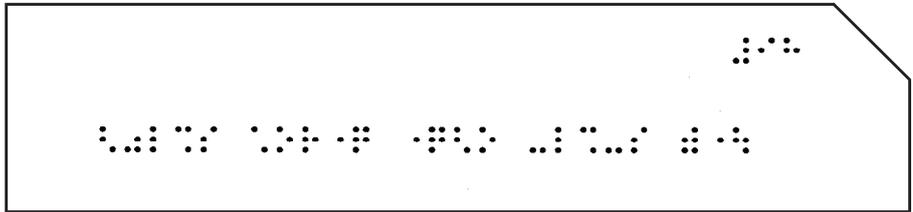
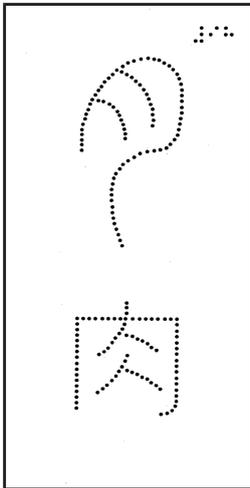
四本足 たてがみ振って 走る「馬」

97



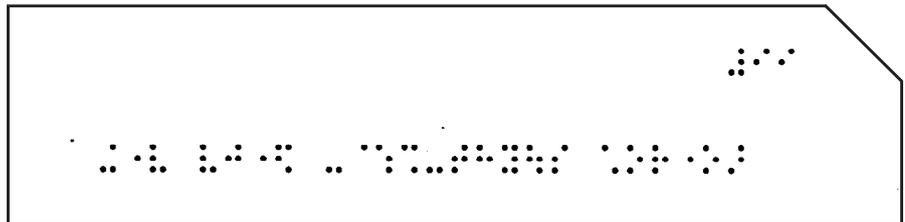
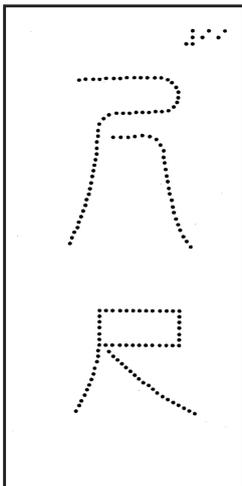
点を打ち 王と「玉」とを 区別する

98



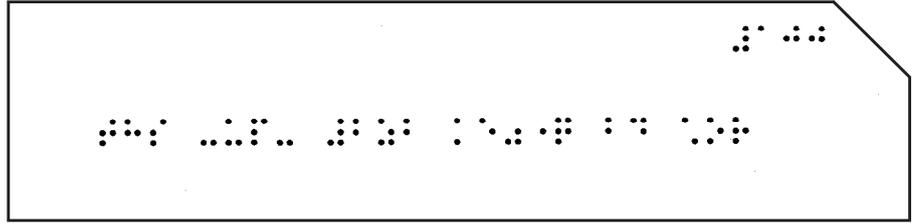
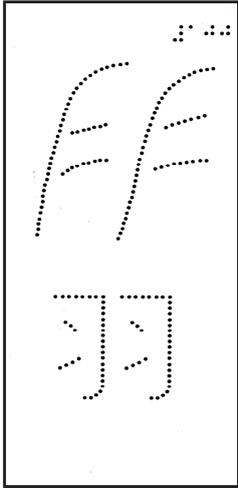
筋肉の 形でできた 「肉」の文字

99



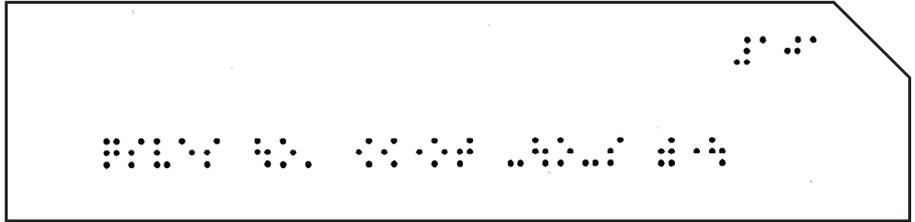
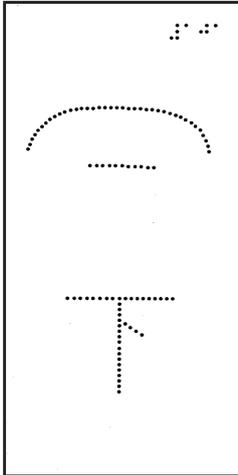
指広げ 「尺」とり虫の 形だよ

100



鳥の「羽」 二枚並んでいる形

101



手のひらの 下はここだと 「下」の文字

科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書

点字使用者のための漢字学習プログラム及び教材の開発

（課題番号 16530634）

平成16年度～18年度

研究代表者 澤 田 真 弓
（独立行政法人国立特殊教育総合研究所）

発 行 平 成 1 9 年 3 月
